



空野彼太エツ
セイ集



空野彼太

まるで日本の近未来を見ているかのようです。オリンピックが終わり、団塊の世代が後期高齢者になった世の中はこんな感じなのかという、漠然と持っていたイメージがいま具体的に目の前に広がっています。

報道で伝えられている感染者数を素直に信じれば、感染拡大が著しいヨーロッパ諸国に比べると、日本はうまくコロナウイルスを抑えている様にも見えます。もちろん、検査数を増やせば感染者数も増えるのですが。諸外国に比べて政府が大胆な対策を取らず、対処療法で動いてきたことが、医療崩壊も起こさず、今のところは成功しているのかもしれませんが。

しかし、経済への影響はあまりにも大きく、国は大胆な政策を迫られています。現金給付、消費税減税。この二つのどちらが経済のダメージを少なくできるかといえば、消費税減税でしょう。現金給付は5万円程度の線で調整しているようですが、この額では消費には回らず経済効果は上がらないでしょう。消費税の方が効果があるとは思いますが、いまさら感がありますね。自分は消費税増税反対だったので、これも一時的に下げても効果は限定的と思われる。

日本は国として年老いているので、経済を持ち直すといっても他国よりも時間がかかります。子育て世帯を中心に額が少なくても一時的ではなく、額はともかく恒久的な給付が必要な時期に来ています。そういう意味では大阪市の給食費無償化は一石を投じました。

、あとは中小零細企業の倒産、自営業の廃業をなるべく防ぐことが重要です。倒産、廃業件数が増えれば自殺者数は間違いなく増えますね。だからマスコミ、特にワイドショーの罪深さは言うまでもなく大きいです。特に専門家として行動自粛を過剰に煽った方々は、言葉で多くの人の命を奪ったも同然です。勿論、国民に必要な情報は流すべきなのは当然のことですが、その中心はワイドショーではなくニュースで伝えるべきですね。

東京オリンピックに関しては延期論が幅を利かせてきました。しかし、1年、まして2年となると選手選考一つとっても、ゼロに戻るといいでしょう。現実的には延期より今夏の開催が困難なら中止となる可能性は否定できません。一気に中止では選手や関係者、また国民のショックが大きいので、そのクッション役として延期論が浮上したとみています。

それにしても大変なことになりました。しかし、日本においてはそろそろ国民に自粛疲れが出てくるので、大きく状況が悪化しなければ、4月以降、生活を徐々に戻す方向に動いてくるのではないのでしょうか。

それにしても一山選手見事な走りでしたね。素晴らしい。一山さんに関してはこの後書きます。

昨日、行われた将棋のプロ棋士養成機関、奨励会の三段リーグ最終節が行われました。注目の西山朋佳三段は2連勝で14勝4敗としましたが、上位の二人も崩れず、3位と惜しくも四段昇段はなりませんでした。

それにしても14勝4敗は凄いですね。普通ならプロ棋士になれる成績です。あの藤井聡太七段でさえ、13勝5敗ですから。ぜひとも女性初のプロ棋士の快挙を見たかったですが、そこは男性陣も意地がありますからね。勝負の世界。仕方ありません。今回3位ですが、次点が付きましました。もう一度3位の成績を残せば、フリークラスではありますがプロ棋士になります。現在24歳、26歳の年齢制限まで残された機会はあと3回。女流棋戦にも参加しているため、棋譜が残り、研究もされていると思われます。伝統のある将棋の世界だけに「女性プロ棋士は是か非でも阻止する」という空気も一部にはあるでしょう。なかなか現実的には難しいですが、これまで中学生からプロを目指すためにほぼ男ばかりの奨励会という世界で、ここまで戦ってきた西山さんですから、何とか彼女の夢が叶ってほしいです。がんばれ西山朋佳。

夢が叶ったといえ、名古屋ウィメンズマラソンでオリンピックの切符をつかんだ一山麻緒選手です。五輪出場設定タイムを大きく上回る2時間20分29秒での見事な優勝。ちょっとこの子はモノが違います。高橋尚子、野口みずき級の素質を持っていますね。

レースは30キロ付近からスパートをかけ、逃げ切るマラソンの王道の勝ち方で、長い低迷期が続いた女子マラソンにもついに光が差しました。初マラソンが去年の東京で、わずか1年で急成長。東京オリンピックのマラソンの開催の場所が、酷暑の東京から北海道に移ったため彼女のようなスピードランナーにチャンスが出てくる可能性は高いです。メダルの可能性は男子は厳しいですが、女子は一山選手の出現で一気に現実味を帯びてきました。

コロナ拡大・初の女性棋士誕生か？

新型コロナウイルスが拡大期に入ったようです。しかし、日本政府はまだそれを認めていません。専門家の間では、ここ1, 2週間が拡大するかどうかの瀬戸際という意見で一致していると耳にします。すでに感染人数は万単位と推測した専門家もいるそうです。

最も大きな問題は、コロナウイルスに感染したかどうかの検査が容易に受けられないことです。政府が意図的に検査を減らし、人数を少なく発表しているとしたら、それはオリンピックと無関係ではないでしょう。しかしその東京オリンピックへの執念が、日本社会、および日本経済に決定的なダメージを与える可能性は、決して小さくないと思います。ただでさえ、少子高齢化に歯止めがかからない日本は衰弱していますから。

将棋界にとって3月に行われる奨励会三段リーグ最終日は、運命の一日になるかもしれません。西山朋佳三段の女性初のプロ棋士誕生がかかっているからです。現時点で、西山三段は順位の関係もあり12勝4敗で三番手。あの藤井聡太七段ですら、13勝5敗での通過だったので、西山さんの成績がいかに驚異的かがわかります。

これまでの3年半、つまり藤井七段がプロ入りしてからは、これまでなら将棋界のニュースでとどまることであっても、その枠を超えて報道される出来事もいくつかありました。しかし、もし西山さんが昇段となれば、藤井君関係なしに大きな話題を呼ぶでしょう。何せ将棋史上初の女性プロ棋士の誕生ですから。

まあ、可能性としては、2割から3割といったところかもしれません。奨励会三段まで進みながら、年齢制限の壁に阻まれた里見香奈の夢を継げるのか？西山さんの最終日2局に注目です。

このところ、報道はテレビを中心に新型コロナウイルス一色です。個人的にはやや過剰かなという気がします。「都内で何人が感染」のような報道は、ただ国民の不安を増長させているだけで、あまり意味のないことだと思います。

例えば、喘息持ちの人が咳き込めば、周りの人々はその場から急いで立ち去るでしょうし、これからの時期は花粉症で、当然、咳が出る人もいます。やはり周囲の人々は慌ててその場から離れるでしょう。あまりに社会が神経質になってしまうのは、いいこととは思いません。よって適切、適量の報道が好ましいでしょう。とにかく流行はこれからで、国、厚労省の力量が問われます。

野村克也さんが亡くなりました。現役時代に戦後初の三冠王。通算本塁打は史上2位。そして生涯一捕手。選手としても超一流でしたが、自分を含め、多くの人の記憶は、引退後に集中するのではないのでしょうか。

シンキングベースボール。ID野球。球界に残した財産は計り知れません。僕も野村スコープ世代ですから。そうした野村さんの膨大な知識がヤクルト監督時代に花開き、1990年代に黄金時代を築きました。ノムさんは月見草からヒマワリになったのです。

その後も阪神、楽天の監督を歴任。代表的な師弟関係を挙げれば、ヤクルトでは古田捕手、阪神では新庄選手、楽天では田中将大投手ですかね。「金を残すは下、人を残すは上」。肝に銘じておきたい言葉です。ノムさん、安らかに。

覚せい剤所持の疑いで、槇原敬之容疑者が逮捕されました。なぜ、今更2年前のことをという疑問は残りますが、所持は本人も認めているらしく、今後の、取り調べの行方はともかく、多くの人が使用していたと判断しているでしょう。再犯ですからね。ある程度、年齢を重ねると、再犯率が上がるというデータ通りの結果になってしまいました。

槇原容疑者の代表曲といえば「世界に一つだけの花」かもしれませんが、僕は「どんなときも」「もう恋なんてしない」が懐かしいです。特に「どんなときも」は当時の友人たちが「カラオケで歌いたい」と話していたのを思い出します。僕はすでにパニック障害だったので「消えたいくらい辛い気持ち抱えていても」という歌詞に共感を覚えていました。

純朴な印象な若者が、不安や希望を詰め込み、スニーカーや教室という言葉を散りばめたこの曲は、当時を代表する青春の歌でした。

藤井聡太、千田A I流に屈する

昨日、朝日オープン準決勝、決勝が行われ、準決勝で大会2連覇中の藤井聡太七段を破った千田翔太七段が、決勝で永瀬拓矢二冠を破り、初優勝を飾りました。

ついに藤井君、朝日オープンで敗れましたね。内容的にも評価値以上に常に千田七段のペースだったように思います。終盤、粘りを見せた藤井七段も逆転には至らず、そのまま押し切られてしまいました。

それにしても、改めて千田七段の研究の深さを見る思いです。時間をほとんど消費せず、要所の部分で時間を使うスタイル。これは、千田さんと同じくA I研究のトップを走る豊島竜王・名人と一致します。そして、現在、デビューから1年で棋王戦挑戦者となった本田奎五段も目標は人間の棋士ではなくコンピューターと公言していますから、深いA I研究をしていることは間違いないでしょう。今回、千田七段が大きな結果を残したことで、ますますA I信奉者は増えると思われます。

A Iの力が棋士を超えた時から、人間の指す意義が問われるようになりました。いつの時代もプロ棋士が最強であって、そこに価値があるからこそスポンサーが付き、この職業が存在したのです。しかしこれからレベルの高い将棋を堪能するならコンピューター同士の対局を見ればいいのではという風潮が生まれ、将棋界内部でもA Iに関わる大きな問題を抱え、プロ棋士誕生から400年でおそらく最大のピンチを迎えました。そんな時にすい星のように現れた救世主が藤井聡太でした。

藤井フィーバーで、これまでの問題をすっかり覆い尽くせたようにも見えました。しかし、やはり根本的な課題は何も解決はしていません。当の藤井君が語っていたと思います。「実力的に棋士がA Iに及ばなくなった時代に将棋を指す意義は常に問われている」と。

数年前に聞いた話では、「A Iは前の年のA Iと対局させると8勝2敗。人間はこのペースで強くなれない」と。今回、千田七段に敗れた藤井君や永瀬さんは練習であっても人と指すことを重視するタイプ。もちろんこの2人もA I研究しているのは間違いないのですが、やはりこうした棋士に奮起してほしいですね。

そうした意味では4月からの名人戦で豊島名人に渡辺三冠が挑戦します。最強棋士はどちらかということで注目されていますが、豊島A I流か、天才棋士・渡辺明かという意味でも目が離せません。

藤井聡太10連勝。勝率8割に

昨日、棋王戦予選、藤井聡太七段ー今泉健司四段の対局が行われ、藤井七段が173手の超手数
の末、今泉四段を下しました。

14歳でプロ入り以来、スター街道を順調に進む藤井七段と、おそらく史上最年長でのプロ入り
と思われませんが、紆余曲折の末、ついにプロ入りを果たした苦労人の今泉四段という対照的な二
人の戦いは、難解な中盤を経て、じわじわと藤井七段が差を広げ勝利をものにしました。やはり
藤井君は振り飛車党にやや苦手意識があるのかもしれませんが。それでも勝ってしまうところが怪
童たるゆえんです。

これで10連勝。ついに勝率も定位置とっていい8割に乗せました。今期はこれまでと比べ
れば、勝率も低めで、さすがに3年連続8割は難しいと思っていたのですが。対局相手のレベル
も王将リーグなど高くなっていますが、それだけにこの勝率は驚異的です。まだ17歳ですか
らね。

今年は実力的にもタイトル挑戦、獲得の機は熟したように見えます。挑戦はともかく、獲得は最
年少で達成してほしいですね。そのためには豊島竜王・名人、渡辺三冠、永瀬二冠の3強を乗り
越えなければなりません。さすがの藤井君も彼らにタイトル戦で勝てるかは微妙なところだと思
います。しかし、不世出の棋士になるためには、必ず乗り越えなければならない関門です。藤井
君にとっての金メダルは名人でしょうが、それには少なくともまだ数年かかります。まずはメダ
ルの獲得を達成してもらいたいです。藤井君にとって飛翔の1年になることを願っています。

徳勝龍優勝、王将戦第2局

大相撲初場所は千秋楽を迎え、1敗で単独トップに立つ徳勝龍が、結びの一番で大関・貴景勝を下し、初優勝を決めました。前日の14日目に1敗で並ぶ正代を破ったあたりから、徳勝龍優勝の流れになったと思います。強い勝ち運が付いていました。それが大学の恩師の場所中の死であるのか、何なのかはわかりませんが。

こうなると、大関と幕尻の番付の差がかすんでしまうから不思議です。五分五分と思っていたのですが、貴景勝との一番は快勝とっていい内容でした。おそらく、場所前に徳勝龍の優勝を予想した人はいないでしょう。確かに白鵬、鶴竜の両横綱も衰えは隠せず、波乱含みの展開になる可能性はあり、朝乃山や遠藤あたりの優勝を期待していたファンはいたと思うのですが。

その朝乃山は10番勝って、来場所の大関昇進に望みをつなげました。体つきや取り口に素質を感じます。ぜひ大関、そしてもう一つ上を目指してほしい器です。遠藤、炎鵬の人気力士の活躍も場所を盛り上げました。そして、照ノ富士はよく戻ってきましたね。

将棋は王将戦第2局。渡辺王将に広瀬八段が挑戦しています。初戦は渡辺さんが勝ち、早くも広瀬さんは正念場を迎えていました。しかし、最近不調だった広瀬さんが見違えるような将棋を指しました。

中盤から積極的に広瀬さんが仕掛け、渡辺さんが受ける普段とは逆の展開に。完全に広瀬さんは開き直っていました。これには流石に現役最強ともいわれる渡辺さんも、少し意表を突かれたのではないのでしょうか？広瀬さんの猛攻に渡辺玉は逃走。それを逃さず見事に捕らえ、広瀬さんの勝ちとなりました。

これで1勝1敗。才能的には渡辺さんにも引けを取らないと見ているので、広瀬さんが本領を発揮すれば、面白くなりそうです。

それにしても、アベマTVのAIを用いた形成ボードや最善手予測は見ていて白けます。それでも藤井フィーバー以降に興味を持ち出した将棋ファンからすれば、ありがたいと思う人も多いのかもしれないですね。

谷川降級、そして決断

順位戦B級1組、谷川浩司九段と千田翔太七段との対局は千田七段が勝利し、谷川九段のB級2組への降級が決まりました。

予測していたこととはいえ、やはり残念です。注目の順位戦の進退ですが、谷川九段は「よほどの心変わりがない限り、B級2組で指します」と来期も順位戦に参戦する意向を表明しました。個人的には少し安堵しています。ひとつはまだ谷川さんの闘志が衰えていないこと、もうひとつは永世名人だからといって安易にフリークラスに編入してしまうと、それが慣例になり、後輩の永世名人である羽生九段、また次に生まれるであろう永世名人から指す自由を奪ってしまうことになりかねないですからね。

それにしても、来期のB2は格段に注目度が上がりそうです。藤井聡太七段の昇級はほぼ確実ですし、谷川九段との新旧中学生棋士対決、藤井・杉本の師弟対決も見られるかもしれません。

昨日の対局に戻りますが、谷川九段は角換わりの最新形で、A1の申し子である千田七段を相手に、持ち前の前進流でよく戦いました。谷川さんは「気持ちを入れ替えて頑張りたい」と言ったそうですが、それがA1を取り入れた研究であってほしい。自らの頭脳だけを頼りにする時代は終わりました。

谷川将棋の終盤の代名詞は光速流ですが、棋士人生の終盤はどうやら泥沼流を選ぶのかもしれませんが。

谷川さんに憧れ、その棋風にも谷川将棋の面影がある渡辺三冠や藤井七段、そして愛弟子の都成六段は、この決断をどう捉えるのか、谷川さんは彼らに何を伝えたいのか、将棋の神様は、舗装されていない道を歩こうとしている谷川浩司をどう見ているのでしょうか？

プロ入りから43年、最年少名人から36年、そしてあの震災から25年が過ぎました。

45歳定年制

朝のワイドショー番組で会社内に「妖精さん」が存在することを知りました。なぜ「妖精さん」なのかといえば「めったに姿を見せないから」ということです。主に若い社員から働かない中高年社員に向けられた言葉のようです。

そう言われてみれば、大手銀行以外にも、一流企業で黒字経営なのに希望退職を募るところが増えています。これだけ人手不足が叫ばれる世の中でも、企業側からは辞めてもらいたい社員がいるのだなと思いましたが、それがイコール妖精さんなんですね。

また経団連が終身雇用や年功序列制度の見直しを提言しました。現在のグローバル経済に合わなくなってきたという理由で、優秀な人材が海外へ流失してしまう恐れが高まると指摘しています。

そこで45歳定年は考えてみる価値があるように思います。40歳では30代まで全力で駆け抜けてきて、突然定年というのは酷かなと思うので、40歳から5年ほど考えた上で、45歳ぐらいが適切ではないでしょうか。

45歳といえば、大概の人は子育て真っ最中で、安易な決断はできない時期でもあります。会社にも残ってほしい人材も多くいるでしょう。そこで企業側が選択肢を与え、社員側に選ばせる形をとれば円滑に進むのではと考えます。将来の幹部候補など優秀な人材は会社から「残ってください」と引き留めるでしょう。問題は妖精さん、あるいは妖精さん候補の社員です。給料は下げるけれども会社には残れるという条件を用意しておけば、少なくとも失業はしません。

このやり方でも大幅に退職する社員は増えるでしょう。しかし、これではあまりにも企業側、特に大きな企業ほど得をしてしまうので、リストラで浮いた賃金の一部を税金として納め、それを原資に政府は会社を辞める決断を下した人たちの就労支援やセーフティーネットを拡充していくことが重要です。

結局、これまで何度も記してきた事実上のベーシックインカムを始める時期に差し掛かったと言えます。これだけグローバル、デジタル化が進んだ現在、大きな企業が以前ほど多くの従業員を抱えていく必要はなくなりつつあります。70歳までは働くという流れができつつある今、定年を伸ばすというのは一見、理にかなっているようですが、妖精さんの拡大にしかならない可能性が高いようでは経済にはマイナスです。それよりも、45歳という労働生活の中間点で、会社に必要な人材は残り、そうでない人は自分の向いている道を模索するという方向へ進んだほうが、個人の充実や満足感、また経済の活性化につながっていくのではないのでしょうか？

NHKスペシャルに北川景子が出演

阪神・淡路大震災から25年が経ちました。NHKスペシャル「あの日から25年 大震災の子供たち」に北川景子がナビゲーターとして、その当時、小中学生だった人たちのその後を伝えました。

神戸出身の北川さん自身も小学2年で被災し、「隕石が落ちたような衝撃があった。助かって、普段の生活に戻りつつある自分に罪悪感もあった。そんな中で「がんばろう神戸」をスローガンにしたオリックスのイチロー選手らの活躍が励みになった。比べるのはおこがましいけれど、私も人々に発信する立場になったので、少しでも喜んでもらえるように頑張りたい」と語りました。個人的には「それに将棋の谷川さんが避難所から気の遠くなるような時間をかけて、対局場に向かったこと」を加えればパーフェクト。小学2年生の女の子にしては渋すぎますが。

それはさておき、この番組で印象に残ったのは、震災で母と弟を亡くした青年の話でした。失意の日々の中で、担任の女性教師が優しく彼に寄り添います。現在、青年は教師をしています。「周りの人に恵まれた」と彼は話します。どれだけ人との出会いが大きいかを物語っています。そして彼は、東日本大震災の被災者の家を訪れました。若い女性の「今、幸せですか？」という問いに「幸せです」と答え、彼女は「本当に？」と確認しますが、彼の答えはぶれませんでした。なかなか普通の生活をしている人でも、きっぱりと「幸せ」と言葉にできる人はそれほど多くないのではないでしょうか？確かに人は弱いけれど、同時に再生する強さも併せ持っているのだと再認識しました。その強さを引き出すには周囲の人の支えや社会の包摂が不可欠ですが。

昨日は比較的、順調に今を生きる人を取り上げていました。それを思うと、亡くなった多くの子供たちの未来が奪われてしまったのは残念です。若ければ若いほど、立ち直れる可能性は高いですし、むしろ災いをエネルギーに変えられた子もたくさんいたはずです。北川景子のような美しい女優、谷川浩司のように将棋の名人になれた子がいても不思議はありません。それよりもなによりも、幸せをつかむ才能はこうした悲しい経験をした人のほうがあるのかもしれない。

東京五輪1年延期・藤井聡太、光速の逆転

東京オリンピックの1年延期が事実上決まりました。個人的には少数派だと思いますが、延期は年内秋までという考えを持っていました。古代オリンピックから4年に一度開催され、それは近代オリンピックにも受け継がれ五輪憲章に定められています。まずこれを改正しないといけません。それに年内開催ならば、内定した選手をそのまま出場させることもでき、また大会を後方で支えるボランティアの方などもこのままの体制でいけるでしょう。コロナが今秋までに収束しなければ中止しかないとの思いがありました。

1年延期というのは、最も無難な判断ではあるでしょう。コロナも収束している可能性がかなり高いですからね。国民に関しては泣く人、笑う人さまざまでしょう。東京ビッグサイト、幕張メッセなど大規模なイベント会場を中心に働いている人々にとっては先行きが見えない状況だと推測されます。

選手選考も基本的には白紙に戻すのが思います。アスリートにとっての1年は長いですから。内定した選手も2020年の夏季オリンピックの選考ですから。2021年の夏はその時のベストの選手を出場させるのが筋でしょう。根本的な見直しが必要です。

昨日、将棋の藤井聡太七段が稲葉陽八段を下し、王位リーグ3連勝、また年間勝率8割を決めました。よく苦しい将棋を逆転しましたね。それに藤井七段は中盤までに時間を多く使ったため、稲葉八段との時間差が一時は3時間開きましたが、それをはねのける終盤力は驚異的でした。勝負、特に将棋は最後まで分からないことを改めて実感しました。

王位戦は3連勝でタイトル挑戦に一步前進しました。また年度勝率8割も確定したそうで、3年連続は史上初の快挙です。まさに紛れもない天才なのですが、紛れもない最近は序中盤での劣勢が目立ちます。実力のみならず、不世出のスター棋士ゆえに相当、藤井君の将棋は研究されているようです。

対して藤井君は高校に通っていますから、当然、研究時間は少なくなります。もともと長考派ですが、研究量の差がもろに考慮時間に反映されている状況です。いかに藤井君といえども昨日のような将棋の内容になると、勝率は落ちてくると思われます。高校3年になる4月からの来年度を乗り越えられるかが、今後の藤井聡太を占う意味でも大きな意味を持つでしょう。学業との両立は大変でしょうが、頑張れ、藤井君。あなたは将棋界の未来です。

豊島、史上4人目の竜王・名人に

昨日行われた竜王戦第5局は挑戦者の豊島将之名人が広瀬章人竜王を143手で下し、4勝1敗で竜王位を奪取しました。これにより豊島名人は羽生善治、谷川浩司、森内俊之に次ぐ、史上4人目の竜王名人となりました。

今期の竜王戦での豊島さんは全盛期の羽生さんを思わせるような粘り強さ、執念のようなものを感じました。広瀬さんはピッチャーに例えるなら160キロのストレートを投げ込むような剛速球投手だと思います。まともにぶつかり合うと、押し込まれてしまうことが多く、昨日の第5局にしても終盤まで広瀬さんリードで、並の棋士なら広瀬さんの華麗な寄せを決められてしまうような展開でしたが、豊島さんは諦めず食い下がります。結果的に広瀬さんが歩が一枚足りずに豊島玉を寄せきれず、駒をたくさんため込んだ豊島さんの反撃が決まったの勝利でした。謙虚な豊島さんは「ツキがあった」という言葉を使っていましたが、それを呼び込んだのは豊島さんの執念だったと思います。脳は勝ったと思うと働くなると言われます。昨日の広瀬さんはもしかしたらそういう状態に陥ったのかもしれませんが、土俵を割らなかった豊島さんの足腰のしぶとさが際立ちました。

竜王・名人のビッグタイトルの二冠は史上4人目の快挙。保持しているタイトルを考えると、現在、最強とも言われる渡辺明三冠に大きな差を付けました。最優秀棋士賞は豊島さんでほぼ間違いありません。では豊島時代が訪れるのかということ、まだ大きな山がありそうです。現在最強とも言われる渡辺さんが今期のA級順位戦で5戦全勝でトップを走っています。いよいよ渡辺明が満を持して名人戦に登場すれば、豊島VS渡辺の頂上決戦になります。ここで渡辺さんが豊島さんから名人位を奪えば、また立場は逆転します。ここが天下分け目の戦いになるでしょう。また、順位戦で渡辺さんを1敗で追う広瀬さんが意地を見せ、名人挑戦権を獲得する可能性もあり、それはそれで楽しみです。いずれにしても順調にいけば、数年後には藤井聡太七段が名人位を争う位置に上がってくる可能性が高く、豊島さんにしても、渡辺さん、広瀬さんにしても、それまでに実績を積み重ねて藤井君を迎え撃ちたいところでしょう。

パニック障害について

このところ、将棋やドラマ、また詩や小説などを書くことが多かったので、この辺で一度、自分の人生のメインテーマであるパニック障害について記しておきたいと思います。このブログも、はや15年。いつ終わりが来るとも限りませんから。

間違った考えかもしれないけれど、1989年2月で自分の人生は終わったと思いました。しかし生きてはいるという状態です。生き地獄の始まりですね。当時、パニック障害という病気を僕が知る由もなく、世界で1人の病気だろうと思いました。

18歳以降にも知り合った男女はいます。予備校、大学、バイト先。しかし、長続きはしません。大学は中退。女性とは親密になればなるほど、別れが近いのです。パニック障害になることは行動範囲、人間関係を著しく狭めます。それを30年以上続けて、時代から周回遅れになったことも自覚しています。

パニック障害の代表的な症状である過呼吸発作は、だいたい初期に集中します。あとは残遺症状との闘いが中心になります。かといって自分も抗不安薬を急に減らせば、今もパニック発作は起きるわけですが。そして、パニック障害の患者の半数はなると言われるうつ病も併発し、現在に至っています。

ここからは自分を離れて、パニック障害という病気を見ていこうと思います。発症年齢は主に10代から30歳前後と若い時が大半です。40歳以上でパニック障害のような症状が出た人は体の病気や薬の副作用という見方が一般的です。

また女性に多い病気と言われますが、これも僕は疑わしいとみています。たまに女子高生が集団過呼吸のようなニュースを目にしますが、その多くは貧血が原因だと思います。パニック障害にも同じことが言えるようで、鉄を体内に取り入れると、若い女性のパニック障害には特に大きな効果があったという医師の本を読んだことがあります。メンタルの治療と並行して貧血を改善すると、いい方向に進める女性は多くいると思います。それと自分も含めてですが、男性の場合、パニック障害と分かっているにもかかわらず病院へ行かないケースも多いと推測すると、男女比もそれほどないのかなというのが僕の考えです。

自分の話に戻りますが、若い頃、もし手術で治る可能性があるなら1対9、1が成功、9が死でも、それを受けたいと思っていました。若いからまだ取り返しがきくと考えていたのです。今は多くの年を重ねてしまったので、そうも思わなくなりました。魔法の薬で治れば、凄く嬉しいですけど、もう取り返しのつかない多くの時が流れてしまいました。

昨日の王位戦予選、藤井聡太七段VS出口若武四段の対局は97手で藤井七段が出口四段に勝利しました。藤井七段は次の斎藤慎太郎七段との対局に勝利すれば、初の王位リーグ入りとなります。

藤井七段と出口四段の対局は去年の新人王戦以来となります。藤井君にとっては初の番勝負でした。言葉に出さずとも、次はお互いプロとしてという思いはあったでしょう。特に出口君は当時まだ奨励会三段でしたから、その意識は強かったと思われます。彼はプロとして藤井聡太と戦うという目標を達成して、感無量だったのかもしれませんが。対局は終盤、出口四段が踏み込み、藤井玉の横に銀を放った手は迫力があったのですが、これが悪手らしく、そこから冷静に対処した藤井七段がリードを広げ、出口四段を投了に追い込みました。

出口君は見るからに爽やかな好青年なのですが、将棋の棋士としては優しすぎるかもしれません。素質はあるのでしょうけど、せめて対局では鬼にならないと大成は難しいと思います。これまでの大棋士を思い浮かべても、普段はともかく、盤上の前にひとたび座れば、相手に近づきがたい印象を与えるタイプが多かったはずです。藤井君もその系譜です。豊島竜王・名人ほどポーカークフェイスになれとは言いませんけど。

対する藤井君は中盤までで大きくリードを奪う作戦家とは思いませんが、それでも序中盤でのミスは少なく、得意の終盤で決着をつけるスタイルですね。

棋王戦挑戦は佐々木大地五段と本田四段の2人に絞られ、タイトル挑戦では藤井君は後塵を拝する形になりました。しかし、杉本師匠によれば序盤が進歩しているようですし、現在の2強は豊島さんと渡辺明三冠ですが、この2人のように時間をうまく残せるようになれば、タイトルも近いでしょう。

そして藤井君は聖火ランナーにも選ばれました。足は速いと聞いていますが、200メートルは短いようで長いので、将棋で得意な終盤が心配ですね（笑）地元の瀬戸市を走ればいいのですが、どうなるのでしょうか？将棋を知らない人にも聖火ランナーとしての藤井聡太選手の力走ならば、感動を与えられるかもしれません。

「同期のサクラ」最終回

「同期のサクラ」もついに最終回を迎えました。椎名桔平演じる副社長になった黒川の誘いで、再び花村建設に戻ったサクラ。彼はサクラに重要なポジション、つまり力を与えました。以前から思っていましたが、黒川は態度や言動は淡々としているものの、随分、サクラを気に入っているというのは漠然と感じていました。黒川とサクラが二人三脚で社内を改革しようとしている姿は、黒川が彼女を利用しているように見える反面、父と娘のようにも映りました。

同期たちは、仲間よりも黒川に与えられた力の行使に夢中になっているサクラを心配します。彼らの忠告を受け入れなかったサクラですが、自ら実権を握り、他社との合併を推し進め、リストラを断行しようとする黒川のやり方に疑問を抱くようになります。

自分を取り戻し、辞表を黒川に渡すサクラ。それと同時に何故、そこまで自分にこだわるのかを問いました。黒川はバレリーナを夢見ていた娘を8歳で亡くした過去、そして娘と同年で誕生日まで同じだったサクラが入社当時に夢を語った時、娘と重なったと答えました。胡散臭さはあっても、皆に喜んでもらえる建物を作る情熱、サクラに対する愛情には嘘はありませんでした。サクラは平泉成演じる老社長が経営する花村建設の孫請けの会社で働くことになりました。黒川はその会社を潰すような行為はしないでしょ。むしろ力を貸すことはあっても。

ドラマを通じて、ストーリーもよかったですし、主演の高畑充希の演技も冴えていましたが、他の同期たち4人を演じた若い役者の演技も光りました。イケメンばかり揃えなかったのも現実感があってよかったです。「同期のサクラ」という作品の力が役者に光を当てたともいえます。

「私には夢があります」。月並みで照れ臭い言葉ではあるけれど、サクラが声を張ってそれを語るシーンが好きでした。

僕らはきっと待ってる、君とまた会える日々を。さらばサクラ。

藤井聡太、進学せず？ 棋士と学歴

こないだ免状取得を目指すため、将棋世界という雑誌の四段コースに応募しました。四段から六段までは問題が同じで、4問出題されます。3問はある程度自信があるのですが、残りの1問が曖昧な分だけ難しく自信がありません。四段取得には最短で5か月かかります。今回の正解発表は1か月後なのでまだまだ先です。途中経過などもブログで知らせていければと思います。

さて、藤井聡太七段が「今のところ進学は考えていない」との意思を示しました。個人的にはそのほうがいいと思います。ここで過去の中学生棋士たちの学歴に少し触れておきます。加藤一二三九段は早稲田大、谷川九段は進学校の滝川二高、羽生さんは都立高校を通信制で卒業、渡辺三冠も高卒です。加藤さんだけが大学に進学しましたが、将棋の実績では谷川・羽生・渡辺の3棋士に比べると劣ります。勿論、名人にもなった大棋士ではありますが。両立に最も苦労し、通信制に切り替えた羽生さんが最も実績を残しています。

では他のトップ棋士はどうか？森内九段、佐藤康光九段は進学校ですが高卒。丸山九段は早稲田大。年代が下になると高学歴の棋士が多く、その代表格が同じ88年生まれの糸谷八段と中村太地七段でしょう。糸谷さんは哲学の家系で大阪大学の大学院時代に竜王を獲得した天才です。中村さんも2年ほど前、王座のタイトルを取りましたが、学歴が凄い。早稲田実業を首席で卒業し、早稲田大の政経学部。早稲田の政経というのは私大の1つの頂点でしょう。そこでも優秀だったそうですからね。

ところが、この2人の調子があまり芳しくありません。特に中村七段は今季、大きく負け越しています。それに対して大学中退の豊島竜王・名人、高校中退の永瀬二冠は実力ナンバーワンの渡辺三冠を激しく追い上げ、非常に充実しています。

糸谷さんや中村さんの世代が高学歴になった1つに理由は将棋人気の凋落でした。藤井聡太出現前の将棋界は坂道を勢いよく転げ落ちていたため、将来、将棋では食べていけないという不安があって当然だったと思います。そういえば、広瀬八段も早稲田の教育学部を6年かけて卒業しました。あれだけの才能の持ち主が、まだタイトル2期では少なすぎます。

やはり全体的にみると18歳から22歳という最後の大きな伸びしろで二足の草鞋を履いたためか、全体的にみると高学歴の棋士は大成できない印象が強いです。この時期に将棋に一途に打ち込むことは大棋士になるためには欠かせないのかもしれませんが。藤井君の意思がどれだけ固いのかは知りませんが、進学しない選択は好手になると思います。彼ほどの天才には学歴は必要ありません。

こじるりがスピッツ好きに？

こないだのテレ朝の戦国武将総選挙で、僕の好きな織田信長、上杉謙信、真田幸村がそれぞれ1位、2位、4位という高い順位になりました。信長の1位というのは順当としても、謙信の2位は望外でした。共通しているのは謙信が軍神と言われたように、戦に強く、家康や信玄のようにどっしり腰を落としているというより、アクティブな印象が強いですね。信長の斬新な思考、謙信の損得勘定を抜きにした義というものを現代の国民は求めているのかなとも思いました。

ところでユーチューブを見ていたら、AIが僕に忖度したのでしょうか。こじるりこと小島瑠璃子が今年スピッツにハマったという動画が出てきました。「ドライブに合う。『君が思い出になる前に』って本当にいい曲ですよ。以前からスピッツが好きな友人の影響で、今年から聴くようになりました。押しつけがましくないし。『ヒバリのころ』とかも好きです」。大体、こんな感じのインタビューでした。

まあ、スピッツファンとして嬉しいことですが、少し引っかかる場所もあるんですよ。こじるりがスピッツを好きになったというのは本当だと思うけれども、例えばあいみょんとか藤井聡太など各界の才能ある若者のスピッツ好きを聞きつけて、「私も乗り遅れちゃいけない」という気持ちが少しあったのかという見方は少し意地悪かな。でも今年は「優しいあの子」が朝ドラの主題歌だったこともあり、新たなファンを獲得したのは確かだと思います。結構、僕はこじるり好きなんですけど。最初、知ったのはTBSの夜のスポーツ番組で、爆笑問題の田中さんのアシスタントをしていた時だと思います。その時の印象は健康的な女の子という感じでした。勿論、今も可愛いし、頭の回転が速いから何年も一線で活躍できるのだと思います。彼女も年齢的に大人の女性ですね。いつまでも19、20歳ではないのはわかっていますが。

サザンオールスターズの曲で「Ya Ya(あの時を忘れない)」が特に好きなのですが、ただ自分の青春じゃない。他の誰かの輝いている青春なんですよね。その点、スピッツはそういう意味でも相性が良かったというか、こじるりも好きだといった「君が思い出になる前に」の歌詞の「君が思い出になる前に もういちど笑ってみせて 冷たい風に吹かれながら 虹のように今日は逃げないで」。あと「夕焼け」という曲の歌詞で「遠くから近づいてる 季節の影を 忘れさせてくれる悲しい程に キレイな夕焼け」この辺はたまらないですね。僕は付き合い始める時には別れを意識するので、そうした恋愛しかできない人間には強い共感があります。草野さんの詩の中には「楓」や「冷たい頬」のようにすでに終わった恋愛の回想も多いです。そんなところも自分はスピッツと相性が良かったんだなと思います。

今年最後になるかもしれませんので、一応、書き残しておきます。今年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。

スピッツが国民的バンドになってしまいそうだ

今夜、ミュージックステーションでスピッツが出演し、「優しいあの子」を披露しました。それにしても最近、スピッツの扱いが大きいような。勿論、もともと人気バンドですし、朝ドラ主題歌の影響は大きいとは思いますが、国民的バンドに祭り上げられている気がしないでもないです。草野さんが苦手な展開ですよ。 「俺は小さな生き物でいいよ。ちっぽけな虫でいいよ」と彼は思っているような気がします。

番組調べだと1位「チェリー」2位「優しいあの子」となっていたみたいですが、自分は違うかな。何が1位なのかも分かりませんが。ロビンソン、チェリー、空も飛べるはずのビッグ3の中で、歌詞としては、空も飛べるはずの「君と出会った奇跡がこの胸にあふれてる、きっと今は自由に空も飛べるはず」という歌詞がメロディーとともに多くの人に焼き付いていると思いますが、勿論、ここもいいですけど、それ以外の部分が秀逸なんですよね。幼い微熱を下げられないまま、神様の影を恐れて」で始まるAメロ・Bメロの並べられた言葉が格好いい。それと「ゴミできらめく世界が僕たちを拒んでも、ずっとそばで笑っていてほしい」この表現も好きですね。

「優しいあの子」に関してはこれからじゃないですか。朝ドラのイメージが抜けた後、忘れ去られてしまうのか、スピッツの名曲として長く愛されるのか、結論はまだ先の話だと思います。新曲の「ありがとさん」かなりいい出来ですね。スピッツ名曲ドラフトに指名されるかもしれません。スピッツファンの将棋のめっぽう強い少年、藤井聡太君は今日、快勝したようです。彼の1位はやはり今でも「魔女旅に出る」なんですかね。時とともに、また気分によってナンバーワンが変わるのがスピッツの曲たちの特色だと思います。

王将戦挑戦者決定リーグが行われ、藤井聡太七段が糸谷哲郎八段を108手で下し、2勝1敗としました。戦型は角換わり、しかも叡王戦予選で村山七段に敗れた道を辿っていきます。藤井七段に秘策があるとみた糸谷八段は自ら道から外れました。しかし、それも藤井君の研究範囲だったのか、早指しの糸谷さんが藤井君以上に時間を使う珍しい展開になりました。最後は互いに攻め合いになりましたが、藤井君が鮮やかな超手数詰みを発見し、勝ちになりました。これぞ藤井聡太という勝ち方でした。

快勝に近い内容だったのではないのでしょうか。消費時間がそれを示しています。持ち時間4時間で消費時間を半分近くほど残しているのは、藤井君にしては珍しいケースです。糸谷さんも今期あまり調子が上がりませんね。同世代の佐藤天彦九段、中村太一七段も不調です。30過ぎて不調に陥るケースは多いですが、それにしてもどうしたのかなという印象です。それぞれが将棋の普及に熱心だったり、多彩な趣味を持っていたりで、あまりAIの研究をしているイメージが湧かない3人ですね。

それと糸谷さんは離席が異常に多いですが、多くの方は、糸谷さんが太っているから座っているのが辛いのではと思っているでしょう。僕は少し違って、何か先天的なものを感じます。座っているより立っていたほうが楽なんじゃないですかね。自分がパニック障害の残遺症状で、電車や床屋などで座っているより立っていたほうが楽というのがあるから、そう思うんでしょうけど。いかに棋士が脳内に盤面を浮かべられてもハンディになっているような気がします。

昨日は同時に羽生九段と久保九段の対局があり、手数こそ長くなったものの羽生さんの快勝でした。これで2戦2勝。羽生さんの力が最も落ちていたのは、菅井七段や中村太一七段に次々とタイトルを奪われた2、3年前だと思います。去年、広瀬竜王に敗れ無冠になりましたが、そのころには随分、力を取り戻し、今の好調につながっています。ずばりAIでの研究が大きいとみえています。そして、次はその羽生さんと藤井君の激突です。本命と思われた豊島さんが2敗し、苦しい状況になりました。全勝の羽生さんと1敗の藤井君の対局が大きな意味を持つことになります。注目の大一番ですね。

藤井聡太が羽生を圧倒

王将戦挑戦者決定リーグの注目の対決は、藤井聡太七段が羽生九段を82手で破りました。

羽生九段の先手で始まり、戦型は相掛かりでした。勝負は思っていたより早く動きました。藤井七段が38手目に思い切って飛車を切りました。ここでは形勢はまだ難しいですね。50手目に藤井君が1五金と飛車取りとします。羽生さんの玉を左から右から包むように攻めます。素晴らしいなと思ったのは74手目でした。5四馬として羽生さんの馬との交換を強要した手です。ソフト的にはかなり大差がついていたと思いますが、人間が見るとこれで自玉も安全になり、藤井君が勝ちになったかなという感じです。鮮やかだったのは80手目の2六金です。ユーチューブのソフトで見ると悪手扱いになっていますが、華麗かつ合理的な手だと思います。最善手じゃないですかね。流石に羽生さんもこの手を見せつけられては投げられず、82手で投了しました。

藤井七段は好調の羽生九段に土をつけ、これで3勝1敗。一瞬とはいえ単独トップに立ちました。羽生さんの心境は年下の谷川浩司が現れたような心境だったかもしれません。それくらい華麗な攻めで、正確な指し回しでした。これでは相手のミスを突くのが巧い羽生さんもどうすることもできませんでした。今更ながら藤井君は紛れもなく天才棋士ですね。しかも将棋に華があります。

藤井七段が羽生九段に快勝という将棋界にとっては大きな一局になるかもしれません。しかし、王将リーグはこれからです。藤井君としては、次の久保九段戦が重みを増してきました。久保さんに対しては負け越していますし、苦手意識があるかもしれません。レベルの高い振り飛車党に対する経験値がまだ足りていないのでしょうか。そして最終局が広瀬竜王。挑戦の可能性もあれば、残留できない可能性も残しています。とにかく藤井君にとっては難関の久保九段戦を乗り切って、タイトル挑戦に一步近づいて欲しいものです。

清原氏、トライアウトで監督に　そしてNPBは

清原和博氏が11月30日、神宮球場で行われる試合形式のトライアウトで監督を務めることになったそうです。公の場に姿を現すのは、今年3月に行われた厚労省主催のイベント以来ですかね。海外リーグへの挑戦をサポートするようです。選手にとっては野球人生のかかった勝負の日でもあり、大きな仕事だと思います。

清原さんは厚労省のイベントでは薬物の専門病院へ通っていることを明かしました。その姿勢が続いていけばいいのですが。なかなか薬物依存の治療は難しいと聞いているので、完治というものはないのかもしれませんが。それでも一步一步、前に進むしかないですね。

ラグビーの準々決勝、日本×南アフリカは個々の能力の差は否めず、日本チームは残念ながら敗退となりました。それでも視聴率は40%を超えたそうです。対して日本シリーズ、ソフトバンク×巨人戦の視聴率は7%。時代の流れもありますが、CSを導入して以来、日本シリーズに関しては、日本一チームを決める頂上決戦ではなくなってしまったことも野球人気凋落の1つの原因です。オールスターゲームも交流戦が始まって以来、有難みが薄れました。去年、松坂大輔投手がオールスターのファン投票で1位になったのも、野球が国民的スポーツであった頃を知る人々の郷愁なのだと思います。これでは当然、有能な選手はメジャーを目指すのも仕方ありません。

今では考えられないことですが、四半世紀前の1994年の西武×巨人の日本シリーズは平日のナイター開催で3日連続視聴率が40%を超えました。その舞台の主役を務めたのが西武の四番打者として盟友・桑田投手からバックスクリーンへ2打席連続ホームランなどを放った清原選手でした。

本来ならば、清原さんが野球界を盛り上げていかなければいけない立場でしたが、残念ながら彼はその立場にありません。これからは薬物依存と向き合いながら、縁の下から少しでも野球の発展のために尽くしてくれればと思います。栄光と挫折を味わった彼にしかできないことはあるのではないのでしょうか。

玉置浩二の哀しき才能

先日NHK「SONGS」に玉置浩二が出演しました。安全地帯の「恋の予感」という曲が好きでカセットテープでダビングして友人と聴いていたのを思い出します。まだCDが一般的には広がってはいなかった時代です。あれから35年がたったんだなあ。

安全地帯の人气が絶頂期の頃に好きだった曲は主に「悲しみにさよなら」や「蒼い瞳のエリス」のようなバラードでした。「Friend」も好きだった。楽曲提供も行い、斉藤由貴の「白い炎」「悲しみよこんにちは」、中森明菜には「サザン・ウインド」など名曲を世に送り出しました。玉置さんと明菜さんという哀しい天才・歌姫のかけ合わせも凄いですね（笑）

個人的には玉置さんのボーカリストとしての全盛期は30代から40代にかけてだと思います。なかでも「CAFE JAPAN」というオリジナルアルバムの出来が素晴らしかった。一時期、繰り返し聴いていた記憶があります。SONGSで歌った名曲「メロディ」も収録されていました。安全地帯が再結成された最初の曲「オレンジ」も歌っていましたが、これもいいですね。

一方で玉置さんは様々な病気を抱えていて、特に心の病は離婚を何度も繰り返すなど彼の人生に大きく影を落としました。東京を離れ、確か軽井沢かどこかで静養していた時期があったと思いますが、2005年に「あいのうた」というドラマがあり、「共演が菅野美穂さんだったら」ということでオファーを受け、「ドラマは長丁場だから住むところも借りないと」というのがきっかけで東京に戻ってきたと記憶しています。ドラマの主題歌は「プレゼント」。これもドラマにマッチしていい曲でした。ドラマは菅野さんが演じる性格ブスの若い女性に、人生をそつと伝えていくような役柄でした。役者としても個性派でしたね。

玉置さんは声量もありますけど、本質的な魅力は彼の人生の悲哀が重なるような表現力だと思います。天才というのは人が羨ましがるほど楽なものではないと感じます。どうにもならない試練と引き換えにボーカリストとしての才能を天から贈られた玉置浩二は、オンリーワンのアーティストであることは間違いありません。

藤井聡太と2人の若手棋士 先にタイトルを取るのは？

王将戦挑戦者決定リーグで藤井聡太七段は3勝1敗で暫定トップを走っています。広瀬竜王、羽生九段が1敗なので、まだ僅差ですね。こないだの王位戦予選でも西川六段の振り飛車に苦戦し、改めて藤井君の1つの課題が見えました。王将リーグの次の相手は振り飛車党のトップ棋士の久保九段ですから、ここは勝負どころです。

一方の棋王戦決勝トーナメントで若手棋士が2人、ベスト4に進出しました。佐々木大地五段と本田四段です。棋王戦はベスト4以降は一度負けても、敗者復活戦が残されているので、タイトル挑戦の確率は藤井君と同じくらいではないでしょうか？2人とも20代前半の期待の若手です。本田君はまだプロになって1年ほどじゃないですかね。プロ棋士としては藤井君の後輩になります。ある意味では藤井君も初めて追われる立場になったとも言えます。

佐々木君は子供の頃、心臓を患い、いつまで生きられるかわからない重病を乗り越えてきた生命力の強さがあります。今はフットサルなども楽しんでいるようで、すっかり元気な好青年ですけどね。将棋の棋風も生命力が強い粘りのあるタイプです。本田君は目標は人間の棋士ではなくコンピューターと言い切ります。20歳を超えてのプロ入りですから、つまずきがあったのでしょう。その時にソフト研究を始め、今に至っているからこそその言葉なのだと推測します。

カギを握るのは広瀬竜王と羽生世代だと思います。広瀬さんは王将戦リーグで藤井君との対局を残し、また棋王戦トーナメントでもベスト4に入り、準決勝で佐々木君と当たります。広瀬さんはトップクラスの中でも物凄く能力が高い棋士なので、大きな壁になることは確かでしょう。それと羽生世代は羽生さんが王将戦でまだ1敗で、ほぼ藤井君と並んでいる状態で、棋王戦トーナメントでは羽生さんと同世代の佐藤康光九段、丸山忠久九段がベスト4をかけて戦います。特に佐藤さんは会長職でありながら、A級順位戦でも3勝1敗と好調で、研究時間が取れない中でこの成績は驚異的です。蘇る剛腕とコンピューター至上主義のまさに今の時代にマッチした本田君との対照的な戦いも見たい気はします。

それでもやはり藤井七段が注目ですね。人気実力もさることながら、最年少挑戦、獲得がかかっていますからね。久保さん、広瀬さんと難敵は続きますが、あと1敗するとかなり厳しい状況に追い込まれます。ここは内容も大事ですが、とにかく連勝が求められます。

女流最強は里見でも、女性最強とは言い切れない

里見香奈女流王将に西山朋佳女王が挑戦し、1勝1敗で迎えた女流王将戦最終局は西山女王が里見女流王将を131手で下し、西山さんが王将位を奪取し、女流二冠となりました。里見さんは女流五冠に後退しました。対戦成績は西山さんの7勝5敗。西山さんが少し勝ち越していますが、今後、対局数が増えていくので勝負はこれからでしょう。

西山さんは振り飛車党で、里見さんも中飛車主体の振り飛車党ですが、里見さんは相振り飛車は苦手なのか、タイトルを奪われた対局も居飛車のまま戦っていました。里見さんは飛車を向き合って戦いたいタイプなんですよ。これまでの女流界を見ても、かつてタイトルを争った清水女流六段、矢内女流五段、そして現在、女流のトップクラスにいる棋士も居飛車党が多い気がします。女流棋士といえば振り飛車党が多いイメージですが意外です。そのため振り飛車党の里見さんは居飛車と振り飛車の対抗形で勝負できました。しかし、西山さんは振り飛車党のため、里見さんとしてはやりにくい面があるのかなと思います。

ならば女流は里見・西山の二強時代に入るのかといえば、そうとも言えない面もあります。実力的には里見さんを上回っている可能性がある西山さんですが、奨励会員であって女流棋士ではないため、出場できる棋戦が限られています。そのため西山さんが里見さんの実力を大きく上回らない限り、まだ里見さんがしばらく女流棋界を引っ張っていく可能性は高いと思います。

その両者の実力を測る意味でも現在行われている女流王座戦が注目です。1局目は西山さんが里見さんを破りました。里見さんは踏ん張りどころです。

完成度では百戦錬磨の里見さんに分があると思いますが、西山さんはスケールの大きさを感じさせる将棋ですね。西山さんに関しては現在三段リーグで女性初のプロ棋士を目指して厳しい戦いを続けています。今を時めく藤井聡太七段がプロ入りを決めた最終局の相手が西山さんでした。退会の期限まであと残り2年ぐらいですか。ぜひ女性初のプロ棋士の誕生を見てみたいものです。そして、もしプロ棋士になれなくても、その時は西山さんは女流棋士として里見さんとともに女流棋界を引っ張ってほしいところです。

覚せい剤所持の疑いで田代まさし容疑者が、また逮捕されてしまいました。これで4回目だそうです。更生施設に入って、顔も以前に比べてふっくらして健康的になっていたし、もう大丈夫かなと思っていた矢先の逮捕だけに、改めて薬物依存症の恐ろしさを知る思いです。清原さんは更生できるのかなと心配になります。「絶対に完治するものではない、いかにゼロに近いマイナスに近づけるかだ」という意見を何度か聞きましたが、今回の田代容疑者の逮捕はその理論の確かさを実感しました。

明るいニュースで菊池桃子さんが結婚しましたね。相手の男性は60歳で官僚でも事務次官候補になるくらいの実力者のようです。それにしても、アイドル時代を知るものとして桃子さんも60歳の人と再婚するような年齢になったんですね。彼女はアイドル時代の面影を残しているからモテるのでしょうか。僕はアイドル時代よりも今のほうが好きかな。ラジオを聴いている影響もあります。聴き心地がいいです。タクシー運転手にストーカー被害を受けたのも、外見の美しさもさることながら、桃子さんの丁寧な対応に勘違いしたんでしょうね。桃子さん、お幸せに。

今日は「同期のサクラ」ですね。先週は負け犬根性が染みついてしまったラーメン屋の息子が部屋に閉じこもって、サクラたち同期が部屋の外から訴えかけ、会社に引き戻す話でした。予想通り、視聴率も上がってきたようですね。今日も楽しみです。

さて将棋ですが、藤井聡太七段が青島五段に快勝し6連勝。ほぼB2昇級は大丈夫だと思えます。全勝は藤井君含めて3人です。残る2人は佐々木勇気七段と石井健太郎五段。佐々木君はもともと才能には定評があり、藤井君の連勝記録にストップをかけた棋士ですし、石井君も将来はA級に上がる逸材ではないでしょうか。まあ、残り全部勝てばいいので藤井君には全勝を狙ってほしいですね。谷川九段の最年少名人記録を破るとしたら、やはり藤井聡太しかいないと思います。もし藤井君が破れなければ、今後数十年はこの記録に挑戦する資格のある棋士は出現しそうにありません。

竜王戦第3局 芸術家・広瀬か？研究者・豊島か？

9日、10日に行われた竜王戦第3局は、豊島名人が広瀬竜王を157手で破り3連勝としました。これで豊島名人が竜王を奪取する可能性は極めて高くなりました。いよいよ名人・竜王の大二冠が近づいてきました。

広瀬さん勝勢で迎えた最終盤、豊島さんが持ち前の粘りを発揮しながらも徐々に差は広がっていききました。しかし、広瀬さんが守りの金を攻めに参加させた手が、結果的に豊島さんの逆転劇を生み出しました。個人的には広瀬好きなので残念な結果となりました。

それにしても最近の豊島さんは本当に土俵を割りません。かつては早熟の天才と言われた豊島さんも今はすっかり、最先端の研究を取り入れた努力型の秀才に変貌しました。少し永瀬二冠の将棋にも似てきたような気がします。本来は攻めに使いたい駒を自陣に惜しみなく投入し、勝負を長引かせながら、最後に相手が攻め疲れたところで勝ちに行きます。この第3局も157手ですし、王将リーグの藤井聡太七段戦も170手を超えていました。だから、この豊島名人に7番勝負で勝った木村一基王位は改めて神懸っていましたね。

それにしても広瀬竜王の将棋も素晴らしい内容でした。個人的には芸術性の高い棋士を3人挙げるとしたら、谷川九段、藤井七段、そして広瀬竜王です。それぞれ世代もタイプも違いますが、美しい将棋を指すことでは共通しています。芸術肌の天才が研究熱心な秀才に敗れるという意味では谷川さんと羽生九段の関係性を思い起こします。ここまで来たら広瀬さんに1勝はしてもらいたいです。

そして王将戦。広瀬さんと藤井君という現代将棋を代表する芸術家が最終局で激突します。できれば藤井君が久保九段を破り、1敗同士の決戦を見たいです。ここでは広瀬さんには悪いですが、藤井君に勝ってほしいです。最後はやはり藤井君の応援で終わってしまいましたが、どちらにしても楽しみな対決です。

藤井聡太が久保を制し、広瀬と最終決戦

昨日の王将戦挑戦者決定リーグ戦は藤井聡太七段が久保利明九段を157手で破りました。これにより、2敗の豊島名人、羽生九段の挑戦の可能性はなくなり、いよいよ最終局で藤井七段と1敗で並ぶと広瀬竜王との一騎打ちになりました。

王将リーグが始まる前、僕は藤井七段の成績を4勝2敗と予測したと思います。残り1局の段階で、藤井君はすでに4勝に到達しました。しかし今となっては、この予測が当たってしまっただけは困るので、広瀬竜王を倒して、王将戦に登場してもらいます。

こないだも書きましたが、結構、僕は広瀬好きで、大体は広瀬竜王に勝ってほしいと思うのですが、藤井七段の敵としてみる広瀬さんは非常に手強く感じますね。同じく昨日行われたA級順位戦では羽生九段に快勝し、1敗を守りました。竜王戦第3局での逆転負けのショックはなさそうです。彼のようにおおらかでどこか飄々とした人はメンタルが強いですね。

さて、11月19日の広瀬・藤井戦ですが、去年の朝日オープン決勝でまだ中学生だった藤井君が勝っています。しかし、それはほとんど参考にはならないと思います。今度はお互いに準備してきますし、持ち時間も長い。激戦は避けられないでしょう。どちらかというとならば藤井君の攻めを広瀬さんが受ける展開が予想されます。お互い際どい一手勝ちを目指すのではないのでしょうか。

実力的にはやや広瀬竜王。勝負強さ、若さと勢いでは藤井七段。藤井君にとっては、おそらくプロ入り以来、最大の大一番と言ってもいいかもしれません。

女優の沢尻エリカ容疑者が合成麻薬MDMAを所持したとして逮捕されました。今回の逮捕劇に関しては驚きはなかったです。しかし、新たな情報によるとコカインなど複数の薬物を10年以上から使用していたというのは残念ですね。

沢尻は女優としては一流になれる条件は揃っていたと思います。正統派の美人で演技力にも定評がありました。しかし、気を張って強く見せていた彼女の心はあまりにも脆かった。この系譜には三島由紀夫、尾崎豊、中森明菜、清原和博、そして沢尻エリカ。一流なのに悲しい男、あるいは女。彼らに共通しているのは普通の人たちが大人になって捨ててしまった純粋さを抱えていることです。しかし、悪く言えば大人になり切れない、社会とうまく折り合えないということになります。よって世間に対し、自然体になれず、突っ張って生きるしか方法がなかったのだと思います。

そして「弱さ」ですが、それはガラス細工のような繊細さにも繋がり、一概に否定できません。彼ら、彼女らに激しさと繊細さが同居していなければ、これだけの芸術性やカリスマ性、物語性も存在しなかったのではないのでしょうか。

沢尻エリカに話を戻しますが、おそらく執行猶予付きの判決になり、早い時期に釈放される可能性が高いでしょう。沢尻自身が持っている性分については、なかなか変わらないと思います。まずは彼女にドラッグを断ち切ろうとする強い意志がなければ話になりませんし、し薬物依存の治療も必要でしょう。それと人間関係を変えることは大切です。自分に都合のいい人間ではなく、耳の痛い話をしてくれる人と付き合えるかどうか？

例の「別に」発言後のロングインタビューの一部を見ましたが、クレバーな面もあり「今は演技ができていない。30歳、40歳になって評価されるなら嬉しいけど」という謙虚さもありました。意見は分かれると思いますが、個人的には沢尻が裏切ってしまった人への償いは、女優として真摯な演技を見せることだと思います。勿論、今までのポジションに戻れる訳ではありません。テレビドラマなどは怖くて使いづらいでしょう。今回の大河のようなことになりますから。映画の端役からやり直すのがいいんじゃないですか。地道に積み重ねていけば、認めてくれる人はいるのではないのでしょうか。

天才対決 藤井聡太、広瀬に屈する

王将戦挑戦者決定リーグ最終局、藤井聡太七段は広瀬章人竜王に126手で敗れ、タイトル挑戦はなりませんでした。

初手で、藤井七段が珍しく角道を開け、戦型は矢倉を選択しました。得意の角換わりを避けたのは少し意外でした。序盤から中盤にかけて、徐々に形勢は広瀬竜王に傾きました。しかし、そこから藤井七段が巻き返しを図り、終盤で上部が厚くなり藤井七段が逆転したようです。しかし、最後に広瀬竜王の猛攻に1分将棋の藤井七段は読み切れず、結果的には頓死という形になりました。最後は広瀬さんが芸術的な寄せで勝利しました。それにしても両対局者とも、二転三転の手に汗を握るような、素晴らしい内容の将棋だったように思います。

藤井七段はこの大一番で少し硬さが見えたように思います。矢倉を選んだことはともかく、結局、序盤から中盤にかけて、やや不利な状況を作ってしまいました。広瀬さんの矢倉が見事な堅陣であるのに対し、藤井君の矢倉は跡形もなく、玉が裸になってしまいました。しかし、それでも自陣に駒を投入せず、攻撃は最大の防御とばかりに攻めを重視しました。こうした重要な対局になるとその人の本当の棋風というものが出てくるんですね。普段は玉型の安全度を重視していた藤井君が、今日に限れば完全に攻め将棋でした。これが棋士・藤井聡太の本質なのだと思います。

広瀬竜王はこのアウェーの状況下、持ち前の実力を発揮しました。繰り返して書きますが、やはりマイペースで大らかな人はメンタルが強い。この調子で竜王戦も一矢報いてほしいものです。今日の対局で「広瀬さんって強いんだ」と感じた方も多いのではないのでしょうか。藤井君はペナルティーエリア内に入ると物凄い能力を発揮しますが、広瀬さんはエリアの少し外側からが上手いんですね。まさにファンタジスタです。

藤井君の最年少タイトル挑戦は難しくなりました。可能性が残っているのか僕にはよくわかりません。しかし、やはり挑戦より獲得です。木村王位を見ればよく分かります。すべてがA級棋士の中で4勝2敗という成績ですから、誰もがすでに今現在、藤井君がトップクラスの実力を持っていることは認めたのではないのでしょうか。今日の敗戦がいい方に転ぶか、悪い方に転ぶかは分かりません。しかし、どんな大棋士でも一度は通らなければならない道ではないですかね。この悔しさをバネにできるかどうかで、今後の藤井君の成長曲線も変わってくると思います。

それにしても大きくニュースで取り上げられていましたね。普通の人だとプレッシャーに押し潰されてしまいそうですが、藤井君に関しては注目されることに向いている性格だと思います。数年前まで斜陽産業だった将棋界の救世主・藤井聡太の戦いはまだ序章に過ぎません。

出生数激減、子育て世帯限定で現金給付を

厚労省が発表した人口動態統計により、2019年の出生数が大幅に減少していることがわかりました。前年比5.6%減の約67万人。5%以上の減少は1989年以来30年ぶりだそうです。原因は独身者の増加、晩婚化、20、30代女性の減少などがありますが、それと同時に子供にまともな教育を受けさせられないという不安が、かなり大きな要因なのではないかと推測します。そこで政府は子供のいる世帯に現金給付で対応しなければいけない時期に来ていると思います。保育料無償化など努力しているのはわかるのですが、さらに大胆な援助が必要に感じます。

具体的には現状の手当てに上積みする形で、子供1人の家庭で月2万、2人で6万、3人で12万、4人目以降は6万円ずつ増やしていけばいいと思います。子育て世帯限定のベーシックインカムと言い換えてもいいかもしれません。人口1億2千万以上の国民に占める15歳未満の子供の割合は10%前半に過ぎません。この政策ならば、ベーシックインカムよりは現実性は高まります。地域で子供を育てるという意識が根付いていた昔とは社会が変わり、親、特に母親にかかる負担が大きくなってしまっているのだと思います。

僕は独身ですから自分には関係はないのですが、損得勘定を抜きにしてこの国を存続させていくためには、今の極端な少子高齢化に歯止めをかけるには大胆な政策が必要です。これにより、子供のいる家庭とない家庭、あるいは独身の分断が特に40歳以上の世代で起こるかもしれませんが、20年、30年先には子供たちに支えられると思えば、仕方がないのかもしれないね。

主人公の清水洋司は出版社を退職し、一人娘の美奈子を連れて、東京から故郷の山口県周防氏に帰ってきました。妻の和美は大学の助教授でアメリカ移民史を研究するため、ボストンに旅立ちました。

地元に残った人に対しては温かいが、よそ者やで戻りに対しては冷たい町という言葉を重ねる重松さんは何度となく使います。それでも20年前、周防高校、通称シュウコウで遠い甲子園に憧れていた洋司と憧れていた仲間たちは強い絆で結ばれています。シュウコウの教師となり、野球部監督の神野やうだつの上がない洋食屋「カメさん」を経営する亀山。彼らの中では洋司はエースだったヨーシなのです。

しかし、いつまでも青春ごっこは許されない現実の厳しさ。亀山は洋司に何度も厳しい言葉を投げかけます。「ヨーシ、いつまでここにおるんかい。親父さんに変な期待を持たせるな」と。洋司の母は亡くなり、残された老いた父。東京に帰るのか、ここに骨を埋めるのか。洋司は結論を出しません。

そんな中、美奈子が学校でいじめられていることが発覚。洋司が授業参観に行った日も彼女はいじめにあっていました。美奈子に止められていることもあり、制止するか戸惑う洋司。その時、一人の母親がいじめを止めに入ります。藤井恭子。20年前のシュウコウの女子マネージャーでした。彼女はトラック運転手をしながら、息子の甲太を育てていました。

洋司たちが3年生の夏、名物応援団長のザワ爺の熱意が通じたのか、運に恵まれて決勝まで進み、甲子園にあと1勝まで迫ります。その矢先、レギュラーのオサムと密かに密かに付き合っていた恭子が妊娠し、中絶したことが発覚し、シュウコウは決勝を辞退しました。オサムは野球部の仲間と疎遠になり、バイク事故で亡くなりました。恭子も卒業後は周防から離れましたが、離婚後に戻ってきました。大型トラックドライバーという人と顔を合わせる事の少ない仕事を選択して。

洋司は優柔不断なところもありますが、事野球に関しては熱血です。忙しい神野に代わって野球部の手伝いをするのですが、雨が降っても選手を走らせ、ノックバットを振る昭和そのものの指導法で部員たちに疎まれてしまいます。洋司、いや重松さんの考え方がはっきり表現された一文があります。恭子の息子、甲太は野球が得意でした。母子ともにプロ野球選手という遠い夢を見えています。しかしヨーシは「甲太くんには野球選手じゃなくて、高校球児になってほしい」と。「駆け抜けたほうが速いと分かっているけど、一塁にヘッドスライディングしてほしい」などかつて美德とされた高校球児のあるべき姿を並べました。重松さんの気持ちは分かるけれど、大切なのは選手の意思でやっているかだと思えます。やらされているのでは意味がありません。

自然豊かな地方都市でも時は等しく流れます。ザワ爺はなくなり、亀山は「カメさん」を閉店しました。そして洋司は出版社の先輩の誘いを受け、東京に戻る決断をしました。その裏には無口で優しい父が間接的に「一人で大丈夫だ。心配するな」という態度を示したことが大きかったです。

夏の県予選。神野の指揮の下、シュウコウは初戦を迎えました。洋司は東京に戻るため、スタジアムに背を向けました。流れるコンバットマーチ。まだ彼らは人生という試合を戦っています。

「同期のサクラ」第8話

「同期のサクラ」第8話、見ました。故郷に橋を架ける夢が破れ、最愛の祖父の死が重なり、大きなショックを受けたサクラは会社に行かなくなり、生きる気力も失ってしまいました。まあ、ある意味よくあることなんですけどね。夢が破れた経験は多くの人にあるでしょう。そして、じいちゃんの死は孫より祖父が先に亡くなるのはごく自然なことです。

しかし、さくらは性格があまりにも真っ直ぐなため、普通の人に比べて柔軟性がなく、心が折れやすいタイプなのでしょう。同期たちはあの手、この手でサクラを元気づけようとはしますが、さくらの電源はオフのままでした。生きていくのは辛いよね、サクラ。

サクラが意識不明のまま病院のベッドで寝ている理由もわかりました。ボールを取り行こうとして車の前に飛び出した子供をサクラが身を挺して救ったのです。ドラマにはありがちな設定ですが、人一倍、他人を思いやる気持ちの強い彼女だからこそ、自らの命を投げうって子供を助ける行動を起こしたことに説得力がありました。

そして、ついにサクラが意識を取り戻しました。これでいよいよ物語が過去から現在に移ることになりそうです。すでに会社からは解雇されており、悪戦苦闘の日々が始まると思いますが、何か希望のある終わり方になる予感がしてきました。

ドラマのクライマックスに流れる森山直太郎の「さくら」。もはやこの曲以外に「同期のサクラ」の主題歌は考えられないというほど、ドラマと見事に同化しています。

「同期のサクラ」第9話

2019年12月。ようやくサクラは目を覚ましました。勿論、同期たちは大喜び。リハビリ期間を経て、就職活動に精を出します。しかし、サクラはありのままを話し過ぎて、何度も不採用になってしまいます。就活の合間にコンビニで働いても、マニュアル通りには動けない、また動かないためにクビになってしまいました。確かにコンビニ店員には向かないですね、この子は。

そんな時でもサクラは仲間たちを心配します。彼らの悩みの解決法を伝えようとするのですが、すでに彼らはサクラと同じ考えを持っていて、それを実行していきます。サクラはがっかりしたようでしたが、この10年で彼女の言葉を栄養にして、同期たちが成長した証でもありました。

夢破れたサクラは、故郷に帰ることを決意します。しかし、同期4人は強硬に反対します。そして新人研修の時に建物の模型をサクラに褒められた社員が、その言葉を励みに試行錯誤を繰り返しながら、着工にこぎつけた建設現場を見せます。サクラは感動し、再び都会で夢を追いかけることを決意したのです。

それにしてもサクラの高校時代の黒縁の眼鏡をかけた高畑くんはひじょ〜に眼鏡美人ですね、ええ。掛布さんじゃないですが（笑）

最終回はサクラが会社に戻ったはいいけれど、どうも不穏な雰囲気ですね。最も権力が似合わない女がそれを握ったら。名選手、必ずしも名監督ならずとも言いますし。最終回、このドラマがどんな着地を見せるのかひじょ〜に楽しみです。

藤井聡太は生まれながらの天才のようだ

昨日の竜王戦、広瀬竜王は挑戦者の豊島名人に敗れ、0勝2敗となりました。密かに広瀬マニアの僕としては残念です。次の第3局ですね。ここで豊島さんが勝てば9割以上、豊島竜王誕生だと思います。広瀬さんが勝てば、まだまだこれからです。

広瀬さんと豊島さんはいずれも高学歴ですね。それぞれ、関東関西の名門大学に入っています。豊島さんは中退でしたか。「ひふみん」こと加藤九段は佐藤天彦九段の頭のよさに感心したそうです。天彦さんは言語力も素晴らしいし、頭脳明晰ですね。一方で糸谷八段は将棋棋士の特徴をいくつか挙げる中で「棋士は将棋以外は何もできない人が多い」と言葉にしています。糸谷さん自身は哲学の家系で国立大学の大学院時代に竜王になるほどのマルチな才能の持ち主ですから、「この人たちは将棋が廃れたらどうするんだろう？」という思いなのでしょう。僕は多くの棋士は将棋に特化した才能なのだと思っています。早い時期に将棋に出会い、筋がよく、のめり込むように将棋に指し続けた人が多いのでしょう。

一方、藤井聡太七段は、天才がたまたま将棋を指しているという表現がしっくりきます。一般的な天才というと東大生を思い浮かべる人は多いでしょう。ただ、僕は秀才型が多いと思っています。個人差はあれど、こちらが想像がつかないほど量も質も高い努力を積み重ねたのでしょう。しかし、藤井君なら彼らの努力の平均値よりかなり短い時間で東大に入れる実力を身に付けると思います。もし藤井君が、何らかの研究者になったら、一流にはなれる素質は持っていると思います。僕はこうした人々を軽く評価しているわけではなくて、あくまで藤井聡太ならという条件付きです。そして勿論、藤井君にも苦手なことは多くあるでしょう。人間ですから。

藤井君の言葉の使い方の巧みさは有名ですね。年齢に似合わぬ表現を並べます。普通、それだと嫌味っぽくなるんですが、藤井君はむしろ心地よい。誠実に謙虚に答えているからだと感じます。多くの人がそう思っているからこそ、将棋を知らない人にも好感を持たれるのでしょう。また人間的にも優れていますね。普通、あの年齢で多くの人やマスコミに注目されたらナーバスになるのが普通ですが、藤井君は不機嫌になることもなく丁寧に質問に答えています。なかなかできることではないですね。

将棋界は今は藤井君が巻き起こした将棋ブームで勢いに乗っているように見えますが、AIが棋士より遥かに強くなり、人間が将棋を指す意味が常に問われ続ける時代でもあります。だからこそ人間性に優れた、魅力のある棋士が、トップ棋士として君臨することが求められています。そういった意味でも藤井聡太が将棋を選んでくれたのは僥倖というしかありません。

「同期のサクラ」第7話

「同期のサクラ」第7話、見ました。前半の5話は同期の青春群像に重きを置いて描かれていましたが、ここに来て、にわかには展開が重くなってきました。良くも悪くも遊川脚本らしいのですが。

サクラの故郷の島に架かる橋が地元住民の間で「安全性に問題があるのでは」との不安が生じているのを払拭するため、会社側は説得役にサクラを選びました。しかし、橋の強度が万全でないことを知ってしまったサクラは動揺します。

また同期の4人も駆けつけ、サクラの実家に寝泊まりするのですが、サクラの唯一の肉親である堅物の祖父が、自らは余命いくばくもないことを知り、同期たちに土下座して頼むのです。「サクラをよろしくお願いします」と。僕は遠い昔を思い出しました。中学生の頃、友人と2人で、もう1人の友人の家の前で彼が出てくるのを待っていました。すると彼の父親が「息子と仲良くしてやってください」と言ったのです。中学生のガキに向かって。まだ大人が子供を物扱いされることが多い時代に。サクラのじいちゃんの姿を見て、埋もれていた記憶が蘇りました。ドラマにはそうした力もあるのですね。

そのサクラのじいちゃんは死んでしまいました。もうファックスは帰ってこないのです。そして故郷の島に橋を架けるという夢もサクラは自ら断ち切りました。一途さと優しさを持ち合わせるサクラの決断でした。最愛の祖父と長年の夢を一気に失ったサクラの心は壊れてしまったようです。その過程の高畑充希の演技は素晴らしいものがありました。サクラの無念が画面一杯に伝わり、高畑さんはどこかに消えてしまったかのようにサクラになり切っていました。視聴率も12%を超えました。これは名作になるかもしれません。

久しぶりに人と将棋を指した

こないだ、アマ4段の方と将棋を指す機会がありました。ネットではなく、面と向かって人と将棋を指すなんてどれぐらいぶりだろう。もう思い出せないくらいです。相手の方もかなり久しぶりということで、最近の将棋は分からないと話していました。年齢は60歳前後といったところですかね。

僕が先手にさしてもらって、角換わりの将棋になりました。雑談しながら対局してたんですけどね。主に僕は最近の将棋界のことを話し、相手の方は昔の将棋棋士について話していました。「すごく筋がいいね」と自分とは比較にならないほど実戦をこなしてきたであろう4段の方に褒められ、内心喜んでいたら、これ対局中なんだと思い直し、結果的には勝たせてもらいました。最近の将棋を見ていた、まあ藤井聡太君のおかげです（笑）相手の方も下段飛車が攻めにくかったと言っていました。

ネットで指しているのと同じく違いものかと思いましたね。普段なら斬り合いに持ち込むところも安全勝ちを狙ってしまいました。人と向き合って指すのは緊張するものですね。相手の方も手が震えるほど緊張したと言っていました。それと同時に「すごく楽しかった」と話されていたのが印象的です。藤井君が「令和は人と対局しないでプロになる棋士が出てくるかもしれない」と話してましたが、本当にそうなりそうで少し寂しいですね。

最近、藤井聡太の出現以来、自分の将棋熱が上がってきて、4段、あわよくば5段を目指そうかなと思っていました。しかし、実際に4段の方と対局して少し考えが変わりました。いくらなんでも5段は自分には不釣り合いだと思いました。もっと将棋に情熱を傾けた方がとる段位ですね。ただ勝てばいいというのは違う気がしたんです。将棋世界という雑誌だと4段から6段までは同じ問題で、解けた問題の数で段位が決まります。なので4段になる力があって、その後、継続さえすれば5、6段にもなれるシステムです。3段の免状などがあれば受験できるらしいので、自分は4段を目指そうかなと考え直しました。

日本シリーズ延長で1時間近くスタートが遅れた水10ドラマ「同期のサクラ」。久しぶりに11時台までテレビを見ました。第3話は高畑充希演じるサクラと橋本愛演じる百合とのぶつかり合いと友情がテーマでした。

全く空気の読めないサクラに対して、百合は逆で誰に対しても空気を読み、ストレスをため込んでしまうタイプ。実際には後者のほうがは遥かに多いと思います。せっかく自分が積み上げてきた人間関係を壊してしまうサクラに百合は怒りをぶつけます。しかし、百合がサクラにぶつける怒りには羨望も含まれているのだと思います。組織人としては比べるまでもなく百合が優秀で、サクラは失格です。実際に彼女のような人がいても、組織では蚊帳の外でしょうし、残念ながら殆どの会社では不必要な人材と言えます。サクラのような人は自分が好きなことを徹底的にできる環境でこそ能力を発揮するタイプです。

日本シリーズは終わりましたが「ここはサクラ、バントで1塁ランナーを2塁に進めろ」と椎名桔平がサインを出しても「いえ、ここは私が打って大量点につなげたほうが得策です」として、結果はどうであれ「あいつは使いにくいな」となってしまいます。彼女は成功も失敗も自分で背負う個人競技向きですね。そのサクラがドラマの特徴のフィクションを生かして、会社に居座ります。組織の中では本音を抑えている視聴者はサクラの言動に、スカッとしている人も多いのではないのでしょうか。

人間関係に疲れ、結婚という逃げ道を使い、会社を辞めようとする百合に対しサクラは渾身の思いをぶつけます。「いい友人を作ってください」とサクラは会社から出ていこうとする百合に叫びます。その言葉は彼女に深く刺さり、薄々、感じていたサクラに対する強い思いが、本物の友情に変わったのです。BGMに流れる森山直太郎の「さくら」が感動に深みを持たせます。

人はどうしても同じような考え方をする人と繋がりを求めます。お互い理解しやすいですからね。しかし、サクラと百合のような正反対の人間がぶつかり合いながら、自分の弱点に気づき成長していく。エネルギーはあるけれど、特に若い人には大切なことかもしれません。それにしても2人の若手女優のやり取りは迫力がありました。

ドラマ「同期のサクラ」

今期の日本テレビの水10は高畑充希主演の同期のサクラ。大手ゼネコンに入社にして10年。2019年の主人公は意識不明で病室の同期が過去を振り返る形で物語は進行します。昨日は第2話なので、サクラたちの入社2年目、2010年を振り返りました。

脚本・遊川和彦で過去にさかのぼる同じ手法。僕は15年以上前に放送された本木雅弘と菅野美穂が出演していた「幸福の王子」を思い出しました。このドラマは重く哀しいドラマでした。なので現在から過去をさかのぼっていく手法は遊川さんのお家芸なのでしょう。

「同期のサクラ」は2009年入社 of 男性3人、女性2人の5人の同期の物語。サクラは空気が読めません。大人の発達障害でしょうか。しかし、そういう人間こそ組織向きではないにしても、人の目を気にしない推進力で大きなことを成し遂げる例はいくらでもあります。サクラも仕事は出来るんですけどね。

第2話は営業部に配属されている男性社員が中心に描かれていました。営業部長が傲慢で、部下を奴隷扱いのような態度で接します。サクラと同期の社員は営業部長と同じ大学の先輩後輩の関係で、彼の格好のオモチャになってしまうのですが、そこにサクラが関わっていくというものでした。

「私には夢があります」。突然飛び出す、サクラのキング牧師ばりの決め台詞です。10年がたち、寝たきりとなったサクラの夢は叶ったのか、今後の展開が楽しみです。また朝ドラ「あまちゃん」の3人娘の1人だった橋本愛が同期のメンバーに入っています。当時から美少女でしたが、しっかりした顔立ちの印象でした。すっかり大人の女優になりましたね。来週は高畑充希VS橋本愛の対決になりそうでこれも楽しみです。

主題歌は森山直太郎の「さくら」。この歌好きだなあ。彼の歌唱力は天才的です。ドラマをさらに盛り上げてくれること間違いありません。視聴率はいまのところ1桁のようですが、右肩上がりのドラマになる可能性十分です。

ラグビーW杯 決勝トーナメント進出

日本開催のラグビーW杯が盛り上がっていますね。スコットランド戦の視聴率は39.2%という高視聴率でした。この大会でラグビーの魅力に気付いた若い人も多いのではないのでしょうか。

スコットランド戦、凄かったですね。日本がリードを広げ、そのまま逃げ切るかと思われたのですが、さすがに強豪のスコットランドが意地を見せ、28-21とワントライ、ワンゴール差まで追い上げます。しかし、最後は必死のディフェンスでスコットランドにトライを許さず、日本が逃げ切りました。強豪アイルランドをも倒し、4戦全勝で堂々の決勝トーナメント進出です。

僕の少年時代、ラグビーは人気スポーツで、特に大学ラグビーは注目度が高かったです。その中でも早稲田対明治の早明戦が熱かった。「前へ」のスローガンでスクラムが滅法強い明治、展開力の早稲田。僕は巧みなボール回しの早稲田が好きでした。ユーミンの名曲「ノーサイド」も関東大学ラグビーの対抗戦の風景が素材だと思います。

それと僕らの世代にラグビーといって欠かせないのはドラマ「スクールウォーズ」です。泣き虫先生の7年戦争という副題がついていた記憶があります。不良の溜まり場だった高校のラグビー部はやる気のかけらもない弱小チームでした。それを僅か7年で全国優勝に導いた実話をドラマ化したものですが、山下真司さんの熱演が印象的でした。平尾・大八木氏もこの高校で育ちました。スクールウォーズ、ほんとに好きなドラマでした。

昔話はこの辺にして、決勝トーナメント日本の対戦相手はあの南アフリカです。4年前のワールドカップで日本がジャイアントキリングと呼ばれた奇跡の勝利を挙げた因縁の相手。今回はもうどちらが勝っても不思議ではないですね。それほどまでに日本代表は強くなりました。

ラグビーにまつわる名言として「ラグビーは少年をいち早く大人にし、そしていつまでも少年の心を抱かせる」という言葉がありますが、大人になったラグビー少年たちの健闘を期待します。

藤井聡太は豊島将之を超えられるのか？

昨日の台風19号はもの凄かったですね。今もその痕跡を色濃く残しています。よく言われることですが、昨日、今日と台風の被害と向き合っている人々の職業こそ、必要不可欠なもので、スポーツや文学、絵画、芸能、そして将棋などはなくても人は生きていけます。主食ではなく、デザートや嗜好品のようなものです。人生の厳しさに少しでも楽しみを与える役割です。

その将棋ですが、台風直撃の中、竜王戦は第1局が行われました。有利に進めていた広瀬章人竜王が挑戦者の豊島将之名人の粘り強い差し回しに苦勞し、差が徐々に縮まっていきました。そして終盤力に定評のある広瀬竜王を最後は豊島名人がひっくり返し、173手の激闘の末、豊島名人が初戦を制しました。

正直、中盤までは広瀬さんの勝ちと思っていましたが、最近の豊島さんは広瀬さんをもってしても寄せられないほど粘り強くなりましたね。AIでの深い研究で序中盤にリードを奪い、そのまま終盤を確実に逃げ切るとというのが、これまでの豊島さんの勝ちパターンだったのですが、最近では終盤の切れ味が鋭い藤井七段や、広瀬さんに堅い守りで凌いで逆転する新たな勝ちパターンが加わりました。

さて、王将戦挑戦者決定リーグに参戦している藤井聡太七段ですが、現時点で1勝1敗。その1敗が豊島名人です。竜王戦決勝トーナメントでも豊島さんに阻まれました。中学3年で朝日オープン優勝を成し遂げた頃の藤井君なら、豊島さんは数年で超えていくというのが大方の見方だったと思います。

しかし、一年半以上が経ち、この間に強くなった豊島さんを超えるのは容易ではない気がしてきました。例えば豊島さんが1日10時間、研究に費やしているとすると、学生の藤井君はせいぜい3分の1程度ではないでしょうか？そうすると早くても高校を卒業して、十分な研究時間が取れるようになってからという事になりそうです。

両者の年齢差は12歳。豊島さんを実力で抜くというのは容易ではないですが、彼が30代前半のうちに乗り越えていかないと、今度は藤井君より下の世代が台頭してくる可能性もあります。当然、実力ナンバーワンの渡辺三冠、そして広瀬竜王、20代の永瀬二冠。この辺りが藤井君の大きな壁になると思われます。その意味でも王将リーグの経験は大切ですね。

台風とサプリメントと竜王戦速報

台風19号が東海・関東に接近中です。自分の住んでいる埼玉東部は雨、風強い状態ですが、午後になったらこんなものではないでしょう。中心の気圧は945ヘクトパスカルとやや衰えましたが、依然、大型で非常に強い台風であることは間違いありません。明日のラグビーワールドカップはおそらく大丈夫だとは思いますがね。千葉県がこないだの台風で大きなダメージを負っています。この後、猛烈な風になるでしょうから、被害が出来るだけ小さく済めばいいなと思います。

話は変わりますが、何か月前か忘れましたが、スクワットで痛めたと思うんですけど、膝がだるくて重い状態だったので病院で診てもらったら、先天的に膝がしらが前に出ているらしく、先生にも「先天的なものだからどうしようもないね」と言われてしまいました。そして、効果に期待せず安価なカルシウムのサプリメントを使い出したら、症状がだいぶ良くなって、スクワットも幾分、角度を浅めにして再開しています。

昔も病院の精神科に行く前にサプリメントで対応しようと考えた時期がありました。自己流ですが色々調べてカルシウムやビタミンB群、マルチビタミンなど色々やってみたのですが、効果が上がらず結局、病院へ行くことにしました。しかし、薬だけでも抗不安薬には効果を感じても抗うつ薬はあまり感じられず、薬だけの治療にも行き詰っていました。

そして「食べ物で心の病はよくなる」という本をざっと読んだ影響もあって、薬+サプリメントという考えに至りました。精神科医は食については学んでいないと聞くので、これは自己流でやってみる価値があるかなと思いました。ビタミンB群やひざの痛みもかねてカルシウムなどのミネラル、そして昨日はプロテインを買ってきました。

年明けの血液検査で初めて中性脂肪や血糖値などに高い数値が出てしまったことも久しぶりにサプリを飲み始めた理由の一つです。まあ、あまり大きな期待は出来ないけれど、少しでも怠さが取れてくれればと思っています。

いよいよ竜王戦が始まりました。今日は台風の影響で解説・聞き手がいません。藤井聡太君以降に将棋に興味を持ちだした方にはナビとして解説は必要ですが、僕はこの静まり返った雰囲気が好きですね。現在、中盤の難所なのですが、今のところ広瀬竜王が模様がいいかなと思っています。しかし、挑戦者の豊島名人もこないだの藤井七段との対局を見ると、足腰の強い将棋を指しますから、まだこれから一波乱も二波乱もあるかもしれません。

「なつぞら」 広瀬すずの物足りなさ

台風が大変なことになりそうですね。久しぶりに雨戸を閉めました。仕事の帰りにスーパー寄ったら、食パンが一つ残らず売り切れていました。それと小説「若い罪」を読んでいただいた方々、改めてありがとうございました。出来はともかく、これまでで一番長い小説が書けたのも、多くの人が見てくれたからだと思います。根性がないですから、見ている人がいないと駄目だったでしょう。

さて、春から秋にかけて放送された朝ドラの記念すべき100作目「なつぞら」が終了して2週間ほどになります。最初はスピッツの主題歌につられて、見ようとはしていたのですが、いざ始まってみると布団から出られなかったり、主題歌だけ聴いてワイドショーにチャンネルを変えたり、消したりということが結構多かったです。かといってドラマの終盤では天陽君が亡くなった週などは見ていましたし、10分ぐらい見たけれども完走ならずということもありました。

なつぞらは高視聴率でスタートしました。しかし全体的にはやや右肩下がりで終わったようです。この原因は何なのか？確かに脚本が物足りなかったと個人的には見えています。ならばキャストがそれをカバーするような演技を見せなければならなかったのですが、主演の広瀬すずが物足りなかったですね。

物語の始まったところは松嶋菜々子が松嶋菜々子のままで出ていて、裕福な暮らしに見えてしまいました。脚本家の遊川和彦氏の「彼女はスターなのか女優なのかわからない」との言葉通りでした。

しかし、何といっても主演です。表情が乏しいし、セリフも伝わってこない。無理矢理褒めれば、抑えた演技とか、自然体という言葉になるのですが、それとも何か違う。北海道の十勝から出てきて、アニメーターという夢を抱き、それが実現していく。そこに至るまでには大きな挫折や喜びがあったはずなのですが、それも伝わってきませんでした。

草刈正雄の評判がよかったようですが、他にも好演していた俳優はいたのだと思います。しかし広瀬さんの演技が違った意味で目立ってしまって、脇役は浮かばれなかったように思います。最後は30代後半ぐらいになっていたはずですが、老けメイクにする必要はないけれど、話し方を変えたり、しぐさで落ち着きを表現したり、もっとすべきだったと思います。広瀬さんが登場したシーンから20年ほど歳月が過ぎているはずですが、最後も20歳前後の女性にしか見えませんでした。まあ、それは松嶋さんにも言えるのですが。

広瀬さんは彼女自身は人気があるのですが、このままでは彼女の演技を見たいというファンは増えないと思います。周りの人が言ってあげるべきでしょうが、彼女の場合は主演級が多いため、アドバイスしてくれる人もなかなかいないのかもしれないかもしれません。マスコミもいい時だけ持ち

上げるのではなく、時に旬の俳優にも厳しく批評することが大事ですね。

豊島VS藤井聡太 天才棋士に名人の壁

王将戦決定リーグ、豊島将之名人対藤井聡太七段の対局は171手で豊島名人が藤井七段を下しました。先手・豊島名人、後手・藤井聡太七段で始まったこの対局、ともに飛車先をついた後、注目は豊島名人の5手目でした。ここで角道を開ければ角換わり、角横に金を上げれば相掛かりという戦型となる分かれ目でしたが、名人は後者を選びました。

長い中盤戦の末、藤井君がわずかに抜け出したように見えたが、得意なはずの終盤で、豊島玉を追い詰めきれず、豊島さんに駒を多く与えてしまい、最後は見事に寄せられてしまいました。これで豊島さんには4戦4敗ですか。名人の壁にぶつかることで藤井君が成長するのか、苦手意識、または負け癖がついてしまうのか判断が難しいところです。今日の対局にしても微差ですが、上手く豊島さんに斬り合いをかわされました。こうした負けを藤井君自身がどう受け止めるのか注目したいですね。

王将戦挑戦者決定リーグは広瀬竜王が2勝0敗でトップ。豊島名人が2勝1敗。藤井七段が1勝1敗。まずまず想定範囲内で進んでいますね。藤井君が王将リーグを勝ち抜き挑戦者になるにはもう負けられなくなりました。しかし相手が相手なので、現実的には今日の負けでかなり難しくなりました。後は出来るだけトップグループに食らいつき、残留はしてほしいところです。

藤井君が棋界トップに躍り出るには豊島名人はじめ、まだまだ壁がいくつかありそうです。しかし未だ17歳。稀代の天才棋士にして不世出のスーパーアイドルである藤井君の未来は明るいと思いたい。多くの藤井ファンがそう願っているでしょう。

そしてこれが大事だと思うのですが、将棋に興味のない人々にまで影響を与える力を備えている唯一の存在が藤井君です。将棋というある意味では閉鎖的な世界を藤井君の力でメジャーな世界に変えて行ってほしい。そうすることで将棋人口の底辺が広がります。しかし、それには勝ち続けることが求められます。17歳の少年には荷が重いですが、藤井君には颯爽とやっつけてもらいたいですね。

昨日、A級順位戦、羽生善治九段対渡辺明三冠の対局が行われ、132手で渡辺三冠が羽生九段を下しました。終局は日をまたいで0時34分。名局でした。羽生九段の先手で角換わりの将棋になりました。現在の實力では渡辺さんが上回ってはいますが、順位戦ではすべて羽生さんが勝っています。2人の対戦成績は拮抗しているので、渡辺さんにとっては1日6時間制と最も長い順位戦は苦手なのかもしれません。順位戦が始まる前に本命・渡辺、対抗・羽生と予想したのですが、これまでの順位戦の渡辺さんの低空飛行を踏まえると、渡辺さんと羽生さんはほぼ互角に近いと思っていました。

しかし、昨日の渡辺さんは明らかに普段とは違いました。頭を丸刈りにして、この勝負にすべてをかけるくらいの意気込みを感じました。ただ、勝負事では気合を入れすぎるのは、むしろ自分の力を発揮できないケースのほうが圧倒的に多いでしょう。昨日も羽生さんの研究が功を奏したのか、渡辺さんが細かいミスをしているのか、中盤が終るぐらいのところまでは羽生有利の展開で進みました。そのため、相手よりも時間を残していることが多い渡辺さんの長いはずの持ち時間はあっという間になりました。

普段の渡辺さんなら、負けパターンの展開でしたが、昨日の彼は違かった。懸命に粘り、徐々に羽生さんとの距離を縮めていきます。そして最後は羽生さんのわずかなスキを突き、見事に逆転しました。根気よく指す羽生さんに対し、どこかあっさりした印象の渡辺さん。だから今まではこうした深夜の将棋になると渡辺さんは羽生さんに根負けしていたのでしょうか。しかし、昨日は渡辺さんの執念が最後に勝りました。

132手の激闘を制し、順位戦4戦全勝とした渡辺三冠。しかし、まだ半分以上戦いが残っていますから、先のことは分かりません。これだけの大棋士が名人挑戦すらないわけですからね。ただ、一つの大きな山を越えたことは間違いないでしょう。

藤井聡太七段、王将リーグ白星スタート

王将戦の挑戦者決定リーグ戦で藤井聡太七段が三浦弘行九段を135手で下しました。リーグ初戦、幸先良いスタートです。4勝2敗と予想したものの、この三浦九段戦が大きなカギを握るとみていました。難解な中盤が続きましたが、駒得を生かして自陣に金銀を投入し、三浦さんの龍の働きを殺してからははっきりと形勢に差がつき、投了図では藤井玉は安全な形になりました。17歳とは思えぬ老獪な将棋を見せました。

藤井将棋には大きく分けて2つの顔があります。1つは谷川九段を彷彿とさせる華麗な光速流。そして今日の将棋は永瀬叡王、もっと言えば大山15世名人のような手厚い指しまわし。2人の永世名人の将棋を併せ持った藤井君がもし、この2人の全盛期のレベルまで達するとしたら、これは将棋界最高の天才になれる。大山さんは谷川さんのような斬り合う将棋は指せないだろうし、谷川さんは大山さんのような相手の心を折る将棋は指せないわけですから。

ただ、先のことは分かりません。藤井七段世代以降は人間より強いAIが常に存在します。この恩恵を最も受けた棋士が頂点に立つような気がします。それに藤井君は谷川さん、渡辺三冠と同じで孤高の天才になる可能性が高いです。未だに10代棋士は藤井君1人です。それに対し、羽生九段は同世代に実力が紙一重の棋士たちが何人もいました。結果的には孤高の天才たちよりも、大勢でしのぎを削り合った世代で最も強くなった羽生さんが大きな実績を残しました。よって、5年から10年下に藤井君に憧れた世代が打倒藤井を合言葉に切磋琢磨し合って立ち上がる可能性はあります。谷川さんと羽生世代の関係性の再現ですね。まだ少し先の話ですが。

ともかくにも王将リーグ2戦目の豊島名人戦ですね。木村王位の神懸った将棋に屈した豊島名人ですが、決して調子を落としているとは思えません。ここで勝てれば一気に勢いがついても不思議ではありません。そうした意味でも大きな対局になることは間違いありません。

木村一基九段、最年長初タイトル

豊島将之王位に木村一基九段が挑戦した王位戦第7局は110手で木村九段が勝利し、4勝3敗でタイトルを奪取しました。

素晴らしいですね。46歳での初タイトルは、これまでの有吉道夫九段の37歳を大幅に上回る最年長記録です。タイトルと年齢というと藤井聡太七段に代表されるように最年少の方ばかりが注目されますが、最年長タイトルも快挙だと思います。

将棋界では早熟でないと大成しないという考え方があって、木村九段のように23歳という比較的遅い年齢でのプロ入りも大きなハンディだったと思います。中学生棋士がウサギの典型なら、プロ入りが遅く、46歳でタイトルを取った木村さんはカメの代表格です。遅咲きの棋士たちに大きな勇気を与えるタイトル獲得でした。

以前から名解説で楽しませてくれてはいたのですが、藤井君の将棋がネットのテレビなどで流れると木村九段の解説も多くみられるようになり、話の上手さ、面白さが藤井聡太出現以降の新しいファンを獲得したのは間違いありません。

もちろん千駄ヶ谷の受け師といわれるほど、受けの強さに定評があります。玉の周りにベタベタ駒を打ち込む受けというよりは、薄い玉形でも守り切ってしまう高度な技術は誰も真似ができないのではないのでしょうか。その辺が豊島名人の正確無比な差し回しを混乱させたと言えるかもしれません。

「千駄ヶ谷の受け師」とともに「将棋の強いおじさん」とも言われます。これからの時代、いやすでに現在、人気のある棋士は身近であって、なおかつ一流の芸を持つ人が条件になっています。「藤井君」「おじさん」が典型的な例です。将棋連盟の職員は奨励会時代は〇〇君、プロ棋士になった日から〇〇先生と呼びますが、そうした文化は残してほしいです。しかし、〇〇先生と呼ばれて満足しているような棋士はこれからの時代には合いませんね。

とにかくにも木村九段、いや木村王位。悲願の初タイトルおめでとうございます。「百折不撓」の棋士としての生き様を見事に実現しました。

藤井聡太、王将リーグ戦予想

第69期王将リーグ挑戦者決定戦リーグが幕を開けました。豊島名人が久保九段を下し、本命が順調なスタートを切りました。そして藤井聡太七段がいよいよ今月末に登場するようです。対局相手は三浦九段。ぜひとも初戦白星といきたいところです。

ここで藤井七段の勝敗予想をぼかさず予想します。4勝2敗でいきます。少し欲をかいているようでもあり、29連勝から幕を開けた、将棋の神の子にふさわしい彼のこれまでの道のりの華々しさなら、これくらいやれるはずという思いもします。対戦相手を1人1人見れば、藤井君が確実に勝てる相手はいません。しかし確実に負ける相手もいません。

豊島さんもいまの王位戦を見ればわかるように木村九段と3勝3敗のフルセットの接戦にもつれています。木村さんの粘りが豊島さんにボディブローのようにじわじわ効いているように見えます。彼にすら隙はあるという証明です。藤井君はこれまで豊島さんに勝っていませんが、今までは今までなので、かなり藤井勝利の可能性もあると見ています。

王将リーグ予想として本命・豊島、対抗・広瀬、羽生、藤井。糸谷八段もツボにはまれば強いですが、対抗を3人決めてしまったので外します。最も興味深いのは羽生・藤井戦です。羽生九段もすべてタイトルを失って衰えが隠せないようにも見えますが、実は数年前より好調ですね。中村太地七段や菅井七段にタイトルを明け渡した頃より状態は上向いています。AIでのトレーニングが功を奏しているようです。序中盤で羽生さんがリードして、藤井君が終盤追い上げる展開になりそうですね。個人的には広瀬竜王の将棋が好きなので、広瀬さんにも注目したいです。彼がもっと欲を出したら、渡辺三冠と互角に渡り合える才能を持っていると思うのですが。

藤井七段は初戦は負けたくないですね。三浦さんがこれまで王将リーグの相性が良くないので、ここで負けるようだと早くも私の予想に赤信号が灯ります。それにしても二次予選決勝の谷川・藤井戦は熱戦にならず残念でしたが、今になってみると現在の谷川さんの力では厳しい戦いになるので、未知の魅力のある藤井君が参加したほうが見ている側も楽しみですね。甘くはないですが、最年少タイトル挑戦を目指して頑張ってもらいたいです。

MGC 設楽悠太の失速

昨日、マラソングランドチャンピオンシップが行われ、男子は中村匠吾選手が優勝。2位が服部勇馬選手。女子は前田穂南選手が優勝。2位が鈴木亜由子選手。この4人が東京五輪の切符を手にしました。男子3位の大迫傑選手、女子3位の小原怜選手は内定とはならず、指定の3大会で基準の記録を破られなければ五輪切符が手に入るという微妙な立場になりました。

男子は9月の暑さの中、設楽選手が果敢に飛び出し、30キロ以降に失速、後続にとらえられ出場権獲得はなりませんでした。設楽君はスタートからの一人旅でしたが、ある程度早い段階で独走で行く予定ではあったと思います。推測になりますがスタートから抜け出したのは自信があったからでしょう。スタートラインに立った本人が「それほど暑くない」「体が軽い」と感じたのだと思います。それに実力では自分が抜けているという一つ間違えば過信につながる考えもあったのかもしれません。確かに設楽選手のスケールの大きな走りはかつての中山竹通さんを彷彿とさせます。

ただ30キロ後の未来は誰にも分かりません。設楽選手はまだ大きく後続を離しているとはいえ、すでに「しまった」と思っていたでしょう。オリンピック出場は難しくなりましたが、能力の高い世界で戦えるランナーですから、可能性のある限り、基準の記録を目指して頑張ってもらいたいです。

それでもMGCをやってよかったのだと思います。誰に暑さの中での耐久力があるかが見えましたが、なにしろ1位、2位は出場決定という分かりやすさが選手も見ている側も納得がいきやすいと思います。瀬古さんは現役時代は不世出の天才ランナーでしたが、指導者として疑問符（笑）がついていました。しかし、このアイデアは現役時代のスパートのようにキレがありましたね。

女子優勝の前田選手は暑さの中で2時間25分の好タイムでした。まだ23歳と伸び盛りの選手ですから楽しみです。2位の鈴木選手は27歳ですが、わずか2度目のマラソンでの好成績。伸びしろが相当ありそうです。

オリンピック本番は昨日より5度から10度ほど暑くなるでしょうから男子の優勝タイムは2時間12、3分といったところでしょうか。女子は2時間27、8分出せばかなり上位には行けそうです。異常な暑さの分、外国勢のスピードが鈍るため、日本選手にもチャンスがあるかもしれません。しかし、棄権者続出の過酷なレースになるのは間違いないと思われます。

スピッツ「ロビンソン」 YouTube再生1億超え

9月初めスピッツ「ロビンソン」のYouTubeの再生回数が1億回を超えました。90年代のミュージックビデオでは初めての記録だそうです。たしかに再生回数が1億を超えている曲をたまに見かけますが、大抵はここ10年ぐらいの曲で20世紀の邦楽では見たことがありません。僕も80、90年代の曲を懐かしさからよく聴きますが、単なる郷愁だけでは届かない数字ですね。今も生きている曲だからこそ、これだけの再生回数を生み出したのでしょう。

ロビンソンを初めて聴いた時は、少なからず衝撃を受けました。独自の世界観なのに耳障りの良さ、草野さんの澄み渡った高音、そしてスピッツというバンドの実力も含めてやっぱり曲が凄いという印象でした。しかし2回、3回と聴くうちに、歌詞が耳に入ってくるようになり、よりこの曲が好きになりました。

「新しい季節は なぜか切ない日々で
河原の道を自転車で 走る君を追いかけた」で始まるこの歌詞は最終的に
「誰も触れない 二人だけの国 君の手を離さぬように
大きな力で空に浮かべたら ルララ 宇宙の風に乗る」
ここまで行ってしまうわけです。

出だしは青春の香りがしますが、二人だけの国、大きな力で空に浮かべる、最終的には宇宙の風に乗るといふ、随分、遠くまで行ったなという歌詞のスケールの大きな立体感。そして色合いもセピア色で始まり、眩しくも重厚感のある色合いで大きな幅を持たせました。この頃の草野マサムネさんは20代、若く瑞々しい感性そのままに、このスケールの大きな曲が出来上がったのだと思います。

「ロビンソン」はスピッツを短期間でメジャーにし、そして長く人々に愛されるバンドに作り上げた無形の記念碑のような曲なのだという気がします。

谷川VS藤井 あっけない幕切れ

王将リーグ入りをかけた谷川浩司九段対藤井聡太七段戦はわずか57手で藤井七段の勝利となりました。対局そのものは中盤戦で終わってしまいました。

新旧中学生棋士対決として注目を集めた対局でしたが、谷川さんのコメントに「大悪手」とありましたが、ほぼ互角の局面が藤井優勢に傾きました。少し気づきにくい面もあるのですが、これは悪手と言われても仕方がないですね。藤井君が8二角と打ち、谷川さんの7三にいる飛車取りとしたのですが、6四に角がいたため、飛車をスライドさせれば9一角成とは出来ないと判断して8三飛車と逃げたのですが、藤井君は構わず9一の香を取りながら角を成りこみました。確かに角は取れるのですが、藤井君の五段目にいた飛車が横から睨んでいて、角のヒモをなくした谷川さんの銀が取られてしまいます。そこからの指し手は谷川さんから見ると不利な状況になります。よって9一の角は取れませんでした。藤井君の角が成り込んだ時には谷川さんもすぐに気づいたのですが、時すでに遅し。数手後に投了となりました。

それにしても谷川さんは諦めが早いんですね。将棋に対して凄くプライドが高い人なので、自分のミスに我慢できないのでしょう。それが年を取ってより加速しているようです。藤井君との激しい終盤を期待していたので残念です。

それに対し、藤井君はまだ10代ということもあってか、最後の最後まで勝負を投げません。例えば名人になったらここまで粘る訳にはいかないでしょうが、基本的には今を姿勢を大人になっても続けてほしいです。そして、いよいよ王将リーグ入りです。17歳は加藤一二三さんに次ぐ早さだと思います。メンバーは全員A級棋士になる可能性が高いです。個人的には3勝3敗の五分には戦えるのではと期待しています。勢いに乗ればタイトル挑戦もあるでしょうし、負け越しもあり得るでしょう。しかし、これだけレベルの高いメンバーの中でリーグ戦に参加できるのは、間違いなく将来につながる大きな経験になりますね。

将棋の奥深さを改めて思い知った3局

昨日の将棋は新聞の一面に載るような記録が生まれた訳ではないですが、将棋の難しさを思い知った日でした。

久保九段対桐山清澄九段戦は大熱戦となりました。結果は177手の大熱戦で最後には久保九段が辛くも勝ちましたが、主導権を握っていたのは桐山九段で、久保さんが必死で食らいつく展開になりました。あと一步で敗れはしたものの、あの藤井聡太七段に連勝するなど健在ぶりを示すA級棋士に対し、70代の桐山九段の健闘が光りました。もうダメかなと思っているベテラン棋士に勇気を与える素晴らしい将棋だったのではないのでしょうか。今期の順位戦で降級点を取ると引退という事で、残り僅かに迫った通算1000勝を今を時めく豊島名人の師匠でもあるこの名棋士に何とかに達成してもらいたいものです。

中村太一七段対湯上真司アマ戦は115手で湯上アマの勝ちとなりました。もちろん、仕事を持ちながらここまで将棋の腕を磨いた湯上アマは立派ですが、この結果を聞いてもあまり驚かないほど中村七段は不振ですね。去年までタイトルを持っていた棋士とは思えないほどの今期の成績です。数か月前に彼の終盤の対局姿を見たのですが、やや勝負に入れ込みすぎかなという気がしました。不振の原因はメンタルの部分が大いような気がします。美青年にして好青年。人気棋士だけに早くスランプを脱出してほしいです。

そして最後、藤井聡太七段対村山慈明七段戦は107手で村山七段の勝利でした。藤井七段得意の角換わりとなったのですが、この一局で驚いたのは、藤井君が桂を跳ね下段飛車で馬取りとしたのですが、村山さんは逃げることなく、そして藤井君もすぐには取らずようやく数手後に取りました。詰むや詰まざるやの最終盤ではよくあることですが、まだ中盤戦の段階でお互いに馬を放置したのには驚きました。研究将棋も凄いところまで進んでいますね。結果は深い研究と終盤もしっかりと藤井君の攻めに対処した村山さんが勝ちました。藤井君も不振というほどではないにしろ、このところやや負けが込んでいますね。いよいよ次局は王将リーグ入りを賭けた谷川九段との対局です。

この3局、いろいろと驚きはあったのですが、すべて持ち時間が短い将棋でした。それだけミスも出やすく、意外な将棋になることが多いですね。改めて将棋の難しさを感じさせられました。

藤井聡太の現在地

藤井聡太七段が銀河戦、NHK杯と早指し棋戦で久保九段と対局が重なり、いずれも敗れました。久保さんは振り飛車随一の實力者ですが、久保さんの藤井聡太対策が功を奏したように見えました。おそらく過去2戦でもそうだったと思いますが、角道を止めるノーマル四間飛車というやや現代の流行から外れた、攻めというよりは受けの戦法を使ってきました。菅井七段や里見女流五冠らが多用している角道を開けたまま戦うゴキゲン中飛車は藤井君も経験が多いと判断したのかもかもしれません。

久保さんは捌きのアーティストとも粘りのアーティストとも言われます。藤井君との対局では後者の持ち味が存分に発揮され、終盤力で藤井君を上回りました。もし朝日オープンで久保さんと当たっていたら、優勝はなかったかもしれません。振り飛車受難の時代と言われますが、藤井君にも1人、2人そう簡単には超えられない振り飛車党の棋士がいた方が彼にとっても将来的にはプラスになると思います。

藤井七段の現在の實力ですが、A級中位くらいではないかと思います。久保九段にも持ち時間の長い竜王戦で勝っていますし、佐藤康光九段にも王将戦で激戦を制しました。佐藤康光さんや久保さんがA級の中頃とすると、それと同等の力は今の地点であるのではないのでしょうか。A級順位戦の予想で本命渡辺・対抗羽生と記した覚えがありますが、仮に藤井君がA級にいれば、藤井君をダークホースに予想します。實力者の広瀬竜王や前名人の佐藤天彦九段の調子が良くなさそうですし、若さゆえに勢いがついたら止まらない気もしますからね。

では藤井君が将棋界で5番手の力があるかと言われれば、それも疑問です。もしかしたら5本の指に入る實力があっても不思議ではないですが、A級以外にも強い棋士は多くいます。一時期は豊島・渡辺に並び3強の勢いもあった永瀬叡王、それから広瀬竜王、斎藤慎太郎王座のタイトルホルダー。そしていま最も脚光を浴びている木村一基九段。40代後半ながら王位戦などで名人の豊島さんと互角に渡り合っています。その他にも實力者は多くいて3位タイ、あるいは5位タイが10人ぐらいはいる感じです。ここから抜け出して渡辺さん、豊島さんの二強に迫るのは容易ではありませんが、着実に成長していると思うので、高校卒業のあたりでは3本の指には確実に入るくらいの実力をつけてもらいたいです。天才棋士・藤井聡太の成長にこれからも期待しています。

谷川、ひふみに並ぶ 藤井聡太と対局濃厚

谷川浩司九段が高見泰地七段に勝利し、プロ通算1324勝として、加藤一二三九段に並び歴代3位タイになりました。中原誠永世名人に並んだ時は棋士としての実績は名人15期の中原さんには及ばないけれど、兎に角、谷川さんがあの絶対王者・中原さんと同じだけ勝ったという感慨がありました。今回は逆に棋士としての実績はすでに谷川さんが上でしたが、ようやくひふみに勝ち星で追いつけたなという思いです。逆に70代後半まで将棋への情熱を失わず、ここまで勝ち星を積み重ねた加藤さんの体力は驚異的です。

こないだの対局で年上の田中寅彦九段に敗れたのは衰えを隠せないとは思いましたが、今回の若手のホープのひとりである高見七段に谷川さんらしい華麗な将棋で勝てたことはまだもう少しけるかなとも感じました。やはり年齢的に脳や体力のコンディションをベストな状態で将棋に集中することが難しくなっているのは確かでしょう。

谷川九段というと田中寅彦九段と同世代のお兄さんが有名です。5歳年上の兄・俊昭さんと盤を挟んで切磋琢磨した日々が谷川将棋の骨格を作ったのは間違いありません。お兄さんは東大で将棋もアマ名人になるほどの秀才で、若き日の羽生九段や佐藤康光九段にも勝利したことがあり、いかに天才・谷川浩司でも初期の頃は兄に勝てず、駒を噛んで悔しがった話は有名です。谷川さんの実家のお寺は阪神大震災の時に全壊してしまいましたが、なぜかその駒は残っているそうです。そういう意味では谷川さんも将棋棋士になるためには恵まれた環境にあったと言えます。喧嘩の絶えない兄弟に親御さんが将棋盤を与えていなければ、将棋棋士・谷川浩司は存在しませんでした。人生は紙一重ですね。

さて藤井聡太七段が王将戦二次予選であと一度勝てば、王将リーグ入りをかけた大一番で谷川・藤井戦が実現します。藤井君の相手は中村太地七段。中村さんは現在不振で順当にいけば藤井君有利ですが、中村さんも1年前まではタイトルを持っていた実力者なので、戦ってみたいと分かりません。藤井君が幼い頃から憧れ続けた谷川浩司九段。谷川さんも藤井君との対局をモチベーションにして年齢と戦ってきました。鋭く切り込む華麗な気風もよく似て、光速流の後継者は藤井君しかいないでしょう。両者が待ち焦がれた対局はついに実現するのでしょうか？

今年の8月15日は西日本で大型の台風直撃という大変な状況になりました。温暖化は世界的な問題ですが、日本は気象の変動が特に激しく感じます。何とか被害が最小限に済めばと思います。自分の病気も多分に関係があるんでしょうけど、中国、四国はこないだ大雨の災害にあったばかりで「今度、また同じような被害になったらもう立ち直れない」と男性が話していたのが印象に残ります。

終戦記念日ですが、74年前となると戦争体験者もわずかになりました。戦後からこれまで亡くなった方々の戦争体験を戦後以降の世代に伝えてきたことは無駄ではなかったのではないのでしょうか。それ以降日本は戦争をしていないことに大きく貢献されたと思います。

日韓関係が国交正常化後最悪と言われていますが、個人的には無理に修復する必要はないと考えます。徴用工問題にしても、また慰安婦への補償にしても1965年の日韓基本条約で解決済みですし、下手に出る必要はありません。時の韓国政府が経済発展に補償金を使ったのだから、彼らは韓国政府に訴えるのが常識的です。今後、韓国とはある程度距離を置いて付き合うのが得策でしょう。

夏の甲子園真っ盛りで、ベスト16まで出そろいました。今日は台風の影響で中止ですね。そんな中、花咲徳栄の菅原選手のフェアプレーが話題になっています。自分からボールに当たりに行ってしまった事を素直に相手に対して詫び、その打席で公式戦初のホームランを打ちました。「私が甲子園には魔物が住む」といいますが、たまには神様も降りてくるのかなと感じました。そのシーンが動画でアップされると、1日で軽く100万人を超えるほどのアクセスがあった事に驚きです。やはり日本人はフェアプレーが好きで、またそうしたプレーに飢えているのだと感じました。

こないだ「歴代甲子園最強チームは」という番組があり、見てました。やはりいまはPLより大阪桐蔭でしたね。桑田・清原のKKコンビの登場は衝撃的でした。KKも凄かったですけど、個人的にはそれ以前の「逆転のPL」が好きでした。それと箕島高校。春の箕島。動物園へ連れられ、動物を前にして箕島対牛島・香川の浪商との決勝戦をラジオで聴いていた記憶があります。ランク外だったのは残念です。大阪桐蔭でいえば、辻内投手がプロで大成しなかったのが意外です。体も大きく左腕から150キロ前後の凄いボールを投げていましたからね。確かにダルビッシュ投手の主張通り投手は投げすぎなのかもしれません。同じレベルの投手を複数揃えるのは公立校などでは難しい事です。事です。勝負と育成という永遠のテーマ。高野連も一気に変える気はなくとも、例えば2日続けて100球以上投げさせないなど徐々にでも球数に関するルールを考える時期に来ているのではないのでしょうか。

藤井聡太の試練

昨日は一日中自宅にいたので、もう1つはブログに乗せる予定でしたが、意外に普段より怠さが強く何もできませんでした。

藤井聡太七段の調子がいま一つ良くない気がします。NHK杯は勝利したものの、JT杯は三浦九段に敗れました。早指し棋戦のため、藤井君優位かと思ったのですが、三浦さんが研究通りの形に持っていったようです。

デビュー以来、初めての試練ではないでしょうか？久保九段、佐藤康光九段を激戦で破り、A級中位の力はあると見ているのですが、竜王戦で豊島名人に敗れ、力の違いを見せつけられました。個人的に豊島さんは渡辺三冠に次ぐ、ナンバー2だと思っていました。名人位を獲得してもその評価は変わりませんでした。しかし棋聖戦で両雄が激突して結果は渡辺さんが3勝1敗で棋聖位を奪取したものの、他棋戦での対決も含めて豊島さんが渡辺さんと肩を並べた気がします。筋肉が付いたというか、渡辺さんに力負けしないんですね。よって現時点では藤井君よりも12歳年上の豊島さんの成長が目立ちます。

谷川九段が将棋には研究者、芸術家、勝負師の3つの要素があると言いますが、研究者という点で藤井君は豊島さんに負けている気がします。勿論、学業と両立しているので仕方ない面はありますが。藤井君の場合、プロに入った時から高い実力を持っていたので、高校生のうちに谷川さん、羽生九段、渡辺さんの20歳と同等の力をつけたいところです。しかし、本来ならば寝て起きれば強くなっていると言われる時期なのに藤井君はもうそれを過ぎていく気がします。これからは工夫をしないと大きく伸びてはいけない状況なのかもしれません。

中学3年で朝日オープンを制した時には誰もが最年少タイトルの可能性が高いと思ったはずですが、それも容易ではなくなったというのが大方の見方ようです。どちらかという豊島さんは研究の最先端に行く秀才型の羽生タイプ、藤井君はアナログの天才の谷川タイプに分類されると思います。個人的にはアナログ型の天才は好きなのですが、やはり今の時代の最先端はソフト研究ですから、もう少し取り入れてもいいのかもしれません。本当に豊島さんは中盤あたりまで時間を使いません。それに対し藤井君は序盤で手が止まるケースが多く感じます。今は対局前の準備が凄く大事になっていますね。ただ、谷川・羽生とは年齢は逆で豊島さんがひと世代上ですから、伸びる期間の長さは藤井君の方があります。藤井聡太がどこで豊島名人に肩を並べるか、あるいは豊島が引き離すのか、それとも藤井が一気に追い抜くのかここ数年が勝負になりそうですね。

折角の休みだというのに朝食だけとって、1時まで横になってました。昔から水曜定休だけは変わってません。いろいろと一体いつまで持ちますか？

昨日の順位戦C級1組、藤井聡太七段VS金井恒太六段の対局は92手までで藤井七段の勝ちとなりました。終盤の入り口で藤井七段が3六飛と疑問手を放って混戦に。まあ、藤井君だからより厳しい手を放ったに違いないと思っていたのですが、そうではなく、ここから流れがおかしくなりました。自分の目では大丈夫かなと感じたのはこの手しかなかったのですが、ソフトで見るとまだ間違いがあったんですかね。勿論、金井六段が着実な手を重ねていったともいえるのですが、一時はかなり危なかったようです。最後はギリギリ藤井君が余して、金井さんが投了となりました。

藤井君は手が見えすぎる故に深く読みすぎて、時間を使ってしまうところがありますね。天才ゆえの贅沢な悩みともいえます。これで順位戦3連勝。通算では22勝1敗というのは驚きです。負けた金井六段は好青年として定評がありますが、その優しさが勝負師向きではないのかもしれない。タイトル挑戦もありますし、昨日のような強さもあるのに順位戦3連敗は意外です。それでも投了のシーンを見ていたのですが、藤井君が深々と頭を下げ、しばらくして頭を上げたらまだ金井さんは下げてました。藤井君が少し気まずそうに見えました。熱戦の緊迫感の中に少しほのぼのとしたシーンでした。

続いてスポーツ。全英女子オープンで渋野日向子選手が樋口久子さん以来42年ぶりのメジャー制覇の快挙を成し遂げました。岡本綾子さんや宮里藍さんがあれだけ挑んでも勝てなかったメジャー大会であっさり初出場優勝してしまいました。優勝金額7200万円がどれだけすごい大会かを示しています。

笑顔を絶やさず、駄菓子を食べたり超自然体で人気も急上昇です。「つらい時こそ、笑っていなさい」。お父様やコーチの言葉です。実行するのはなかなか難しいはずですが、渋野さんは見事に実践していましたね。彼女を詳しくは知りませんが、岡本さんや宮里さんにはないスイングの速さを持っているのは画面からも明らかです。スポーツ界としては今年一番のインパクトではなかったでしょうか。

大船渡監督は佐々木朗希をどうすべきだったか

163キロの剛腕、今大会最大のスターとっていい大船渡・佐々木朗希投手の登板回避が波紋を呼んでいます。投げさせるべきだった、将来を考えれば登板回避は正解。真っ二つとっていいでしょう。しかし、僕には第三の道があったように思います。

岩手県大会決勝戦の大船渡の相手は花巻東。くしくもこの10年で菊池雄星・大谷翔平という日本を代表する投手を2人も輩出した強豪です。佐々木君を先発させなければ厳しい戦いになることは、国保監督もわかっていたでしょう。出せば壊れるかもしれない。出さなければ大変な批判を浴びることになる。特に一緒に戦い続けたナインたちは甲子園に出るために、苦しい練習にも耐えてきたのだと思います。どちらにしても苦渋の決断をしなければなりませんでした。

実は投げさせるべき派、登板回避派どちらも納得させる方法がありました。決勝は先発させます。勿論、イニング限定ではなく完投させるつもりで。ただし、それには逆算が必要でした。決勝から逆算すれば準決勝は回避。準々決勝に登板させる。とにかく監督としては中1日以上開けさせたいという思いがありますから、決勝の日付から逆算して夏の岩手県予選を組み立てれば、こんな問題は起きませんでした。

まだ若い監督です。東北、とくに岩手はこの所、怪物投手が輩出しています。投手起用に気を遣う国保監督のもとに将来有望な投手が頼ってくる可能性もあるでしょう。この苦い経験を活かし、名投手を育ててほしいです。そして佐々木投手にはぜひ将来の日本のエースに上り詰めてほしいものです。

名倉潤、うつ病公表

ネプチューンの名倉潤さんがうつ病を発症し、2カ月の休養が所属事務所から発表されました。約1年前にヘルニアの手術を受けたそうですが、その手術後の侵襲によるストレスが原因のようです。名倉さんとうつ病は結び付きませんが、強いて言えばネプチューンのリーダーであり、責任感の強いイメージがあります。今回のようなヘルニアでの侵襲が原因とされるのは非常に珍しいことだと聞きました。おそらく責任感の強い名倉さんは腰の状態が万全でないまま仕事に復帰し、そうした無理がたたって心にダメージを追ってしまったのだと思います。

うつ病になる前の状態としては自律神経には交感神経と副交感神経があって、交感神経優位の状態が続くと、この状態が危険と判断され一気に副交感神経が支配してしまうようです。そのため、朝、起きる気力もなく、様々なことに興味を失ってしまう状態になります。多忙なスケジュールの中でよく1年我慢したと思います。名倉さんも50才なんですね。自分と同世代の人がその大台に次々と到達していきます。女性は更年期障害になりやすい年齢として認知されていますが、男性も40半ば過ぎからは、気分が落ち込みやすい年齢なのだと思います。また男性の場合、自殺が多い年代でもあります。

自分は他人のことを気にしている場合ではないんですけど、最近、同級生や同世代のことが気になります。このブログにも書きましたが同級生とばったり出くわしたり、「永遠のとなり」という小説のテーマは50を前にした男の苦しさが描かれていて、こないだ読み終えた東野圭吾の「同級生」は推理小説ですが、青春小説の側面もあり、懐かしい気持ちになりました。僕は18からは早く老人になりたいと思って生きてきました。しかし、それはタイムマシーンで時空を超えろという意味で、その半ばの道は経験したいとは思いませんでした。パニック障害、うつ病である自分がこれ以上できないことが増えていくのですから、漠然と瀬戸際なのかなあと思いますね。

最近、チェッカーズの「Friends and Dream」をよく聞いています。チェッカーズブームはとっくに去った後の曲ですが、この曲がチェッカーズのその後とも相まって、心を揺さぶられるものがあります。何だか本当に生きることになったなあと。同年代の人たちもまたそんな思いを抱えながら、生きている人がかなりいるのかなとも思います。何だかんだ若い人たちは楽しそうに映ります。若さって生きる上で凄い力を秘めているのだと改めて思います。

名倉さんに戻りますが、渡辺正行さんが用意してくれた舞台上で若き日の爆笑問題、クリームシチュー、ネプチューンがネタで競い合い、後に皆がブレイクし、やがて渡辺満里奈さん、マリナーナの夏と結婚した時代が彼にとって最も幸せな時代だったのかなと想像します。最近バラエティーも見ないけど、ゆっくり休んでいつの日にか弟たち二人を生き生きと突っ込む名倉さん

の姿を見ればと思います。

参議院選挙ふりかえり

参議院選挙の翌日、テレビをつけたら民放各局はすべて吉本興業の内紛を取り上げていて、違和感を覚えました。吉本の関心の高さはわかるのですが、昨日の今日だったので流石に選挙結果を流している局もあると思ったのですが。加藤の乱といえば、加藤紘一氏が起こした自民党内の反乱のはずですが。あの時の永田町のガッキーこと谷垣禎一氏の「加藤先生は大将なんだから」と加藤氏を身を挺して止める名演技（笑）。忘れません。

投票率48.8%。低投票率になることは予想されていました。一応、私は行ってきました。右でも左でもない私のような人は棄権という選択をした人も多かったと思います。しかし、半分義務感で投票しました。日米安保堅持の立場なので、その中で存在感の薄い党に入れてきました。安保堅持などという左の人からはすぐに右判定をされてしまいそうです。またベーシックインカムの導入を考えるべきといえば右の人から左認定されてしまいそうです。そうではなく保守とリベラルのいいところを混ぜ合わせればいいと思いますけどね。

全体を見れば自民党を含めた与党の勝利でしょう。野党は立憲民主党が、野党共闘に後ろ向きだったことが響きました。立憲民主党は議席を伸ばしましたが、この結果に満足しているようでは永遠に野党のままです。

盛り上がらない選挙の中で山本太郎氏のれいわ新選組が旋風を巻き起こしたのは確かでしょう。ベーシックインカムも盛り込んでいたようですが、消費税をゼロにするなどやや荒唐無稽な気がします。結局その財源は企業に累進課税制度を導入することのことですが、その発想は共産党と同じです。

そうではなく、私個人の考えでは額はともかくベーシックインカムを導入するのであれば、最低でも消費税は軽減税率なしの10%以上、所得税、法人税と偏りなく財源を集めることが大切です。また社員の給料を上げるのであれば、企業に優遇処置をとる方法も考えられます。

自民党が今後マークを強めるのは既存の野党ではなく、れいわのような新勢力でしょう。次の選挙では国政政党になったので、テレビもれいわを取り上げるようになります。山本太郎氏も大幅に候補者を擁立してきます。今回ですら共産党は政策の似ているれいわに票を食われました。既存の野党はうまく対応しないと、自民とれいわの間に埋没するか、れいわと票を分断し、自民を利する形になる可能性が大いにあります。やはり、一人区の選挙協力だけではなく、一つの党としてまとまる必要があります。共産党とれいわは同じ党になるつもりは毛頭ないですから、れいわとは選挙協力するところまでもっていかないと、国民の関心はますます政治から離れます。

選挙にはもう関係ないですが、政府はいまからでも消費増税は見送った方がいいでしょう。日本自体が落ち目で国民が将来に不安を持っていますし、増税前の駆け込み需要すらほとんど起らな

い気がします。

藤井聡太、名人に屈す

昨日、竜王戦決勝トーナメント、豊島将之名人対藤井聡太七段の対局が行われ、146手で豊島名人が藤井七段を下しました。期待にたがわぬ熱戦でした。藤井先手で予想通りの角換わり。終盤まで形勢不明の将棋でしたが、藤井七段が右隅にあった1九飛車を1七に浮いた手で形勢が豊島名人に傾いた気はしているのですが、どうだったんでしょうね。これで藤井七段は竜王戦敗退。タイトル挑戦の夢は叶いませんでした。

もともと可能性は低かったのですが、もし豊島名人に勝ち、次戦の渡辺三冠を倒すようなことがあれば藤井君に大天才、不世出の天才宣言をしても可笑しくないと思っていたのですが、やはり現実は厳しかったですね。もちろん、藤井君が天才であるのは間違いないのですが、大天才であるか、早熟の天才であるかの結論は持ち越されたようです。

藤井君が最強の中学生棋士、16歳の棋士だったのは間違いない事実だと思いますが、最強の17才、あるいは18、19才棋士になれるかは今後を見てもわかりません。、屋敷九段は17才でタイトル挑戦、18歳で獲得。羽生九段は19才で竜王獲得。渡辺三冠は20才で竜王獲得。そして谷川九段は21才で名人獲得。これらに匹敵する、あるいは上回る結果を残せば藤井聡太最強伝説は続くと思いますが。

年度内に可能性の残された可能性のあるタイトルはこれで王将戦のみ。個人的には藤井君と谷川さんがあと一つずつ勝てば、初対局となるので期待したいです。まあ、藤井君は中村七段に勝つ可能性が高いですけど、問題は谷川さんが高見七段に勝てるかどうかです（笑）時が経てば経つほど、40歳年下の藤井君が優位になるのは明らかなので、そろそろ実現してほしいところですよ。

藤井聡太の喧嘩将棋

7月18日、王将戦二次予選で佐藤康光九段対藤井聡太の対局が行われ、藤井七段が佐藤九段を141手で破りました。

それにしても凄い将棋でした。立ち上がりは角換わり模様で、藤井七段はそれに備えました。しかしそこは力戦系の佐藤九段、簡単には角の交換はしてくれず角道をふさぎました。藤井七段は飛車先の歩を交換し、その後横歩も取りました。飛車が2筋からそれたため、佐藤九段は藤井陣の桂頭に歩を打ちました。飛車を2筋に戻した藤井七段は2四歩と角頭近くに歩を打ち、佐藤九段は藤井七段から奪った桂を打ち、弱い角頭を守ります。ここからは大乱戦になりました。一手指すごとに形勢が入れ替わった決闘は最後の最後に藤井七段に傾き、熱戦に幕を下ろしました。

野球でいえば8対7のルーズベルトゲーム。逆転、また逆転の最も面白いとされる大熱戦でした。やはり藤井君は売られた喧嘩は買うんですね。藤井七段といえば、温厚な性格で、インタビューもそつのない受け答え、こんなによくできた16歳がいるのかなというイメージが強いですが、個人的に彼には想像を超えた、熱い血がたぎっているのが見え隠れしていました。それがもろに露出した一局だったと思います。こういう藤井君も僕は大好きです。もちろん相手が力戦の勇者の佐藤九段だったことも、このような殴り合いの将棋が見られた大きな理由なのですが。佐藤九段戦のような将棋ばかり指しては勝率は上がりませんが、時にはこんな若さ溢れる藤井将棋も見せてほしいものです。勇敢な一流棋士といえば、谷川浩司九段、そしてこの日の対局相手の佐藤九段が思い浮かびますが、藤井七段というのはいわば喧嘩将棋の後継者でもありますね。

谷川、佐藤、藤井。谷川さんが前会長で今の会長が佐藤さん。そして藤井君。人望や人徳がなければ会長にはなれません。よほど実績がずぬけている場合は別かもしれませんが。谷川さんも佐藤さんも盤を離れると紳士で穏やかな印象なのですが、将棋の内容は打って変わって激しい流血戦を好みます。藤井君もやはり盤を離れると穏やかで頭の良い少年です。将棋をしなくても、谷川さんは研究者・学者系、佐藤康光さんは一流企業の部長という印象です。藤井君のクレバーさは言うに及ばずというところです。穏やかでクレバーなこの3人が童心に帰ったような激しい将棋を指すというところは面白いですね。

藤井七段はいよいよ竜王戦で豊島名人と激突です。今日のような将棋にはならないでしょう（笑）角換わりの定跡系の可能性が高いです。名人に思いきりぶつかり、厳しい戦いになると思います。勝利を期待しています。昨日でしたかね。藤井君、17歳の誕生日おめでとございます。

天童荒太「悼む人」

主人公の坂築静人は殺人、事故、自殺など、あらゆる死を遂げた人々を悼むための旅を続けている青年です。彼の人を悼むスタイルは独特です。死者たちが誰を愛し、誰に愛され、何を感謝されたかということに絞り、近所の人たちに聞いて調べ、独特のポーズをとって自らの胸に刻みます。

彼がなぜ、このような行為をするに至ったかは、雑誌記者が静人の母である巡子に直接聞くのですが、結局、いくつかの思い当たるふしはあるにしても、決定的な理由は母にも、また静人本人にも、もっと言えば作者自身にも分かりかねるところなのかもしれません。先天的に死に対する感受性の強い静人が、いろいろな出来事を通して、ついにこのような行動をとるに至ると理解するほかありません。

例えば、このような行動を動画にでもアップすれば、その行為はたちまちネットの餌食になるでしょう。それを言葉の一つ一つの積み重ねで、理解できるような気がする、こういう人間がいてもいいのではないかという気持ちにさせるのは天童さんの力量であり、文学の力なのだと思います。

こないだNHKで秋葉原無差別殺傷事件の加藤智大死刑囚のドキュメント番組を見ましたが、例えば彼のような人間でも悼むのかという読者の問いに静人なりのルールを設置して悼むのです。そして加藤死刑囚であれ、誰を愛し、誰に愛され、何を感謝されたかを調べ独特のポーズで胸に刻みます。ここは意見が分かれるところでしょう。

もう一つの物語の軸は末期がんに侵された静人の母・巡子と妹・美汐の妊娠です。つまり消えゆく命と新たに生まれる命が重なり合います。特に前向きな性格の巡子が静人が帰ってくることを願いながら、徐々に自分でできることが限られてゆく過程が彼女の心情も交えて丁寧に描かれています。

そして物語の最後にこの二つの物語が融合されます。小説のテーマは生と死。よって重い話ではあるのですが、その分、読者は深くそれについて考えられますね。さすが第140回直木賞受賞作です。

ジャニーさんに国民栄誉賞を

巨星墜つ。9日、ジャニーズ事務所のジャニー喜多川社長が亡くなりました。87歳は男性としては大往生と言ってもいいのではないのでしょうか。

ひとつの時代の転換期として1980年は外せないと思います。王貞治、山口百恵というそれまで時代を象徴した人たちが引退し、松田聖子、田原俊彦という新たなスーパーアイドルが出現した年でした。大人から見れば、百恵さんに比べて聖子さんは子供に見えたでしょうし、男性アイドルはトシちゃん、近藤真彦も含めてそれまで1970年代を代表する西城秀樹、郷ひろみ、野口五郎、また沢田研二と比べて著しく歌唱力に乏しかった。しかし、人気は爆発しました。この流れ、勢いを作ったのはジャニー喜多川さんでした。たのきんトリオがなければ、のちのスマップ、嵐もなかったでしょう。

そして社長業にとどまることなく自らもプレーヤーでした。コンサートのプロデュースから舞台の演出まで数多くこなしてきました。個人的には男性アイドルに興味を示すことはなかったですが、それでも好きな曲はたくさんあるんですよね。トシちゃんやマッチにも名曲は意外と多かったし、少年隊の「君だけに」とか光GENJIの「ガラスの十代」、キンキキッズの「薄荷キャンディ」とか挙げればいくらかでもあります。

僕のような男性アイドルに興味の薄い人間ですらそうなのですから、女性ファンはそれは青春そのものと言っても過言ではないのかもしれないかもしれません。

晩年のジャニーさんはジャニーズ事務所内部の紛争や、スマップの分裂、TOKIOのメンバーによる不祥事など厳しい局面に立たされることが多かったように思います。そのなかでスマップのメンバー5人との会談で「この先何があってもユーたちは私の息子」という言葉が印象的です。深い少年愛でジャニーズのタレントたちの父であり続け、間違いなく芸能の世界で一時代を気付いたジャニーさん。最近、国民栄誉賞の価値も落ちましたが、ジャニーさんのような人にこそ与えてほしいですね。ご冥福をお祈りします。

藤井聡太、執念の勝利で夢をつないだ

昨日、藤井聡太七段が竜王戦決勝トーナメント3回戦で久保利明九段に184手の激戦の末、勝利しました。

久保九段の中飛車に対し、藤井七段は駒を力強く前進させ、制圧することを目指したようです。早い段階での飛車交換、互いに龍を作り自陣にひく展開になりました。その後、藤井七段の駒が前進し、久保九段の玉が窮屈になり、藤井有利かと思われましたが、さすが粘りに定評のある久保九段が次第に盛り返し、形勢不明になりました。

最終盤、藤井七段の攻め駒が少し足りないように見え、耐え忍んできた久保九段が藤井玉に襲い掛かりました。久保九段に勝ちがあったのかもしれませんが、寄せきれず投了を告げました。藤井七段は薄氷を踏むような思いで、何とか勝ちをつかみ取りました。終局時刻は午後11時を大きく回っていました。

それにしても藤井君にとって大きな勝利でした。いかに若いといえども疲労困憊だったのではないのでしょうか。前回の対局でも久保さんとは熱戦で、その時は藤井君が敗れました。この大舞台でリベンジして初の3回戦突破は本人にとって最低限の目標だったのではないのでしょうか？

ここからは思い切ってぶつかっていただけですが、次の準々決勝の相手は豊島名人。ぜひとも先手が欲しいところですが、振り駒なのでどうしようもないですね。今期も高い勝率で勝ち進んでいる藤井七段ですが、やはりトップクラスの棋士が相手になると苦戦が目立ちます。人気では文句なくナンバーワンですが、実力的にはトップレベルにもう一息という状況です。

それでも藤井聡太が将棋界の太陽であるのは間違いなく様々なものを照らします。こないだの順位戦では将棋界としては伏せておきたい現実を垣間見せてしまいました。堀口七段は少し心配ですね。藤井君と対局が組まれてしまったがゆえに、休場も含めたいろいろな意見が出ていると思いますが、佐藤会長どうこうではなく、将棋連盟が組織としてうまく機能していないところに原因はあるのでしょうか。その辺、相撲界と少し似ていますね。

とにかくにも竜王戦の聡太の夏が終わらなくてよかった。

天才の棒銀

昨日、藤井聡太七段が王将戦一次予選決勝で若手強豪の千田翔太七段を91手で破り、二次予選進出を決めました。先手となった藤井七段の初手は7六歩。非常に珍しいですね。先手の場合、居飛車の基本的な初手は2つで2六歩か7六歩。これまで2六歩を指し続けた藤井君が飛車道ではなく角道を開けました。そこからクラシックな矢倉に組み上げます。三段リーグの途中までは矢倉を中心に指していたらしいですね。

互いに角を手持ちにした後、藤井七段が1五歩と右端の歩をぶつけました。千田七段が同歩とした後、同銀とし、銀が香車の前に飛び出しました。ひふみんの瞳がキラリ。加藤九段が得意とした棒銀戦法です。初心者の時に最初に覚える戦法の代表格でもあります。その戦法をあの藤井君が選択しました。

千田七段は端を受けずに打ち込んだ角を成り、藤井七段は矢倉の堅陣を背景に飛車角交換を強要。その後は激しい攻め合いに。局面が直線的に進む中、次第に藤井有利に傾き、最後は千田玉を即詰みに打ち取りました。

ボクシングでは井岡一翔選手が4階級制覇の快挙を成し遂げましたが、藤井君はクロスカウンターを好みます。この辺りは棋風が似ているといわれる谷川九段と同じです。つまり、自分の攻めが一瞬でも速いとみれば、相手の攻めを受けずに構わず自分のパンチを繰り出していくタイプです。そして谷川さんよりガードが高い。基本的には攻め将棋なのでしょうが、守りにも細心の注意を払っています。藤井君というと最年少、天才、連勝、勝率といった様々なキーワードがありますが、将棋の中身もプロらしい魅せる将棋です。

藤井君がさしたということで、もしかしたらプロアマ問わず、少し棒銀がはやる可能性がありますね。特に将棋を指す子供たちは真似するでしょうね。それにしても加藤一二三九段は藤井君が棒銀で快勝したことを大変喜んでいるのではないのでしょうか。食べることも忘れて、藤井千田戦の棋譜を飽きることなく並べるひふみんの姿を想像します。

谷川と藤井がともに勝った日

昨日は年の差40歳、新旧中学生棋士が登場しました。

棋王戦本戦。谷川浩司九段は若手実力派の菅井竜也七段と対局。個人的にはいい内容の将棋を指してくれればという気持ちでした。居飛車党の谷川さんが振り飛車、振り飛車党の菅井さんが居飛車で戦うという珍しい展開になりました。谷川さんが序盤から、持ち前の前身流で穴熊に組んだ菅井玉を粉碎。全盛期を彷彿とさせる内容で谷川さんの快勝でした。まだこんな力が残っているならトップ棋士としての能力はあると思うのですが、残念ながら年齢的にこの実力をコンスタントに出すことが心身ともに難しいのだと思います。昨日はそれがうまくかみ合ったようです。

中学生棋士でいうと谷川・羽生は居飛車等でありながら振り飛車も指しこなすオールラウンダー。加藤一二三・渡辺明・藤井聡太は居飛車一筋という印象です。さて、その藤井聡太七段。昨日は前期惜しくも昇級を逃したC級1組の順位戦の初戦でした。対局相手は村田顕弘六段。激しい終盤戦になりました。藤井玉も瀕死の状態のように見えてましたが、王手をかけ続け、藤井玉を包囲していた駒を引かせ自玉を安全にする高度なテクニックで村田六段を投了に追い込みました。

藤井君が王手をかけ続けている時は、詰みが見えたのかなと思いました。詰みがあったかなかったかは知りませんが、8割方詰みが見えていれば、谷川さんなら詰ましにいくと思います。しかし藤井君は踏み込まず、勝利を優先します。その辺が通算勝率8割5分という驚異的な数字を残す凄さなのでしょう。谷川・藤井の白星揃い踏み。あと何度見られるだろうか。藤井君は今後いくらでも勝てますが、谷川さんがどこまで頑張れるか。

ここで中学生棋士たちの順位戦予想を少ししておきたいと思います。A級は渡辺二冠が本命で羽生九段が対抗。B1の谷川さんですが陥落の可能性もかなり高いと思われます。息子のような世代が多くなりましたが、心情的には踏ん張ってほしいです。陥落となれば順位戦を撤退するのではないかと思います。C1ですが、藤井君は上がれるとは思いますがね。9勝1敗で昇級と予想しておきます。まだストレートで昇級し続ければ谷川さんが持つ最年少記録を破る可能性は残っています。これはなかなか難しいかもしれませんね。

自分の記憶を頼りにすれば、主人公の堀井香恵が石飛という青年を見かけたのは、彼が折り畳み式の自転車に跨り、香恵の自宅マンションをじっと眺めていた所だったと思います。この時すでに香恵は石飛に好感を抱いていたように思います。

そしてお互いが初めて顔を合わせたのは文具店。香恵はそこでアルバイトをしていたので、従業員と客として。万年筆の売り場を任されていた香恵はすでに自宅マンションで見かけたことを忘れ、初対面の客として認識していました。その後、何度も石飛が客として訪れているうちに、彼が美術関係の仕事をしていることを知ります。石飛も香恵に次第に信頼を置くようになっていきましたが、香恵のような恋愛的な感情は抱いていなかった気がします。香恵も恋心といっても、それは淡いものだったように感じました。

2人の距離が急に縮まったのは、香恵が自宅マンションから自転車にまたがる石飛を見つけ、呼び止めた場面です。石飛からは意外な言葉が。「香恵ちゃん、その部屋見せてくれないかなあ」。一度はあいまいな返事をしたため、石飛は謝り立ち去ろうとしたが、香恵が呼びとめ石飛は部屋に入った。彼女は音楽サークルでマンドリンという楽器を演奏していた。石飛がそれを見つけ、彼女はロシア民謡の「ともしび」を披露する。それを聴いた石飛は涙した。このあたりで、物語の先はある程度読めるのですが、僕は逆に読みたい気持ちが強くなりました。

この物語のもう一つの軸は、香恵がこのマンションに引っ越してきた時に、前の住人が忘れていったのであろうノートです。香恵もしばらくは遠慮していたのですが、いつしか読み始めます。真野伊吹という小学校の若い女性教師が書き綴ったものでした。香恵はほどなく生徒に真摯に向き合う伊吹先生のファンになっていきます。また伊吹先生の隆という男性への恋心も我がことのように関心を持ちます。そして伊吹先生に会いたいという気持ちを抑えきれず行動に出るのですが。

スピッツの「夢追い虫」ではないけれど、僕は香恵という特別美人ではなく、魔法も使えない等身大の女子大生でありながら、真面目に行動しても笑われてしまうようなキャラクターの彼女に、不思議な魅力を感じました。作者の雫井さんのなせる業なのかもしれません。石飛というどこか寂しげな青年もいい。そして雫井さんの実話もこの小説の芯の部分に深く関わっています。最後の方は読み終えてしまうのが惜しい気持ちになりました。マンドリン、万年筆。物語そのものも良かったけれど、小説に流れる世界観が僕はすごく好きでした。

大谷翔平サイクルヒット イチロー・松井にない魅力

大谷選手がやってくれました。日本人初のMLBでのサイクルヒットの快挙。彼の能力は全く底が見えないですね。第1打席にビッグフライではなく弾丸ライナーで左中間へのスリーランホームラン。第2打席二塁打、第3打席三塁打で迎えた第4打席で見事に中前安打。エンゼルスでは史上7人目だそうです。最終打席も四球でよかったという冷静さがサイクルを呼び込みました。

それにしても投打にわたり次々と見るものを驚かす事をクールな顔をしてやってのける大谷翔平とは何者なのだろう。能力的には歴代の選手を含めてもナンバーワンでしょう。投打ともにメジャーでも超一流のレベルにありますからね。

今回のサイクルヒットから、メジャーの日本人打者の代表格であるイチロー、松井秀喜と比較してみます。まず、イチローの場合、三塁打の確率は高い選手ではあります。しかし、三塁打というのは最も打者として難しく、イチローの快足でもそうそう量産できるものではありません。あとはホームランの少なさですね。結局、ホームランと三塁打を同じ試合で打つ確率はものすごく低くなります。

一方、松井はパワーはありますからホームランの可能性は大いにあるのですが、三塁打が困難です。決して足の遅い選手ではありませんが、巨人時代に比べると脚力も落ちていました。よってよほどの運がなければ彼らがサイクルを成し遂げることは難しく感じます。

それに比べて大谷はメジャーでもパワーヒッターであり、特に逆方向への飛距離が飛び抜けています。そして足も速いため、難関の三塁打も狙える選手です。イチローの泣き所の本塁打、松井の泣き所の三塁打を期待できる大谷は、彼らと比べて格段にサイクルヒットの確率は高くなります。運が少し味方してくれればまた近い将来見られるかもしれませんね。

それに、イチロー、松井をはじめ他のいかなる一流打者と比べてもまだ半分も振り込んでいないはず。これまで多くの時間を投手としてのトレーニングにつき込んできましたから。それを考えると、打者一本に絞ったらどれだけの成績を残すのか想像が付きません。まさに21世紀のベーブルースとなる逸材です。

今季に限れば、徐々にボールが上がり始めたので30本以上は期待したいですね。開幕は一か月遅れましたが可能性は十分です。そのためには怪我をしないことが絶対条件になります。イチローも松井も体が強く試合を休みませんでした。無事名馬。怪我に強い選手になれば、今後、大谷君なら途轍もない記録と記憶を残してくれるのではないのでしょうか。頑張れ大谷。

「永遠のとなり」

最近読んだ本で「永遠のとなり」「クロズド・ノート」と2冊続けて良かったのでとりあえず先に読んだ「永遠のとなり」の感想を。

主人公の青野精一郎は48歳。部下の自殺をきっかけにうつ病になってしまい、会社を辞め、離婚し故郷である博多に帰ります。そして故郷にはあっちゃんこと津田敦という小学校以来の親友がいて、彼も肺がんを発病するなど波乱万丈の人生を送ってきました。

精一郎はうつ病となり、小説の中では飛行機を避けて電車で移動する場面もあり、少しパニック障害の症状も出ているようで、年齢も自分と同年代で重ね合わせて物語を読み進めていくことができました。親友のあっちゃんは子供のころから頭がよく、一橋大学に進学し、銀行勤務を経て20代で東京・銀座に経営コンサルタントの事務所を開業し、順風満帆に映りました。しかし、40歳の時、肺がんを発病し、手術後に精一郎より一足早く博多に戻りました。大病を患ってから離婚と結婚を繰り返すようになりますが、一方で人の面倒見がよく、情の深い人で皆、彼を慕っています。

やっぱり、方言っていいですね。精一郎とあっちゃんの会話も仲の良さがより伝わってきます。どちらかというとも真面目で常識的な考え方をする精一郎に対し、あっちゃんはすごく個性的な人です。しかし、物語の後半であっちゃんが感情をむき出しにする場面がありました。

「せいちゃん（精一郎）、わしはいま芯の芯から腹ばたてとるとよ」。その後の言葉を要約すれば、世の中や神様に対して怒っている。今に始まったことじゃない。早くに両親が離婚し、物心ついた時には母親しかいなかった。勉強も怒りでしていた。大学も東大へ行きたかったが、浪人する金がなく一橋にした。銀行に入って親孝行できると思った時に母親は死んだ。そして40になった時、タバコも吸わないのに肺がんになった。今もそれと戦っている。

その後、あっちゃんは、自分が面倒を見ている苦労している人たちの話をし始め、そして最後に「どう思うね、せいちゃん。人間ってなんやろね。わしの人生ってなんやろね」と。あっちゃんの口調は激しい言葉に反して淡々としていました。精一郎は「そいでもさ、みんな一生懸命生きとるじゃん、みんな。それでよかないね」と言葉を返します。

何のために生きているのだろうか。僕にもわかりません。人間はなまじ頭がいいばかりにいろいろと考えてしまう。それなのに最も大切な部分がわからない。そうした苦悩を白石さんは見事に描いています。

「クローズド・ノート」の感想はまた機会があれば書きます。これもすごく良かったから、できれば感想を残しておきたいのですが。

羽生、大山に並ぶ。谷川早投げか

昨日、羽生善治九段が谷川浩司九段を下し、大山康晴15世名人の持つ1433勝に並びました。僕はこの記録は時間の問題だと思っていたし、まだまだ大きく伸ばすのではないのでしょうか。マスコミも大きく取り上げていたようで藤井君効果で将棋界に光が当たっていることを実感します。通算勝利数に関しては、藤井聡太出現以前ならせいぜいNHKが事実を淡々と流しただけなのでしょうが、ニュース速報まで流れたみたいですね。ちょっと驚きですが（笑）

羽生谷川戦を自宅に帰ってから棋譜で確認したのですが、激戦でしたね。ソフトの評価値もほぼ互角のまま進みました。終盤の入り口あたりは人間の目で見ると谷川さんがいいように見えるのですが、ソフト的にはそれほどのリードではありません。もっと驚いたのは投了の数手前までわずかに谷川リードを示していたことです。そして投了した場面すら羽生やや有利ぐらいの数値なんですよ。

人間的な目で見ると、谷川さんが羽生玉を詰め切れず、谷川玉は粘りがきかない形をしていて投了やむなしかと思っていたのですが。これまで数々の谷川さんの早い投了を見てきましたが、昨日の投了図は納得のいく形です。しかし、やはりソフトが正しいのでしょうか？まあ、確かに藤井君なら絶対に投げないし、叡王のタイトルを取った永瀬君なら「まだまだ勝負はこれから」と思っていたかもしれません。永瀬叡王の粘りは定評がありますからね。案の定、将棋ファンの中には谷川さんの早投げを指摘する声も多くありました。ソフトに全く関心を示さない谷川九段ですが、投了の場面のソフトの評価くらいは確認したほうがいいような気がするのですが。まあ、谷川さんは全く関心ないでしょうけど。

羽生さんに関しては長きにわたる努力のたまものです。谷川さんとは対照的に時代の最先端の研究を取り入れています。今でいえばAIということになります。僕も「羽生さんのソフト研究がすごい」と昨年のもんげん戦の時に書きました。勿論、あくまで推測です。しかし、羽生さんと数多く対戦してきた佐藤康光九段が「羽生さんの指し手に衝撃を受けた。人間では思いつかない手を指していた。相当激しいソフト研究をしているのだろう」との記事を見て、出鱈目を書いてなくてよかったと思いました（笑）こうしたAI研究を極めていけば、羽生さんはまだ10年はトップクラスの棋士として活躍できるのではないのでしょうか。タイトル戦での羽生・藤井聡太戦を見てみたいものです。

川崎に現れた令和の殺人鬼

28日、川崎市多摩区で市立「カリタス小学校」の児童らが刃物を持った男に襲われ、19人が死傷しました。亡くなった2人は首に深い傷を負っていたそうです。わずかな時間での凶行、そして犯人も自殺していることから強い殺意が伺えます。

岩崎隆一容疑者は亡くなった人とは面識はないのでしょうか。ならば何をそれ程までに恨みを募らせていたのか？その疑問は犯人が地獄へ持って行ってしまいました。それにしても昨日の朝からずいぶん時間が経過しましたが、岩崎容疑者の情報が中学時代と最近の近所の人から見た様子しか出てこないのは何故なのか、不思議です。その間の約30年の情報が一つも出てこないなんて事があるとはにわかには信じがたいのですが。

岩崎の場合、10代で家を出ています。ならば、少なくとも自分が生活するための最低限度は働かなくてはなりません。年単位で、いや数か月でも働いた職場があれば警察はもちろん、マスコミも嗅ぎ付けるはずです。そこは謎ですね。ここ最近については引きこもり傾向があったということのようです。

亡くなった2人は11歳の女兒と39歳の外務省職員でした。事件が起きた時に報道に不満なのは特に子供が被害者になった場合「挨拶ができる優しい子でした」という判で押したような周囲のインタビューを写すことです。そういうのはいらないと思うんですよ。少し変わったところがあれば、性格がどうであれ命の価値は同じだと思います。ましてこれからの命です。挨拶ができるから命が重くなるという訳ではないです。

39歳の男性の方はこれまでの積み重ねがありますから、仕事ぶりなどを紹介してもいいと思います。ミャンマー語の専門家で通訳として大きな働きをしてきた。努力して身に着けた語学力も知恵も経験も命を奪われたことで全部、一瞬で持っていかれてしまいました。

犯人について今言えることは、幼少時複雑な家庭で育った。ここの所引きこもり気味で、近所とのトラブルもあった。あとは他人に対する強い殺意ですかね。私立の小学校ということもあり、ネットを中心に恵まれた環境にある人を狙った犯行と決めつけている人も多いようですが、それは何とも分かりませんね。それよりもネットにこれほど上級国民とそれ以外という分け方が完全に浸透してしまっていることの分かり方が根深いと思います。

新自由主義が進み、貧富の差が激しくなり、富裕層に対する憎悪が膨らんでいるのは間違いありません。岩崎のような凶行に及ぶのはごくわずかですが、しかし放っておけば怒りのマグマはますます溜まってしまいます。国もネットの一部が騒いでいるだけと決めつけずに、耳を傾け少しでも富裕層とそれ以外の人々の対立を和らげる対策をとったほうがいいですね。私立の制服を

着た子供たち、とくに女の子たちは怖い思いをしているでしょう。

12人が死傷した池袋暴走事故からずいぶん日が経ちました。自らもけがのため入院していた飯塚幸三元院長が退院し、任意の事情聴取が行われましたが、いまだに逮捕されていません。退院後に逮捕されるのではないかと考えていたのですが、少し意外でした。多少、上級国民という理由もあるでしょう。しかし、映像で見たところかなり飯塚氏は衰弱していて、拘留に耐えられない可能性があるという判断をしているのではないのでしょうか。拘留中にもしものことがあれば、今度はネットを中心とした市民の怒りが警察に向くことになるでしょうから。

もし逮捕はされなくても、被告人として裁かれることにはなると思います。しかし、被害者遺族が望んでいる厳罰という事はないでしょう。執行猶予付きの判決となる可能性が高いですね。この流れで進めば特別扱いを受けているとは思いません。ただし、もし彼が被告人として裁かれなかったとしたら、それこそ上級国民は何をしても許されるという意識を国民に植え付けることになるでしょう。

それにしてもあの衰弱状態で運転しているんですからね。しかし、政府も分かっているながら高齢者運転に強く踏み込めない理由があります。ずばり選挙です。若い人が自民党を支持しているとも言われますが、そもそも若年層ほど投票率が低く、有権者数も少ないためさほど影響がありません。それに対し高齢者は人数も多いことに加え、投票率が高く、選挙結果の行方を大きく左右します。政府は彼らを怒らす訳にはいかないのです。

ならばこのまま指を加えて見過ごすしかないのか？やはり社会が高齢者運転を害悪として認識することが大事です。日本は外国から見ると煙草に対しては厳しく、酒に対しては甘い国と映っています。それは日本社会が煙草は害悪、酒は多少の害はあっても良い面もあるという認識を持っているからです。よって社会が高齢者運転に対して厳しい目を向ければ、国は渋々ではあっても動かざるを得なくなります。そうでなければ、高齢者運転で犠牲になった人々は浮かばれません。

。

「スピッツ」冷たい頬

スピッツの好きな曲は日々ころころと入れ替わると書いた覚えがありますが、自分の中で常に上位にランクしているのが1998年発売の「冷たい頬」です。上位というのが5位以内なのか10位以内なのかその辺ははっきりしないのですが。それだけスピッツには名曲が多いので。20位以内でも相当上位といえるかもしれません。

「あなたのことを深く愛せるかしら」

子供みたいな光で僕を染める

風に吹かれた君の冷たい頬に

ふれてみた小さな午後

頭から掴んできます。「愛せるかしら」に深くを付け加えることで、これだけ格調が高くなるんですね。「風に吹かれた君の冷たい頬に」となにげなくタイトルが紛れ込んでいます。寒い季節に風に吹かれれば頬は冷たくなる。しかし、ここをタイトルにしていることで、なにかしら重要な意味があるのかと想像してしまいます。午後はたいてい小さいものです（笑）

夢の粒もすぐに弾くような

逆上がりの世界を見ていた

現実の厳しさを表現しているのだと思いますが、あえて美しい言葉でそれを伝えることができるのは、草野マサムネさんの非凡さゆえでしょう。

さよなら僕のかわいいシロツメクサと

手帳の隅で眠り続けるストーリー

風に吹かれた君の冷たい頬に

ふれてみた小さな午後

かわいいシロツメクサは恋人を意味するのでしょうか。その恋人との日々も遠くなってしまったという解釈でいいんですかね。そして最後にもう一度、小さな午後、君の冷たい頬に触れて歌詞は終わっています。美しい言葉の連なり。確かに草野さんは詩人としても天才的だと思います。しかし、それに見合った曲を生み出す彼のメロディーメーカーとしての才能、そして草野マサムネの透き通るような歌声と草野さんを含めたメンバー4人の職人芸の技術が重なり合って、素晴らしい音楽が生まれ、草野さんの言葉も多くの人に知られることになります。もしも草野さんが詩人になって素晴らしい作品をいくつ並べても売れる可能性は低いですし、やはり音楽との出会い、そしてスピッツを共に作り上げてきたメンバーとの出会いがすべてだったと思います。

名人戦第3局 大谷復帰

名人戦第3局は熱戦でした。中盤までは挑戦者の豊島二冠がやや有利のまま終盤へ。連敗スタートとなった佐藤天彦名人はこの一戦にかける執念からか、細い攻めを見事なまでにつなぎ、最終盤で逆転、おぼろげながら勝利が見えてきたと思った瞬間、名人が悪手を指し、これが致命傷になりました。136手の戦いを制した豊島二冠はこれで3連勝。これで初の名人位獲得まであと1勝に迫りました。逆に佐藤名人は崖っぷちに追い詰められました。名人戦の長い歴史の中でも3連敗からの4連勝はなかったはずです。それにしても投了した後は、敗戦の落胆を微塵も感じさせず堂々とインタビューに答えるところが、さすがは名人といった気がします。豊島さんは対局姿勢が美しいですね。

名人の最後の見落としはアマチュアでも気づかれた方は多かったと思います。しかし、2日にわたる頭脳、体力の疲労は限界だったはずです。そこで秒読みで指さなければいけない訳ですから、当然ミスは出やすくなります。これが一番タイミングの悪いところで出てしまったのはやや運がなかったかなという気はします。名人も人間ですから仕方ありません。僕は終盤戦を中心に見ていたのですが、谷川さんや藤井君の対局でもないのに、手に汗握るような、対局者の息遣いが聞こえるような感覚になりました。名局と言っていいのではないのでしょうか。

エンゼルスの大谷翔平選手が打者として復帰しました。3番・DHで出場しましたが、結果は4打数無安打1四球でした。まあ、今日は目慣らしということでもいいのではないのでしょうか。まずは打者として順調に復帰できたことを喜ぶ日だと思います。明日以降、徐々にエンジンをかけて言ってくれることを期待しています。大谷君の年齢だと、打者としてはこれから10年が全盛期。個人的には投手以上に打者の伸びしろの方が大きいと見ているので、打者に専念する今年にはひそかに期待しています。

小出監督「せっかくと思いなさい」

この春、平成が終わりを告げる象徴的な出来事がいくつかありました。高橋尚子や有森裕子など数々の名ランナーを育て上げた小出義雄監督が亡くなったこともその一つでした。印象に残ったのは小出さんの死後、有森さんが語った言葉でした。「せっかくと思いなさい」

故障した有森さんに対し、「せっかく怪我をしたのだからそれを無駄にするな」という意味だったのでしょうか。有森さんなら乗り越えられる試練という確信のもと、そう諭したのだと思います。今の有森さんが四半世紀前のこの言葉を持ち出したのは、その後の有森さんの競技人生、そして引退後の人生の一つの支えになっているからでしょう。闘病中の池江璃花子選手には小出さんならそれとは全く別の適切な言葉で彼女を励ますのでしょうか。池江さんが前向きに白血病と向き合えるように。

自分もパニック障害になって30年。最初の10年は「なんで自分だけが」という悔いが強かったはずですが。しかし、30年がたち、苦しみの中で何かを学んでいるのではないかとたまに考えます。とても「せっかくパニック障害になったんだから」とは思えませんが。僕のような無宗教の人間でも、長く生きてると自分だけの宗教みたいなものが少しずつ出来上がっていきます。人生観と言い換えてもいいのかもしれない。

「苦しめば苦しむほど、いつかいい場所へ行ける。おそらく死後に」。そんな考え方も時間をかけて出来てきたものです。それで少しは怒りや悲しみが和らぐこともあるような気もします。小出監督のこの言葉が僕の中ですんなり理解できたのはそうした背景があるからだと思います。

「いい人生だった」「Q、50歳になっても輝いているよ」。小出さんの言葉がいちいち胸に響きます。

平成の歌姫、アイドル女優

平成も残り2日。明後日はいよいよ令和元年か。今日は平成の歌姫・アイドル女優を振り返ってみたいと思います。

すでにアイドル人気が見せていた平成元年に「ザ・ベストテン」が終了し、いよいよ昭和的なソロのアイドルという分野が消えかけていました。ベストテン番組が終了し、音楽に飢えた人々がCDを購入し、売り上げ枚数は飛躍的に伸び、ミリオンセラーが続出したのですが、アイドルがそこに加わることはなく、冬の時代が続きました。

個人的には平成初期の歌姫はZARDの坂井泉水です。坂井さんはテレビ出演など露出が少なく、どちらかというと謎に包まれていましたが「負けないで」「揺れる想い」などミリオンヒットを飛ばしました。自分の素直な感情をそのまま歌詞にしていました。また坂井さんほど美しい女性ミュージシャンもそうはいないと思います。その意味でも平成の歌姫でした。美人薄命。若くして亡くなったのは残念ですが、彼女の伸びやかな歌声は今も耳に残ります。

アイドル苦境の平成初期。ここからアーティストとアイドル女優という分野に分かれていきます。アーティストの代表が安室奈美恵、浜崎あゆみ。そしてアイドル女優の代表がヒロスエこと広末涼子でした。広末さんの人気は凄かった。曲を出せば飛ぶように売れるし、大学入学の時も、すごい騒ぎでしたね。人気のヒロスエに対して、実力派のアイドル女優もいました。桜井幸子、中谷美紀や菅野美穂です。広末さんのアイドルとしての人気を不動にしたのがドコモのポケベルのCMだったのに対し、例えば菅野さんだと「イグアナの娘」でした。僕もそれまでは菅野さんの顔と名前が一致するか微妙なところでしたが、その演技を見てこんな凄い若手女優がいるんだと驚きました。そんな彼女も今や二児の母。女優としてももう一花咲かせてほしいところです。

アイドルはその後、男女問わずグループばかりがメジャーになる時代に入りました。女性アイドルではモーニング娘。AKB48が代表格ですかね。そして平成に入って10年が過ぎようかというころ、宇多田ヒカルという歌姫が彗星のごとく出現しました。若干15、6歳の少女が歌手としてばかりでなく、これだけの歌詞、曲を作れるものかと驚きました。ファーストアルバムの売り上げ枚数の記録はいまだに破られていません。同時期に生まれた歌姫として倉木麻衣、椎名林檎が挙げられます。倉木さんは美少女でしたし、アイドルとしての側面もあったと思います。椎名さんはパンチのある言葉、独特の世界観が印象的です。

その後、アイドル女優として登場したのが深田恭子、上戸彩、綾瀬はるかでした。深キョンが今や美魔女的な扱いを受けていることに時の流れを感じます。上戸彩は演技では「3年B組金八先生」での性同一性障害の役柄が印象的です。綾瀬はるかは今や国民的女優になりましたね。そして新垣結衣、堀北真希へと続いてゆきます。どちらかといえば、新垣さんはアイドル性が高く

、堀北さんは女優的な部分を押し出していました。

宇多田後の歌姫というとやや小粒感が否めないと思います。引退した西野カナなど歌姫と呼ばれた人は何人かはいましたが。アイドル女優の方は平成生まれに移り、能年玲奈、有村架純、そしていま朝ドラに主演している広瀬すずなどソロで活動するなら歌手より女優という流れは固定化しました。AKB系のアイドルたちの多くが女優を目指すのも当然なのかもしれません。

歌姫の方ですが、もう平成には宇多田クラスの歌姫は生まれない雰囲気でしたが、ここにきてあいみょんという新たな歌姫が登場しました。歌詞、曲、歌唱力すべてが高いレベルにあり、現代社会に背を向けるような歌詞に象徴されるように個性が強く、それでいてどこか懐かしい。それが彼女が幅広い世代から指示を受ける理由だと思われます。

藤井・高見戦 人が対局する素晴らしさ

昨日の竜王戦4組準決勝は藤井聡太七段が高見泰地叡王を127手で下しました。激戦でしたね。終盤はやや高見叡王リードの局面もあったようですが、藤井七段が劣勢をしのぎ、最後は見事に高見玉を寄せ切りました。これで藤井七段はデビュー以来、竜王戦3期連続昇級となります。

それにしても熱戦でした。振り駒の結果、珍しく藤井七段の先手。やっぱり藤井君はやればできるんだ(笑) 今期の彼の課題は振り駒の勝率を挙げることではないでしょうか。本人の力でどうにもなるものではないですが。

戦型は角換わりを目指す藤井君に対し、後手番の高見叡王が受けて立つ展開に。前日の名人戦とは違い、しばらく角が互いの駒台でおとなしくしていました。先に角を打ち込んだのは藤井七段でこのあたりから激しい攻め合いになり、どちらの速度計算が正しいかという戦い。この読み合いは高見叡王に分があったようで、そのまま終盤戦にもつれ込みました。しかし、高見有利とは言っても具体的にさらに差を広げる手順が難しかったようで、やや攻めあぐねている隙をついて藤井君が逆襲に転じます。最後は叡王が2二銀というただ捨ての銀を打ち込み、執念を見せましたが、藤井七段が冷静に寄せ切り熱戦に幕を下ろしました。

白熱の終盤戦を見ながら、亡くなったマラソンの小出義雄監督のことが脳裏をよぎりました。3月まで現場主義を貫き、亡くなる少し前「いい人生だった」と話していたそうです。いかにも小出さんらしい。高橋尚子、有森裕子らを熱心に暖かく指導する小出監督の姿を思い出していました。シドニーオリンピックで金メダルを獲得したQちゃんはゴール直後「とても楽しい42.195キロでした」と笑顔で、アトランタオリンピックで銅メダルを獲得した直後、有森さんは涙ぐみながら「初めて自分で自分を褒めたい」との言葉を残しました。

マラソンを走り終えた直後は本音しか出せないと思います。それと同じように肉体と脳との違いこそあれ、朝から晩まで死力を尽くして対局した棋士も本音しか出ないでしょう。立派だと思ったのは高見叡王が投了直後、ほとんど間を置かず、藤井七段に盤面を指さしながら話し掛けていたことです。なかなか20代半ばの若者にできることではありません。記者の質問に丁寧に答えながら、感想戦を進める二人を見て、少し胸が熱くなりました。いくらAIとの実力差が広がっても、感情のある人間でなければ表現できないものは確実にありますね。

藤井君は平成最後の対局をいい形で飾れてよかったと思います。令和の時代の中心は藤井君中心に回るのでしょうか。敗れた高見君は叡王戦では挑戦者の永瀬七段が手強いので0-2からの逆転は難しいと思いますが、少なくとも一度は勝って将来につなげてほしいですね。

名人戦第2局。藤井聡太対局

昨日、名人戦第2局が行われ、挑戦者の豊島将之二冠が佐藤天彦名人を107手で破りました。これで豊島さんが2連勝。名人はかなり苦しくなりました。戦型が角換わりになるか横歩取りになるか注目でしたが、研究の深さに定評があり、勝率も高いであろう豊島さん先手での角換わりを天彦さんが受けて立ちました。交換した角を互いに早めに自陣に打ち込み、じっくりとした展開になりましたが、最終的には豊島さんの角がよく働いた将棋でした。

豊島連勝での幕開けとなった名人戦。第3局が大きな勝負になりそうです。佐藤名人の先手番を豊島二冠がブレイクして3連勝となれば、9割がた決着がついた形になりますが、天彦さんが名人の意地を見せれば、心理的には互角に近いところまで持っていけないのではないのでしょうか。第3局は名人の奮起を期待していますが、シリーズ全体で考えると、第2局の立会人だった谷川浩司九段以来の関西からの名人誕生も現実味を帯びてきました。豊島さんの対局姿勢の美しさは谷川さんを彷彿とさせます。名人を含めた3冠となると格の上では他の棋士を大きく引き離す存在となります。

そして今日は藤井聡太七段が登場します。竜王戦4組準決勝。対局相手は高見叡王。相手は手強いですが、この勝負に勝てば3組への昇級が決まります。負けられない一戦ですね。現在の将棋界の3強は渡辺二冠、豊島二冠、永瀬七段だと思います。藤井君はその3人を追いかける佐藤名人、広瀬竜王などの第2グループのに含まれているという見方が現実的ではないでしょうか。1年前の群雄割拠の状態から見ると、随分絞られてきていますね。第1グループに追いつき追い越す可能性が最も高いのは、やはり最も若い藤井君だと思います。おそらく今日が平成最後の対局となるのではないのでしょうか。「次の時代は俺が背負う」ぐらいの力強い将棋が見たいところです。今日の藤井七段の勝利の確率は60%から70%と予想しておきます。

消費税は上げるべきではない

本題に入る前にまた高齢者運転による痛ましい事故が起こりました。池袋で87歳のドライバーの運転する乗用車が暴走。母子2人が死亡、8人が重軽傷を負いました。高齢ドライバー側の反論としてよく聞くのが、近くにスーパーなどがなく生活が成り立たないというのがあります。しかし、池袋ですからね。事故を起こした本人にとっても人生の締めくくりの時期に二人の命を奪った犯罪者となるのは不幸だと思うのですが。少なくとも都市部は75歳位での免許返納を義務付けるべきでしょう。

自民党の萩生田幹事長代行が消費増税延期を匂わせる発言をしました。政府としても世間の様子を伺う意図があったのでしょうか。現実的にはとても上げられる状況にはないと思います。しかし、財務省は今度こそ延期は許さないという姿勢で臨むはずで、安倍総理はその板挟みとなっている状況と推測します。

少子高齢化により、もはや経済成長は望めない状況にあります。高齢化社会が進むことは昔からわかっていましたから、20世紀のうちに少なくとも10%には上げておくべきでした。その頃なら増税の副作用に耐えられる体力がまだありましたが、今はそれがありません。たとえ10%に上げたところで財政健全化には程遠く、デメリットの方がはるかに大きいのは間違いありません。

政府は当面、大企業の埋蔵金に頼るべきでしょう。しかし、根本的には少子高齢化を食い止めなければなりません。安倍政権も発足当初とは違い、幼児を持つ家庭を補助する方向に変わりつつあります。就職氷河期世代の救済にも乗り出しました。すでにベーシックインカム理念を取り入れ始めているという見方もできます。今は人手不足ですが、人工知能社会は確実に進みますから、いずれはホワイトカラー、ブルーカラー問わず会社に残れるのは一部の人のみになっていくでしょう。今後も子供のいる家庭を中心に手当していく流れを加速させることが、長い目で見た経済の立て直しにつながると考えられます。

球春到来、OPSで見る平成の強打者

プロ野球も開幕して15試合前後消化したところですかね。広島の下位低迷は意外ですが、やはり丸選手が抜けた穴は埋まりません。彼は出塁率が高い選手なので、チームへの貢献が高かった。緒方監督はまず守りからの立て直しを考えていると思われます。パリーグに目を移すとソフトバンクが主力選手にけが人が続出し、しばらくは我慢の展開が続きそうです。メジャーリーグは菊池雄星投手がデビューしましたが心配です。かつて阪神から渡米した井川投手がダブるんですよね。それに雄星投手はソフトバンクにほとんど勝てなかった。エースの条件の一つはライバルチームに勝てることですが、彼にはそれがなかった。まあ、こうした懸念を吹き飛ばして10勝はしてもらいたいです。

ここからはOPSで平成の打者を振り返っていきます。昭和入団の選手でも主に平成に活躍した選手は含めました。落合さんは対象外、秋山幸二選手は対象内とおおよその目分量です。日本で通算4000打数以上の日本人選手が条件です。

1位は松井秀喜選手で9割9分6厘。イチロー選手は4000打数未満でしたが、松井選手は含まれました。もちろん、入団から10年でメジャーに渡ったのである意味いいとこ取りではありますが、それでも王貞治に次ぐ数字は立派です。通算成績だと高い順位にはランクインしない松井選手ですが、OPSで見るとその凄さがわかります。

2位は小笠原道大選手の9割2分9厘。3位は松中信彦選手の9割2分5厘。4位は清原和博選手の9割9厘。ここまでが9割以上です。小笠原選手といえばフルスイングですが、常に打率上位でしたし、長打力もありました。そして出塁率も高くレベルの高い中距離打者でした。松中選手に関してはもっと高く評価されている選手だと思いますけどね。清原選手はホームランバッターのイメージが強いですが、四球の数が多く、出塁率は小笠原選手とほぼ同じで、それがOPSの高さにもつながりました。

以下、5位に和田一浩、6位に現役の福留孝介、7位に金本知憲と続きます。金本選手の順位は少し意外です。もう少し上位かと思っていましたが、長くプレーした選手は率では不利に働くのでその辺が原因かなと思います。和田選手は打撃の名人といってもいいくらい卓越した打撃技術を持っていました。福留選手は中日時代に高い数値を残しているのではないのでしょうか。

OPSから見ると、通算成績とはまた違った名前も挙がってきて興味深いところです。この数値が高いということはチームへの貢献度が高い証でもあるので、これからますます重要視されるようになるのは間違いないでしょう。

神様を見た日

7歳の夏の終わり

父に連れられ、初めてプロ野球をスタジアムで見た

あの日の後楽園球場の美しさは忘れられない

その試合で王貞治はライトスタンドへ799号を打った

あなたを尊敬し
やがてあなたを敬遠し
そしていま改めてあなたの巨大な足跡を想う

あの時代の少年は王貞治の息子です
僕は出来の悪いほうだろうなあ
あなたは偉大すぎて、厳格で
いつかあなたに顔向けできるような人間になれたらいい

名人戦、波乱含みのスタート

平成から令和への架け橋ともいえる第77期名人戦は1日目から千日手という思いもよらぬ幕開けとなりました。佐藤天彦名人に豊島将之二冠が挑戦するフレッシュなカードになりましたが、先手の佐藤名人が角換わりから積極的に仕掛けたものの後続手を見いだせず、同一局面を4回繰り返す千日手が成立しました。名人戦での千日手は16年ぶりだそうです。

千日手としてしまった佐藤名人の代償は大きく、2日目は先後入れ替えで豊島二冠の先手となる上、消費時間も豊島さんのほうがかなり多い条件でのスタートとなりました。後手の佐藤名人が得意戦法の横歩取りに誘導しましたが、結果は73手で豊島二冠の勝利となりました。

豊島さんは名人戦、嬉しい初勝利。対する天彦さんは不本意な内容だったと思われます。立て直して第2局に臨んでほしいところです。個人的には2人とも好きな棋士なのでどちらが勝っても構わないのですが、もう少し手に汗握るような内容を期待したいです。投了図を見ても、豊島玉は全く手つかずでしたからね。

一方で豊島さんが新名人になるのも悪くないかなとも思っています。ひとつには天彦さんは名人戦でのここ3年の戦いぶりは見事なのですが、他の棋戦での活躍が物足りません。名人以外のタイトルも取ってほしかった。だから豊島さんが名人を取れば三冠となりますし、今後も名人に相応しい活躍が見込めます。そういった意味で天彦さんが名人位を手放して、もう一度、厳しいA級順位戦を勝ち抜いて這い上がってほしい気持ちもあります。勿論、今期防衛に成功すれば通算4期となり、永世名人に王手をかける大事な戦いであるのはわかりますが。

段位の基準でいうと、名人は1期で九段、竜王は2期で九段、他のタイトルは3期で九段です。つまり名人には竜王を除く他のタイトルの3倍の価値があります。勿論、数値化せずとも名人位に特別な権威があるのは将棋を知っている人ならば皆知っています。そうした考え方をすれば、天彦名人にとって今年は試練の一年になると思います。たとえ今回、防衛に成功したとしてもやはり名人に相応しい活躍をそろそろ見せてほしい。能力の高い棋士なので彼ならばそれができると思います。

随分、天彦名人に厳しい意見を述べましたが、僕は天彦さんも豊島さんも好きな棋士なので、7局戦ってほしいですね。だから2局目は名人に踏ん張ってほしいと思います。二人が自らの力を存分に発揮出来ることを願っています。

スピッツ「優しいあの子」 あいみょん「ハルノヒ」

記念すべき朝ドラ100作目「なつぞら」の主題歌はスピッツの「優しいあの子」。最近、午前八時は体を起こす格闘をしている時間帯ですが、何とか初回に聴くことができました。スピッツらしい曲ですね。

ボーカルの草野マサムネさんは大の朝ドラファンだそうで舞台となる北海道の十勝にも何度も足を運んだと言います。そこで感じたことは「十勝の冬の厳しさを意識せずにはいられなかった」そうです。そのため、タイトルの「なつぞら」とはマッチしない厳しい冬をイメージさせる歌詞が含まれています。

氷をちらす風すら 味方にもできるんだなあ
切り取られることのない 丸い大空の色を
優しいあの子にも教えたい

相変わらず格好いい歌詞。草野さんのキーワードの一つは夢だと思います。今回の広瀬すず演じるヒロインは草創期のアニメーションに情熱を傾ける夢追い虫の女性ですから、当然そうした言葉も盛り込まれています。

重い扉を押し開けたら 暗い道が続いてて
めげずに歩いたその先に 知らなかった世界

口にする度に泣けるほど あこがれて砕かれて
消えかけた火を胸に抱き 辿り着いたコタン

草野さんの描く夢は決して真っ直ぐな眩しい世界ではなく、「消えかけた火」に象徴されるように辛うじて抱えているものなんですよ。こういうところ、好きだなあ。

僕が今、よく聴いているスピッツの曲は「醒めない」とか「小さな生き物」。あと季節柄「春の歌」。名曲ぞろいだから、その時によって好んで聴く曲は変わりますね。結局、一周回って「ロビンソン」というのもありがちです。

続いてあいみょんの「ハルノヒ」。これは、いいです。やはり今、勢いに乗っている人の作る曲なんですね。春の眩しさがよく表現されています。曲の良さに耳が引き付けられて、歌詞は北千住駅ぐらいしか入ってきませんでした。クレヨンしんちゃんの映画主題歌ということで少しひっかけたのかな。昔、僕がたまに北千住辺りをふらついている頃とはずいぶんイメージが変わりましたね。昔はもっと下町が剥き出しだった。

しかしよくよく歌詞を聞いてみると、曲に負けずカラフルです。銀色、水色、藍色と直接的にもかなり盛り込まれています。

君の強さと僕の弱さをわけ合えば
どんな凄いことが起きるかな？
ほらもうこんなにも幸せ

やはりあいみょんは僕目線が書きやすいようですね。

日々の辛さと僕の体が
だらしなく帰る場所を探し続けている
ほらもうこんなにも夕焼け
いつかの灯り思い出すとき
大切さに気付くのでしょうか

さすが詩人あいみょん。もうすっかりクレヨンしんちゃんは頭になさそう。

住み慣れた駅のプラットフォーム
水色に挨拶
「お帰りなさい」と
小さく影を踏む幸せ

瑞々しい感性ですね。あいみょんというと「生きていたんだよな」のような現代社会を鋭く切り取るような詩も得意だけれど、「ハルノヒ」は全体的には幸福に包まれたような歌詞ですね。個人的には「マリーゴールド」よりも「ハルノヒ」のほうが好みかな。どちらにしても素晴らしい曲の出来栄えだと思います。今更ながら間違いなく彼女は本物でしょう。

藤井聡太、薄氷の勝利

昨日、藤井聡太七段の今期最終局がありました。対戦相手は中田宏樹八段。将棋の王道とも評される矢倉の戦型になりました。藤井七段も奨励会の三段リーグに上がるまでは矢倉を得意としていたそうですが、やはり40近く年長の中田八段と比べては経験値は遠く及びません。中盤、中田さんが歩の突き捨てからペースをつかみ、巧みにリードを広げ終盤へ。

最終盤、藤井君が放った銀のただ捨てという苦し紛れの、しかし最善の一手が実り、急転直下、逆転勝ちとなりました。天性の勝負術こそ見せましたが、藤井君側から見ると将棋で負けて、勝負に勝ったといったところですか。本人も当然納得はいかない内容なのは間違いないでしょう。しかしこうした苦しい勝負を積み重ねて藤井将棋は着実に進歩するのだと思います。

今年度の最終成績は45勝8敗。8割4分9厘。歴代最高記録には惜しくも及びませんでした。史上3位の勝率は見事です。朝日オープン連覇の快挙あり、順位戦の昇級を惜しくも逃し、タイトル挑戦にも届かず藤井君としては喜び半分、悔しさ半分といった2018年度というところでしょうか。

東京での対局の時、デビュー当時から藤井君の胃袋を満たした「みろく庵」が今月末で閉店するそうです。惜別の気持ちがあったのでしょうか。昼食も夕食もみろく庵から注文したらしいですが、夕食は局面が緊迫してくる頃ですから、味がしなかったかもしれないですね。それでも藤井君にとっては激動の2年半、利用してきた店への思いは案外、深いものがあるのかもしれません。藤井君は4月から高校2年。新たな戦いが幕を開けます。別れと決意。3月とはそうした季節です。あとは詰将棋解答選手権。またまた周囲を驚かせる結果となるんでしょうね。

イチロー引退

ついにこの日が来てしまいました。3月21日、イチローは引退を表明しました。寂しさはありますが、仕方ないですね。オープン戦で全く結果を残せませんでしたから。

東京ドームでの開幕シリーズ。シアトル・マリナーズのイチローは変わらぬ体型、打席内での雰囲気を保ったまま日本に帰ってきてくれました。ノーヒットで終わったのは残念でしたが仕方ありません。全盛期の脚力ならば、内野安打になりそうな打球もありましたが判定は冷徹にアウト。世界一、ヒットを打ってきた選手が最後は一本のヒットの難しさを表現したと言えるかもしれません。スタンドは超満員。「人寄せパンダ」という人もいるでしょう。ただ、プロ入りして約1万日。そのうちの2日くらい彼に至福の時を与えてあげてもいいのではないのでしょうか。

僕の記憶でイチロー選手のホームランを最初に見たのは1992年、ルーキーイヤーのジュニアオールスター。まだその時はいわゆる振り子打法でもなく、本名の鈴木一郎でプレーしていました。イチローが誕生したのは3年目の1994年。恩師、仰木彬監督が命名しました。そして一躍大ブレイク。イチロー流に言えば一気に番付を上げました。もし仰木監督との出会いがなかったら、土井監督のままだったら今のイチローは存在していなかったでしょう。誰に出会うかで運命は変わりますね。この頃、競馬の武豊、将棋の羽生善治と平成に出現した若き勝負師の代表格として扱われることが多かったのをよく覚えています。

2001年にメジャーリーグに渡り、安打数にまつわる数々の記録を打ち立てました。そして2011年の38歳のシーズンに初めて3割を割ります。彼はこの時「衰えと思われるのが悲しい」との言葉を残しました。しかし、これ以降3割には一度も復帰できずに引退の日を迎えました。いまだに衰えを認めないイチローの反骨心の凄さは常人には想像のつかないものがあります。そして変わらないグラウンドでの動作、雰囲気。では何が衰えたのか、それは動体視力を含めた反応力や感覚でしょう。今だって、練習では軽々とスタンドに放り込む。パワーは鍛え方次第では衰えにくいですからね。しかし、反応力はどうにもならない。イチロー選手の場合、ボールの真芯か上半分をミートすることで高打率を保ってきましたがバットが思ったところに出なくなり、ボールの下半分を叩いたり、思ったより差し込まれてしまったりというケースが増えていったものと推測します。

話は変わりますが、昨今ドラマなどで俳優以外のタレントを起用するケースが増えています。僕が見た中で俳優以外で一番演技が上手かったのは他でもないイチローです。古畑任三郎で本人役で出演した時の演技は役者顔負けでした。この時に僕は思いました。「鈴木一郎はイチローを演じているのだ」と。

「好きな野球漫画はキャプテン」「余力を残して3割打つ人よりも、力を出し切って2割8分の

人のほうが好き」。そして引退会見で愛犬の一弓について「老犬でもうフラフラなのですが、懸命に生きようとする姿には心を打たれるものがある」。これらはイチローではなく、鈴木一郎さんが人としてどこに重きを置くかをよく表している言葉だと思います。

今日から春の選抜高校野球が始まりました。全員21世紀生まれだそうです。貴方は第二次ベビーブーム世代の星でした。イチローさん、お疲れさまでした。

清原、厚労省の啓発イベントに登場

昨日、厚労省主催の依存症啓発イベントに清原和博さんがゲスト出演しました。有罪判決を受けて以来、約3年ぶりの公の場だそうです。

「自分は逮捕されて3年になるんですが、こつこつと治療をしてきて、それが厚生労働省に認めていただいたと思うと、すごくうれしい気持ちでした。自分のように苦しんでいる人のためにと思って、すぐに（参加を）決めました」

清原さんはイベントの終わりに特別ゲストとして登場し、薬物依存研究の専門家と対談。清原さんの姿を見る限りでは、血色もよく体型もそれほど変わらず元気そうに見えました。現在は2週間に1回病院に通い、薬物についての勉強をしているそうです。個人的には前向きに依存症を治していこうという姿勢が見えて、少し安堵しました。

それにしても皮肉というか、まだ新人時代だと思うのですが、当時の厚生省ポスターの「覚せい剤を打たずにホームランを打とう」というメッセージのポスターに起用されていた清原さんが、約30年後、自らが覚せい剤所持違反で逮捕されるとは、ポスターに起用した厚生労働省も夢にも思わなかっただろうし、人生はわかりません。

しかし、こればかりは清原さんの自己責任で、難しいことでしょうが薬物依存と向き合っていくしかありません。幸いにも清原さんの周りには本音をさらけ出せる人もいるようで、それは大事なことですよね。起こしてしまった事実は変わりません。しかし、大きなダメージと引き換えに引退後に見いだせなかった生きる目的が生まれたともいえるのかもしれませんが。「自分と同じように依存症と苦しむ人たちのためになれば」という本人の言葉もありましたが、今後もこの姿勢を続けてそういった方々に勇気を与えることが彼の使命なのかなとも思います。現役時代も自分のためよりチームのために打席に立ったほうが結果が出るタイプの選手でしたからね。

平成を代表するホームランバッターが覚せい剤に手を出してしまったという衝撃は球界にとっても大きなダメージでした。今、急激に子供の野球人口が減少しているというニュースを聞きます。色々な理由が考えられますが、清原さんの影響も決して小さくはなかったように思います。これだけのスーパースターなわけですから。依存症との戦いはまだまだこれからも続くでしょう。現役時代、清原ファンだった者として裏切られた気持ちもありましたが、少しでもいい方向に進むようお願いばかりです。

藤井聡太昇級ならず

昨日、C級1組11回戦が行われ、8勝1敗で並んでいた近藤誠也五段、杉本昌隆八段、船江恒平六段、藤井聡太七段は全員が勝利し、順位が上位だった近藤五段、杉本八段がB級2組への昇級を決めました。

それにしても藤井君残念でした。若手強豪の都成五段を見事に破ったのですが、あと一步届きませんでした。師匠の杉本さんも自身の昇級が嬉しいのは間違いありませんが、弟子の手前、喜びを表に出しにくいでしょうね。杉本さんも藤井君の昇級は十分ありうると予想できても、自身の昇級は予想していなかったと思われます。

しかし藤井君も近藤君との直接対決で敗れているので、その地点である程度昇級は諦めていたでしょう。近藤君は20代前半の同世代で若手実力者の増田六段を激戦の末に下して見事に昇級を決めました。そして同時に六段への昇段も決めました。昨日の対戦相手だった増田君を天才とすると近藤君は大器という印象です。増田君は竜王戦で藤井君を倒した時のような才気あふれる将棋を指しますが、同時に天才特有の波の激しさがあるような気がします。それに対し、近藤君は安定感、懐の深さを感じますね。長時間の対局にも強いので将来のA級は間違いなしと思われま

す。天才と大器。どちらも兼ね備えているのが藤井聡太でしょうが、その藤井君ですら順位戦での連続昇級は難しかったという結果になりました。また来期と言いたいところですが、彼には今年度にまだ1つ達成できる記録が残っています。中原16世名人の最高勝率です。あと残り何戦あるのかわかりませんが、近いうちに久保九段との対局が組まれているようなので、ここが記録達成へのポイントになると思います。

3月1日に行われたA級順位戦では豊島二冠が見事に自力で名人戦挑戦を決めました。平成生まれの名人戦登場は豊島さんが初めてです。平成の終わりに相応しい挑戦者なのかもしれません。新人王戦で藤井君と決勝で対局した出口若武三段が熾烈な三段リーグを勝ち抜き、四段昇段を果たしました。そして来期の最大の注目はやはり藤井君のタイトル戦登場、そして獲得があるのかどうかということになりそうです。

昨年(2019年)の2月17日、この日は2つの号外が出た珍しい日でした。1つはオリンピックのフィギュアスケートで羽生結弦選手の金メダル。そしてもう1つは中学生棋士の藤井聡太五段の全棋士参加棋戦の朝日オープンでの最年少優勝でした。

社会現象にまでなった藤井フィーバー。将棋界も当然、様々な反応がありました。中でも谷川浩司九段が藤井君の快挙を称えたうえで「20代、30代の棋士たちは悔しくないのかと思うところもあります」という言葉を発し、波紋を起こしました。若い棋士たちの反応も様々だったと思います。「しっかりしなければいけない」と思う棋士もいれば「谷川先生は若手に冷たいな」と思う棋士もいたでしょうし、全く気にしない棋士もいたでしょう。僕はこの時、谷川さんもうっかり本音を発してしまい「君たち、悔しくないのか」という部分だけを面白おかしく取り上げられてしまったのかなと思っていました。しかし、今にして思うと敢えて若手棋士の耳に届くことを期待しての発言だったと考えるようになりました。

そして昨日行われた茶王戦というイベント、高見泰地叡王の指名を受けた谷川九段は久しぶりに和服姿での対局となり、勝負は熱戦となりましたが、終盤の読みがわずかに高見さんが上回り、谷川さんは敗れました。キリン生茶とのコラボ企画ということで、対局後は茶道師範である大柴宗徹さん、実はルー大柴さんなのですが、彼がたてたお茶を茶道の先生の指導の下、谷川さんと高見君がお茶を飲むというシュールなコントにも見える光景をはさみ、聞き手の香川愛生女流三段を交えて谷川さんと高見さんの対談が始まりました。

「あの言葉は昨日のように覚えています。谷川先生にしか言えない言葉。自分はそれで発奮して叡王になることができました」と高見さん。さらに「棋士として常に心掛けていることは何でしょうか？」と質問。谷川さんは「練習の時は謙虚に、ただ対局になったら自分が一番強いぐらいの自信をもって挑むことですかね」と回答。そして「高見さんの場合、叡王となり、急激に地位が上がったことで苦しまれたこともあったでしょう」との大先輩の言葉を聞き、高見さんは目頭を押さえたように見えました。

谷川九段は1月18日、唯一の弟子である都成竜馬五段との対局があります。この日は谷川さんも被災されたあの震災の翌日、そして都成君の誕生日の翌日でもあります。師弟ともに生涯忘れられない日になるのではないのでしょうか。

ナンバーワン、オンリーワン

スマップの「世界に一つだけの花」に「ナンバーワンになれなくてもいい。もともと特別なオンリーワン」という歌詞が出てきますが、確かにその通りではありません。ただ反面、この歌詞はとても優しく、現実社会を生きているとそれを実感できない人も多いと思います。それでも人はだれ一人として同じに人間はいないので、槇原敬之さんの言葉は正しいのだと思います。

テニスの大坂なおみ選手が全豪オープン女子準決勝で勝利し、日本勢初の決勝進出を決めました。もし優勝となると、4大会連覇の快挙。世界ランク1位も目前のところまで来ました。まさにナンバーワンの座が目前に迫っています。大坂選手の持ち味は何といってもこれまでの日本人選手にはなかったサーブの威力。男子テニスの錦織選手もここが最大の泣き所の1つですが。そしてコートを離れば、愛くるしい女性です。しぐさや言葉が可愛らしく彼女に言わせると可愛らしく弱いとされるメンタルが「3歳児から4歳児になった」と控えめな発言で笑わせてくれます。まだ21歳。これから、まだまだ強くなって時代を築いてほしいですね。

将棋界では谷川浩司九段が通算勝利数で1309勝となり、中原16世名人の記録を超えました。個人的には「あの中原さんの勝ち星を超えたのか」と感慨深かったのですが、報道はまったくと言っていいほどなかったです。だからこそのブログでささやかな抵抗を。羽生善治九段が今年の前半には大山15世名人の通算勝利数を超え、史上1位になるとありますが、この時は大きく報道されることでしょう。やはりナンバーワンとか前人未到という記録でないとなかなか取り上げてもらえませんね。谷川さんは将棋界を代表するオンリーワンです。前進流といわれる駒を前に繰り出す果敢な棋風。そして終盤の光速流と呼ばれる切れ味鋭く華麗に決める終盤。そして棋士としての美しい佇まい。記録の面では羽生さんには劣りますが、その芸術性の高い将棋は今後語り継がれていくでしょう。そして羽生さん、谷川さんの両面を持ち合わせる可能性があるのが藤井聡太七段だと思われます。藤井君、昨日の勝利おめでとう。

野球界では長嶋茂雄さんが「記録の王、記憶の長嶋」という言葉を残しています。それは言い換えれば、王さんはナンバーワン、長嶋さんはオンリーワンということなのでしょう。現在の野球界でのオンリーワンといえば何といっても大谷翔平選手の二刀流ですね。彼には今年は打者に専念して、近い将来ナンバーワンの選手になってもらいたいです。あのベブルースのように。

年末、紅白など音楽番組を見る機会が増えましたが、あいみよんの「マリーゴールド」はいい曲ですね。作詞作曲も自分でして彼女の才能の高さを感じます。宇多田ヒカル、椎名林檎に次ぐ存在になるかもしれないくらいの可能性を秘めているといっても言い過ぎではない気がします。ちなみに宇多田さんはナンバーワン、椎名さんはオンリーワン。あいみよんはどのような評価を受けることになるのでしょうか。

あいみょんはいま輝いている

今日のTBSラジオ「爆笑問題の日曜サンデー」のゲストはあいみょんでした。太田光さんのリクエストだったのですが、肝心の太田さんはインフルエンザということで残念ながら欠席。しかし太田さんはあいみょんを相当、好きらしく会えない悔しさを手紙に込めました「拝啓、あいみょん様」で始まった文章は太田さん独特のユーモアを交えながら「紫式部以来の逸材」（笑）など絶賛する内容でした。その中で「今の風潮にどうしてそこまで逆行するのかという音楽」というのは僕も同感ですね。

音楽に限らず無難に表現する風潮があるなかであいみょん、いや、あいみょん様は思いのたけをそのまま見事に言葉に変換しています。書きなぐる感じというんですかね。その表現に見合った曲調、歌声。この切羽詰まった表現は少し尾崎豊的な世界とも似ているような気がしていたのですが、彼女自身はスピッツが大好きで、初めて会ったときは号泣してしまっただけです。スピッツの草野さんもあいみょんも天才だとは思いますが、個人的には結び付きませんでした。しかし、爆笑問題の田中さんは「マリーゴールドを聴いているとスピッツに影響を受けているのがよくわかる」と言っていました。確かに「マリーゴールド」をスピッツが歌っているのを想像するとぴったり合いそうですね。

僕は邦楽の世界にはもうあいみょんのような才能は現れないと思っていました。もし才能そのものはあったとしても、今の世の中にはあいみょんのような強い個性は受け入れられないだろうと。しかし、平成の終わりにきてこの大ブレイク。彼女の表現は時代に逆行していると同時にやはり普遍的なものでもあるのでしょう。

「パン屋さんになりたかった」「移動手段はスケートボード」。あいみょんがラジオに残っていた言葉です。才能というのは儚いものでどこで壊れてしまうのか、枯渇してしまうのかわかりません。それでもいま彼女の天賦の才能が輝いているのは間違いありません。さて、そろそろスケボーで疾走しながら歌うあいみょん様も見ようかな。

藤井聡太が強すぎた

朝日オープン本戦トーナメントが始まりました。昨日のブロックでは行方八段が準決勝進出を決め、そしていよいよ今日は地元名古屋で藤井聡太七段が登場しました。

藤井君を除けば、他の三人は名人・A級のみという厳しいブロックです。しかし彼の強さは圧倒的でした。本戦トーナメント初戦は稲葉八段でした。降り駒はまたしても後手。しかし持ち時間の短い戦いでは、トッププロでもミスが出やすいため、それほど後手を気にする必要はないと思われます。

戦型は今大流行中の角換わりの最新系でした。後手の藤井七段が積極的に端から攻め、歩を連打し香車を吊り上げての角打ち。藤井君は歩切れに。しかし、ここから藤井君が厳しく攻めて稲葉さんを圧倒しました。歩のない将棋は負け将棋のはずなんですが、天才としか言いようがないです。

準々決勝は佐藤天彦名人を破った糸谷八段。早指しは得意の棋士です。またも藤井君は後手。初戦と同様、角換わりにはなりましたが、早繰り銀という、文字通り銀を早く繰り出していく戦いになりました。これも端からでした。糸谷さんの一瞬の陣形の不安定な形を藤井君は見逃しませんでした。歩の頭に角を打つという、これまた少々強引な、若気の至りのような将棋に映るのですが、これも藤井君が実行すると決まってしまうんですね。人間の目から見ると投了図は稲葉戦と比べると形づくりはできたのですが、コンピューターソフトは形づくりなんて評価してくれないですよ。冷たい。この将棋も藤井七段の圧勝でした。

藤井君は持ち時間の長い将棋ではやや守備的な将棋を指すことが多いのですが、時間の短い棋戦になると攻撃的な将棋になり、勝った時の強さがより際立ちます。この将棋を見る限り、今期の朝日オープンも藤井君が本命ではないでしょうか。

これだけの強さを見せつけられると、当然タイトル戦登場の期待は高まります。実力的には今年中に登場するのが自然かもしれませんが、可能性のあるのは3つだと思います。そうなるとなかなか難しくも感じますね。和服姿でタイトル戦で対局する高校生棋士を見てみたいものです。

藤井聡太、天才ゆえの敗戦

昨日、順位戦C級1組での対局で、藤井聡太七段が近藤誠也五段に敗れ8勝1敗となりました。これでデビュー以来の順位戦での連勝記録は18でストップ。中原誠16世名人の記録を破ることはできませんでした。

それよりも何よりもB級2組への昇級に赤信号が灯りました。8勝1敗に近藤五段、船江六段、師匠である杉本七段、そして藤井七段の4人。昇級できるのは2人で、藤井君は順位が最も低いいため、4番手まで後退しました。藤井君が最終局で勝ち、なお、上位3人のうち2人が負けるという状況にならない限り、来期もC1にとどまる事になります。

昨日は珍しく、終盤でミスが出たようです。近藤五段の9八歩打に対し、同香と取ると思われたのですが、藤井七段は考えた末に攻めの手順を選びました。藤井君が守りを手抜いて攻めに出たということは、ある程度、勝ちを読み切ったのかと思ったのですが、どうやらこれが悪手だったようで、相手の玉に迫りこそしたものの届かず、最後は即済みに打ち取られました。

この負け方は谷川九段によく似ています。普通なら香車の頭の歩を払っておくところですが、読みの深さ鋭さゆえに強く踏み込んだものの、わずかに誤算があり、結果的に無理攻めになってしまったところでしょうか。天才ゆえの敗戦ともいえるのですが、珍しく藤井君はプレッシャーを感じていたようにも思います。

彼のこれまでの言葉の端々から、名人につながる順位戦が最も重要な対局と位置付けているのは理解していました。勝てば上がれるかもしれない。形勢は互角。そこに勝利の細い光が見えた気がした。普段なら藤井君は若さに似合わず冷静ですから、100パーセントの確信がなければ、まだ踏み込まなかったのではないのでしょうか。まあ、藤井君もやはり16歳らしいところもあるのかなと少し安堵する気持ちもありますね。

さて順位戦ですが赤信号と記しましたが、藤井君含めて最終局は4人とも対戦相手が強豪ぞろいでまだ何が起こるかわかりません。正直昇級してほしいのですが、ここで少し挫折を味わうのも大きく飛躍するための経験かなとも思います。もし昇級がならなくても谷川さんの最年少名人の記録を破る可能性は残されているはずです。谷川さんは4月生まれ、藤井君は7月生まれという誕生月の関係上、1度躓いても、3か月上回れる可能性は残るでしょう。どちらにしても最終戦は注目ですね。

「盤上の向日葵」感想

2018年本屋大賞2位「盤上の向日葵」の感想を。読者大賞というのは書店員の投票によって決まるんですね。

一言でいうとタイトルに含まれている向日葵とはむしろ対照的な、いまにも降り出しそうな雨雲が物語全編を覆っているような印象でした。向日葵も小説の中で効果的に使われてはいるんですが。

上条桂介六段という将棋棋士がこの小説の主人公で、今から約四半世紀前、タイトル戦の大舞台に立つのですが、彼がそこに至るまでの軌跡と、日本に7つしかない高級駒とともに遺体が発見された事件の捜査が交互に書かれていて、この2つの話が一本の線としてつながっていく過程を丹念に描いています。舞台を現在に設定しなかったのは、将棋界への影響を考えたからかもしれません。いま将棋界で最も輝いている藤井聡太七段を陽とすれば上条六段は暗い陰を纏っています。将棋界全体を照らす眩いばかりの才能もあれば、悲しい才能もある。上条は後者です。

彼の生い立ちも母親はいなくなってしまう父親には虐待を受ける幼少期。しかし、そんな中でも彼を救おうとする恩人が現れます。そして何よりも将棋との出会い。上条は将棋の大好きな少年でした。才能を見込んだ恩人は上条の父親に将棋のプロ養成機関である奨励会に入会することを許可してほしいと頼みに行くのですが、上手くはいきません。上条は将棋から離れたり、またふとしたきっかけで将棋と再会したりを繰り返すことになります。

もう一つの小説の軸は高級駒とともに遺棄された殺人事件の捜査ですが、中心人物は石破というひと癖あるベテランと佐野というまだ若い元奨励会員の2人の刑事です。本業は一流でも将棋はずぶの素人の石破と、未熟な刑事ではあっても元奨励会員で将棋には詳しい佐野のやり取りも物語を引き締めています。

小説の出来もいいのですが、もう一つの楽しみは将棋の描写です。僕は楽しかったけど、将棋の局面などはかなりリアルでマニアックなため、何が何だかわからなかったという読者も多かったと思います。それでも読者大賞2位というのは、書店員の方々の読書のプロとしてのレベルの高さを示しています。わからない部分をうまくスルーして楽しむ技術は凄いですね。

文章だけを読んでいると男性作家が書いたのだろうと推測してしまいましたが、柚木裕子という女性の作家です。将棋の盤面の描写だけでも相当なエネルギーを使わないと書けないはずです。彼女はどうしてもこの小説を書きたかったのだという思いが伝わってきます。

登場人物にはプロアマ問わず何人かの実在の棋士たちがモデルになっていたり、居飛車穴熊や米長玉なども登場して将棋ファンには楽しめると思います。藤井システムが出てこないあたりもき

ちんと精査していますね。この小説が描く時代のもう少し後ですから。ちなみに藤井システムとは振り飛車党の改革者、藤井猛九段であり、藤井聡太君ではありません（笑）

「君はロックを聴かない」分析

年末の音楽番組で「マリーゴールド」を聴いてからあいみょんにはまりつつあるのですが、新たに気になった曲がありました。1つは「生きていたんだよな」。まくし立てる様なセリフから入るこの曲は、現代社会への痛烈なメッセージです。この曲から尾崎豊の世界観と似ているのではと記したのですが、彼女が最も影響を受けたのはスピッツと話していました。個人的に引っかけたもう1つは「君はロックを聴かない」。この曲好きですね。スピッツ的な色彩もはっきり感じ取れます。

埃まみれドーナツ盤には
あの日の夢が踊る
真面目に針を落とす

この表現は明らかに昭和ですね。CDではなくレコード。あいみょんの父親が浜田省吾のファンらしいのですが、彼女は幼いころからそうした音楽を聴いて育ち、自然とこうしたフレーズが身についたのだと思います。

僕の心臓のBPMは
190になったぞ
君は気づくのかい？

男心がよくわかるね。というよりもあいみょんには、昔の若い男性が憑依している気がします。「私」より「僕」の方がしっくりくと語ってもいました。彼女の心に住み着いているというか。それぐらいリアリティーのある歌詞を書きます。彼女の場合、歌詞が先、曲が先ということではなく、ギターを弾きながら同時に作ってしまうそうです。

君はロックなんか聴かないと思いながら
少しでも僕に近づいてほしくて
ロックなんて聴かないと思うけれども
僕はこんな歌であんな歌で
恋を乗り越えてきた

このサビの部分、特に好きです。歌詞もメロディーも彼女の声の表現も。この若い男性は彼女がロックなんか聴かないだろうということは大体わかっているんですよ。でもレコードをかけずにはいられない。なぜなら口下手な彼なりの自己紹介だから。理解してくれないだろうけど、理解してほしいという矛盾した思い。野球に全く興味のない彼女をスタジアムに連れて行ってしまふのとの意味合いは同じですね。メロディーも切なくて素晴らしい。

あいみょんにはこれまで通り、自由な表現を続けてほしいです。売れてしまうと、広く浅く好まれるような曲を作ってしまう人が多いですが、彼女にはそのスケールのままさらに大きく羽ばたいてほしいです。個性が強く、なおかつ幅広い年代に受け入れられる稀有な存在になれるアーティストだと確信しています。

藤井聡太、朝日杯連覇

藤井聡太七段が、朝日杯将棋オープン戦で2連覇を達成しました。去年の中学生での優勝ほどの驚きはありませんが、それでも全棋士参加の棋戦での快挙は凄いですね。まだ16歳、高校1年生ですから。

前年優勝のため、本戦シードでベスト16から登場した藤井七段は地元でのA級棋士相手の2局を得意の角換わりで圧倒。ベスト4に進出しました。そして迎えた昨日の準決勝の行方八段戦。腰の重い将棋を指す行方さんは角換わりを避けて矢倉に組みましたが、藤井君は苦も無くうまく対応しました。120手で藤井君が危なげなく勝ち進みました。

休憩を挟んで、午後から行われた決勝の対戦相手は、昨期の不調から完全復活を果たした強敵、渡辺明棋王でした。中学生棋士同士、ファン待望のカードは渡辺さんが角換わりを避け、雁木という戦型になりました。じりじりと陣地を取り合うような将棋になりましたが、藤井君の駒が徐々に拠点を築きながら前進し、次第に渡辺さんを追い詰め、最後は4四龍という華麗な一手で事実上の勝負は決しました。いずれも後手番での勝利。相変わらず、振り駒運には見放されている藤井君ですが、そんなことはお構いなしとばかりに、次々に難敵を下しての連覇達成でした。

もうこの段階までくると、そろそろタイトル獲得に本腰を入れたいところです。藤井君の実力に関しては、もはや説明不要なのですが、1つ課題を挙げるとしたら、時間の使い方だと思われます。時間を使い切り、秒読みに追われた時にやや不安があります。こないだの順位戦の近藤五段戦もその展開でした。朝日杯は持ち時間40分。この棋戦に相性がいいのは間違いないですから、朝日杯の時間の使い方を取り入れて、もう少し決断良く指せば、終盤でも時間を残すことにつながり、定評のある読みの精度もさらに上がることは間違いありません。

もう1つ見えてきた記録があります。中原16世名人の8割5分5厘という最高勝率記録です。昨日の2勝を加えた藤井七段の今期成績は40勝7敗、8割5分1厘。あと2連勝で記録を上回ります。しかしまだ3月末までありますから、最低でも5、6局はありますから1度でも負けてしまうと難しい状況です。いかに藤井君といえども、そう何度も訪れるチャンスではないと思うので、ぜひ半世紀以上残っている偉大な記録を塗り替えてほしいところです。

2人のヒロインを襲った病魔

平成も終わりにきて、これまでの常識を超える若い才能が続々と出現している印象です。将棋の藤井聡太、野球では大谷翔平、テニスの大坂なおみ。卓球界も男女ともに10代の若い選手が中国のトップ選手を破るなど頼もしいですね。そして水泳界では池江璃花子。東京オリンピックという個人的にまず思いつくのが池江選手でした。彼女がまさか白血病の診断が下されるとは想像もつきませんでした。

リオ五輪での活躍もさることながら、昨年ジャカルタで行われたアジア大会での日本人初の6冠は驚異的であり、東京五輪でのさらなる爆発を予感させるものでした。しかしそれからわずか半年、彼女に重い病が下されました。タイムも伸びない。疲れが抜けない。まさかその原因が白血病とは。本人も実感がなかったと告白しています。

白血病というと夏目雅子さんや「世界の中心で、愛を叫ぶ」など不治の病のイメージがありますが、今では10代の7割が回復しているということなので、また元気な姿を見せてくれることを願っています。かといって東京五輪に彼女が出場するのはほぼ無理とされます。現実的には2024年のパリ五輪でしょうが、病気が回復してもオリンピックレベルの選手に戻れるとは限りません。個人的には病気が治り、プールに戻ってこれれば満足です。子供たちの前で泳ぎの手本を見せる池江選手が見ればそれで充分です。今春、高校卒業だったと思います。まだ18歳。彼女のこれからの長い人生は始まったばかりとしたいと思います。

もう1人のヒロインは堀ちえみ。堀さんは口腔がんでステージ4とかなり進行した状態での判明でした。彼女のブログを少し読みましたが、「私はもういいかなとも思いましたが、高校1年の娘に泣かれて病気と戦うことを決意しました」といったことが記されていました。

堀ちえみといえば、僕らの世代は「スチュワーデス物語」です。彼女の曲はあまり覚えていないのですが、このドラマが流れている60分間は彼女のファンでした。「ドジでのろまなカメ」と言われるほど、不器用だけど、風間杜夫演じる熱心な教官の指導もあり、次々とスチュワーデスになるための試練を乗り越えていきました。そして教官への淡い恋心。懐かしいです。僕は今でも彼女を思い浮かべる時、当時の顔を思います。そんな彼女も波乱万丈の半生を送り、50を過ぎたんですね。

大変な手術になるのだと思います。自分のためでなく子供たちのために闘病することを決意した彼女は勇敢で優しい人だと思います。ぜひ、手術が成功して元気な姿を見せてほしいと願います。

それにしても人生とはなんと過酷なのだろう。池江さんにも堀さんにも栄光はあったけれど、ど

うしても試練のほうが大きく見えてしまう自分がいます。生きる苦しさに相当する価値などあるのだろうか。個人的には何年も前から人生そのものは修行で、いつかそれは自分に返ってくる。しかし、それが生きているうちなのか死後なのかわからない。死後の世界があるのかも分からない。そんな考えが浮かんだり消えたりしています。

A級順位戦最終局 名人挑戦は誰か？降級は？

今期の順位戦は師弟同時昇級がかかる藤井聡太七段のC級1組に注目が向いていますが、本来的には将棋界の一番長い日とも称されるA級順位戦最終局が注目です。3月1日に一斉対局ですから、まもなくですね。

佐藤天彦名人への挑戦権を獲得する可能性のある棋士は3人。現在、7勝1敗と単独首位の豊島二冠、それを6勝2敗で追う広瀬竜王と羽生九段です。自力で名人挑戦を決められるのは豊島さんだけなので、豊島優位は確かなのですが、広瀬さんと羽生さんが直接対決で必ずどちらかが2敗を守るため、豊島さんが負ければ確実にプレーオフとなります。

豊島さんの対戦相手は久保九段。今期の順位戦成績は4勝4敗。久保さんといえば、昨日までは久保王将だったのですが、現在絶好調の渡辺棋王に4連敗のストレート負けを喫し、気分的には沈んでいるでしょう。順位戦も挑戦も降級もなく、モチベーションを上げる材料も乏しいと思われる。

対する豊島二冠は念願の名人挑戦がかかった大一番。ポーカークフェイスの豊島さんですが、心の底では是が非でも勝つという強い決意で臨むはず。ひとつ不安があるとすれば、去年も最終戦に勝てば挑戦という立場だったのですが、豊島さんは敗れ前代未聞の6人でのプレーオフとなり、挑戦を逃しました。今期は念願のタイトルを2つ取った豊島さんが精神的な成長を見せるのか、捌きのアーティストと言われる久保九段が意地を見せるのか注目です。

羽生広瀬戦は竜王戦の熱戦再びというところですが、このところ広瀬さんが調子をやや落としており、わずかに羽生さん有利と予想します。そしてもし豊島さんが久保さんに敗れプレーオフとなれば、昨年同様追いついた者の勢いが勝る可能性はかなりありますね。

そして降級争いですが、すでに阿久津八段の降級は決まっています、残り1名が誰になるのが焦点です。可能性があるのは2勝6敗の深浦九段と3勝5敗の三浦九段です。最終局で「深浦勝ち三浦負け」となると星は並ぶのですが、順位の関係上、三浦さんが降級となり予断は許しません。深浦さんの対戦相手は糸谷八段、三浦さんの対戦相手は稲葉八段。いま最も降級に近いのは深浦九段ですが、深浦さんの執念、三浦さんの最近の不調を考慮すると最後まで分かりません。

名人挑戦に話題を戻しますが、来期は復活した渡辺二冠がA級に返ってくることさらに争いは激化し、さらに近い将来、藤井君が上がってきます。それまでに豊島さん、広瀬さんは初の名人位、そして羽生さんはタイトル100期とそれぞれの思いがぶつかり合うこととなります。可能性のある3人としては是が非でもここで挑戦権を獲得しておきたいところです。

紅白、箱根駅伝

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

早速ですが、年末年始番組について。

紅白歌合戦はあまり熱心には見ていなかったのですが、松田聖子の往年のヒットメドレーは楽しみにしていました。しかし、時の流れは残酷でした。聖子さんのキーはアイドル時代と比べてかなり低くなっていて、あの頃の眩しさは感じられず、寂しい気持ちになりました。

実質的に大トリを務めたサザンは良かった。それと今更ながら乃木坂46の白石麻衣は美しいですね。かわいいタイプのアイドルに囲まれて少し浮いている気がしました（笑）それだけ彼女には完成された大人の美を感じます。例えたらアイドルグループに北川景子が入っているような印象です。

箱根駅伝は東海大が初優勝。青山学院大の5連覇の夢を打ち砕きました。青山学院は4区、5区での失速が響きました。往路優勝しながら3位に終わった東洋大は、やはり層の厚さに欠けていました。数年前からスピードランナーが揃っていた東海大が長距離でも持ちこたえられるだけの強さを身に着け、これまでの記録を大幅に更新するタイムでの総合優勝となりました。10区間中5区間で新記録が作られるなどハイレベルな戦いになりました。どの世界でも同じですが、青学というスター軍団の出現が、他校のレベルを引き上げたと言えるでしょう。

紅白、箱根ともに視聴率は好調だったようです。要因はいろいろあるとは思いますが、そのひとつに景気が良くなかったことが挙げられます。不景気になると年末は紅白、年始は箱根駅伝という伝統的な国民的番組で無難にという思考になりやすいようです。中小企業はもともと厳しい状況ですが、頼みの綱である日経平均株価が前年割れしたのは、安倍政権にとって大きな痛手です。そこで話は飛躍しますが、またしても消費増税を延期する可能性も捨てきれません。当然、増税延期の信を問う解散総選挙という流れがありうるということです。たかが紅白箱根、されど紅白箱根ですね。

闘将・星野仙一を悼む

中日などで選手、監督として活躍した星野仙一さんが亡くなりました。ずいぶん急でしたね。

僕が子どもの頃、星野さんは現役でしたが、すでにピークを過ぎていました。当時は30才を超えると、投手は急激に衰える時代でした。だから、スピードでは、チームメイトの小松辰夫や鈴木孝政には遠く及ばない。同世代の大洋の平松やヤクルトの松岡同様、「5回を3点で抑えてくれればいい」とアンチ巨人の僕は思っていました。昭和50年代というのは空前の打高投低の時代。巨人を完封することなど夢のまた夢でした。それでも気迫を前面に押し出すという点では、ナンバーワンだったのではないのでしょうか。

打倒巨人への想いは現役を引退しても全く衰えることなく、1988年に悲願のリーグ優勝。王監督を退任に追い込みました。優勝につながったのは、就任直後に行った大型トレード。ロッテの落合と中日の4選手。しかし、4人の中の中心人物、牛島投手がトレード拒否、引退も考えていたようです。最後には牛島が折れ、トレードが成立。名古屋駅で牛島さんを見送る星野さんの姿は忘れられません。

監督としての手腕もさることながら、スピーチの名手でもありました。ナゴヤ球場最後の試合と巨人優勝が重なった日のスピーチで「巨人ファンの皆さん、優勝おめでとうございます」という言葉も印象的です。

2003年には、あの知将・野村克也でも立て直せなかった阪神を18年ぶりに優勝させました。そして楽天に移り、巨人を倒し初の日本一。仙台で一番になる。まさに名は体を表すの典型でした。

70歳。今の時代としては、人生の時間はさほど長い方ではないかもしれませんが、しかし、中身は非常に濃密だったのではないのでしょうか。今頃、先立たれた奥さんと参謀の島野コーチと再会し、「久しぶりだな」と張りのある声が、天国に響いているのではないのでしょうか。星野さん、お疲れさまでした。

自殺のニュースばかりが目に入る

関東地方は4年ぶりの大雪でした。見ているだけなら綺麗だけど、もう雪はこりごりです。

先日、2017年の自殺者数が発表されました。2万1千人余り。男女比は7対3。8年連続の減少だそうです。それでも大変な数には変わりなく、自殺企画者数は、まあ、これは様々な説がありますが、ほぼ10倍ぐらいではないかと推測します。20万人以上の方が、自ら死を選ぼうとしたわけです。それに、本当は自殺でも、隠すケースもあるから、実際のところ、どれだけの人が自殺でなくなっているのかわかりません。

1月21日に評論家の西部邁氏が自殺。奥さんが亡くなってから、自殺をほのめかしていたようです。西部さんは保守派の論客で強い印象がありましたが、内面はナイーブな人だったのかもしれない。

そして今日なのですが、スピードスケート女子短距離でソチ五輪代表の住吉都選手が亡くなっていたことがわかりました。死因は非公表ですが、これは個人的な憶測ですが、昨年の平昌五輪選考会で代表の座を逃したと無関係ではないような気がします。まだ30歳。今をときめく金メダル候補の小平選手と同学年です。あまりにも光と影のコントラストがくっきりしてしまいました。

自分も昨年、後半からいろいろあり、こうしたニュースが目に入りやすい精神状態になっているのかと思います。自殺が一番多いのは40代男性。そこにも当てはまってしまいます（苦笑）。何よりもパニック障害を抱えながら29年生きてきた疲れが出てくるのは自然なことだとは思いますが。

では自殺したいのかと自らに問いかけると、首を縦には振れないですね。消えたいとは思いますが、綺麗に消えるなんてできませんから。とにかく1日1日を積み重ね、生きていきたいというのが、現在の気持ちです。

貴乃花、落選

僕は若いころ、「はやく老人になりたい」と思っていました。何とか大学には入れたものの、のちにパニック障害と分かるのですが、原因不明の病気と友人たちとの板挟みの状態でした。彼らにはエネルギーがあり、必死についていこうとしたのですが、無理でした。老人になれば、皆、エネルギーが落ち、家にいても、何も言われぬ生活になるだろうと思ったのです。

こういう若者もめったにいないとは思いますが、自分と同世代では、1人だけ知っています。「早く老人になりたいんですよ」。おそらく、当時、貴花田のしこ名であったろう若者は確かにそう言ったのです。僕からは光輝いて見えた彼の意外な告白でした。

あれから、ずっと得体の知れない重い荷物を貴乃花親方は背負ってきたのだと思います。きっと理想は気高く美しいのだろうけれど、生き方があまりにも不器用。若貴兄弟の優勝決定戦。親方から、忖度しろという指示があったのでしょ。貴乃花はあっけなく転びました。敗北の演技すらしませんでした。これが、花田家の崩壊の発端だったような気がします。

時が流れ、日馬富士暴行事件で、被害者・貴ノ岩の師匠である貴乃花親方は、世間の常識とはかなり隔たりのある行動をとりました。勿論、彼なりの考えがあったのでしょ。そして、いつしか貴乃花対白鵬へと焦点が移っていきます。

白鵬も若いころは、双葉山を尊敬し、貴乃花のファンでもありました。しかし、次第に品格云々よりも、結果を求めるあまり、張り手、かち上げが彼の代名詞になってしまいました。その一方、それらを多用した事で優勝40回という前人未到の大記録を打ち立てました。

これに対し、貴乃花の優勝回数は22回。白鵬の半分強です。品格、内容にこだわるあまり、結果としては白鵬に大きく及びませんでした。当時、曙、武蔵丸と体の大きなハワイ勢を相手にも、張り手などは見せずに、体重を増やすことで、彼らの強烈な立ち合いを真正面から受け止めようとした。そして膝に負担がかかり、故障がちになった彼は、大鵬の優勝記録には遠く及ばず引退しました。

貴乃花親方と白鵬の相撲観の違い。八角理事長を筆頭とする相撲協会との考え方の隔たり。貴乃花はあえて理事選に立候補し、負けを選びました。彼のあまりにも高い理想が、実現する日が来るのか。僕は悲観的な見方をしていますが、彼にしかできない役割は存在するのではないのでしょうか。

平昌オリンピック開幕。金メダル予想

いよいよ平昌オリンピックが開幕しました。すでに女子のスピードスケート3000mやスキージャンプの男子ノーマルヒルなどが行われました。オリンピック8回目となる葛西選手もよくやったと思います。1992年のアルベールビルが初出場ですから驚きです。この大会は伊藤みどり選手がトリプルアクセルを飛び、銀メダルに輝いたことが記憶に強く残っています。橋本聖子さんがサラエボ五輪から3度目の挑戦で銅メダルを取ったのもアルベールビル五輪だったと思われる。

ここで金メダル予想。女子スピードスケートは小平選手と高木美帆選手で2個、プラスパシュートで計3個の金メダルと予想します。ちょっと欲張りすぎですかね。加えて羽生、宇野両選手を擁するフィギュア男子でも金メダルが期待できます。あとはノルディック複合の渡部選手もいけるとしましょう。しかし、あのキングオブスキーと呼ばれた荻原健司さんですら個人のメダルはとれなかったことからみても、決して容易ではないことは確かですが。これで金メダル5個。この辺でやめておきましょう。これまでの最高が地元・長野五輪での5個ですから。

僕が注目しているのは高梨沙羅選手です。個人的な直感でしかないのですが、もしかしたら彼女、今回は最後のオリンピックになるのではないかと考えています。ひとつには技術的に完成度が高く、これ以上の上積みが見えないのではないかと。加えて海外のレベルが上がった事。それと、あどけない頃から沙羅ちゃんを見てきて、彼女は現役生活を長く続けるタイプではないという漠然とした予感です。

例えば、長らく現役を続けてきたスピードスケートの岡崎さんや、モーグルの上村愛子さんとはタイプが違います。長く咲いて、人々を楽しませる花もあれば、短く咲いて散り際の美しさを見せる花もある。沙羅ちゃんは後者に思えます。勿論、実際に戦って気持ちが変わることもあるので、何とも言えませんが。上記の予想には入れていませんけど、沙羅ちゃんにはぜひ納得のいくジャンプで金メダルを取ってもらいたいです。またその可能性は十分あるとみています。

これだけ見ると、金メダル至上主義者のようですが、前回のソチ五輪で最も記憶に残っているのは浅田真央さんのフリーの演技ですから、メダルと記憶とはまた別物ですね。

病院へ・惜しい

病院へ行ってきました。最近はずっと電車に2駅乗って、通院しているんですが、以前は行きも帰りも電車の中で立っていました。しかし、最近はずっと座っています。以前は不安から浅く、前傾姿勢に座っていたのですが、最近はずっとできる限り、深く腰掛け、背を伸ばすことを意識しています。昔から、病気であるなしにかかわらず、姿勢というのは、いろいろな意味で大切というのは理解していたのですが、つい忘れがちになります。しかし、それを思い出させたのは長島一茂さんの背筋をピンと伸ばした姿でした。一茂さんも以前はパニック障害にかなり悩まされたようですが、今は日常生活には支障がないぐらいに回復しているようです。

僕は秘かに思い立ちました。2, 3駅にとどめている電車の距離を伸ばしてみようと。頓服薬をポケットに入れて。最終的には東京が目標です。1時間以上かかりますが、出来れば実現したいですね。無理かもしれませんが。それで何かが変わってくれればと思います。

オリンピックは惜しい銀メダルが続いています。特に女子スピードスケート。わずか0.2、0.3秒の違いでメダルの色が変わってしまいます。日本人は真面目ですから、どのレースでも全力を尽くします。よって小平選手も、これまでは500m、1000mと高い勝率をあげてきました。しかし、外国勢はオリンピックで力を2段、3段上げてくる。ここで逆転が起きてしまう訳ですね。

小平選手は勝負には負けたかもしれませんが、自分には勝ったと思います。見事な滑りでした。高木美帆選手は銀、銅と2つのメダルは立派としか言いようがありません。あとはパシュートの金で3つそろいますね（笑）最後に沙羅ちゃん、銅メダルおめでとう。感動した。

金メダルラッシュ・藤井聡太六段快挙

まずは先ほど終わった女子スピードスケート女子500m。小平選手金メダル、お見事！オリンピック新記録の36秒94。一昔前の男子のタイムですね。前回大会でメダルに届かなかった小平さんが年齢的にはピークを過ぎてもおかしくない30歳を越えて、なお進化を続ける凄み。そしてプレッシャーに打ち勝った集中力。相手のミスでなく自分の実力を出し切ったの金メダル。素晴らしかったです。

昨日のフィギュアスケート男子での羽生選手の金メダル、宇野選手の銀メダルでの日本勢の金銀独占。かつては女子の陰に隠れていた男子フィギュアですが、すっかり立場が逆転しました。やはり羽生選手に尽きますね。ジャンプの美しさが抜きん出ていました。試合後、彼は言いました。「生きていてよかった」と。逆にこの言葉から、怪我をした時の絶望感の大きさが伝わってきました。マスコミは「メンタルが強い」という言い方をするけれど、ちょっと違和感があります。絶望、不安。そうした自分の弱さと堂々と向き合って、それを克服した羽生選手に僕はさすがしさを感じるのです。まずはゆっくりと休んでもらいたいですね。

少し話は変わりますが、今回のNHKの冬季五輪テーマ曲、セカイノオワリの「サザンカ」。これまではあまり感じなかったけれど、偶然ラジオで流れているのを聴くと、いい曲ですね。オリンピックにふさわしい夢、努力を織り交ぜながら、夏季五輪の活力とは違った冬季五輪独特の儂さのようなものを巧みに表現しています。そういう意味ではセカオワもうまく平昌オリンピックに標準を合わせたなと思います。なかなか彼らは非凡ですね。

同じ日に、将棋界も大きな動きがありました。朝日杯オープン戦準決勝で藤井聡太五段が羽生竜王を準決勝で破り、優勝しました。早くも棋戦優勝を飾り、六段昇進を決めました。藤井君が羽生さんに勝ったことに驚きはありません。実際にはかなり力が接近していますから。現在、将棋界はこの2人を含めた10人から15人が横一線で並んでいるような状態だと思います。ここからだれが抜け出すのか？一番確率が高いのは5人、3人と徐々に絞られていく展開ですかね。最も若い藤井君がそこに残る可能性はかなり高いと思われます。高校生のうちにタイトルも取るでしょう。それにしてもまだ中学生。恐るべき棋士が出現したものだと思えます。

竹俣紅株を買ってみた・里見香奈無念

女流棋士・竹俣紅の紅本というフォトエッセイを買いました。

彼女を最初に知ったのはネプリーグの天才キッズとして出演していた時でした。その日、菅野美穂が「ギルティー」というドラマの番宣に来ていたから、そこにチャンネルを合わせたのですが、目に留まったのが紅ちゃんでした。目立ったのは小学5、6年だった彼女の利発さでした。ゲストの菅野さんをそのまま小さくしたような。

以後、女流棋士になった時など、節目、節目では気にしていたのですが、ここにきて徐々に露出も増え、フォトエッセイを発売することを知り、どのように成長し、今どんなことを考えているのかを知りたく思い、購入してみた訳です。

中身はあまり書きませんが、全体的には順調に大人の階段を上っているなと思いました。結構、言葉もはじめて書いているのですが、「お団子」「お抹茶」など品の良い言葉も混ざっていてなかなか面白いです。

高校を卒業した時、「女子高生じゃなくなったら価値がなくなると言うんですが？」とインタビューされたことがあったそうです。その場では答えなかったでしょうが、その答えはなかなか頓智が聞いています。女子高生を枝豆にたとえ、成長すると大豆になる事を交えながら、自らの主張を述べています。

共感できたのは、人生はいつか終わるから、その前にやるべき事をなすという考え方です。好きな俳優さんが急死したこともあり、より身に沁みました。

ほかにも、大学生活、恋愛結婚観、尊敬する人などの彼女の考え方が載っています。写真の方ですが、若い女の子が着るような服と、和服の両方が楽しめます。顔はAKBにいてもおかしくない、今どきのアイドルのようにも見えるし、また若い頃の菅野さんを彷彿とさせるような、写真もありますね。

とにかく、クレバーな彼女が今後どういった方向に進むのか楽しみです。個人的には、こうした多才な子を将棋界という一つの狭い世界に押し込めておくのは勿体ない気がします。

同じく女流棋士の話題です。プロ棋士を目指して三段リーグで戦っていた里見香奈女流五冠が、年齢制限のため退会が決まりました。正直、男性プロ棋士の卵たちを相手にここまで戦えるとは思っていませんでした。里見さん、お疲れ様でした。

渡辺明A級陥落、新旧天才の明暗

昨日、A級順位戦最終局が行われ、6人のプレーオフという結果になりました。この6人の中に羽生竜王、佐藤康光九段と40代後半の棋士が入っているのが目立ちます。

そんな中、渡辺明前竜王は因縁の相手である三浦九段に敗れ、A級陥落となりました。やはり、あのスマホ問題以降、被疑者とされた三浦さんはもちろん、渡辺さんも相当、苦しんだのではないかと思います。それ以降、渡辺竜王は不振に陥り、竜王の座を羽生さんに奪われ、そして今回の降級となってしまった訳です。あの騒動の時、だれが今の将棋ブームを予想しえたでしょうか。まさか藤井聡太という救世主が現れるとは。

そうした心の問題とともに、年齢的に難しい時期に差し掛かっているのだと感じます。谷川さんも、羽生さんも今の渡辺さんの年代の時に、それまでにない不振に陥りました。確かに20代のころに比べると、記憶力や頭の回転は落ちてくるのは確かでしょう。こないだトップ棋士、10人から15人が横並びと記しましたが、どうやら渡辺さんはその集団の後方に下がっている気配です。

ともかくにも、羽生さんの手を最初に震わせた男。そして竜王戦9連覇の偉業を達成した大棋士です。このまま名人はおろか、挑戦者にもなれずに終わってしまうのは寂しいですから復活してほしいですね。

対照的に足取りが力強いのが藤井聡太六段。こないだ、阿部隆八段戦を少し見ましたが、夜9時台でまだ中盤戦でした。その原因は阿部さんが藤井君を警戒しすぎたのが原因のようです。その結果、阿部さんは秒読みに追われ、そして勝ち目がないとみるや、あっさり投了しました。相手に投了を早めさせるのは、藤井君の実力がプロ棋士の間でも高く評価されている証拠です。全盛期の谷川さんや羽生さんがそうでした。15歳でその域まで来ていると思うと、末恐ろしいですね。早熟の天才であれば話は別ですが、もし10代後半で大きく伸びれば、これまでの将棋界の常識を覆す空前絶後の大棋士になるのは間違いないでしょう。

師弟対決

今日、王将戦予選で杉本昌隆七段対藤井聡太六段の師弟対決が行われ、111手までで藤井六段が勝ち、師匠に見事な恩返しを果たしました。

千日手指し直し（同じ局面が4回繰り返される）になったり、指し直し後も、杉本七段得意の中飛車に対し、藤井六段にしては珍しい穴熊の堅陣を構えるなど、どちらかといえば、むしろ藤井君の方が負けられない意識が強かったのかなと推測します。

杉本さんが投了し、報道陣が殺到。穏やかにインタビューを受ける師匠とは対照的に、藤井君は表情も硬く、顔つきを見ているだけでは、どちらが勝者なのか分からない様子でした。しかし、次第に少なくなる報道陣と反比例するように藤井君の顔に笑みが浮かぶようになり、対局者から、次第に師弟の関係に戻っていくようでした。最後まで粘っていたカメラマンが藤井君の満面の笑みをとれましたね（笑）

勝った藤井君は勿論、嬉しい勝利に違いはないでしょうが、負けた杉本さんにとって、これ程、嬉しい敗北は生涯初めてでしょう。二人にとっては忘れられない一日になったのは間違いのないところだと思います。いつまでも続く感想戦は、コンピュータソフト全盛の時代に人と人の深いつながりが伝わり、非常に美しい光景でした。

レッサーパンダの風太を見て思う

いつの時代も天才というものは現れるもので、最近では将棋界で藤井聡太という天才。いや大天才が出現しました。天才は人間界だけでなく、動物界にも現れます。パンダの可愛らしさ、愛される能力は、天才的です。45年ほど前に来日したカンカン・ランランの時代から現在のシャンシャンに至るまで、その人気は衰えを知りません。

レッサーパンダの風太の元気な姿を久しぶりにテレビ画面で見ました。聡太ならぬ風太。2本の後ろ足で立ち上がる天才。15歳だそうで、人間でいえば70歳ぐらいの老人という事です。最近では年のせいもあり、あまり立ち上がる姿を見せなくなっただけなのですが、周囲で見ている子供たちは「風太君、立って」と、無邪気に注文します。風太君は自分が立つことを求められているのを知っているのだろうか？もし分かっているのなら、彼も辛いですね。

そんな現在の風太君にも例外はあり、おやつになると立ち上がります。あの往年の姿が見られた嬉しさと、どこか立っている姿がたどたどしく見え、月日の残酷さ、哀愁のようなものを感じました。僕は言葉には出来ない何かを風太君から教わったような気がしました。

時に人は何もしゃべらない動物から、大切なメッセージを受け取っているのだと感じます。最近の猫ブームにしてもそう。可愛いで飼い始めたペットも大抵、飼い主より先に死ぬ。それは悲しみとともに生きる意味を伝えている気がしてなりません。

僕はオグリキャップという馬が好きでした。惨敗続きで迎えた有馬記念。騎手を天才ジョッキー武豊に変えたところで、難しいと思っていました。しかし、オグリは勝ちました。この時、僕は10代の終わりの浪人生。やがてパニック障害と判明する得体の知れないものを抱えて2年近くが過ぎていました。

僕はパニック障害の辛さで泣いたことはないと思います。そこには昭和育ち独特の「男は簡単に泣くものじゃない」という古めかしい不文律があるのかもしれませんが。しかし、スポーツニュースで辛島美登里のサイレントイブのBGMが流れ、オグリの走る姿を目にした時、涙が溢れてきたのを覚えています。これからこんな状態でどうやって生きていけばいいのかという苦悩で一杯の自分に、オグリは優しく何かを伝えてくれたような気がしたのです。

動物はいいですね。時に可愛く、時に我がままに。しかし、みんな毅然と生きている。

貴乃花親方降格

桜が咲き、高校野球が始まり、そしてプロ野球開幕。この季節独特の風景ですね。

相撲協会は度重なる問題行動を起こした貴乃花親方に対し、2階級降格の判断を下しました。一部では解雇の可能性も囁かれていたので、とりあえず土俵際に追い込まれたものの、残れたという形です。しかし、今後も彼の性格を考えると問題行動を起こしてしまう可能性もあるので、その時は首を切られるかもしれません。

今回、反貴乃花の態度を強くあらわした一人に高田川親方がいます。現役時代は元関脇・安芸乃島。藤島部屋の時から、貴乃花と同じ釜の飯を食べてきた人です。彼は引退後、異例の形で部屋を去るのですが、やはり貴乃花との確執があったのだと推測するのが自然でしょう。藤島・二子山部屋の繁栄を気付いた力士たちのその後は波乱万丈です。若乃花は部屋を去り、貴ノ浪はもうこの世の人でなく、貴闘力はギャンブル依存症となり、解雇となりました。そして角界に残ったのが上記の二人なのですが。

貴乃花親方から「一兵卒」という言葉が漏れてきました。この言葉を多用した小沢一郎さんを思い出しました。性格的にはこの二人もダブるところがありますが、小沢さんの改革はやろうとしていたことが見えていたし、また「一兵卒として」という発言をした時には、すでに次の戦略を描いていることが多かったように思います。対して、貴乃花は改革の中身がはっきりしないところがあり、また今後の戦略も描けているとは思えません。

同世代の僕から見ると、眩しいほどに輝いていた若き日の貴乃花。彼の言い分にも一理はあるのだと思います。貴乃花部屋の力士たちは着実に強くなっています。悪いことばかりではない。一から出直して、一代年寄に恥じない親方になってもらいたいです。

大谷翔平は21世紀のベーブルースだ

大谷選手がやってくれました。メジャー初本塁打のスリーランを含む4打数3安打3打点。勝利投手が2日の間に打者として初回にホームランを放ったのは、あのベーブルース以来、97年ぶりとのこと。真ん中低めに見えました。あのボールをホームランできるところに、大谷君の長距離打者としての才能を感じます。例えば、ヤンキースなどで活躍した松井選手ならゴロか、せいぜいライナー性の打球になっていたと思われます。大谷君のリーチの長さ、またバッティングのしなやかさ、そしてパワーがかみ合った一発でした。あとはアウトコースを逆方向にスタンドまで運んでくれれば完璧です。まず彼の力なら問題ないでしょう。怖いのはケガだけではないでしょうか。

個人的には打者としての大谷選手を買っています。勿論、ピッチャーとしての非凡さは言わずと知れたことですが、ただ、野茂英雄さん以来、日本人投手の活躍は当たり前になりました。それに対して打者は、イチロー選手がヒットを打つことに関しては世界一と証明したものの、全体として非力というのが、日本人打者の評価でしょう。日本人打者でメジャーで40本以上打てる可能性があるのは大谷君しかいません。二物を与えられたものの悩みですね。

しかし、それは結果が、そして運命がどちらかの方向に決めてくれるでしょう。ベーブルースも若い時期に打者に専念したからこそ、714本ものホームランを打てた訳ですから。いつまでも二刀流を見ていたいけれど、大きな結果を残すためには早くどちらかに専念した方がいい。難しいですね。ただはっきりしているのは21世紀のベーブルースになれる選手がいたとしたら、それは大谷翔平だという事です。

OPSよりも正確な打撃指標を発見した

野球の数字の話なんですが、タイトルの通りおそらくOPSよりも精度の高い打者の能力の示し方を考案しました。打撃能力値とでも名付けておきましょう。野球好き、数字好きの方は読んでみてください。それは打席数÷(安打数+本塁打数+打点+得点+四死球)です。防御率と同じで数字が小さい方が能力が高いことになります。主な打者の通算成績の例を挙げてみましょう。

王貞治 11866打席÷(2786安打+868本塁打+868本塁打+2170打点+1967得点+2504四死球)=1.15。

4000打数以上の選手ではこの数字がナンバーワンでしょう。もう少し、名選手の数字のみ上げていきます。

落合博満 1.26 長嶋茂雄 1.37 張本勲 1.37 野村克也 1.42 山本浩二 1.35 清原和博 1.35

金本知憲 1.41 松井秀喜 1.25 (巨人時代のみ)

この中では松井選手が王さんに次ぐ数値です。しかし、28歳までの数字のため、日本で現役を終えていたら、いくらか数字を下げていたでしょう。それでも1.25は立派な数値です。ちなみにイチロー選手は4000打数未満のため参考記録ですが1.35です。

そしてMLBですがベーブルースは1.05。驚くべき数値です。さすがは野球の神様。大谷君がどこまで迫れるか楽しみです。

かつて国力を表す数値はGNPで表していましたが、今はGDPが主流です。この打撃能力値も誰かの目に留まり、広まることを期待しています。皆さんも暇な時にでも、好きな選手の記録で遊んでみるのも楽しいかもしれません。

イチロー、また来年。桜の花の咲く頃に

シアトルマリナーズのイチロー選手が、球団の特別アドバイザーに就任し、今季の残り試合に出場しないことが決まりました。この一文だけを見ると事実上の引退ともとれるのですが、イチロー自身は現役にこだわる姿勢を変えていないので安心しました。また噂されていた戦力外とはせず、イチローの意思を尊重してくれたマリナーズという球団は素晴らしい。

メジャー通算3089安打を量産してきた打撃の名人も44歳となり、衰えは隠せません。今季のイチロー選手は15試合に出場、44打数9安打、打率2割5厘の低空飛行でした。日本でプレーが見たいという声もよく聞きますが、イチローは日本の野球がそれほど甘くないこともよく知っている。所属チームに忤度されたり、人寄せパンダになるのは彼の性格からすれば、絶対に嫌だろう。だから個人的には日本復帰はないだろうし、してほしくありません。

少なくとも今シーズンは真剣勝負ができない一抹の寂しさはあるだろう。それでも野球への探求心を強く持ち続けているイチローのことだから、今日から来シーズンへのスタートを切っていると思います。1992年にオリックスに入団して27年目。積み重なった疲れをとると考えれば、プラスになる可能性もあります。そして彼は努力の天才。来年まで体型を維持することには絶対の自信を持っているでしょう。

来シーズン、マリナーズは3月20日からの開幕カードを東京ドームで行うそうです。東京ではちょうど桜が開花する頃ですね。イチローが当たり前の顔をして試合に出場していることを願わずにはられません。

羽生100期直前に思う、三段リーグの意味

佐藤天彦名人に羽生竜王が挑戦している第76期名人戦は第3局を制した羽生竜王の2勝1敗となりました。将棋に限らず、スポーツを含めた勝負を見てきて感じるのは流れの重要性。そして今期の名人戦、どちらに流れがあるかといえば、羽生さんと思われまふ。だから2勝1敗という数字以上に佐藤名人が追い込まれた形と僕は見ています。

決して羽生さんに比べて佐藤さんが弱いという訳ではありません。2年前は佐藤さんが羽生さんを4勝1敗で下し、名人位を獲得しました。実力的にはほぼ互角でしょう。しかし、2年前とは将棋界をめぐる環境はがらりと変わりました。藤井聡太という天才少年の出現により、斜陽産業だった将棋の世界に強い光が射したのです。

もう一つはここ半年ほどは、羽生さんが良い流れを引き寄せている気がします。昨年末の渡辺竜王との竜王戦。一心不乱に永世竜王を目指す羽生さんと、1年前の竜王戦でのゴタゴタで、すっかり悪者扱いされ、それを引きずる渡辺さん。「羽生を震えさせた男」として名をあげ、竜王戦を9連覇した大棋士も精彩を欠き、羽生さんが竜王位を奪還。永世竜王となりました。そして囲碁の井山さんとともに国民栄誉賞を受賞しました。

それから今期のA級順位戦。すでに4敗を喫し、自力での挑戦を逃したものの最終局で3敗の2人が敗れ、6人のプレーオフとなり羽生さんが挑戦者となりました。現在タイトル99期、100期目が名人戦というのも、よくできた流れですが、やはり運も実力のうち。羽生さんは転がり込んできたチャンスを確実にものにしました。

そこで思うことが一つあります。谷川浩司九段の「中学生棋士」という本で知ったのですが、谷川さんや羽生さんの時代は、プロ養成機関である奨励会の三段リーグが中断されていたそうです。加藤一二三九段の時代はそもそも三段リーグがまだなく、三段リーグを通過して中学生棋士になったのは渡辺さんと藤井六段の2人だけです。谷川さんは孤高の天才ですから、三段リーグは早く抜けられたとは思いますが、羽生さんはどうだったかわかりません。ご存知のように羽生さんと同世代には森内九段、佐藤康光九段、そして亡くなった村山聖さんなど、のちに羽生世代といわれる大きな塊がありました。四段になれるのは2人だけですから、羽生さんがすぐに抜けられたかは何とも言えません。あの藤井君でも13勝5敗。5回も負けるわけですから、いかにメンタル的な要素が大きいかが分かります。そう考えると、26歳の年齢制限で退会になった人の中に、未来の名人が含まれていても何ら不思議ではありません。

瀬川五段が道を開いたのですが、奨励会を退会した人も特例でプロへの道は狭いながらも出来ました。勿論、将棋連盟にもプロの人数が増えすぎたら困るなど事情はあるでしょう。勝負の世界は厳しいのが当たり前ですし、運、不運もあります。しかし、退会者の中に未来の羽生、谷川、

そして藤井聡太が含まれているとしたら将棋界にとって大きな損失です。再考の余地はあると思います。

藤井聡太、七段に昇段

将棋の藤井聡太六段が昨日、船江恒平六段との対局に勝利、昇段の規定を満たし、史上最年少で七段になりました。あの加藤一二三さんの記録を61年ぶりに更新しました。

凄い棋士が現れたものです。現実を超えているようでいて現実なんですね。今の藤井君には称賛の言葉しか見つかりません。天才という言葉では表現しきれないものがあります。以前、藤井君には勝率8割棋士を目指してほしいと記した記憶がありますが、現在100局に満たないものの、勝率8割6分台、彼の力をもってすれば、1000局指して800勝というのも、決して不可能ではないと思われまます。

このまま順調に進めば、これまでの将棋界の記録をすべて塗り替えてしまうのではないかという反面、不安材料もあります。今は棋士よりも強いAIが存在する時代。棋士の実力差はなかなかつきにくい状況にあります。加えて歴史的にみて、これまで最年少記録を打ち立ててきた人たちが、競技生活の通算成績では一番上にはいないことが多いのです。

最年少記録の代表例はスポーツの分野なら野球の清原和博と相撲の貴乃花光司でしょう。清原さんは、100号、200号までは王貞治さんらを抑え、本塁打の史上最年少記録を塗り替えていきました。しかし、生涯成績は史上5位です。貴乃花は大関昇進までは最年少記録を塗り替えていきましたが、通算優勝回数は、史上6位です。二人とも超一流の成績ですが、歴史の頂上には立てなかった。これらはスポーツの世界ですから、ケガとの戦いが大きかったこともつけ加えておきます。

ならば将棋界はどうか？最年少記録といえば、加藤一二三九段です。藤井七段が出現するまでは、多くの最年少記録を保持していて、神武以来の天才と謳われました。しかし、常に大山康晴15世、中原誠16世名人の壁に阻まれ、初めて名人位を獲得したのは40歳を過ぎてからでした。そして翌年には谷川浩司さんに敗れ、のちに名人位に返り咲くことはありませんでした。タイトル獲得数は通算8期。最強には届きませんでした。18歳で最年少タイトルを獲得した屋敷九段は40代後半に差し掛かった現在、通算タイトルわずか3期。21歳で最年少名人の谷川九段は、永世名人資格を取りましたが、名人位は5期。普通の棋士からみれば、永世名人は夢のまた夢ですが大山、中原の後継者と目された天才谷川浩司としては、少し意外な数字かもしれません。

しかし、こういう見方はあまり面白くないですね。藤井君のこれまでの最も大きな功績は、その爆発的な人気で危機に瀕していた将棋界を救ったことです。藤井聡太という太陽が羽生さんや加藤さんら多くの棋士、そして将棋そのものに光を当てました。またどれだけ多くの少年、少女たちが彼にあこがれ、将棋を始めたか想像に難くありません。

谷川九段との指導対局で敗色濃厚となり、会場を揺るがすほどの声で泣いていた少年が、今や強さだけでなく、一流の棋士としてのふるまい、格調高い言葉を身に着け、人々に愛される存在になりました。藤井君は神の子かもしれませんね。

猪狩ともかさんは不幸だろうか？

猪狩ともかさんの存在を知ったのは5月上旬のゴールデンウィーク明けだったと思う。朝のワイドショーで脊髄損傷で彼女の足が動かなくなってしまったことを伝えていました。

それ以来、猪狩さんのブログを見るようになりました。とにかく前向きな人という印象を受けました。猪狩さんは仮面女子というアイドルグループに所属しています。その仲間たちの励まし、そして一日も早くステージに立ちたいという思いが、リハビリのモチベーションになっているのでしょう。

ブログを見ていて考えさせられます。「彼女は不幸だろうか」と。そして僕なりの結論はすぐに出ます。不便と不幸は違うのではないのでしょうか。どんなことも前向きにとらえる猪狩さん。そういう人に幸福は近づいてくるような気がします。

では彼女が特別な強いメンタルを持った人なのかといえば、決してそうではないような気がします。事実を知った時は絶望したと記してありました。車椅子に一人で乗っていた時、ペットボトルを落として、泣きそうになっていると通りすがりの人が拾ってくれて、人の優しさに触れたともブログには記されていました。

大きなハンディを背負ってしまった時、やはり大切なのは希望や目標が持てるかどうかだと思います。彼女にはそれがたくさんあるし、支えてくれる人々も多くいます。その希望の中には、いつの日か再び歩けるようになることも含まれているのかもしれませんが。医学は急速に進歩していますから。例え、もし足の機能が戻らなくても、パラリンピックを見ればわかるように器具の発達も著しいので、自分の意思に従って歩いてくれるギーンズのようなものが発明されても不思議ではありません。

向日葵が大好きだという彼女。そのころには、仲間たちと一緒にステージに上がり、また大ファンという西武ライオンズの始球式で力いっぱいボールを投げる彼女の姿があると願います。それは多くの人に雪を与えることになるし、彼女が節目でよく使っていた「希望の光になりたい」という言葉そのものではないのでしょうか。

藤井聡太の夏。あの星たちの夏

こないだ「猪狩ともかさんは不幸だろうか？」というタイトルで書きましたが、両親による5歳の女の子の虐待死は痛ましいですね。世の中、不条理とはいえ本当に神様はいるのだろうかと疑いたくもなります。

さて、藤井聡太七段が竜王戦5組で優勝し、2年連続で本選出場を決めました。相手の石田五段は藤井七段の得意戦法を堂々と受けて終盤まで苦しめました。それが、かえって藤井君の終盤の能力を最大限に引き出しました。AIを越えたとまで言われる絶妙の手順を発見し、激戦をものにしました。まさに全盛期の谷川九段を彷彿とさせるような光速の寄せでした。

いよいよ、竜王戦本戦ですが、もし羽生竜王と7番勝負を戦えば、藤井さん優位と予想します。しかし、そこまで勝ち上がるのが大変です。一度も負けることが許されないのでからね。初戦から強敵です。都成竜馬五段。名前からして将棋の申し子のようにですが、谷川さん唯一の弟子であり、今一番勢いのある若手の一人です。ここで勝つことだけでも大変ですね。竜王戦で羽生・藤井聡太の7番勝負は見てみたいですが、今のところ現実味は薄い気がします。

藤井君は現在、高校1年生で15歳。今最も輝いている10代の一人でしょう。ここでかつて輝いた10代を少し振り返ります。高校生が輝く舞台で真っ先に思いつくのが甲子園。早実の荒木投手は、藤井君と同じ高校1年の夏に、決勝まで勝ち上がる原動力となりました。横浜の愛甲猛投手と投げ合い惜しくも敗れたものの、あの背番号11の輝きは忘れられません。

それから3年後の夏、PL学園に1年生でエースと4番という天才が2人出現しました。桑田真澄と清原和博。決勝では桑田投手が完ぺきなピッチング、清原選手もライトへホームランを放ち、横浜商業を下し、全国優勝を果たしました。彼らは、その後KKコンビと呼ばれるようになり、甲子園史上、空前の記録を残し、焼けつくような記憶も残しました。

松井秀喜、高3の夏も人々に強い印象を残しました。5連続敬遠。無然とした表情ながら黙々と一塁へ向かう松井君の姿がよみがえります。

松井選手の5連続敬遠が1992年の夏。同時期に行われたバルセロナオリンピックで水泳の平泳ぎで14歳の岩崎恭子選手が金メダル。「今まで生きてた中で一番、幸せです」。あれから4半世紀以上が過ぎ、岩崎さんに、それを上書きするような大きな幸せはあったのでしょうか。

松坂大輔投手の高3の夏は凄かった。PL学園との大激闘。決勝ではノーヒットノーラン。春夏連覇。剛速球もさることながら、綺麗に横滑りするスライダーは高校生に攻略できるものではなかったですね。あれから20年。当時の球威はなくなりましたが、変化球主体のピッチングで

復活の兆しを見せています。オールスターファン投票では1位。投票している人の多くは、やはり20年前の甲子園のノスタルジアではないでしょうか。

そして2018年、藤井聡太、高校1年の夏が幕を開けました。

W杯・名人戦

サッカーワールドカップ初戦、日本が2 - 1でコロンビアに勝利しました。見事に大方の予想を覆しました。試合開始直後、攻撃は最大の防御とばかり日本の猛攻。慌てたコロンビアは痛恨の反則を犯し、レッドカードを貰い10人に。PKの権利を得た日本は香川が落ち着いて決め先制。

その後やや守りに入った日本は前半終了間際にFKから得点を許し、1 - 1で後半へ。後半28分、香川に代わり投入された本田のCKから大迫が見事なヘディングシュートを決め、決勝点。その後も必死に1点のリードを守り切り試合終了。ワールドカップでは初めて南米代表を下しました。

ワールドカップ前の監督交代などのゴタゴタを乗り越えての勝利。ハリル監督からバトンを受け継いだ西野監督は、今から22年前のアトランタオリンピックでブラジルを下し「マイアミの軌跡」と謳われた時の指揮官。もはや南米は西野に任せろと言ってもいいかもしれません。僕は攻撃は最大の防御、ディフェンスもできるだけ前でという考え方なので、岡田さんより西野さんの采配が好きでした。サッカーは野球のように攻めと守りが平等に与えられるスポーツではないですから。

選手で光ったのは勿論、大迫選手。それと個人的には柴崎選手。豊富な運動量が光りました。香川・本田のベテラン勢も要所で見せてくれました。残り2戦、まだ難しい状況ですが予選を突破してもらいたいですね。

将棋名人戦。個人的には羽生竜王に追い風が吹いているとみていたので、羽生有利と予想しましたが、佐藤天彦名人がその風を見事に止め、4勝2敗で防衛。名人戦3連覇を果たしました。特に第6局はなかなか駒がぶつかり合わない難解な将棋。一進一退の攻防の中で、最後は羽生玉を見事に仕留めました。羽生さんもここで奪取できれば、名人10期となり、大山15世の18期、中原16世の15期に次ぐ大名人の仲間入りといってもよかったですのですが、お預けになりました。羽生さんは同世代に森内九段というライバルがいたことが響いてますね。ちなみに僕の免状は名人も竜王も森内さんの名が記されています。

佐藤名人は昨年不調で、さながら名人戦男といわれた森内さんタイプなのかもしれません。しかし、大山さん、中原さんがそうであったように、やはり名人が最強と言われるぐらい他の棋戦でも活躍してほしいですね。それに永世名人資格は早めに取得したいところです。後ろから藤井聡太という名人を越す少年が数年後には、名人戦に登場する可能性が高いですから。

W杯、日本×ベルギー・藤井聡太が反則？

サッカー日本代表のポーランド戦での戦略には賛否が沸き起こりましたね。西野監督は非常に難しい判断を迫られた末、思い切った手を打ちました。退屈な試合だったのは間違いないし、もやもや感は残りますが、

責任は全部自分が引き受けるという西野さんの覚悟は伝わってきました。紙一重での決勝トーナメント進出。日本からみるとコロンビアがよくリードを保ってくれたというしかないです。

国民に残るもやもやを薄めるために大事なのは、今日のベルギー戦です。ポーランド戦で温存した主力メンバーを先発に戻すことになるでしょう。僕の予想はベスト8進出の可能性は30%。勝つとしたら1点差。あるいはPK勝ち。負けは惜敗から大敗までいろいろあると思われます。自力は誰が見てもベルギーが上ですが、日本には失うものは何もない強みがありますね。

問題は放送時間帯です。午前3時。僕はうつ病を持っているので、眠れない、あるいは目が覚める確率は高いのですが、布団から抜け出して見る気力があるかどうか（笑）

将棋の竜王戦本戦の増田康宏六段と藤井七段との対局で、ちょっとしたアクシデントがありました。時間に追われた藤井七段がいったん駒を離して、またそれをすくい上げ、違う手を指したらしいのです。僕は終盤は見ていたのですが、増田君が何か藤井君に話しかけ、盤面を指さした場面があったのですが、僕は局面に集中していて「藤井君、苦しいなあ、慌てているなあ」と思ったくらいで、大したことには見えませんでした。しかし、厳密に言えば反則となるかもしれません。今の時代ですから、その場面がネットで拡散したようで、最悪、藤井君に何らかの処分が下される可能性もなくはないですかね。まあ、嚴重注意ぐらいのところでは落ち着くでしょうが。

藤井君の出現で、斜陽産業だった将棋界が蘇ったのは間違いありません。実力も今やトップクラスでしょう。インタビューの応答などを聞いていても、聡明な少年です。ただ一つ課題があるとしたら、対局中の品格がまだ人気、実力に追い付いていないことです。15歳ですからね。ただ、これを契機に少しずつ対局中の品格を高める意識を持ってくれたらと願っています。

ストレスがたまりやすい人の特徴

昨日、NHKの「ガッテン」を何気なく見ていました。唾液が出なくなると様々なデメリットがあるという内容でした。その中でストレスに弱い人の傾向があるという話になり「右脳に多く血流が流れている人」というキーワードがありました。自分もパニック障害になるぐらいですからストレスに弱いと思われそうですが、昨日から頭を左に傾け、左脳に流れるよう努めています（笑）

それはともかく、昔からどうして一流の作家の多くが自殺するのか不思議でした。芥川龍之介、太宰治、三島由紀夫、川端康成。今にして思うとセロトニンが少なかったのではないかと推測します。川端康成などはノーベル文学賞までもらって、結構な年齢だったと思います。こうしたことと、遺伝、環境、そして昨日知った右脳型人間などいくつかの事柄が絡まりあってストレスがたまりやすい人が存在するのだと考えます。

今から20年以上前、長嶋茂雄さんが何人かの話題の人と対談する番組がありました。その一人に将棋の羽生善治さんがいたのですが、長嶋さんと羽生さんは右脳の話で盛り上がっていました。二人ともイメージする力に優れていて、右脳型の人だと思われまます。それはそれぞれの職業には大きくプラスに働いたのは間違いないでしょう。しかし、右脳型にもマイナス面はあるんですよ。

長嶋さんは世間的にはストレスに無縁な人と思われがちですが、選手生活の晩年、自律神経失調症に苦しめられました。付け加えれば、それが息子の一茂さんのパニック障害につながった可能性はあると思います。

羽生さんはいまから15年ほど前、渡辺明という10代の新鋭とのタイトル戦で突然、手が大きく震えだしました。一度そうした状況に陥ってしまうと、簡単に治ることはなく、今でも勝ち筋が見えた時、つまり緊張と興奮が最も高まる時に羽生さんの手は震えます。

上記に挙げた著名な作家や長嶋さんや羽生さんなど、右脳型人間だから成し遂げられたこともあるのですが、難点としてはストレスへの耐性が弱いことです。

では右脳型の人たちはどうすればいいのか？一つの方法として、何かに集中するといいいようですね。例えば趣味に没頭する。楽器でもクロスワードパズルでも何でもいいからそれに没頭する。その瞬間は悩み事が頭から離れているので、精神的にプラスにはなるでしょう。できればメンタルの病気になる前に、こうしたことでうまくストレスと付き合っていくことが、大切な気がします。

「師弟」読了」

将棋界に藤井聡太という救世主が現れてからというもの、様々な将棋本が発行されています。「師弟」もその流れでしょう。表紙は藤井七段と師匠の杉本昌隆七段。Amazonレビューで「表紙の帯がひどい。そこまでして売りたいのだろうか」と書いてあったので、知ってはいましたが、「君は羽生善治を超えるんだよ」と書いてあり、この本を手にとった誰もが、杉本さんが藤井君に言ったと誤解します。実際には違う師弟の間で交わされた言葉なんですけどね。商魂逞しい限りです。

表紙はさておき、本文はとても興味深い内容でした。6組の師弟の物語が記されています。将棋を知らない方も人間ドラマとして読むことができますと思います。

第一章は師匠の谷川九段と弟子の都成竜馬五段の「手紙」というタイトルの物語。谷川さんは17世永世名人でバリバリの現役棋士。そういう人が弟子を取ることは珍しいのですが、小学生名人にもなっている都成少年の実力は勿論、誕生日が1月17日という事に神戸出身の谷川さんは運命を感じて弟子として受け入れました。

最初は伸び悩んだ都成君も17歳で三段リーグ入り。しかしそこからが長かった。都成君が学生の頃は丁寧な言葉ながら、厳しく激励する手紙を彼の住む宮崎へ送るのですが、三段リーグで苦勞し、年齢制限も近づく頃になると、「君は強いんだから、自信さえ持てば大丈夫」といった自信を持たせようとした優しい言葉が並ぶようになります。

そして年齢規定による最後の三段リーグ戦。都成君は勝ち続けます。昇段がかかった日、谷川さんは将棋連盟の会長としての仕事があり東京にいました。大阪の将棋会館で対局を終えた彼は、師匠に昇段の報告をしました。「おめでとう。よかったね」。その短い言葉にどれだけの想いが込められているのだろう。初めて師弟が顔を合わせてから、16年の歳月が流れていました。

そして第六章の藤井七段、杉本師匠の物語で終わるのですが、ぶつかり合う師弟、強い絆で結ばれる師弟、重い心臓病の弟子を支える師匠など中身は濃かったです。最終章には羽生善治竜王への特別インタビューが掲載されています。羽生さんは公の場ではなかなか手の内を見せない人ですが、この本ではフランクに語っていて、興味深かったです。その中で「昔はよかったです」「いい時代でした」と懐かしむ言葉は長い歳月が流れた感慨がありました。

著者がカメラマンという事もあってか、巻頭にカラー写真が掲載されています。イケメン俳優が二人いますね。一人は都成君でもう一人は佐々木勇気六段。藤井聡太の連勝を止めた対局の写真ですが、鬼の形相です。彼はスター性がありますね。

死刑執行の是非

7月6日に地下鉄サリン事件などで日本中を震撼させた、オウム真理教の麻原彰晃死刑囚など7人の死刑が執行されました。そして26日には残りの死刑囚6人の刑も執行されました。このことについては理由の一部に納得いかない面はあるものの、おおむね肯定しています。上川法務大臣の最終判断は正しかったのだと思います。日本に死刑制度がある以上、執行の決断を下す自信のない人は法務大臣の打診の際、断るべきではないでしょうか。ただし「平成の事件は平成のうちに」という考え方には違和感があります。とりあえず、麻原だけでよかったような気もします。

僕も死刑制度に積極的に賛成している訳ではありません。廃止できるのであればその方がいい。しかし現実には難しい。国際世論の流れは死刑撤廃の方に向かっているのも理解しています。かと言って、死刑に代わる代替案が見当たりません。現在の死刑と無期懲役では天と地の差があります。終身刑も一つの案ではありますが、やはり死刑とは大きな隔たりがあるのは否めません。

死刑制度があるから、日本の治安がいいというのは幻想だと思います。もしこの制度を廃止しても治安が大きく乱れるというのは考えにくい。むしろそのことよりも、被害者感情に寄り添うという意味合いが大きいのだと思います。古くは日本には仇討がありました。しかし近代となり、仇討は許されないので、国が代替しているという側面があるのでしょう。

とはいえ今後、死刑制度について議論していくことは必要でしょう。人が人を裁くのですから、間違いが起こっても不思議ではありません。普通の犯罪でも冤罪は許されませんが、死刑では絶対にあってはならないことです。例えば、林真須美死刑囚の刑の執行に関しては保留した方がいいと考えます。結局、状況証拠の積み重ねで、限りなく怪しいというところまでは追い込めるのですが、彼女がやったという決定的なものがない。わずかでも冤罪の可能性があるとしたら、執行はすべきではありません。まして「平成の事件は平成のうちに」という発想はしてはならないでしょう。

藤井聡太100局の節目

藤井君流に言えば「節目」は「せつもく」と読むんですかね。藤井聡太七段がデビュー戦から100局目を迎え、西尾明六段を75手で下しました。

16歳0カ月での達成。85勝15敗。中原誠16世名人と並ぶ数字です。ただ、中原さんは100局達成時は19歳6カ月という事で、藤井君とは随分開きがあります。1年ほど前に、10年、20年単位で勝率8割棋士になってほしいと記したのですが、これが無謀に近いことは僕もわかっていました。将棋はどんなに強い棋士も7回に3回は負けるゲームですから。現在の勝率は8割5分。一見、8割棋士も可能には見えるのですが、これからは相手のレベルが上がってきますし、容易ではありません。しかし、藤井聡太ならばそれをやってのけるだけのとび抜けた能力を持っているのではないかという期待もあります。

ただこれから難しいと思うのは、AI時代に入り、将棋の才能そのものよりも、質の高い研究の方が大事になっていく可能性が高いことです。永瀬拓矢七段は「将棋に才能はいらない。いかに努力するか」という考え方のように、確かにこれからの時代にマッチしていると思います。今のところ終盤だけは努力や研究ではどうにもならないようなので、この聖域だけは個人的には守ってもらいたいですね。このような状況で藤井聡太は勝ち続けることができるのかやや不安です。

それともう一つ、藤井君が谷川浩司九段のような立場にならないか？つまり、将棋少年の憧れの的になった藤井君は、当然、彼らの目標とされるわけです。21才で最年少名人になった谷川さんに当時奨励会員だった羽生さんらの世代が、谷川浩司さんに憧れを抱くと同時に、格好の目標になり、彼らの成長を速め、やがて谷川vs羽生世代という構図となり、若い才能たちを谷川さんが一人で迎え撃つ形になりました。藤井君はそうはならないのか？将棋そのものの才能は谷川さんを上回る棋士が存在するとしたら、それは藤井君だけでしょう。しかしもう一つ、勝負師としての才能は藤井君が谷川さんより上です。それは勝率の高さが物語っています。

谷川の才能に大山・羽生の勝負術を兼ね備えた藤井聡太がこのAI時代にどこまで進撃できるのか、注目は尽きません。

「泣き虫しよったんの奇跡」

藤井聡太四段はデビュー以来勝ちまくっていた。連勝記録の更新が視界に入ってきたプロ26戦目の対戦相手は瀬川晶司五段。この人なら尋常ならざるカメラの閃光にも臆することはないだろうと僕は思った。将棋界の歴史をたどれば、藤井フィーバーの前に世間が注目した棋士は瀬川さんなのだから。

物語は主人公の瀬川さんが現在の名人である佐藤天彦三段に敗れ、打ちひしがれている場面から始まります。そんな時、小学校時代の恩師から手紙が届きます。

瀬川さんは小学校4年生までは勉強も運動もできるわけではなく、家庭ではボクシング好きの兄にいじめられ、ドラえもんだけが好きなおとなしい冴えない少年だったそうです。しかし、小学校5年生の担任、荻間澤先生との出会いが彼の運命を変えていきました。この40歳を過ぎたぐらいの女の先生は、とにかく生徒をほめるのです。瀬川少年も例外ではありませんでした。ある時は詩を褒められ、ある時は絵を褒められ。そしてなぜか、5年生の間で将棋が大ブームになります。瀬川さんは少し指せる程度でしたが、それでもクラスの中では強い方でした。先生は「なんでもいいから、それに熱中して、うまくなった人は必ず人の役に立ちます。君は君のままがいい」と少年に説きます。初めて自分を肯定され、瀬川少年は生まれ変わりました。

将棋ブームが去っても2人だけはその魅力に取りつかれていた。瀬川少年と渡辺健弥君。瀬川さんの棋士人生でたった一人のライバル。彼は瀬川少年を「しよったん」と呼んだ。この二人は自宅も近所で学校から帰れば、どちらかの家で、盤を挟み火花を散らしていました。やがて健弥君の父親に将棋道場へ連れて行ってもらい、そこで熱心な師匠との出会いもあり、2人ともめきめきと腕を上げていきます。

そして迎えた全国大会。健弥君は準々決勝で敗れ、しよったんは優勝しました。そして迎えたもう一つの全国大会。健弥君は親の反対もあり、優勝しなければ、奨励会には入らないと道場の師匠に告げました。準々決勝で、しよったんと健弥君は対戦し、健弥君が勝ちました。しよったんは悔しさのあまりトイレで泣いたそうです。健弥君の決勝の相手は丸山忠久君。未来の名人ですね。健弥君は敗れ、奨励会入りを断念しました。ここから二人の道は分かれていきます。

瀬川さんは奨励会入りし、三段リーグ入りしたのは22才。年に2度、プロ棋士になれるチャンスがあるので、何とかなると考えていた彼も、次第に年齢制限のプレッシャーを意識していきます。そのころ、かつてのライバルである健弥君は、仕事をしながらアマ名人にもなりしっかりと自分の道を歩んでいました。焦りの中、精神的にも追い詰められていた瀬川さんは最後のチャンスも逃しました。その日、彼は涙を流しながら街をさまよいました。

その後も、瀬川さんには様々な困難が押し寄せます。そんな中で、一度は指さないとした将棋を再開し、サラリーマンとして働きながら次々とプロを倒していき、様々な人の助けもあり、プロ編入試験までこぎつけました。そして見事にそのチャンスをものにしたのです。

僕も10年近く前、闘病を中心とした半生を出版したことがあります。過去の自分と向き合いながら書き続ける作業は苦しさもあったと思います。それでも瀬川さんの少し勝負師には不似合いな優しい人柄と、素晴らしい文才で上質の青春小説を読んだ気分になりました。

藤井聡太 v s 里見香奈

8月24日、藤井聡太七段と里見香奈女流四冠が棋聖戦1次予選で対局し、藤井七段が里見女流四冠を82手で下しました。

82手という短い手数ではありましたが、中盤まで里見さんが優位に立ち、藤井君が1分将棋に追い込まれる密度の濃い対局でした。個人的には、里見さんに存分に力を発揮してもらいつつ、最後は藤井君に勝ち切ってほしいと望んでいたのですが、その通りの戦いになってくれて満足しています。

50人近くの報道陣が詰めかける注目の一戦。これまで勝利を期待されていた藤井君も、初めて周囲が負けを期待して集まっていることを肌で感じたことでしょうか。しかし、さすがは藤井聡太。一瞬のスキをついての逆転勝ちは見事というほかありません。今季の成績も16勝3敗と8割を超え、いつの間にか勝率部門でトップに立ちました。

それにしても里見香奈さんはいいですね。素晴らしい。出身地と鋭い終盤の攻めになぞらえて「出雲のイナズマ」と呼ばれ、奨励会の三段リーグに上がった時は驚きました。しかし、女流としての魅力はそれほど感じてはいませんでした。しかし、この藤井七段との対局姿を見て、こんなに魅力的な人だったかなと思いました。以前とは随分、印象が変わりましたね。

彼女はファッションなどには興味がないらしく、対局時もスーツ姿。それは知っていましたが、こんなに格好よく見えるとは。対局前、藤井君の師匠である杉本七段の扇子を一定のリズムで動かしながら、伏し目がちに対局を待つ里見さんの動画を何度も見てしまいました（笑）。里見香奈を深津絵里に演じさせたい。里見さんはまだ20代ですから、新垣結衣とか、有村架純らと世代は近いのですが、何か違う。やっぱり深津さんかな。この対局の里見さんほど「凛々しい」「凛とした女性」という言葉がしっくりくることは珍しい。

この前、コンピュータソフト研究の不安点をあげましたが、逆に言えば序盤、中盤の研究にAIを活用すれば、女流棋士も男性プロと互角に戦える可能性が出てきたということでもあります。もちろん里見さんのように終盤の能力が高くなければいけません。里見香奈という逸材を女流という枠に留めてしまうのはあまりにもったいない。本人は三段リーグ退会の時点でプロ棋士は諦めたと話しているそうですが、今はプロ棋士に対して一定の勝率をあげれば編入試験が受けられるので、ぜひ女性初のプロ棋士になってもらいたいです。同じ女流棋士の妹さんはアイドルグループにいても不思議はないタイプの女性ですが、里見さんは「女性に生まれたことを後悔しているのでは」と思わせるほど将棋一途な人。その情熱は男性棋士に劣るものではないでしょう。

大坂なおみ全米オープン初優勝、打者・大谷が止まらない

快拳ですね。テニスの全米オープンで大坂なおみ選手が元世界ランキング1位のセリーナ・ウィリアムズ選手を6-2, 6-4のストレートで下し、四大大会初優勝を成し遂げました。

ウィリアムズ選手は終始、荒れ気味でラケットを叩きつける場面もあったようです。怒りは審判にも向けられましたが、セリーナが本当に苛立っていたのは、時の流れの非情さに対してだったのではないのでしょうか。セリーナ・ウィリアムズ36歳、大坂なおみ20歳。テニス界の未来予想図は誰から見ても明白なのです。荒れるウィリアムズに対して、冷静さを失わず自分のプレーに徹した大坂選手が日本人初の快拳を手に入れました。男子の錦織選手は準決勝で天敵ジョコビッチに敗れましたが、大坂選手のサーブで押し込むスタイルがあれば、すぐにでも頂点に立てるんですけどね。

随分、セリーナ寄りの観客からブーイングを受けたようですが、コートを去り、時間がたつにつれ、大きな喜びが湧いてくるのではないのでしょうか。大坂選手、おめでとうございます。

変わって、大リーグ。打者・大谷翔平の快進撃が止まりません。エンゼルスの大谷翔平選手がここ3試合で4本ですか。日本人1年目では新記録ということですが、本人はまったく気にしていないでしょう。今までアメリカに渡った打者とはスケールが比べ物になりません。唯一、パワーで匹敵できるのは松井秀喜さんだとは思いますが、大谷君と比べると逆方向に飛距離が出ないのが難点でした。

それにしてもエンゼルスはなぜ、大谷を投げさせてしまったのだろうか？案の定、大谷投手は右ひじの靭帯を損傷してしまい、オフには手術の可能性もあります。幸いにも打者・大谷としては今のところ悪影響は出ておらず、むしろ投げられない悔しさを打撃にぶつけているような印象です。僕は一貫して打者・大谷の才能を評価していますが、やはり、投手・大谷も捨てがたい。あれだけのストレートを投げられるのはメジャーでも何人もいませんからね。二刀流に関しては本人の意思と運命に任せるしかないのだと思います。まだ左投手にやや難があるなど、未完成の部分があるだけに打者としては今後さらに伸びる余地があると思います。打撃の才能は世界トップクラスであることは間違いありません。大谷翔平は21世紀のベーブ・ルースですから。

藤井聡太 v s 山崎隆之

昨日、王位戦予選で山崎隆之八段対藤井聡太七段の対局が行われ、山崎八段が138手で藤井七段を破りました。藤井七段の連敗は2度目のようです。100局以上戦って、連敗を2度しかしていない事のほうが驚きですが。

僕は山崎八段も好きな棋士なので、正直、勝ち負けはどちらでもよかったです。ただ、先手は藤井君になればいいとは思っていました。ここのところ藤井君は後手続きで、久しぶりに藤井君が先手となりました。ということは振り駒でと金が三枚以上出たということですね。女流の里見さんの時は、里見さんに先手を取らせてあげたいと思いましたが、山崎さんはトップ棋士ですし、20年ほどプロの飯を食っているわけですから、後手番を持ったところで崩れることはないと思っていました。

序盤中盤はほぼ互角の展開、しかし少しずつ山崎さんペースとなり、最後は必死に食らいつく藤井君の攻撃を正確に受け、山崎さんの見事な勝利でした。藤井君も対局前から、難しい将棋になることは予想していたと思います。初対局とはいえ、山崎さんの強さはある程度想定していたでしょう。強い相手には何度負けてもぶつかっていけばいい。彼はまだそういう年齢です。

「矢内さんの事はあきらめます」。これはユーチューブに何年も前から挙がっていた山崎八段の迷言（笑）です。矢内さんというのは女流の矢内理絵子女流五段の事ですね。彼女は当時、美人で実力もありました。山崎さんは、色白、眼鏡、スマートな風貌から「西の王子」と言われていたのですが、反面サービス精神が旺盛でユーモアもあり、自虐的な話で笑わすことも多いですね。

将棋は「平成の坂田三吉」。このキャッチフレーズは、いま自分が思いついたものですが、それくらい独創的で見ていて面白いです。アマチュアには参考にならないというか、プロでも彼の真似はできないでしょう。だから藤井聡太とは違った意味での天才なんですね。

こないだの棋聖戦で羽生棋聖に挑戦した豊島将之八段が初タイトルを獲得しました。何局目かは忘れましたが、豊島さんが、詰みを逃した場面がありました。それまで中立を装っていた山崎さんが、「ああ」という声を発し、頭を抱えました。解説者としては褒められたものではないかもしれませんが、彼の人柄がよく出ていたと思います。実は山崎さんもタイトルを取っていないんですが、同じ関西所属、自分より後輩のタイトル獲得を願うことは誰にでもできることではありません。勝負師としては少し性格がよすぎるのかな。しかし昨日は16歳の少年に対し、「鬼の山崎」として勝負の厳しさを教えました。

敗れた藤井聡太少年。感想戦の後、新幹線で帰ったのだろうか。そして、もしかしたら車内で涙を流していたかもしれない。女優の菅野美穂が高校3年で「走らんか」に出演していた時、新幹

線で東京から大阪へ移動中、セリフを覚えながら、泣いていたと聞きました。菅野さんは進学校でほとんどの生徒が大学進学のため受験勉強する中、今日明日のためにセリフを覚える作業をしている自分に不安を持ったのかもしれませんが。そうした多感な年ごろの心の揺れや、無数の人々の笑顔や涙も新幹線は運ぶんですね。

昔、JR東海のコマーシャルで山下達郎の曲が流れ、牧瀬里穂が恋人に会うために駅のホームへ駆け込むような場面がありました。僕はパニック障害ともわからない正体不明の病気になり、かなり嫉妬していたのではないかと思います。でも今は少し、病気は治ることはなくても、そこに様々なドラマがあったことを想像できる。年を取りましたね。

藤井聡太、強さの秘密

ローテーション的にはそろそろ詩を載せたかったのですが、何も浮かびません（泣）そこでまた16歳の少年について書こうと思います。ですがその前に、毎年、この時期になると触れているクライマックスシリーズについて少し。何度も言うように僕は反対です。広島と西武がやればいい。日本シリーズはプロ野球の世界における名人戦七番勝負だったはず。このままでは権威が失墜するばかりです。大谷君のようなワールドクラスの選手を輩出する土壌を持っていながら、システムを決める人間が野球を知らないのが残念です。大谷君は右ひじ手術となりました。心配ですね。

さて、いよいよ藤井聡太。昨夜、ユーチューブでつるの剛士さんが司会で谷川浩司九段、香川愛生女流三段を招いて藤井聡太七段の強さに迫る番組を発見しました。

藤井七段についてよく言われるのが、終盤力と受けの強さなのだと思います。しかし、昨日谷川九段の解説を聞いてもう一つ、藤井君の強さの秘密を見つけたような気分になりました。番組の中で藤井君の実践の中から、彼が指した次の一手をつるのさんが当てるコーナーがあって、つるのさんの手に対して、谷川九段「自然な手ですね」つるの「つまらない男ですよ」というやり取りをはさみながら、衝撃を受けたのは、藤井君が取って香車に取られてしまう位置に角を動かしたことです。

谷川さんによると相手の香車の位置を変えて、そのスペースに桂馬を打つことが狙いだったそうです。空間づくりですね。相手側から眺めて指されてみると厳しい手です。かといって普通は考えもつきません。覚えてたの子供なら「駄目だよ。そこは香車に取られてしまう」と教えるところですよ。

ふつう、将棋を最初に覚えるのは駒の動かし方だと思います。しかし、少し見方を変えると例えば飛車であろうが、歩であろうが玉の隣に並んでいたら、その場所に玉を動かすことはできません。能力の高い飛車も、能力の低い歩も、同じ邪魔駒なのです。

僕もよく壁ドンならぬ、壁銀という形を作って、玉の逃げ道を少なくしてしまう悪い形を作ることがあるのですが、藤井君は空間を作るということを、他の棋士以上に大事にしているのかもしれない。玉の周りの空間は酸素というとらえ方でしょうか。だから、藤井君は玉を固く囲うのがあまり好きではない気がします。いつでも空間を作っておいて酸素を確保したいという考え方が根底にあるのではないのでしょうか。

もっと想像を膨らませれば、唯一、合い駒のきかない桂馬は特別な羽が生えていたり、ロマンチックに盤上を眺めているのかもしれない。藤井少年の目に映る81マスの宇宙は、限りなく立体的でカラフルな世界が広がっているような気がします。

ブログについて・谷川九段1300勝

巨人の高橋由伸監督が辞任のようですね。3年間、結果を出せなかったのだから仕方のないところでしょう。最近野球はあまり見ませんが、もうひとつ自分を出し切れなかった印象はありますね。

さて、こないだの「藤井聡太、強さの秘密」の記事は多くの人に見ていただきました。普通、新しく乗せた記事が一番人気になるはずなのですが、「駒の生涯」の記事は「藤井聡太」を抜けて1位をとれませんでした。松田聖子、中森明菜がオリコン1位を逃したぐらい珍しいです。1位に寺尾聡の「ルビーの指輪」が居座った感じですかね。平成育ちの方は置いてきぼりの例えです（笑）

勿論、以前から自分のブログを見ている方々のご愛読は感謝しています。しかし、こないだの記事は普段の3倍ほどの訪問者数がありました。どうやら主にツイッターで宣伝してくれた人たちがいたようで、それが大きかったのだらうと思います。ありがとうございました。

それにしてもブログを始めて14年。僕が自営業に転身する前からですから、ずいぶん長くなりました。始めたころには考えられないようなツイッターなどのSNSの普及で、より多くの方々に見てもらえるようになればと思います。今日はひと月に一度の通院日でした。パニック障害には珍しいことではないのですが、うつ病も併発していてなかなか書く意欲が湧かないこともあり、いつまで続けられるかなと思うこともありますが、皆さんに支えられながら少しでも長く続けられればいいなと思います。

話題は変わりますが、谷川浩司九段が史上5人目の通算1300勝を達成しました。羽生竜王が1433勝の大山十五世名人の記録に迫っているので、そちらに注目はいくと思いますが、だからと言って、谷川さんの記録の価値が下がることはないと思います。

将棋界では羽生世代以前と以後によく分けられます。それだけ将棋が大きく変わりました。羽生世代以前から活躍していた棋士で、その後もトップクラスで戦い続けたのは谷川さんだけです。勿論、もって生まれた才能はありますが、羽生世代登場以後は想像以上に努力を重ねられたのではないかと推測します。現在、升田幸三賞というのがありますが、将来的には谷川浩司賞が創設される可能性はあると思います。やはり谷川さんの代名詞である「光速の寄せ」のような鋭い終盤力を発揮した棋士に贈られる賞になると勝手に夢を膨らませています。

藤井聡太の未来

最近のブログ更新率の高さに我ながら驚いています。普段は週に1、2回がせいぜいですから。

藤井聡太の未来。難しいですね。ただ、具体的な例を挙げると先日、谷川九段が通算1300勝をあげましたが、そこまでたどり着ければ凄いことだと思います。今は日の出の勢いの藤井七段ですから、通算2000勝、タイトル数も羽生さんを超える100期以上も決して夢ではないようにも見えます。しかし、これまで数々の天才少年、少女を見てきた僕はそれがいかに難しいかを多少、理解しているつもりです。

王貞治を超える選手が現れた。清原和博が高校時代空前の本塁打記録を作り、高卒1年目から打率は3割を超えホームラン31本。主軸としてチームを日本一に導く活躍。清原さんが入団時に目標とした本塁打1000本という途方もない記録も、彼の才能のスケールからすると冗談には聞こえませんでした。生涯成績は525本塁打。史上5位の立派な数字です。しかし王さんの868本塁打には遠く及びませんでした。引退後の人生における転落は別にしても、入団当時の野球ファンが夢見た大きな期待には届かなかったのではないのでしょうか。

投手では清原さんの盟友、桑田真澄。甲子園20勝の天才投手も1年目はわずか2勝。しかし、2年目は15勝を挙げ、あの江川卓に代わり巨人のエースの座を手に入れました。200勝間違いなし。そう思った人は多かったでしょう。しかしそれには届かず、当時無名に近かった斎藤雅樹にエースの座も奪われ、通算勝利数でも彼に及びませんでした。

数々の最年少記録を塗り替えた貴乃花。大鵬の記録を破るのは貴乃花しかいないと思われましたが、20代後半から怪我に苦しめられ、幕内通算優勝は22回。入門時、体が細くモンゴルへ帰されるどころだった白鵬が41回ですから、先のことは読めません。それにしても貴乃花ほどの大横綱を輪島さんのような不祥事ならともかく、性格の不一致を理由に相撲界から追い出しているのかと強い疑問を感じます。

菅野美穂の18歳の演技には驚いた。こんなに眩しく、しかも登場人物の心情を繊細に表現できるのかと。菅野さんはNHKのスペシャル大河「坂の上の雲」で唯一、女優として主要キャストに選ばれたように演技力は高く評価されています。しかし僕自身、菅野さんの演技に求めるハードルを上げてしまい、菅野さんがどこまで女優として成長したのかは正確な判断はできません。そして18歳の眩しさは年齢を重ねるごとに失われていくのは間違いありません。

そして藤井聡太。早熟の天才なのか、それとも神武以来の天才なのか判断は難しいですね。10代後半は棋士が一番伸びる時期といわれています。しかし、完成度が高ければ高いほど伸びしろは少なくなります。もし20代前半まで藤井君が強くなり続ければ、数十年に1人の天才では

なく、数百年に1人の天才になりえます。25歳、全冠制覇した羽生善治は言いました「二十歳の時とは手の見え方が違う」すでに記憶力では下り坂に入ったことを羽生さんは自覚していました。ダーウィンの言葉として「生き残るのは変化に対応できる者」。藤井君もこれから何度も出会う変化に対応できるかが大切になるでしょう。藤井君の将棋人生のキーワードは「連勝」だと思います。自分自身の記録である29連勝を再び藤井君が破る日が来ることを楽しみにしています。

北川景子、240秒の僥倖

最近テレビをあまり見なくなりましたね。そんな中で、昨日放送されたTBSの「オールスター感謝祭」は良かったです。結構、この番組のミニマラソンが好きで、最近では土屋太鳳の力走が印象に残っています。阿部寛や有村架純の出演も楽しみでした。個人的には阿部さん主演の「下町ロケット」に期待してます。

しかし、昨日に関しては僕の中での番組の主演は北川景子でした。彼女が出演しているとは思っていませんでした。映画の宣伝で来ていたようです。昨日の彼女のクライマックスは4分間、瞬きせずに1人でノルマをクリアしてしまった場面です。有村さんなど4人の俳優が用意されていたのですが、まさかの北川さんひとりでの完走。「江夏の21球」ならぬ「北川の240秒」(笑)

ただ、それよりもアップで写された瞬きしない北川景子の美しさに圧倒されました。男性の実況は不必要でしたね。北川さんのアップで十分。それ以外、何もいらなかった。人間が人形になってしまった錯覚すら起こさせるほど彼女は微動だにしない。次第に潤み始める瞳が静止画ではないことを主張するだけ。4分が過ぎ、北川さんの目から涙がこぼれた時、僕はテレビで久しぶりにいいものを見たと思いました。

北川さんは何事に対しても全力で取り組む印象があります。たとえそれが番宣番組であろうとも。最初に彼女を注目したのは「筆談ホステス」というドラマだったかと思います。当時、北川さんの演技に対する評価は芳しくありませんでした。「筆談ホステス」も上手くはなかったかもしれないけれど、懸命に役を全うしようとする姿勢が伝わってきました。また、菅野美穂と同じ8月22日が誕生日ということを知り、これも何かの因縁かと思い、北川さんに注目してきました。

彼女の写真集「27」だったかブログだったかは忘れましたが「あえて向いていない役者の仕事をやってみようと思った」という意味合いの一文がありました。美人だし、文才もあり、クレバーな北川さんには他に向いている仕事はいくらでもあったと思います。おそらく彼女の中に、努力だけでどこまでいけるか試してみたい気持ちがあったのではないのでしょうか。まあ、美人であることも女優の一つの資質なので、彼女に才能がないとは僕は思いませんが。それでも今日の北川景子を作ったのは、謙虚に努力を続けてきたことが根底にあるのは確かですね。

それにしても昨夜の北川景子は美しかった。

竜王戦、新人王戦から見えたもの

いよいよ竜王戦が始まりました。羽生さん、やはり強かったですね。このタイトル戦が始まると、いよいよ今年も終わりに近づいたかと、せかされる思いになります。羽生竜王、挑戦者の広瀬八段ともに充実しているので、内容的には素晴らしいものが見れるのではないのでしょうか。

改めて羽生善治の執念を感じさせました。感想戦での羽生さんの顔は紅潮し、興奮を隠せない様子でした。時折、笑顔すら見せる広瀬八段の顔を見比べると、どちらが勝ったのかよくわからないような空気でした。これまでの数々のタイトル戦で、羽生さんに対して執念で上回った棋士がいたでしょうか？いたとすれば、僕の知る限りでは、1995年の王将戦の谷川浩司しか思いつきません。自らも被災した阪神・淡路大震災。そのさなかに行われた王将戦。「師弟」からそのまま引用すると羽生さんは「最終第七局の、最後の一手を指す手つきが、重々しかったのが印象に残っています。谷川先生は、普段、軽やかな手つきなんですよ」と語っています。

羽生さんは今回の竜王戦で負けたら、タイトル100期は達成できないと考えていると推測します。昨年の渡辺明竜王を破り、永世七冠を達成したとき「これが最後のチャンスだと思っていた」と語っています。おそらく今回も似たような思いはあるでしょう。羽生マジックの成分は執念でできていると僕は思う。そんな羽生さんに広瀬さんが勝つのは容易ではありません。

その前日に行われた藤井七段と出口奨励会三段の新人王戦第一局も激しい競り合いになりましたが、やはり最後に勝負を制したのは藤井聡太でした。羽生さん、藤井さんに負けた二人に共通するもの。好青年。優しいんですよ。人間にとって優しさは尊いものだと思います。しかし勝負師としては、マイナスに作用することが多いですね。出口君も今すぐプロになっても、好成績を残せるだけの力を秘めています。現在23歳ですから、あと3年でプロになれなければ、基本的には退会となります。三段リーグについては、再考する余地はあると思いますね。

広瀬さんも、若いころから、西の豊島、東の広瀬というほどの才能を持っている棋士ですし、実力的には羽生さんを上回っているかもしれません。しかし、もって生まれた性格というのは、なかなか変えられるものではないですからね。羽生さんのような執念を持つというのは酷な話です。果たして藤井聡太君の今のモチベーションは羽生さんのように長く続くものなのか？それは容易ではないけれど、藤井君が大成するためにはものすごく大切な要素ですね。

藤井聡太、最年少新人王

昨日、関西将棋会館で新人王戦第2局が行われ、藤井聡太七段が出口若武奨励会三段を105手で破り、新人王に輝きました。16歳2か月での優勝は森内九段の17歳0か月を上回る最年少記録となりました。

初戦とは違い、第2局は藤井七段の圧勝でした。負けた出口三段としては力が出し切れない悔しい敗戦ですが、出口君の力を発揮させなかった藤井君の圧倒的な力を称えるべきでしょう。「優勝という形で新人王戦を卒業できてうれしく思う」。そうですね、16歳で最後の新人王戦というのも藤井七段の昇段ペースがいかにも速いかを物語っています。

これで通算成績は94勝17敗。8割5分近い勝率ですが、これ将棋棋士の数字ではないです。7割で超一流の世界ですから。もし、以前から僕が願望として記しているように長い期間8割棋士にいるようなら、これは1000年に1人の天才です。これから対戦相手もさらに強くなり、大変難しいことではあるのですが、藤井聡太ならばと期待させるだけでも、大変な天才棋士が出現したと改めて思います。

数字で藤井君が注目されるキーワードは勝率と連勝そして最年少。初タイトル最年少記録は屋敷九段の18歳、最年少名人は谷川九段の21歳。どちらも大変な記録ですが、より難しいのは最年少名人だと思われます。実現する確率は五分五分としか言えませんが、谷川さんが4月生まれ、藤井君が7月生まれですから、谷川さんと同じペースで名人となれば、3か月更新できることになりますね。僕は谷川ファンですから、基本的には破られたくないのですが、藤井君は例外。ぜひ挑戦してほしいですね。

次に注目が集まるのは通算100勝。これも最年少での達成となりますが、勝率で中原永世名人の記録を破れるかが見所です。確か中原さんは100勝21敗なので、藤井君がこのままのペースでいけば、勝率でも新記録となりそうです。今後の藤井聡太からますます目が離せません。

球界の秋の風物詩は日本シリーズとドラフト。2018年のドラフト会議。注目の大阪桐蔭の根尾昂選手は4球団の強豪の末、中日に。与田新監督、絶好のスタートです。根尾君は野手だけでなく、投手としても力があるので、大谷君に続く二刀流の可能性もあります。まず野手でいくとは思いますが。彼は学業も優秀で非の打ち所がないらしいですね。その人間力の高さは今後さらに注目を集めそうです。

今夏の甲子園の主演、金足農の吉田輝星投手は外れ1位で日本ハムへ。いいチームに入ったと思います。身長の高さが少し気になりますが、その美しいフォームから繰り出されるスピンの掛かった浮き上がるストレートは絶品です。そして何より甲子園を湧かせたあの気迫で頑張ってもらいたいです。大成を期待しています。

秋ドラマは「下町ロケット」「中学聖日記」「獣になれない私たち」を観ています。下町ロケットは宇宙から大地ということで、前回の医療に続いてまた新しい要素を加えましたが、少し詰め込みすぎかなと感じます。視聴率も前回ほど思うように伸びません。池井戸作品では「半沢直樹」「陸王」と役者でないタレントの起用が目立つのですが、今回は如何せん多く起用しすぎたといわざるを得ません。合唱でも1人、2人音程を外す人がいてもかき消されますが、5人も6人も投入したらどうなるかということです。

「中学聖日記」はタイトルで避けられたのか視聴率的には低迷していますが、内容は悪くないと思います。主演の有村架純は、これまで何作か見てきましたが、派手さはないけれど丁寧な演技をする女優ですね。今回も婚約者がいながら生徒を好きになっていく心のありようを丹念に演じています。美しい作品に仕上がることを期待しています。

「獣になれない私たち」。内容はともかく、何より新垣結衣の美しさですね。松田龍平も独特の暗さ、影を纏っていて好き嫌いは分かれるだろうけど、雰囲気を持った役者だと思います。

将棋の竜王戦7番勝負は羽生竜王が連勝スタートでタイトル100期に向けて大きく前進しました。広瀬八段は実力で劣っているとは思いますが、一つ勝つのが大変に見えますね。今のところ羽生さんの執念が広瀬さんを圧倒しているように感じます。

順位戦C級1組の藤井七段は千葉七段に勝利し5連勝。これで順位戦はデビュー以来負けなしの15連勝。どこまで伸ばせるか注目です。次の増田六段戦が一つの山場ですね。順位が下位の藤井君としては1回でも負けると昇級できない可能性があります。出来れば全勝でいってもらいた

いところですが。

個人的には次のNHK杯の谷川・稲葉戦に注目しています。おそらくこの対局で谷川さんが通算1300勝を達成したと思われます。谷川さんはあと5勝で中原永世名人の通算勝利数に並びます。また藤井聡太君のデビュー以来の連勝記録も中原さん。確か18連勝ですか。暫くは谷川九段・藤井七段の大名人・中原超えに注目しています。

アイドルの休業。パニック障害という名の地獄

King & Princeというアイドルグループの名は最近よく耳にすることはあったけれど、それ以外の知識は何もありませんでした。しかし、そのメンバーの岩橋玄樹さんがパニック障害のため、11月から休業するとネットで知り、思わず何かを書かずにはいられなくなりました。

パニック障害、いや、他の病気に関してもそうなのですが、一人ひとり症状は違います。推測ですが岩橋君の場合、幼少期からこの病気に苦しんでいたということ、一生この病気は治らないと感じているところから、少なくとも軽度ではなく、むしろ重度の可能性が高いのではないかと思います。

僕は彼ほど年齢は早くはなかったけれど18歳の時に発症しました。自分もやはり「これは一生治らない」と強く感じました。30年近くたった今も、形を少しずつ変えながらこの病気と付き合う生活です。だから岩橋君の絶望感は多少は分かるつもりです。彼の言うようにいじめが原因なのでしょう。しかし、その一方で遺伝的なものがあるように思います。約30年前の話ですが、高3の時の担任が暴力教師で、自分が標的にされていた訳ではないのですが、標的の生徒を好き勝手に殴っている姿を見て、僕はすごく苛立っていました。それも一つの原因ではあるのでしょうか。しかし、2つの病院で最初に言われたこと。「親、兄弟や親戚に同じような症状の人はいませんか」。つまり遺伝であると疑っているわけです。実際、若くしてパニック障害になった人は遺伝の要素が高いのではないのでしょうか。親がその病気でなくても、その要素を持っていて、それが今の時代性と重なって子に出ることは十分考えられます。

岩橋君の話に戻りますが、まだ21才。これからの人生のほうはるかに長い。僕が発症した30年前とは違い、今のほうが改善する可能性ははるかに高まっていると思います。僕の場合、パニック障害という病気自体知らなかったし、自分がこの病気であることを知るのに何年もかかりました。今はネットで検索すれば何でも情報を得られるし、どこの病院へ行くのが適切かということもわかりやすいと思います。岩橋君の場合、小学生の頃に発症ということで、改善していくには難しさはあるでしょうが、何とかいい方向に向かってほしい。そしてファンやこの病気で苦しむ人に、アイドルとして元気な姿を見せてほしいと願います。希望をもって焦らずゆっくり一歩ずつ。生きてさえいれば何かいいこともあるかもしれないですから。

藤井聡太9歳、衝撃の一手

竜王戦第3局は広瀬八段が羽生竜王を下し初勝利。今期の竜王戦にかける羽生さんの執念、そして研究の深さは想像を絶するものがあると推測します。しかし、唯一、ソフト研究でもわからないのが終盤と言われています。さすがに羽生さんも終盤力の衰えは隠せず、広瀬さんの逆転勝ちとなりました。この竜王戦のポイントは終盤力で上回る広瀬さんが序中盤でどれだけ離されずついていけるか、逆に言えば羽生さんが終盤までにどれだけ差をつけられるかがカギになりそうです。

藤井聡太七段は棋聖戦で村田顕弘六段、今泉四段を破り、2次予選進出を決めました。今泉さんにはNHK杯で負けていますから、リベンジを果たしましたね。

藤井君ファンなら知っている方も多いと思いますが、彼が小学3年の時の素晴らしい一手を記しておきます。対局相手は中澤沙耶女流初段。聡太少年は中澤さんの角打ちで飛車と金の両取りを食らってしまいました。どちらかの駒を逃がっているようでは負けてしまいます。ここで泣き出すのかと思いきや、そうではありませんでした。

「両取り受けるべからず」の格言通り、聡太君も9五角と負けずに打ち返しました。東西南北の西の方向の角。これが桂取りとなっていて、それを放置すれば王手飛車取りとなります。たまらず中澤さんも7三の桂を守るため、7一に香車を打ちました。ここまでかと思いきや桂と香の間の7二に銀を打ち込んだのです。中澤さんは飛車、金、銀、そして打ったばかりの香で取れるのですが、金、銀、香で取るのは飛車の横利きを消してしまい、藤井君の飛車が中澤さんの金を取った上に竜となり、勝負ありです。したがって飛車で取るしかないと思われそうですが、そこで先ほど打ち込んだ西の角が7三の桂を取り、王手。飛車で取ればやはり横利きがなくなった金が飛車に取られます。仕方なく金を上げて玉を守ってもやはり同じことが起きます。要するにわずか3手で逆転、おそらくこの将棋、ほどなく聡太少年の勝ちとなったと思われそうです。

すべてを見越して打った9五角。素晴らしい。読んでくれている方にうまく伝わっている自信はありませんが（汗）師匠の杉本七段はあまりに感動し、この図面を書き留めて、事あるごとに他の棋士に自慢したそうです。

頑張れ聡太少年！君なら今日の竜王戦のような大舞台に遠からず立てるはずだ。

谷川浩司九段の昨日の八代六段との対局の棋譜を確認したのですが、相変わらずというか早い投了ですね。一目見た感じではやや不利でこれから本格的な終盤戦という感じでした。もう少し眺めてみると、なるほど見た目よりも厳しい状況というのは分かりました。谷川さんとしてはこれ以上指しても、勝利はないと判断されたのでしょうか。しかし、相手が必ずしも正確に指してくるとは限らないし、逆転する可能性はあると思われます。それは谷川さんも百も承知でしょう。相手のミスに期待するのが嫌なのでしょうね。

以前、ある年配の羽生ファンの方と将棋の話をしていて、その方が「谷川さんの将棋は格好良すぎる」と話されたのを覚えています。羽生さんの将棋のほうが泥臭いですからね。だからこそ長年あれだけの高い勝率を保っているとも言えます。なにも藤井聡太君のような場面まで指してほしいとは思わない（笑）しかし、と言いたいところだけど、それが谷川浩司なのだから仕方がない。谷川さんにはこちらが思いつかない気高い美学があるからこそ周囲の棋士たちの尊敬を集め、またその美学が棋士としての支えでもあり、弱点でもあると思われます。

こないだコンサートをドタキャンしたジュリーこと沢田研二。「9000人入っているはずが7000人しか入らない。話が違う」真実は藪の中ですが、これが表立った理由と聞いています。

僕はスーパースターだったジュリーにぎりぎり間に合っています。最終世代ですね。当時の男子は大概、王貞治の一本足打法と沢田研二の「勝手にしやがれ」での帽子を飛ばすパフォーマンスはよく真似ていました。僕も例外ではありません。もう少し大きくなって、友人の家へ遊びに行き、その子の母親が沢田研二の曲を聴いていました。「おばさんなのにジュリー」。口にしたかはともかくそう思ったことは覚えています。今にして思えば、そのおばさんたちこそ、タイガース時代からの真の沢田研二世代である訳ですが。おそらく、今回のコンサートもそのような世代の人たちがメインなのだと思います。ファンも高齢ですから来るまでに一苦労だった人もいるだろうし、今回が最後という人もいたでしょう。交通費も帰ってきません。これはジュリーが悪い。しかし、そんな事は沢田さんも重々わかっているのだと思います。それでも譲れないものがあったのでしょうか。そのために今回のように叩かれることもあれば、だからこそこれだけ長い間、音楽活動を続けてこられたのではないかと思うのです。

永世名人とスーパースター。将棋と芸能。道は違えど、この二人ほど才能に恵まれた人はそうはいないでしょう。一言でいえば美しさ。「もっと楽に生きればいいじゃない」という声も聞こえてきそうです。損得勘定に流されない凜とした佇まい。格好良すぎる人を応援するのも楽じゃないですね。

本題に入る前に少し野球と相撲について。大谷新人王、そして侍ジャパンが大リーグ選抜に5勝1敗で圧倒と日本野球のレベルの高さを見せつけました。日米野球に関してはレベルの向上もあるのですが、それ以上に日本が侍ジャパン結成以降、真面目に試合をするようになったというのが大きいですね。それまでは日本がメジャーを接待する感覚で試合をしていましたから。

相撲は稀勢の里の件ですが、3連敗した地点で引退とっていました。しかし、休場はおろか四日目も強行出場。あえなく敗れ、休場を発表しました。意見は分かれるところですが、僕は引退すべきだったと思います。稀勢の里の気持ちを親方が尊重したのでしょうか。大関以下ならそれで何の問題もありませんが、横綱は違います。本人の意思にかかわらず、弱ければ引退しなければなりません。そうでないと横綱の権威の失墜に関わるからです。それでもやると決めたからには、頑張っしてほしいですね。

11月17日は将棋の日。だから何だということですけど。里見香奈女流四冠のプロ棋戦での健闘が光ります。先日、長沼七段を破り、これで今期の成績が6勝5敗。白星先行です。凄い。けれどこの成績以上に彼女が奨励会三段に上がった時のほうが驚きでしたね。

今後4連勝すれば、プロ編入試験が受けられます。さすがにそう簡単にはいかないでしょうが、いずれはプロ編入試験の権利を得る可能性は十分あり得ます。里見さん自身、三段リーグ退会の時点で、プロ棋士への夢はいったん断ち切っていると思います。だからもし資格を得ても、彼女が興味を示さない可能性もありますね。どちらにしても里見さんは今後の将棋界のキーマンの一人だと思います。コンピューターソフトに棋士が抜かれた時は、棋士の存在自体が危機的状況でした。しかし、最年少棋士・藤井聡太七段の出現により人間が指す将棋の面白さ、ドラマ性の価値が再認識されました。そのドラマ性を里見さんは十分持っていると感じます。

佐々木勇気六段は昨日の中座七段との対局に勝ち、竜王戦2組への昇級を決め、規定により七段への昇段が決まりました。終盤見ていましたが、激戦でしたね。本人としては内容は不本意かもしれませんが、とにかくよかった。勇気君は生意気に見える所もあるかもしれませんが、高齢の師匠を気遣う優しい青年で、スター性もあります。彼あたりが藤井聡太のライバルになれば面白いと思うのですが、少し厳しいような気がします。彼の人間味は今のAI時代に合っていないのかもしれませんが、それでも才能は奨励会時代から折り紙付き。トップレベルの棋士になることを期待したいですね。

昇段といえばもう一人、しよったんこと瀬川晶司五段が規定により、六段に昇段しました。「次は勝ち星以外で昇段したい」。狙いは勇気君と同じ竜王戦での連続昇級での昇段になると思います。頑張れ、しよったん。

来週は藤井聡太ウィークになりそうですね。順位戦、叡王戦と対局があり、いずれも強敵です。また近々、解説デビューもするそうで注目です。しかし16歳で解説者というのも凄い。これも最年少記録ですかね（笑）

藤井聡太が見せた華麗さと泥臭さ、竜王戦

将棋界は激動の一週間でした。藤井聡太七段は順位戦で増田康宏六段を下して全勝を守りました。また叡王戦では斎藤慎太郎七段に敗れ、先週は1勝1敗でした。

まず順位戦の増田六段戦は8手目に藤井七段が本人の意図はよく分かりませんが、本来銀を角の隣にまっすぐ上げる所を右斜めに上がりました。たった1マスの違いなのですが、この手がこの将棋の内容を大きく変えました。居飛車党の増田さんが、藤井君の挑発と取ったのか、あるいは冷静な判断だったのか飛車を振りました。予想外の展開になりましたが、藤井君が次第に優位を拡大し、最後は飛車を横に移動させ相手の飛車にぶつける華麗な手が出ました。これを見て増田六段は投了。この一局は増田さんの内容がよくなかったようですが、振り飛車に動揺することなく快勝した藤井君の冷静さが光りました。

叡王戦は若手実力者の斎藤慎太郎王座との対局。途中、斎藤七段が研究手の角打ちを見せてから、ペースを握り、そのまま最終盤へ。いいところなく土俵を割るかと思われました。しかし、ここから藤井君が驚異の粘り腰で最後は際どい勝負に持ち込みましたが、一步及びませんでした。敗れはしましたが、華麗さだけでなく泥臭さも兼ね備えていることを改めて証明しました。増田戦の終盤は谷川九段的、斎藤七段戦は若き日の羽生竜王を思い起こしました。それにしても斎藤七段は強いですね。今、A級以外の若手棋士でA級で勝ち越す可能性が高いのは斎藤さんと藤井君くらいしか思い浮かびません。二人とも長時間の対局に強いですからね。

羽生竜王の2勝1敗で迎えた竜王戦第4局。羽生竜王が勝てば王手。広瀬八段としては追いつきたいところです。中盤までは羽生さんの深い研究が実り、大きくリードしましたが、終盤、広瀬さんが驚異の終盤力を見せ、逆転勝ち。これで2勝2敗のタイとなり、第5局が非常に重要な戦いになりそうです。

それにしても1日目に60手以上ですか。コンピューターソフトの影響が大きいのでしょうか。そのソフト研究では羽生さんが広瀬さんを上回っているようです。第3局も広瀬さんは苦しい将棋を逆転しました。昔の羽生さんは、序盤から終盤までスキのない将棋で、特に終盤が強く、何度も逆転劇を演じてきました。しかし、今は序中盤型の棋士に変わってきたように思います。序盤、中盤に関してはソフト研究の成果で羽生さんの長い棋士人生の中でも最高の状態でしょう。しかし、かつての終盤力がやや落ちてきたのは否めません。5局目以降も、羽生さんが中盤までどれだけリードを広げられるかが勝負のカギになりそうです。

NHK杯は谷川・森内・羽生という3人の永世名人のそろい踏みでしたね。非常に贅沢な放送となりました。次の20世永世名人は誰になるのか？3連覇中の佐藤天彦か、若き天才・藤井聡太か、あるいは・・・

外国人労働者受け入れ拡大

以前、外国人労働者の拡大について記した記憶があったので調べたら、2014年4月に「もはや外国人労働者を受け入れざるを得ない」というタイトルで書かれていました。要約すると「複雑な思いはあるが、それをしなければ、経済的後退は目に見えている」と当時は考えていたようです。そして4年半後、政府が大幅受け入れの方針を打ち出しました。野党は反対していますが、この流れは止めきれないでしょう。経団連の強い要請があったと思われます。安倍政権としては経済成長が最優先のため、この方針は自然に見えます。

政権としてはその前に手順は踏んでいました。それが「一億総活躍社会」であり「女性の活用」。しかしそれだけでは高齢化による人手不足は埋まらないから外国人労働者の拡大という流れです。女性の活用という言葉はすっかり聞かれなくなりましたね。やはり労働における男尊女卑は根強く、例えば共働きの夫婦が子育てや介護でどちらかが仕事をやめなければならないという選択を迫られた時、大概は女性が仕事をやめるということになるでしょう。これは男性ばかりでなく、女性の多くがこのシステムを望んでいるからにほかなりません。だから、向上心が高く「会社を動かす立場になりたい」「定年まで一線で働きたい」という女性にとって日本社会は窮屈なのではないかと想像します。大学の医学部受験での不公平な採点方法は氷山の一角に過ぎないのでしよう。

さて僕自身4年半前と考えは基本的には変わっていません。しかし、現在のアメリカ、ヨーロッパの状況を見るにつけ、当時以上に思いはより複雑になったような気がします。元来200年も鎖国していた島国なわけですから、欧米に比べても外国人に対する免疫力は弱いと思われます。そして次の段階のAI社会で、今度は人余りの状況になりえます。その時代になると日本人と外国人で少ない椅子の奪い合いになりかねません。そこまで考えたうえで、受け入れの規模については慎重に見極める必要があります。

藤井聡太初解説

昨日の叡王戦、羽生竜王・菅井七段戦で、藤井聡太七段が解説デビューを果たしました。山崎八段とのダブル解説で、山崎さんが藤井君の保護者といった印象でした。全体的に藤井君はおとなしく、山崎さんが何とか藤井君の読み筋を聞き出そうとする展開に。しかし、夕食をともにしながら、山崎さんが藤井君に羽生菅井戦の読み筋を訪ねると、実ははるか先まで読んでいたことが判明。山崎さんが「遠慮しないで読み筋を解説してほしい」と話すと、そこからは山崎さんが訪ねると鋭い読み筋を連発し、本領を発揮をしました。まあ、対局者が羽生さん、菅井さん。隣には山崎さんがいるということで、あまり出過ぎたことはしないよう心掛けていたのでしょう。聡明な少年ですからね。

ただ、自分の趣味の話になると顔を綻ばせました。鉄道、スピッツ、詰将棋などについて話したのですが、山崎さんが「スピッツというのは驚きだなあ。自分のリアルタイムだから」。確かに山崎さんの年齢、30代後半から40前後の人がスピッツのど真ん中の世代でしょうからね。藤井君の好きな「魔女旅に出る」は山崎さんの言う通り、スピッツがロビンソンでブレイクする前の曲であり知られていません。僕も収録されたアルバムを持っているので、知ってはいましたが、なんと気なしに聞き流していました。ただ、改めて聴き直してみると、いかにも少年が好みそうな曲ですよ。

視聴者プレゼントで色紙に書いた文字は飛翔。飛翔といえば谷川浩司九段ですが、普通の棋士では恐れ多くて使えない言葉も大胆に使ってしまう。さすが大物です。字も上手いですね。羨ましい。藤井君は未成年ということもあり「僕では終盤が不安だから、もう少しいて。法律は9時でしょ」と必死で引き留める山崎八段を振り切り（笑）8時過ぎに無事、初解説を終えました。

初解説の印象は普通、あの年頃の少年だと自分の見えた手を披露したくなるものだと思うのですが、そこは藤井君、慎ましいですね。人格者になる素質は十分です。山崎さんの奮闘ぶりも見事でした。

彼はいったい何者なのだろう？ユーチューブで何かしらの音楽でも聴こうと思ったら、藤井聡太七段のその動画を発見しました。何の気なしに開けてみました。自宅へ帰ったらまず新聞を読むというだけあって、北朝鮮情勢などが気になると話していました。それ自体は「藤井君らしいな」と思ったくらいで、特に新たな内容ではなかったのですが、驚いたのは最後の言葉。

「内政では社会保障が気になります。もし財源に余裕があれば、ベーシックインカムの導入も考える価値があるのかなと思います」。一字一句正しくはありませんが、大方こうした発言でした。控えめな話しぶりでありながらも、まさか藤井君の口からベーシックインカムが。僕はその手を見て「負けました」と投了を告げたわけですが、それと同時に藤井聡太とはいったい何者なのだろうかという思いが浮かびました。

ベーシックインカムに関しては加速する少子高齢化社会、また迫りくるAI社会で多くの人が職を失うことになるため、ベーシックインカムを導入すべきではないかとブログに記したことは何度かあったと思います。藤井君が心配する財源に関しては、企業の人件費が大幅に削減して莫大な利益を生みますから、その一部を企業からも負担してもらおう形になるでしょう。

それにしても藤井君。将棋の天才であることにもはや疑いはなく、大天才かどうかが意見の分かれ目だと思います。しかし将棋から離れても、彼は凡人とはかけ離れた世界の住人なのではないかという疑い（笑）が僕の中でますます強くなりました。個人的には将棋の道に邁進してほしい。瀕死の将棋界に現れた救世主に間違いありません。しかし反面、これだけの人材を将棋というある意味で狭い世界に括っていいのかという思いも多少はあります。とにかくとてつもない16歳であるのは間違いありません。

竜王戦第6局、藤井聡太最年少100勝

竜王戦第6局は随分早い終局になりました。広瀬八段が羽生竜王を下し3勝3敗で最終局を迎えます。

昼食前の投了というのは珍しいのではないのでしょうか。横歩取りという激しい戦型に誘導したのは羽生竜王の方でした。広瀬八段は流れに任せるようにそれに応じました。1日目が終了した時点で、手数こそ40手台でしたが、目の前に終盤が近づいていました。

一日目ではソフト的には互角だったようです。本来ならば、先手がリードを広げたいところですが、このシリーズの流れを見ると羽生さんの序中盤の強さが際立っているので、広瀬さんとしてはうまく一日目を切り抜けました。羽生さんとしては、もっと確実に有利な展開に持ち込みたかったところでしょう。それに消費時間を羽生さんの方がかなり多く使っていました。本来、時間配分の巧みな羽生さんがそれだけ時間を使ったということは、少し形勢がよくないとの思いがあったのかもしれませんが。一局を通してみると広瀬さんの快勝とも言えますが、序中盤は互角だったわけですから、終盤の入り口付近で差が付き、横歩取りは粘りが効かない戦型のため、早い終局となりました。

今日に限らず、こここのところのタイトル戦は一日目でかなりの局面まで進むことが多くなりました。ソフト研究は今後さらに加速するでしょうから、2日制のタイトル戦が姿を消す日が来るかもしれません。

第7局の注目度は相当なものになるでしょう。羽生さんが勝てば100期、負ければ無冠ということですから。ドラマ好きのマスコミは飛びついてくるに違いありません。ここまできると運にも大きく左右されますね。最終局は振り駒で先手後手が決まりますし。

羽生さんは最大限の闘志をぶつけてくるでしょう。タイトルを守るのではなく、防衛、また通算100期に挑戦するという気持ちで。それが羽生さんの強さの理由の一つだと思います。広瀬さんは勝負師に似つかわしくない優しそうな人柄に映りますが、つまらぬ空気など読まず、力を出し切ってほしいものです。

藤井聡太七段が銀河戦で通算100勝を達成しました。16歳4か月は羽生竜王を上回り最年少、100勝時点での通算勝率も8割4分8厘で、中原永世名人の記録を上回りました。まだ18敗しかしていないというのが驚きですね。藤井君は「羽生竜王の将棋に対する姿勢を見習いたい」とコメントしていましたが、それができれば、不世出の棋士になれるのではないのでしょうか。

中学聖日記

有村架純主演の中学聖日記が昨日最終回を迎えました。生徒と教師の禁断の恋。四半世紀ほど昔、同じくTBSで放送された「高校教師」というドラマを思い出しました。悲劇的な物語に森田童子の歌が心地よく響いた名作でした。ヒロインを演じた桜井幸子は哀しみや寂しさを表現させたら、当時同世代の若手女優の中では群を抜いていたように思います。

さて中学聖日記ですが、人を好きになることの素晴らしさ、苦しさがよく表現されていたと思います。まして女教師と男子中学生の恋という人間の感情としては決して悪ではなくとも、法や倫理の下では許されない現実が丹念に描かれていました。必死で阻止しようとする中学生の母親、それに反発し自らの思いを貫こうとする息子、周囲の視線を気にして最初は腰が引けていた女教師も、次第に自分の気持ちに正直でありたいと考えるようになります。何話か忘れましたが「もうこれほど人を好きになることはない」という男子生徒の言葉が印象的です。美しい風景も効果的でした。

主演の有村さんは大人の女優への脱皮を目指し、初々しさを残しながらも精一杯の演技を見せました。夏川結衣、吉田羊など経験豊富な脇の演技も光りましたが、キャストの中で最も強い輝きを放っていたのが、女教師への一途な思いを好演した新人の岡田健史でした。時間をかけてオーディションで選ばれたそうですが、久しぶりに本物のスターになれる逸材を発見した思いです。岡田君の演技を見ていて、単なるイケメンというだけでなく、その精悍な顔つきに意志の強さや、どこか懐かしさのようなものも強く伝わってきました。まだ19歳。彼の未来は大きく開けました。

竜王戦最終局 広瀬新竜王誕生 羽生無冠

竜王戦第7局は広瀬章人八段が羽生竜王を167手で下し、4勝3敗で竜王位を奪取しました。勝てばタイトル100期という大きな節目だった羽生竜王は27年ぶりに無冠になります。

第7局は振り駒の結果、広瀬さんの先手となりました。決戦の場は下関。源平合戦の終幕の地。敗者は海に沈む両者一步も引けない大一番。今期の竜王戦全体の流れ通り、羽生さんの深い研究に広瀬さんが対応していく展開に。際どい中盤の捻じり合いの末、広瀬さんが優勢となり、最後まで粘る羽生さんを振り切り167手の激闘は幕を閉じました。広瀬さんは8年ぶり2度目のタイトル獲得です。

それにしても広瀬さんはよく勝ったなあと思いますね。竜王戦を記すにあたり、羽生さんを執念という言葉を使い表現してきましたが、それがわかりやすく棋譜に表れていました。羽生さんが最後まで投了しなかったことには賛否両論あるでしょう。「よく粘った」とか「棋譜が汚れる」とか。しかし、この勝利を最後まであきらめない姿勢こそが羽生さん最大の武器といっても過言ではありません。相手側は竜王戦最終局の大勝負、久しぶりのタイトルがかかっていることもあり、プレッシャーが大きいことは間違いないので、粘られるのは嫌だったと思います。

平成最後の年末に平成を代表する棋士が敗れ、無冠になるという将棋界にとって大きな節目の竜王戦でした。新しい時代の幕開けとなるのか？羽生の逆襲はあるのか？どこで藤井聡太が覇権争いに参戦してくるのか？興味は尽きません。

藤井聡太、2018年この一手

12月28日、藤井聡太七段は今年最後の対局を白星で飾りました。、対局相手が気の毒になるほどの圧勝でした。終盤に見せた5七桂、すごい踏み込みでした。この将棋の棋譜で名前を伏せていたら、僕は谷川九段をまず思い浮かべていたと思います。藤井君の将棋は基本的にはサッカーでいえば、ディフェンシブで相手のわずかな隙を逃さず、鋭いカウンターで確実にゴールネットを揺らすタイプだとは思いますが、時にこうした激しい将棋も指せるんですよね。

今年印象に残った一手ですが、A1超えといわれた対石田五段戦の7七飛車成り、対里見女流四冠戦の1八歩も一瞬の逆転劇でした。それでも僕の中では、やはり最年少棋戦優勝を飾った朝日オープン決勝、広瀬八段戦（当時）の93手目、4四桂打ちですね。飛車にタダで取られてしまう場所なのですが、結局、広瀬さんは取ることができず決め手になりました。まさに天才の一手でした。

現在、個人的な見方では佐藤天彦名人、広瀬章人竜王、豊島将之二冠、渡辺明棋王が四強で、それに続く10人ぐらいのグループの中に藤井君も含まれていると思われます。来年はトップグループに彼が肩を並べ、一気に抜き去ることさえ可能性はあるのではないのでしょうか。16歳という伸び盛り、若さの勢いは時に想像を超える事がありますから。初タイトル、大いに期待したいです。

それにしても藤井聡太は凄い。平成の将棋界はずっと右肩下がりでした。今から12、3年前、当時新人だった糸谷哲郎八段は言いました。「斜陽産業の将棋を僕らの世代で立て直したい」。その言葉通り、糸谷さんは将棋の普及に東奔西走するのですが、彼も予想していなかったでしょうね。この2年のV字回復は。藤井君のこれまでの棋士にないスター性、それと糸谷さんを含めた若い棋士を中心とした熱心な普及活動が実り、奇跡は起きました。タイトルも新たに叡王戦が加わり、女流タイトルも一つ増えるそうです。これからさらに将棋界を発展させるためにも藤井君の活躍は不可欠です。16歳の肩には重荷かもしれませんが、藤井聡太ならばできるはず。彼は将棋界の未来です。

まだ1日あるからわかりませんが、多分今年最後の更新になると思います。今年一年ありがとうございました。よいお年を。

稀勢の里、遅すぎた決断

横綱・稀勢の里が3日目の栃煌山に敗れ初日から3連敗となり、翌日引退を表明しました。あまりにも遅かったですね。稀勢の里自身にとっても、横綱という特別な立場からも。

先場所、同じく3連敗を喫した時「引退かな」と推測していました。しかし、稀勢の里は休場せず、4日目も土俵に上がり、4連敗。これも自分の記憶にはありませんが、まあやるだけやっでの引退なのだろうと考えていたら、休場という結論でした。横綱審議委員会は「激励」を決議。事実上の最後通告でした。そして2019年初場所、3連敗でようやく引退の決断に至りました。36勝36敗97休。これが横綱・稀勢の里の成績です。僕は輪島・北の湖から数々の横綱を見てきましたが、言うまでもなく横綱の成績ではありません。史上最弱の横綱の汚名は本人も覚悟の上でしょう。

最初のボタンの掛け違いは左肩の怪我を軽視したことではないでしょうか？新横綱の場所、優勝争いの終盤で左肩を痛めながらも強行出場した気持ちはわかります。本人も優勝したであろうし、何よりファンが大きな期待を抱いていました。そして優勝決定戦で劇的な優勝を飾り、彼は紛れもなく角界のヒーローになりました。

そして翌場所、ここで休むべきだったと思うのですが、完治していない左肩の故障を抱えながら強行出場したものの途中休場。以降はその繰り返し。久しぶりに千秋楽まで土俵に上がった昨年の秋場所は10勝5敗。引退の危機はひとまず脱したものの、数字的にも横綱としては合格点には程遠く、何より負け方が悪かった。下半身の衰えを隠し切れなくなっていました。そしてその後、7度土俵に上がりましたが、白星を挙げることなく引退となりました。

大きかったのは育ての親・鳴門親方の不在です。もし親方が生きていたなら、左肩の怪我を負った翌場所は休ませていただろうし、引退の決断ももっと早い時期にできていたと思われます。稀勢の里も相当迷っていたようですから。鳴門親方は稀勢の里を15歳の入門時からの師弟関係ですし、自身も元横綱です。現在の師匠、田子ノ浦親方は元平幕です。相撲界には自分の現役の地位を弟子が超えた場合、指導しにくい立場になるという独特の風潮があります。そのため親方も稀勢の里の現役続行に意見できなかったのではと推測します。

本名の萩原で土俵に上がっていた10代の頃から将来を嘱望され、大関昇進後もモンゴル勢全盛の中、5年間立派な成績を残した名力士に違いはありません。しかし稀勢の里が横綱を張った2年間は、結果として綱の権威を失墜させてしまったことに間違いありません。今後、横綱の引退に関する新たな規定を作らなければならないかもしれません。

藤井聡太は完成品なのか？

昨日のB級1組を最後に今期の順位戦は終了しました。若手に上がってほしかったので、斎藤慎太郎王座に期待したのですが、残念でした。また来期ですね。個人的には谷川浩司九段が素晴らしい内容で橋本崇載八段を下した対局が印象的でした。終盤、あえて桂馬をならなかったり、最終盤での敵の歩の頭への金打ちなど谷川将棋の魅力が詰まっていました。皆さんもぜひご覧になっていただければと、って見ないか（笑）

さて、順位戦の昇級は惜しくもならなかった藤井聡太七段。こないだ注目していた対局がありました。棋聖戦二次予選での久保九段戦です。朝日杯ではタイトルホルダーやA級棋士などそうそうたる相手を次々と倒していく藤井君ですが、果たして持ち時間の長い勝負でトップクラスの棋士とどうなのだろうかという興味がありました。これまでサンプルが少ないですからね。結果は残念ながら藤井七段は敗れました。互角の勝負だったようですけどね。最後にミスが出てしまい、それが敗着になりました。

藤井聡太を評価するうえでよく出てくるキーワードが完成度が高い。裏を返せば、年齢ほどには伸びしろは少ないのではないかとの意見もあるでしょう。確かに完成度は高いですね。そうでなければいかに天才と言えども29連勝や朝日オープン連覇ができるはずはありません。史上最強の16歳であることは間違いないでしょう。問題はこれまでの中学生棋士のように10代後半で大きな成長を遂げられるかどうかです。

どうなんですかね。藤井君は今も最年少プロ棋士ですから、最も伸びしろがあると思いたいです。勝率最高記録は絶望的になりましたが、それでも昨年と同じだけの勝率を残したことが何よりの成長の証です。強い棋士との対戦が増えてこの成績ですから。聡明な少年ですし、また将棋への情熱も人一倍だと思います。その姿勢を続ける限り、まだまだ成長していくと思います。

来期はいよいよタイトル挑戦を実現させたいところです。出来れば渡辺二冠は避けたい（笑）個人的には谷川さんとの年の差40歳対決を楽しみにしています。僕にとってのゴールデンカードですから。

自分で詩を書いていて、「ヘタクソだな」とか「これはまあまあ」とか漠然とは感じるけれども、結局、自分で書いたものは、よくわかりません。アクセス数とかで判断しています（笑）なかなか自分を客観的にみるのは難しいことです。あの太宰治でさえ「自分の作品はよくわからないけど、人の作品ははっきりわかる」と記しています。

作詞の世界にも、何人も才能を感じさせる人はいます。その中でも、僕が真っ先に思いつくのはスピッツの草野マサムネです。「ロビンソン」の頃から、すでに独特の世界観は感じました。その後も次々と素晴らしい楽曲、歌声とともに、草野さんの洗練された歌詞が耳に残りました。

大きな力で空に浮かべたら、ルララ宇宙の風に乗る「ロビンソン」

幼い微熱を下げられないまま 神様の影を恐れて 隠したナイフが似合わない僕を おどけた歌でなぐさめた 色褪せながら ひび割れながら 輝くすべを求めて「空も飛べるはず」

草野さんには、よく使われる表現ですが、歌詞が空から降りてくるようにも思われます。もしかしたら、もがいて書いているのかもしれませんが。

倒れるように寝て 泣きながら目覚めて 人混みの中でボソボソ歌う 君は何してる？ 笑顔が見たいぞ 振りかぶって わがまま空に投げた「魔法のコトバ」草野さん凄い！

優しい光に 照らされながら あたり前のように歩いてた 扉の向こう目を凝らしても 深い霧で何も見えなかった ずっと続くんだと思い込んでいたけど 指のすき間からこぼれていった「若葉」。この曲、スピッツの中でも好きですね。

いきものがかり、活動休止

ブルースが加速しそうな2017年。思えば、このブログも13年目になります。今年も出来る限り、何かを表現したいとは考えているのですが、自信はありません。体調面もあるし、パソコンがそろそろまずいし（笑）

いきものがかりが、活動休止を宣言しました。彼らは「放牧宣言」としていますね。確かに、いったん、生き物たちを開放させてあげるというのも、大切かもしれません。また、それを飼育する係も疲れますしね。

僕は結構、いきものがかりは好きで、かつてこのブログにも「吉岡さんの歌声はいい。青春の香りがする」と書きました。いい曲、いっぱいありました。「帰りたくなったよ」「ノスタルジア」とか。今後、彼らが年齢を重ねるにつれ、どう春夏から秋冬物に着替えていくのか、注目していました。今回の活動休止も、青春の幻影、残り香にピリオドを打ちたかったのかもしれませんが。

こないだまで書いていた「大人になるにつれかなしく」という小説は、主要な登場人物は男性2人、女性1人で、いきものがかりと重なり、物語の終りの年代は、まさに彼らと同世代の30代前半でした。ヒロインの有紗と吉岡さんは同い年ぐらいかな。この年代で終りにしたことに深い意味はないけれど、ただ、有紗の美しさが物語のひとつの要素だったので、このあたりの年代で終わらせた方がいいかなというのありました。

とにかく、いきものがかりにはゆっくり休んで、また元気な3人揃った姿が見たいものです。そして、このブログは、細々とでも続けていけたらいいのですが。小説はマラソンのようで疲れたので、詩でも書こうかなと思っています。勿論、タイトルどおり、ざっくばらんにジャンルを問わず、書いていきたいです。

幸せの記憶（1985・10.16）

昨日、渡辺謙主演の「しあわせの記憶」を見ました。謙さんの元妻役に麻生祐未、娘役に北川景子、二階堂ふみという豪華キャストでした。

何より、渡辺謙さんが格好よかった。「りんご農園はあんちゃんが継いでる」という軽いギャブ。杏ちゃんも立派な女優になりました。実の娘と同年の北川景子が良くできた長女で、二階堂ふみ演じる次女は、優秀な姉を見て育ったせいか、自分に自信の持てない子です。そして、彼女と新しい家庭を築きたいと願う男性と、新たな人生を歩み始める麻生祐未演じる元妻。それを受け入れ、温かく送り出した謙さん演じる夫。娘たちもそれぞれ旅立ち、一見ばらばらになったように見える家族。しかし、これまで積み重ねてきたしあわせの記憶によって、固く結ばれているという物語でした。

北川さんはやはり、演技面でかなり成長したように感じます。綾瀬はるかが、国民的女優という立ち位置に慢心した訳ではないのだろうけど、伸び悩んでいる間に、北川さんは着実に力をつけた。こうなると、男性のみならず、同姓である女性にも支持されるようになるんですね。

この家族の最初の幸せの記憶が1985年10月16日でした。夫と妻が出会った日。阪神タイガース21年ぶりのリーグ優勝。掛布のホームラン。佐野の犠牲フライまで台詞に盛り込んでくるとは。

僕もよく覚えています。しあわせの記憶ですね。尾花から打った掛布のホームランは確かレフトのポールを直撃したと思います。彼らしい逆方向への流し打ち。この追撃の39号ホームランで1点差とし、佐野の犠牲フライで同点に追いつき、引き分けで優勝を決めました。夜のヒットスタジオという歌番組の中で、放送していました。

この年の八月、日航ジャンボ機が墜落し、500名以上の方が亡くなったのですが、その中に阪神の球団社長も含まれていました。それから2ヵ月後の歓喜。空前絶後の虎フィーバー。思えば、日本の野球界も、この頃が最も幸福な時だったのかもしれない。大横綱、白鵬が生まれた年。とてつもない時間が流れました。

今年目標

このありきたりなタイトル。今日は皆さんを無視して（笑）自分の目標を考えてみます。書いておけば、今年の途中で見直すことも出来るかなと。

まず、詩でも何でもいいから、作品を1日1つ作る。まあ、無理なんですけど、でも、そういう意気込みでないと、やはり数多くは作れないと思うので、無謀な目標を書き残しておきます。正直、去年、短編小説を掲載して、自分が予想している以上に見てもらえた事が励みになりました。だから、今年も何らかの表現をしていけたらと思います。

あと病気ですね。長い付き合いの不安神経症（パニック障害）ですが、これは難しい。まず、薬を飲むこと。何度か減薬したこともありますが、生活が成り立たなくなってしまう。薬は毒なので、飲まないに越したことはないけれど、日常生活を送れなくては意味がないので、飲み続けるしかありません。あとは何とか行動範囲を広げたいです。

仕事。店の経営です。これも特効薬はないですね。年々、ギリ貧です。まず、続けていくことが第一。まあ、流れを変えるしかないけれど、これまで通りの事をしていたら、現状維持はおろか、落ちていくだけという事は肝に銘じておきたいです。

最後に、このまま独りでいいのかということ。これはもっと真剣に考えなければいけない。自分の場合は、独りで生きていくしかないと思ってはいます。しかし、40代も折り返しの年齢になり、何だか孤独が増していく状況にあるように感じます。仕事以外に自分の居場所を作る事が、自然な感じで出来ればいいのですが。相当なエネルギーが必要なのかなと。また、若い頃のように、病気のことを隠して人と付き合ったりしたら、自分が大変なだけなので、それは避けたいです。もし出会いがあったなら、それとなく話し、気楽な人間関係が気づければいいのですが、なかなかね。

キムタク苦戦・谷川会長辞任

今年の元旦に、「2016年はあらゆるものが終わった年」と記しましたが、それにかかわる2つの事柄について。

木村拓哉主演の新ドラマ「ALIFE」の初回視聴率が14%台でした。僕は久しぶりにキムタクのドラマを見たのですが、ドラマの王道のひとつである、医療ものということもあり見やすく、キャストもヒロインの竹内結子はじめ、主演でもおかしくないような、豪華な顔ぶれが揃っていました。そしてTBS日曜9時という看板枠。

いまの時代、いかにキムタクといえども20%台は難しい。それでも18%前後はとるのではないかと思っていたのですが、まさかの15%割れ。これは厳しいスタートです。やはり、去年のスマップ解散騒動の影響が大きかったようです。2話目以降、盛り返す可能性はありますが、ひとつの時代が終わったと見て、間違いなさそうです。

そして、将棋界。三浦九段スマホ不正疑惑に端を発した問題で、ついに谷川会長が辞任。まあ、これは誰が悪いと決め付けるのは難しいですね。週刊誌に三浦さんの一件が掲載されることを知った渡辺竜王が、「竜王戦が始まってから、週刊誌に書きたてられる最悪の事態」を考え、将棋連盟に話した事は、将棋を守ろうとした行動であったわけで、責めるのは酷でしょう。谷川さんはじめ、連盟の判断も、渡辺さんの報告を重く受け止めざるを得なかったのでしょうか。三浦さんとて、もし事実無根であれば大変な被害をこうむったことになります。

僕は個人的に谷川さんのファンで、彼が人格者であることは、将棋を知っている人なら誰もが認めるところです。いわば最も美しい棋士なのですが、しかし同時に、こうしたスマホとかソフト指しなどについては、最も縁遠い、最後のアナログ棋士なのです。ですから、こうした時代には不似合いだったところがあります。

昨日は谷川さんにとっても忘れられない日でした。阪神・淡路大震災。谷川さんも神戸で被災しました。その日を避けたのか、あるいは1月17日に辞任を決断したのかは分かりませんが、これからは一棋士として、谷川さんらしい、美しい人間の将棋というものを、最後まで見せてもらいたいです。

仮に三浦さんの件が落ち着いたとしても、またこうした問題は出てくるでしょう。すべては棋士が人工知能に超えられてしまった事が原因です。大山・升田。中原・米長・加藤一二三。幸せな時代は終わりました。近い将来「昔は棋士なんていう職業もあったなあ」と懐かしむ日も来るかもしれせん。

正しさから楽しさへ

まもなくトランプ氏の大統領就任式です。社会学者の宮台真司氏は「左翼は正しいけどつまらない。右翼はその逆」というような事を語っていました。それはまさに正しさのオバマから、面白さのトランプへの流れにそのまま当てはまります。2016年で、これまでの考え方、いわゆる由緒正しき民主主義は終わったと言えます。その代表的な出来事が、イギリスのEU離脱とトランプ勝利でした。ポスト・トゥルース。正しさなどを追求するより、楽しさや気持ちよさを優先する時代がやってきたのでしょうか。

去年、広島に来たオバマの姿を見た時、言葉を聞いた時、僕はアメリカの大統領を初めて格好いと思いました。優れた人格も備えているでしょう。しかし、彼は大統領として、目に見える成果は挙げられなかった。その8年間のアメリカ国民の鬱憤が、トランプ大統領を誕生させた一因なのは間違いありません。

日本も同じ道を辿る運命にあるのだと思います。正しさから楽しさへ。この流れは、これからむしろ加速していくのではないのでしょうか。

それにしても寒い一日でした。

「A LIFE」第2話・稀勢の里初優勝・美宇vs佳純

木村拓哉主演ドラマ「A L I F E」第2話の視聴率が14.7%と初回を上回りました。平泉成を和菓子職人として投入したのが功を奏したのか（笑）やはり初回の物語の出来が悪くなかったという事でしょう。

平泉「あんたも職人なんだな」

木村「いえ、まだまだです」

このやり取りが良かったです。物語のひとつの軸は、院長・副院長・キムタクの三角関係。それが最後のシーンの院長の退院祝いで描かれていました。院長家族の中にキムタク扮する沖田が呼ばれ、陰悪な雰囲気。院長が「沖田先生は私の命を救ってくれた恩人。沖田先生には外科部長、いや院長を譲るか」と副院長を挑発。沖田と幼馴染でもある、浅野忠信演じる副院長は沖田に嫉妬。キムタクはただただ困惑という場面でした。さらに竹内結子演じる副院長の妻は、かつての沖田の恋人という設定。

ただ、一般的に言えば、医者としての腕が優れている事と、組織のトップに立つというのは切り離した方がいいですね。

大相撲は稀勢の里が悲願の初優勝。横綱昇進も確実になりました。日本人横綱は若乃花以来19年ぶり。萩原時代から期待され続け、ようやく花が開きました。白鵬らモンゴル勢の衰えにも助けられた形ですが、立派な横綱になってほしい。現在の状況を考えれば、今年中に2回、3回と優勝を重ねるチャンスは十分にあります。

卓球の全日本選手権の女子決勝。女王石川佳純に16歳の平野美宇が挑み、平野の若さが石川の技術を上回り、見事に最年少優勝を飾りました。やはり、実力がありながら、オリンピックに出られなかった。その悔しさが、彼女をより成長させました。パワーがついたし、顔つきやコメントも変わりました。テニスの錦織選手が、世界ランクを急激に上げていた時と似ていますね。個人的には石川さんのファンでもあるので、彼女の巻き返しにも期待したいところです。

「コンビニ人間」感想

早いもので、こないだ芥川賞が発表されました。だからもう前回になるんですね。こないだ村田沙耶香さんのコンビニ人間を読みました。

読後の感想は一言で表すならば、読みやすい。大江健三郎的な、難解な文章とは正反対。比較的、最近の受賞作では田中慎弥の「共喰い」もすらすらは読めませんでした。しかし、こういったすらすら読ませない表現こそ文学的な、芥川賞にふさわしいのかなという気がします。ただ、優劣は別にして、「コンビニ人間」と「共喰い」どちらが売れるかといえば、おそらくコンビニ人間に軍配が上がると思われます。30年前ならわかりませんが。それだけ「コンビニ人間」は現代的です。難解な表現がないだけでなく、コンビニという分かりやすい軸があるから、さらに読みやすくなります。

主人公は、実際に長い間、コンビニで働いてきた作者と重なります。不器用ゆえに徹底的にマニュアル化されたコンビニでしか働けないのだけれど、ある意味、彼女はコンビニ店員としてはプロフェッショナルで、天職でもあると思うのです。しかし、周りはそうした変わり者たちを認めようとはしません。コンビニを綺麗な水槽に見立て、異物が入ると、すぐに排除される様は、現代社会を巧みに、やわらかく表現しています。そうした社会を静かに、また鋭利に指摘しつつ、読者にはさらりと読ませる、なかなか書けそうで書けない芸当なのだと思いますね。

自殺者数7対3.やはり男は辛いのか？それとも弱いのか？

タイトルの「男は辛いのか、弱いのか」というのは、どちらも正解だと思いますね。前年の男性の自殺者数が1万5千人強。女性が6700人台。女性は統計をとり始めて以降、最小だったそうです。

かつて美輪明宏さんが「強い男は見たことない。弱い女も見たことない」と話していたのを覚えています。それは極論のような気はするけど、ただし、「見た目より」という前置きをすれば、真実に近づくのではないのでしょうか？生物学上、女性のほうが強いというのは、よく言われることです。

メディアでも「女性はいろいろ大変」というのが多数を占めていますが、それは何故か？同じ事を男が言ってしまうと、女々しくなるので、黙っているしかないのです。その反面、イクメンという言葉が市民権を得ている矛盾。

要するに、辛くても黙っているという古風な面を引きずりながら、育児に積極的な、優しいパパ、よき家庭人を演じなければいけないところに問題があるのだと思います。有給が取れないのも昔のままな訳で、よって男性は昔以上に社会的には厳しくなったと言えます。

一時期、3万人を超えていた自殺者数は、約2万2千人と20年以上前の水準まで戻りました。これはさまざまな努力が実った結果でしょう。あとは、上に記したようなねじれ。つまり時代の流れで、家事に協力的で、優しい父親像が求められているにもかかわらず、社会では相変わらず「男は働いてなんぼ」という価値観に何ら変化がない矛盾の改善に、社会全体で取り組んで欲しいものです。

付け加えておきますが、自殺の最も大きな要因は病苦です。これもやはり男性は言いにくいという面があります。自分もネットだからこそパニック障害だと言えますが、実際の生活では病院など特定の場所でないと無理ですね。まあ、それも男の弱さなのかもしれませんが。

「A LIFE」女優陣を語ってみる

A LIFE第4話、見ました。50分が早く感じるので、自分には合っているのだと思います。

昨日は木村文乃演じる看護師の柴田に、スポットが当たっていました。医師顔負けの非常に優秀な看護師。しかし、家庭の事情で医師を諦めざるを得なかった彼女は、ナースの道を選ばざるを得ませんでした。そうした彼女の悲哀、また意志の強い役どころを文乃さんが好演しています。かつて榮倉奈々主演の「蜜の味」で中国人役の駆け出しの医師を演じていましたが、あの時の活発な印象とは、今回は全く別の顔を見せているところに、文乃さんの女優としての非凡さを感じます。若手では実力派ではないでしょうか。キムタクのようなスター型ではありませんが、役になり切る、菅野美穂のような憑依型の女優の可能性を感じさせます。

竹内結子と菜々緒が相対する場面があり、竹内さんが少し可愛そうな気がしました。竹内さんも十分、美人なのですが、ちょっと菜々緒の派手さには（笑）キムタクのかつての盟友、中居正広の「白い影」で看護師役の時に見せた、タンポポのようなひっそりと咲く美しさが、彼女のひとつの持ち味。今回もそれに近いイメージです。菜々緒のような派手な顔立ちの美人に目が行きがちになるのは、仕方のないところですが、それにしても、「白い影」好きだったなあ。

その菜々緒さんですが、美人秘書系の役が良く似合いますね。なかなか彼女のような日本人離れたスタイルと美貌を兼ね備えた人は少ないので、需要はあると思います。ただ、表情の種類が少ないので、いまの美しさが健在なうちに、女優としての型を身につけられるかが、今後も女優として続けていけるかのポイントでしょう。

物語は病院の屋上で、竹内さん演じる深冬が倒れたところで、終わりました。まだドラマは序盤、ましてやヒロインなので、とりあえず命は取りとめるのでしょうが、医療現場に戻れるのか、そして最終的に彼女の命が助かるのか否かも、このドラマの見所です。

生活保護でパチンコはありか、なしか？

日本維新の会が提言している「生活保護受給者はパチンコなどのギャンブル禁止」。世間話でもよく話題になります。世の中の関心はかなり高いと思われます。では生活保護でパチンコはありなのか、なしなのか？

感情的には、生活保護の人が銜えタバコでパチンコしている姿を直接目にしたら、当然、いい気持ちはしないですね。これは多くの働いている人もほぼ同じと思われます。

ただ、理性的な視点に立てば、こうした人々を強制的にギャンブルから排除することは、憲法で保障されている「健康で文化的な最低限度の生活」に反するのだと思われます。しかし、どうも釈然としないところがあるのは致し方ないですね。みんな、生活するために、必死に働いているわけですから。寛容な気持ちは生まれにくい状況です。

問題なのは、労働者の最低賃金と生活保護受給額の差が、小さいことです。最低賃金が生活保護を下回っている時期もありました。そのため政府は最低賃金を上げるよう、企業に要請したのです。そこで何が起きているか？

自分の街で見聞きしていることは、労働時間を30分減らされたとか、機械化を促進し、さらに一人ひとりの仕事量を増やすことで、5人だった現場を4人にするとか、要は企業側は人手は欲しいけど、人件費は増やしたくないという姿勢が見え見えなんです。象徴的なニュースとしてはセブンイレブンが女子高生に対し、欠勤を理由に罰金を課しましたよね。現在の少子高齢化社会では、一部の大企業を除けば、昔のように会社も利益が出せない状況で、そのしわ寄せは働き手に波及します。

ではどうすればいいのか？国がいくら企業に賃金を上げるよう要請しても、思うようには行きません。よって、国が労働者を救うことが求められます。例えば、旧民主党が出来なかった、子供手当の労働者版をやるしかないと考えます。額の目安は、働いた方が生活保護を受けるより、明らかに金銭的にも恵まれたと実感できるものであればいいと思います。子育て世帯には更なる手当が必要で。

問題は財源ですが、これだけの格差社会になったので、やはり、ごく一部の超富裕層の税率を少し上げるだけでも、かなりの税収が見込まれます。勿論、消費増税を組み合わせることも考えるには値します。今はとてもあげられる状況にはありませんが。

働いている人々に金銭的な余裕が生まれてはじめて、それが心の余裕となり、「生活保護でパチンコ？まあまあ、いいんじゃない」といった寛容な気持ちになれるのではないのでしょうか。

パニック障害で異性と付き合うという事

「僕とパニック障害の20年戦争」を出版して8年。ここに恋愛を記したとしたら、クリスマス前に別れた女性の事だと思うんです。18歳でパニック障害になって以降、クリスマスに彼女がいたことはないです。ただ、バレンタインに本命チョコを貰った事があります。

一口にパニック障害といっても、症状の重さの違いがあり、また男女の違いもあります。自分の場合は男であり、症状が重かった。この状態で女性と付き合うというのは困難でした。

チョコをくれた彼女との記憶。例えば、彼女とハンバーガーショップに入ります。僕は2つほど頼んだのですが、半分ぐらい食べた頃、急に吐き気を催し、食べる手が止まってしまいました。また、外食の時、椅子に腰掛けるより、和室で畳に座って食べるほうが調子が良かったので、金もないのに、彼女を寿司屋に連れて行きました。ここは、まずまず上手くいったんです。

その矢先、彼女に「レストランで食事したい」と言われ、嫌な予感がしたので「そのうち」と先延ばしにしていました。しかし、いつまでもごまかしは通じません。意を決して洋食屋に入ったのですが、ここで動悸が激しくなり、まともに食事が出来ませんでした。肉料理を食べながら、僕を気にしている彼女の目が、いまだに記憶から消せないでいます。そして「ディズニーランドへ行きたい」と言われた時には、残念だけど別れるしかありませんでした。外へ出ているだけでも辛い状態な訳ですから。この恋も桜が咲く頃には、終わってしまいました。

18歳から20代の時は、早く年を取りたい、今すぐ老人になりたいと思っていました。パニック障害は治らなくても、友人関係や男女関係での悩みは消えると考えていたんです。しかし実際に中年になり、いまま孤独感があり、また、ほとんどの人が通ってきた全うな青春がない寂しさを感じます。僕は経営している個人店でラジオを流しているんですが、リスナーの月並みな青春を耳にするたびに、気持ちが沈みます。

運悪くパニック障害になってしまって、自分のような思いをしないためには、まず早めに病院へ行く事だと思います。僕がパニック障害を発症した1990年前後は、まだ精神科への敷居が高く、パニック障害という病名を、本人すら知りませんでした。そういう意味では、今の時代は、かなり環境的に整備されていると思います。症状が軽い場合は別として、ある程度、重い場合、病気が原因で大学なら中退、会社なら退職を考える状態なら、病院へ行って、適切な治療を受けるのが最善と考えます。僕は病院へ行くまで14年かかってしまいました。

いま僕の習慣は、日9ドラマ「アライフ」を見る事と、毎日のようにコタツに入り、ZARDを聴く事です。聴いてるうちにうとうとして、目覚めたら、夜中の2時3時というのが、最近の流れです。

僕にとって、1989年というのはパニック障害という原因不明の地獄に落ちた年でした。また世間では元号が昭和から平成へ移り変わった年でありました。

昭和天皇が崩御された時、レンタルビデオ店が空前の賑わいとなり、またこの年、「ザ・ベストテン」が終了しました。共通するのは個人主義の増大。皆でテレビを見る時代が終わりました。例えば、ベストテンの今週の第1位を、家族なり兄弟姉妹で見るということが、面倒になってしまった。音楽を聴くなら、自室にこもり、独りで聴くという流れが完成されつつありました。

この流れに乗ったグループのひとつが、1990年代初頭に台頭したZARDでした。「負けないで」「揺れる想い」などが次々とミリオンセラーとなるビッグヒットを記録していきます。

ZARDといえば何とんでも坂井泉水です。ボーカルは勿論、作詞も担当しましたが、古くはユーミン、中島みゆき。その後の宇多田ヒカル、椎名林檎と比較してしまうと、彼女の詞はあまりに等身大で、庶民的でした。ありがちな言葉が並んでいます。

では坂井さんが詞に対して思い入れがなかったかと言えば、そうではないのです。レースクイーン時代の同僚、岡本夏生が「彼女はいつも詞を書いていた。ノートに書き溜めていた」と語っているように、まだ手書きの時代、書いては消し、書いては消しを繰り返していたのでしょう。一見、凡庸に写る言葉たち。では彼女はどこに拘ったのか？それは、自らの気持ちを忠実に再現することだったように思います。

詞の才能は、上記の歌姫たちに及ばなかったかもしれない。彼女の天分は、やはりその美貌と美声にあったのではないのでしょうか。僕は美人薄命という言葉から、女優では夏目雅子、そして歌手では坂井泉水を思い浮かべます。今にして思えば、彼女の憂いを含んだ表情は、やがて訪れる悲劇を連想させるものだったのかもしれない。

坂井さんの等身大の詞は、織田哲郎らのメロディにのせて、彼女自身の声で表現することにより、大きな共感を生み出しました。彼女がこの世からいなくなっても、力強く生きていて、多くの人を励まし、背中を押しています。そして、これからも永遠に。

奪われた女優の夢

昨年5月に起きた、東京小金井での芸能志望の女子大生刺傷事件。被害者の富田真由さんは、一時心肺停止になり、その後も意識不明の状態が長く続きました。加害者は彼女のファンを名乗り、SNSなどで執拗な嫌がらせをしていた男でした。

彼女は意識を取り戻したものの、当然、後遺症は残っているようです。PTSDなど心的なものもあれば、何十箇所も刺された傷跡も、色濃く残っていると思われます。富田さんは女優志望だったそうですが、おそらく顔にも傷が残ってしまっているのでしょう。「悔しいけれど、女優の夢は諦めるしかない」と話しているそうです。

彼女の心情を考えれば、夢を失った悔しさとともに、加害者の男に対する恐怖が、強く残っているに違いありません。被告は被害者が生死をさまよいながらも、結果として命を取り留めたので、殺人ではなく、殺人未遂となります。それほど重い判決は下らないと思われます。何年か後に彼は自由の身になるわけです。

個人的には、その時にGPSを取り付けるべきではないかと考えます。彼が現在どこにいるかを警察が把握し、被害者の富田さんに知らせることが、彼女の恐怖感を少し軽減する役に立つはずですが、GPS監視はフランス、ドイツなど多くの先進国で取り入れられ、日本でも導入が検討されています。こうした時に似非人権派が強硬に反対するわけですが、確かに問題はあるでしょう。ただ、被害者の保護と、再犯の恐れのある加害者の人権。どちらを優先するかということです。

これは高齢ドライバーの免許停止にも言えます。高齢者の利便性と人命。どちらも大事だとは思いますが、そうした高齢者に配慮することも必要です。むやみに75歳で免許を取り上げることは慎重であるべきです。しかし、どちらを優先すべきかと二択で問われれば、僕は人命です。面識のない高齢ドライバーの老化による運転ミスによって、奪われてしまう命を救うほうに重きを置きます。

最後に富田さんは、歌での表現は続けたい意思を持っているようですから、まだ若いことですし、夢を追いかけてくれればと思います。

今日のニュースから

朝、ワイドショーを見ていると、小金井ストーカー事件の裁判員裁判で、被告に対し、懲役14年6ヶ月の判決が下ったことを伝えていました。こないだブログで取り上げた事件だけに興味深く見ていました。

キャスターやコメンテーターは一様に「量刑が軽すぎる」と発言していたが、僕は求刑17年、懲役14年半というのは、予想より重いものを出してくれたと感じました。理由は奇跡的に富田真由さんの命が助かり、犯人はあくまで殺人ではなく、殺人未遂として裁かれるからでした。

しかし、検察も裁判員もきわめて殺人に近いことを考慮し、また社会に与えた影響の大きさも鑑みた、精一杯の判断だったと思います。富田さんが「短すぎる」と感じるのは当然のことであり、また被告は何の反省もしていないことも誰の目から見ても明らかなのですが、この事件に限らず、一人の女性を数十回にわたって殺傷した人間が、反省している訳がありません。この事件は注目度が高かったため、人々の目に留まっただけで、これまでの他のストーカー事件の加害者も、おおよそ岩崎被告と同じような態度なのだと想像します。

こないだのブログで、「被害者に出所後の岩崎被告の居場所を教えるべき」と記しましたが、少し補足しておきます。この自分の意見にも課題があり、今回のような事件が何件、何十件と繰り返されていくうちに、被害者の家族などが加害者に復讐する可能性は否定できません。新たな事件を生まないために、その部分はよく考慮した上で、GPS監視導入を目指すべきでしょう。

もうひとつのニュース。

ネットで堀北真希引退を知りました。僕も好きな女優の一人で、ブログにも何度かは書いてきたと思うので、触れておきます。

なんとなく、彼女はそうした方向性なのではないかとは思っていましたが、きっぱりと区切りをつけた堀北さん。潔い決断ではないでしょうか。お疲れ様でした。しっかりとした型を持った女優でした。イチロー型か王貞治型といえば、後者のタイプでしたね。役者としてはカメレオンタイプではない。だから見方によると、つまらないかもしれないけど、その代わり、演技には安定感がありました。今回の決断にもそれが表われていたのかもしれませんが。芯の強さを感じます。男性ファンが多い女優さんでしたね。今後、山口百恵のように伝説になる可能性はあると思います。

「三丁目の夕日」「電車男」などで堀北さんを見た時、高い将来性を感じさせました。清純派、正統派女優という言葉が堀北さんにはよく似合いました。同い年のライバル的な立場だった新垣

結衣が、昨年のドラマで脚光を浴びましたが、二人の物語もここに終焉しました。

WBC中間評価

野球が久しぶりに存在感を発揮しています。2017WBCは、いずれも高視聴率で、昨日のオランダ戦は25%を越えたようです。日本チームも1次ラウンドを3連勝で通過。2次ラウンド初戦のオランダ戦も激闘の末、勝利。準決勝進出も8割方、大丈夫だと思います。それにしても昨日のゲームは、選手、ベンチは勿論、見る側にとっても、体力を要する壮絶なゲームでした。

その中でも、活躍が際立ったのは、文句なしに中田翔。昨シーズンの数字は2割5分、25本。今回ばかりは打線の軸は筒香で、勝負強い中田が彼をフォローできればというのが、戦前の想定でした。しかし、フタを開けてみれば、ここまでは完全に中田の独り舞台ですね。

4番打者にもタイプがあり、王・松井の後継は筒香。それに対し中田は明らかに、長嶋・清原の系譜ですね。前者は総合力が高く、心技体のブレが少ないため、長丁場の戦いで、高い数字を残します。

それに対し、後者は短期決戦に強い勝負師で、大舞台、重要な場面になればなるほど、神懸かった打撃を披露します。今回の中田君はまさにそれですね。

今シーズンの中田には2割8分、30本を期待したい。また筒香にはベ이스ターズを自らのバットで、優勝に導く打撃を期待します。いずれにしても、TN砲というナショナルチームの軸ができたのは喜ばしいことです。

それにしても、どこの国もレベルが上がり、プレーに例えるなら、昨日の菊池の超美技。いっぱいいっぱい戦いが続くでしょう。ここまで実力が拮抗すると「強い方が勝つのではなく、勝った方が強い」という野球の本質が表われてきます。

例えば、大相撲は大体、優勝は13勝2敗以上でなければできません。つまり勝率8割では優勝に届かない。強い方が勝つ訳です。それに対し、野球は6勝4敗のペースを守れば優勝できるスポーツです。よって、今回のWBCのような戦いになると、運やその時の調子の波が大きく左右します。

ただ、勝率を高める方法があります。ヒントとなるのは、まもなくセンバツが始まる高校野球、甲子園。それは絶対的なエースの存在。いまの日本にはそれが見当たらない。準決勝で大谷不在の穴が出なければいいが、とは思います。

とにかく、パワーでは外国チームに劣るわけですから、持ち前の全員野球、それとシンキングベースボール、頭脳を含めた野球の質の高さで勝負するしかないですね。

A L I F E 終了・WBC 秘策

ついにA L I F Eが終了しました。毎週見ていたんで、少し淋しくなりますね。

このドラマを見終えて思うのは、実質的には、キムタクと浅野忠信のダブル主演だったという事です。それくらい浅野さん演じる壇上壮大のキャラクターが強かった。

キムタク演じる沖田医師と幼馴染み。その頃から文武両道で、沖田が憧れる存在でした。現在も一流の脳外科医であり、また副院長として、経営手腕も大いに発揮していきます。その一方で、彼には大きな欠落があるんですよね。そのギャップが面白く、魅力的な人物像につながったと思います。

最終回の視聴率が16%。キムタク主演、そして脇の豪華キャストを考慮すれば、やや物足りなさはあるかもしれませんが、しかし、キムタクドラマとしては、初回14%という異例の低さで始まったことからすれば、内容、視聴率ともに悪い終わり方ではなかったと思います。

いよいよ明日はWBC準決勝アメリカ戦。明日は休みで見れると思ったら、病院か。

まあ、秘策というか勝つためには当たり前のことなのですが、日本投手陣はインハイを攻めろという事です。外国人打者はリーチが長いので、インコースに弱点があるのがひとつ。もうひとつは彼らに気持ちよく、踏み込ませないということです。ボールの怖さを植えつけることで、踏み込みを弱くし、外角を遠く見せる。対角線の攻めですね。

広島が昨シーズンのセリーグのペナントを制したひとつの要因は、内角を厳しく責める黒田投手を若い投手が見習ったことにあります。最近は何ほど、内角を責めなくなった。こうしたWBCなど国際大会が増え、仲間意識が強くなったことも要因でしょう。

しかし、勝つ野球を迫及するには、強打者を抑えるには、どうしても内角高めを攻めることは欠かせません。パワーは相手が上ですから。明日バッテリーにそれができるかどうか。

あとはフォークなど落ちるボール。アメリカはこのボールが特に苦手です。それに人間の視野は左右には広く動きますが、上下には動きにくい構造ですからね。

総合力では日本がいちばん強いとは思いますが、しかし、何度も言うように、野球は強いチームが勝つスポーツではありません。だから優勝確率4分の1以上あるのは確かですが、それ以上の予想は難しいですね。その意味からも、エキシビション2試合で連敗したことは、いい傾向です。

練習試合とはいえ、これがいい意味での厄落としになってくれればと思います。

日本人にとっては野茂の快投が印象深いドジャースタジアムで、菅野君ら、日本投手陣が踏ん張り、筒香、中田を中心に、それぞれが持ち味を生かした、勝負所でのしぶとい打撃に期待します。

WBC，日本敗退。ベンチの不可解

WBC準決勝、日本対アメリカは1対2で日本が惜敗。自分としては勝利も敗北も想定内なので、結果は仕方ないと割り切っています。ただ、日本の持ち味である守備の堅さにほころびが出たことが負けにつながったのは残念でしたが。

ポイントは1対1の同点で迎えた8回表のアメリカの攻撃。一死二、三塁で松田がボールをはじき、その間に3塁ランナーが生還。これが決勝点となりました。松田選手は責められないですね。誰もミスはあります。ただ、ここでの日本ベンチの対応には疑問符がつきます。

それほど集中してみていた訳ではないですが、ここは一目で敬遠のケースです。キャッチャーの小林がベンチを見ていたし、球場が騒然としていたので、敬遠と決め込んで見ていました。

しかし、小林君は立ち上がりませんでした。勝負の選択。ここは1点取られるのも、3点取られるのもほとんど同じ。それよりも守りやすくするために、満塁策をとるのが定石です。

しかしベンチは動かず、全身守備だけはとるという、チグハグな采配。塁を埋めなかったため、当然タッチプレーになるので、野手にはプレッシャーがかかります。満塁であの打球なら、松田君も余裕を持ってホームへ投げていたはずです。

まあ、とにかく日本は準決勝敗退。小久保監督は辞任はほぼ確定といえます。WBCの問題点としては大きく2つですね。3月のこの時期に、真剣勝負はきついで、開催時期は考えなければなりません。

あと、もうひとつ。これは日本の問題ですが、何故、指導者としての経験のない小久保氏が監督になれたのか？それは王さんの後ろ盾があったからです。OO派という人間関係で決めるのではなく、勝てる監督を選ぶことを優先しないといけません。

スポーツ盛り合わせ、病状、そしていつしか春へ

いま、フィギュア女子を見ていたら、三原舞衣選手が転倒してしまいました。残念！いつまでも真央ちゃんばかりを応援しても、時は流れていますからね。新たな選手にも目を向けなければと思っています。ひとりは本田真凜選手。真凜の凜の字はこの字じゃないらしいんですが、ちょっと見つからないので。彼女は演技に華があります。人気面も含めて、ポスト浅田真央と言えますね。

応援し始めたもうひとりが、三浦舞衣選手です。彼女は難病を乗り越えてというところに惹かれます。女子フィギュアの短い選手寿命の中で半年、練習ができなかったというのは、決して短い期間ではないですよ。しかし、その辛い経験をプラスに変えて頑張ってもらいたいです。それと、彼女の誕生日が8月22日。僕の好きな女優、菅野美穂、北川景子と同じです。これはもう応援せざるを得ません。

続いて、大相撲。なんと言っても稀勢の里。「痛みに耐えてよくがんばった。感動した」。どこかで聞いた言葉。しかし、これがピタリと当てはまります。けがをした日も、千秋楽も僕はラジオで聴いてたんですが、よくやりました。萩原時代から北の湖の再来と言われた大器。初優勝の時に書いたと思いますが、モンゴル勢の衰えもあり、今後は着実に優勝を重ねるチャンスです。怪我を完璧に治して、夏場所に臨んでももらいたいところです。

続いて、高校野球。WBCの球数制限の後に見ると、とんでもない投球数に見えますね。しかし、これが良くも悪くも甲子園。この大会あってこそ、日本は世界のトップレベルを保てるといっても過言ではありません。今年は西高東低で、一昔前に戻ったようです。それにしても、引き分け再試合が2試合続くというのは、奇跡です。確率的には天文学的な数字になるでしょう。

WBC決勝の日に病院へ行って、新しい薬を貰いました。少量ですが、壁を感じていたので、少しは希望が持てるかなとは思いますが。希望や期待はすぐに失望に変わりますが、でもそれがないとやはり、生きていく上でしんどいですね。

この2月で、パニック障害を発症して28年になりました。思えばまだ高校生でした。よくここまで生きてきたなという気持ちと、もうそんなに経ってしまったかという気持ちの両面ですね。何の病気にしてもそうですが、本来は病気を治すことが人生の目的ではなく、目的を成しえるために、病気とうまく付き合っていくというのが、本当のところなんだろうけど。

これから、桜が咲き、プロ野球が開幕して、いよいよ本格的な春が到来します。そして駆け足で過ぎ去っていくのだと思います。

朝ドラと日本人

NHK朝のテレビ小説は「べっぴんさん」が終了し、今週から「ひよっこ」が始まりました。「べっぴんさん」は初めの方しか見ていませんが、3月に入ってから20%を割るという状況から見て、うまく視聴者をつかめなかったとみていいでしょう。

「ひよっこ」はいいですね。脚本家が違う。朝ドラでも「ちゅらさん」や「おひさま」を手がけた名手・岡田恵和です。彼のドラマをどれだけ見てきたらろう。「若者のすべて」「イグアナの娘」「あいのうた」「最後から二番目の恋」。

「べっぴんさん」の失速を受け継いでのスタートとなり、今のところ20%に届いていませんが、このドラマは数字的には尻上りになると予想します。

ヒロインみね子の父が出稼ぎから帰省の折、ふと立ち寄った洋食屋で、宮本信子演じる女主人にかけられた言葉。「自慢していいんですよ」「どうか東京を嫌いにならないでくださいね」。茨城に帰った父の「土はいいなあ」。台詞が生き生きとしています。

主演の有村架純は、どちらかというと言童顔で、セーラー服や、昭和の農村の娘がよく似合っています。桑田佳祐の「若い広場」で始まり、増田明美のナレーションというのなかなか新鮮です。岡田さんは女優を輝かす名人。有村さんにとって、忘れられない作品になるでしょう。

朝ドラの長期低落傾向を回復させた作品は、有村さんも出演していた「あまちゃん」ではないでしょうか。視聴率そのものというよりも、新しい朝ドラの視聴者を掘り起こした貢献がありました。その後の作品は軒並み高視聴率ということからも「あまちゃん」の存在は大きかった。

旧来型の朝ドラは「おしん」に代表される耐える女。「今は豊かだけど、日本にもこういう貧しい時代があったんだよ」という作品が多かった。しかし、近年は「ひよっこ」を見ていても感じますが「昔は良かったねえ」というノスタルジアを刺激する形に移行したと言えそうです。朝ドラは女優の甲子園であり、時代を映す鏡でもあります。今は老いた日本が、かつて輝いていた頃の自国の姿に、胸を熱くする時なのだと思いますね。

浅田真央に花束を

彼女がなぜ、ここまで皆に愛されたのか？それはいくつかの理由があったと思います。スケートに対するひたむきな姿勢。礼儀正しさ。そして、いつしか纏わりついた悲劇性。これら日本人好みの要素が重なり合い、真央ちゃんは長らく多くの人に愛されてきました。

ここで少し、フィギュア選手としての彼女を振り返ります。ジャンプの3天才、伊藤みどり、安藤美姫、そして浅田真央。伊藤さん、安藤さんが高さなら、真央ちゃんは回転力で勝負するタイプだったように思います。皮肉にもこの3人のうち、1人も金メダルに届かなかったのですから、オリンピックのピークに合わせる難しさを感じます。

そして、浅田選手のライバルといえばキム・ヨナ選手です。評価としては、キムヨナの方が実力的に上というのが通説かもしれませんが、僕はピークの違いという見方をしています。前半は真央ちゃん後半がキムヨナ。桜に例えるなら、真央ちゃんは3月下旬に満開だった。キムヨナは3月は七分咲きで4月に入ってから、満開になった。バンクーバーオリンピックはすでに4月に入ってから戦いだったと思うのです。真央ちゃんはこの時、すでに散り始めていた。

むしろ、4年前のトリノオリンピックに出場していたらという思いは、多くの人にあるでしょう。勿論、勝負の世界にタラレバはありませんが。このシーズンのグランプリファイナルで優勝している訳ですから。結局、彼女に年齢制限の壁が立ちはだかり、基準に3ヶ月ほど足りず、出場はなりませんでした。しかし、もし彼女がトリノで早々と金メダルを取っていたら、その後の物語は生まれていなかったかもしれません。

今後、彼女より凄い選手は出現するかもしれない。彼女を超えるような人気選手も出てくるかもしれない。それでも、もう浅田真央のような選手は二度と現れない。ひたむきで、礼儀正しく、重圧から逃げずに立ち向かい、悲劇性まで抱えて。その細い足で、腕で。内面の美しさが、スケートリンクに零れ落ちていくような選手はもう二度と。浅田真央は美しく散りました。真央ちゃんお疲れ様、ありがとう。

浅田真央に国民栄誉賞を与えるべきか？

結論から言えば、与えるべきでないでしょう。個人的には前回のブログに記したように、浅田選手を高く評価していますが、国民栄誉賞となると話は別です。浅田選手が過去に貰った選手と比べて、実績が劣るからという理由ではありません。

国民栄誉賞は、王貞治さんに与えるために創設した賞です。受賞の理由としては言わずと知れた756号です。それ以前のハンク・アーロン氏の大リーグ記録、755本塁打を上回った事が、当時の国民に大きな感動を与えました。

国民栄誉賞の受賞基準を分かりやすく二つ挙げれば、前人未到と、子供でも理解できるかと言う事です。真央ちゃんにはそこには当てはまりません。松井選手が受賞した時に反対意見が多かったのも、この二つの基準をクリアしていなかったからです。

分かりやすい例が元広島の衣笠選手です。人気、実力では同僚の山本浩二選手には及びません。では何故、衣笠さんが国民栄誉賞を受賞したかといえば、連続出場の世界記録です。前人未到、子供にもわかるという基準をクリアしているのです。

ここから考えると、現役のオリンピック選手で最もふさわしいのは、体操の内村航平選手です。オリンピック2連覇、世界選手権6連覇、そして、つい先日、若い世代を逆転で制した日本選手権は10連覇。まさに前人未到。体操という選手寿命の短い競技で、これだけ長い間、世界王者に君臨し続けた偉業を称えるなら、国民栄誉賞の価値も少しは見直してもいいのですが。

ボクシング、村田選手の判定に思う

WBA世界ミドル級タイトルマッチの判定には残念の一語に尽きます。ある程度、ボクシングを知っている人ならば、誰も村田選手の勝ちを疑わなかったと思われます。しかし、フタを明けてみれば1-2の判定負け。長い間、ボクシングを見てきましたが、日本で行われた世界タイトルマッチで、ここまで大きく予想を裏切られたのは初めてですね。

確かに相手のエンダム選手に比べて村田選手は手数が少なく、それがこうした結果につながったのだと思いますが、ならば人間の審判などいらず、コンピュータにでも数えさせていけばいいということになります。4回にダウンを奪ったのをはじめ、有効打の数では村田選手が圧倒していました。

村田涼太選手の戦いぶりは、素晴らしかった。すでに世界王者の風格がありました。今にして思えば、4ラウンドにダウンを奪った時も、駆け寄ってラッシュをかけるべきだったかもしれません。しかし、村田選手は悠然とした足取りで、エンダム選手に向かっていきました。ボクシング界から久しぶりにスーパースターの誕生を予感させました。

残念ながら一つの結果は出てしまいました。再選といわれても、村田選手からすれば、そう簡単に喜べる話ではありません。ボクシングの世界戦は、それだけで進退をかけて試合に挑んでいるわけですから。激戦区のみドル級。すでに30歳を過ぎている村田選手にとっては最初で最後のチャンスという思いがあったのかもしれませんが。この判定に運命的なものも感じて、不思議ではありません。無冠の帝王という運命を。

僕個人の希望としては、また村田選手の試合が見たいし、世界チャンピオンになってほしい。しかし、判定に不信感を持ったまま、もう一度気持ちを奮い立たせ、過酷なスパーリング、減量に耐え、リングに上がるというのは並大抵の事ではないと思います。それだけに、今回の不可解な判定の罪は、重いと云わざるを得ません。

休業して考えた事

6月のはじめから店を閉めています。経営状態が悪くなく、その建て直しのため、1ヶ月をめぐりに閉めたのですが、なかなか遅々として進みません。体が思うように動かないもどかしさ。

ただ、この一週間、特に昨日、気付いたのですが、体のだるさを我慢して作業をしているうちに、ゆっくりですが、少しずつだるさがとれ、集中力が増していった感覚がありました。

パニック障害になって28年、不安神経症、それに伴ううつ状態、薬の眠気。これらに流された生活をしていると、次第に症状は重くなるような気がします。多少、無理して自らストレスをかけていく事が、自分にとっては重要なのではないかと考えています。求道者になれと。自ら自分に対して負荷をかけていった方が、先につながるのではないかという思いに至ったところです。

かつて、仕事を辞めて「これで楽になる」と思ったら、その逆だった。また認知行動療法を受けている時よりも、仕事場と自宅の往復、休みの日はスーパーと自宅の往復で一日が終わる今のほうが、状態が悪い。これらのことから、自分の場合は、多少、スパルタでいった方がいいのかもしれない。かといって、人に勧められるものではありませんが。例え、同じ病気に括られていたとしても、人それぞれに適したやり方がありますからね。

天才・宇多田の陰に倉木麻衣の大記録

半年ほど前に書いた「大人になるにつれ、かなしく」がいまだに読まれていることを嬉しく思います。

さて、本題に入ります。だいぶ前になりますが、4月に発売された倉木麻衣の41作目のシングルが、オリコン週間ランキングで5位にランクされました。これで41作連続のベストテン入りだそうです。デビュー曲からこれまですべてが、10位以内に入っているという事になります。勿論、ソロアーティストとしては前人未達の記録を更新し続けているのです。

倉木さんは、デビューした時期が、宇多田ヒカルと重なります。宇多田さんが、少し早く世に出ました。「Automatic」からファーストアルバム、「First Love」へと畳み掛けた天才少女の出現は、20世紀末の世の中にひとつの衝撃を与えました。未だに、このアルバム売り上げ枚数は破られることはなく、おそらく永遠に消えない記録となるでしょう。

宇多田旋風が吹き荒れた1999年の終り。倉木さんが「Love.Day After Tomorrow」でデビューを果たし、ミリオンヒットとなりました。宇多田さんのインパクトが強すぎたため、宇多田の後を追う、新人アーティストという扱いだったような気がします。

宇多田ヒカルの、強烈な朝日の眩しさに照らされたその夜、空に浮かんだ美しい月が倉木麻衣でした。あの10代半ばの少女たちの衝撃から20年近くが経ちました。今日の宇多田さんの活躍を予想した人は、多かったと思われませんが、倉木さんがここまで長持ちすると見ていた人は、かなり少ないのではないのでしょうか？デビュー当時から可憐で儂いイメージがありましたから。

この20世紀末に現れた少女たちの物語は、まだ続いています。宇多田ヒカルの夕陽が、赤く燃えて沈んでいき、倉木麻衣の月が、空が白み始め、次第に薄れ、消えていく、その時まで。まだまだ彼女たちが、歌姫として輝き続けることを願っています。

4週間ぶりに病院へ行ってきました。率直に言って、難しさを感じます。僕が病気になったのは28年も前で、今の先生は、自分の担当になって1年にも満たない。おそらく真実は、ごくごく一部しか伝わっていないと思います。とりあえず今回は、倦怠感、店を休業していること、若い頃に比べ、孤独感が強くなったことを話しました。先生は僕の言葉に沿って薬を処方する。どちらかというと、気分を高める薬を新たに出されました。まあ、こちらとしては、レキソタンを貰うことが重要だから、新しい薬にはほとんど期待していません。

自宅に戻って、文化放送「大竹まことゴールデンラジオ」の今日のゲストが田原俊彦、トシちゃんであることを思い出す。しかし、パソコンの調子が悪くラジコが聞けない。僕は一瞬、途方に暮れたが、店に向かってラジオを聴きました。

「大竹さん、元気ですかあ」。いつもの明るい口調で田原さんは登場しました。田原さん主演の「教師びんびん物語」には大竹さんも共演していたので、しばらく昔話に花を咲かせていました。大竹さんが話したのですが、田原さんの幼い頃に亡くなったお父様は、教師をされていたそうです。初耳だったので、教師役を演じたトシちゃんは凄く親孝行だなと思いました。

僕は若い頃の田原さんをそれほど好きではなかったのですが、ジャニーズ事務所を辞め、ビッグ発言により干されたのが33歳。それが17年も続いたのに、田原さんは体型も維持して、ダンスに磨きをかけました。自分のため、家族のため、そして何より、どんな時でも支えてくれるファンのため。その生き方を僕は尊敬します。そして苦勞を決して見せない。努めて明るく、前向きなスーパースター田原俊彦を演じている。ここで、さらに尊敬するわけです。田原さんの大ファンであるサッカーのカズさんも、プロとしていつまでも上を目指すストイックな姿勢が、田原さんと重なります。

デビューから38年。6月発売の新曲「フェミニスト」が70枚目のシングル。トシちゃんにはいつまでも歌って踊れる、スーパースター田原俊彦でいて欲しい。

「大竹さん、また呼んでくださいよ」との明るく響く言葉を残して、スーパースターは去っていった。

トシちゃん効果でアクセス数が・藤井vs瀬川

昨日、田原俊彦さんをブログで取り上げたら、アクセス数が飛躍的にアップしました。やはり田原さんのファンは熱烈ですね。苦しい時に応援してこそそのファンだと思います。それと私と同じように30代で干されてからの田原さんに「トシちゃん、腐らずにがんばってるな。立派だな」という考えを持っている人も多いのではないかと思います。トシちゃんといえばザ・ベストテン。では久米さんのニュースステーション風に、次は出来るだけ将棋。

今日はなんといっても順位戦C級2組。デビュー戦から25連勝中の藤井聡太四段と瀬川晶司五段の対局です。今このブログを書いている段階では、結果は出ていませんが、そろそろだと思います。順位戦は持ち時間が長いですからね。

片や中学2年でデビューし、そこから負けなしの天才棋士。片や奨励会の年齢制限により、一度は将棋を諦め、サラリーマン経験のある苦労人。この対照的な2人の対決は見ものです。8割から9割の確率で、藤井君が勝つとは思いますが、瀬川さんにも意地を見せてもらいたい気持ちもあります。

一時期、「将棋には生き様は反映されない」という羽生さんらの考え方が主流でしたが、今はコンピュータが棋士を超えてしまいました。レベルの高い将棋を見るなら、コンピュータソフト同士の対局を見れば済む話です。コンピュータに抜かれた今だからこそ、自らがこれまで背負ってきたものを盤上に反映する意味があります。再びドラマ性が求められる時代がやってきたのです。そうした意味ではデビュー戦が加藤一二三九段、順位戦初対局が特例でプロ入りした瀬川さんというのも、藤井君、記録だけでなく、記憶に残る才能も持っているのかもしれない。

昭和生まれの曲がり角、自分自身の曲がり角

最近、特にスポーツの世界を見ていると感ずるのですが、昭和生まれが厳しい戦いを強いられるようになってきました。昭和の最後に生まれた63年組、つまり昭和生まれとしてはいちばん若い人たちですが、例えば体操の内村選手。絶対王者の座を守っているものの、おそらく体はぼろぼろで、若い白井選手らを迎え撃たねばなりません。例えば、マー君こと田中将大投手も防御率6点台。全盛期には考えられない数字です。もはや時代は、藤井君や張本君のように平成生まれどころか、21世紀生まれの台頭が著しくなりました。

思えば平成も29年。社会全体に目を向けても、2年後に昭和生まれはすべて30代以上、つまり若者がいなくなります。30代といえば、成長というよりは、維持することがテーマになっていく年代です。日本は高齢化社会で、昭和生まれの人数が圧倒的に多いため、他の国に比べれば、年をとったと実感することは、少ないのかもしれませんが。しかし、確実に昭和生まれの老いは進行していきます。勿論、昭和の前半に生まれた人と、後半、末期に生まれた人では、その意味合いは違いますが。

自分自身も、パニック障害という病気を抱えながら、どう世の中で戦っていくかと考えてきました。つまり自分中心の人生を過ごしてきました。結婚して、子供でもいれば、自分より子供という発想も生まれやすいかもしれませんが、残念なことに独身です。

しかし、もうこの戦いの舞台から降りる時が来たのではないかと、考えることが増えました。人生三分論という考え方があります。最初は教育、よく学べと。そして次によく働け。これは自分のための戦いの期間と重なると思います。そして最後の3つ目が社会のために生きよと。

僕はそろそろ2つ目の段階を卒業して、最後の段階に入るべきなのではないかと思いはじめています。自分のためより人のためというのは難しいですが、せつかく人間に生まれてきた事ですしね。具体的にどうすればいいのかも分からないし、今までの生き方が急に換えられる訳でもありません。しかし、自分の人生を少しでもマシにするヒントは、この辺りにあるのではないかと思っています。

昭和の清原・平成の藤井。天才新人たちへ

30年以上前、清原選手がホームランを打つごとに、一般紙が一面で取り上げました。それと同じように今まさに、藤井君が勝利を重ねるたびに、一般紙が一面で取り上げます。この2人は天才新人の代表格といって間違いないと思われます。

清原選手の場合、最初はプロのスピードについていけず、本格的に打ち出したのはオールスター後でした。最終的な成績は、3割4厘、31本塁打。勿論、いまでも高卒選手としての最高本塁打記録です。

そればかりか、この年、西武ライオンズはパリーグを制し、日本一に輝くのですが、清原選手は最終的に、その日本一チームの四番打者の座を獲得しました。投手では、数年に1人、一軍で好成績を挙げることもあるのですが、野手ではおそらく今後、清原さんのような選手は現れない可能性が高いです。

清原さんが2年目以降、一流の成績は残すものの伸び悩んだ理由の一つに、モチベーションの低下があります。こないだ引退を発表した宮里藍選手も「モチベーションの低下」を引退の理由に挙げていましたね。

ルーキーの時の清原さんには、明確なモチベーションがありました。巨人、そして王監督を見返す。桑田には負けたくない。こうした強烈な思いが、彼にバットを振らせたのでしょうか。その気持ちが2年目以降、持続しませんでした。

王貞治の868本塁打を超える男といわれた清原さんは200号までは、王さんを上回るペースで打ちましたが、生涯成績では525本で歴代5位、王さんには遠く及びませんでした。普通なら、本塁打500本台は、大変な記録と称えられるところですが、高校時代、新人時代の清原さんの強烈な記憶を刻んでいる野球ファンには、物足りなく感じられたのかもしれませんが。

そして野球のみならず、人生のバランスまで崩し、薬物に手を染めてしまいました。清原さんの弱さを感じると共に、鮮烈なデビューの記憶に苦しんだ野球人生でした。

そして藤井君。28連勝。凄すぎる。これがどこまで伸びるか分かりませんが、この記録もなかなか破られる記録ではありません。藤井君さえ、2度と破ることは出来ない可能性が高いと思われます。世間が「物足りない」と彼を叱咤する時期が来るかもしれません。しかし彼はいわゆる将棋バカではありません。受け応えなどから見ても、非常にクレバーで、強い精神力も感じます。やがて試練に晒されても、乗り切るだけのものは持っていると思われます。

藤井君にはこれからの長い将棋生活、今の謙虚な姿勢を崩さず、頂点に立ってほしい。そして清原さんも精一杯の人生を。

藤井四段、新記録おめでとう！

凄い。その一語に尽きます。10代対決として注目された藤井四段対増田四段戦は、91手までで藤井四段の勝ち。快勝です。これで29連勝となり、神谷八段の28連勝を30年ぶりに塗り替える新記録樹立となりました。

まあ、今日一日は藤井デーでしたね。NHKの9時のニュースでもスタートから藤井一辺倒。師匠の杉本七段もスタジオで解説。藤井君は谷川ファンなんですね。同じ谷川ファンとして凄く嬉しいです。彼の年齢では谷川さんの全盛期の記憶はないはずですが、棋譜が残りますし、日本一美しい棋士といわれる谷川さんの対局姿勢、人格そのものを尊敬しているのかもしれない。

ただ、僕は藤井君は谷川さんより強くなると思います。簡単に言ってしまうと、谷川さんは芸術家で、藤井君は勝負師です。勿論、これですべて語れる訳ではありませんが。その谷川さんも現地で見守る中での記録達成となりました。

藤井君は将棋のみならず、運動神経もよく、言葉の使い方にもセンスを感じます。14歳としては驚くほど語彙も豊富です。ここ数年、人工知能に振り回され続けた将棋界にとって、藤井君の存在はまさに僥倖です。

順調である時も、逆境にある時も将棋を愛することを、すでに藤井君は将棋の神様に誓っていると思います。新記録、本当におめでとうございました。

大竹まことの発言はそんなに悪いのか？

大竹まことさんの藤井四段に対するテレビでの発言が取り上げられています。僕はそれを見ていないのですが、大竹さんはラジオでも藤井四段への発言をしていました。おそらく内容は、テレビと重なるものが多いのだと思われます。

ネットなどで文章化してしまうと、感情が伝わらないので、あたかも大竹さんが藤井君を、けしからん若者と発言したように捉えてしまう人も多いかと思います。これはマスコミの悪意です。

ラジオでの大竹さんは、終始、和やかに語っていました。大竹さんはあまり将棋には詳しくなく、何年もプロでいる連中が、昨日、今日プロになった中学生に負けるのは情けないと思われた部分はあるのかもしれませんが。まあ、それは誤解であって、藤井聡太という不世出の天才棋士に、ほとんど経験とか、段位というものは意味を成しません。大竹さんの本意は、あまりにも若くして、その世界のトップに昇り詰めてしまうことへの危惧があるのだと推測します。

僕が大竹まことさんについて、ラジオでの印象として感じるのは、若者の味方、マイノリティーの味方です。テレビには映らない優しさがあるのです。僕は藤井君に好意を抱いているし、昨日も仕事を終えた後、新聞を買ってきたぐらいですが、大竹さんの藤井発言に対して腹立たしさは全くありません。

まあ、ここから見えてくるのは、社会の劣化ですね。こうしたことが積み重なり、発言が萎縮して何も言えなくなる。ネットは功罪ありますが、これは罪のほうです。

かつて、法学部に在籍していた自分が言うべきはないかも知れませんが、法はなくて済むなら、その方が社会の質としては高いのだと思います。しかし、それでは世の中、成り立たないから法がある。監視カメラにも同じことが言えます。なくて済むのなら、ない方がいい。

しかし、ネットもこのままの状態が続くと、法で縛ることを考えざるを得なくなるでしょう。そうならないためには、ネットユーザーの寛容さが求められます。

小池が勝って、藤井が負けた日

いま、藤井君の敗戦の弁を聞きました。記者の稚拙なインタビューが続いたのですが、嫌な顔をせず、ひとつひとつ丁寧に答えていたのが印象的でした。

佐々木五段は見事な指し回しで、先輩の意地を見せました。佐々木君も奨励会時代から、非常に将来を嘱望されていた棋士ですからね。佐々木五段と藤井四段。どちらが絶対に負けられない戦いだったかといえば、佐々木君の方です。年齢差8歳というのは、谷川九段と羽生世代と同じです。この地点で、佐々木君が力負けするようなことになれば、今後、ひっくり返すのは至難です。佐々木君もインタビューで「ここで負けるようだ」とというようなことを話していました。

藤井四段もいまは悔しさで一杯でしょうが、時が経てば、少し安堵する部分も出てくるのではないのでしょうか？それくらい今回の藤井フィーバーは過熱しました。今後は、これまでの将棋界の常識を打ち破る、勝率8割棋士を目指してもらいたい。1年、2年単位でなく、10年、20年単位で。将棋はどんなに強い棋士でも、10回に3回は負ける世界ですが、藤井君にはその常識を覆してもらいたいです。そうなれば名人位も竜王位も自然と手に入ります。

少し静かにはなるでしょうが、藤井人気は根強く続くと見ています。彼は将棋が強だけでなく、人間的にもクレバーで、謙虚で日本人に愛される要素をたくさん持っていますからね。

都議選は小池新党の圧勝に終わりそうです。自民党がこれだけ負けたのは記憶にないですね。小池人気と、安倍総理周辺への都民の不信が重なり、このような大差がついたと思います。

都民ファーストの会は、これから国政でも目玉になるでしょう。この先を読むと、かつて橋下前大阪知事が、国政に議員を送り込んだような形を小池都知事もとると思われます。出来れば100人は擁立したいところです。当然、死に体の民進党などは離党ドミノとなり、小池新党へ参加する議員が続出するのは間違いありません。

対する自民党は、小池陣営の準備が十分でないうちに、衆院解散に打って出たいところですが、今日の結果でそれも難しくなりました。長らく続いた安倍一強の終りの始まりと言えるかもしれません。

王位戦第2局・ひよっこに菅野

王位戦第2局、羽生王位対菅井七段戦は、羽生さんの完敗でした。棋譜を見直してみると、菅井七段の指し手は、コンピューターソフトによく似ています。日頃どれだけ、その類の研究をしているかが分かります。かつて「盤上に人間味や生き方は反映されない」といった羽生さんの方が、菅井七段に比べるとむしろ人間的な将棋でした。個人的にはコンピューターの研究は否定しませんが、やはり最終的にはコンピューターの考えをなぞるのではなく、自分の頭で考えて指す将棋が好きですね。そういう意味でも、藤井君や佐々木君、山崎さん、「谷川2世」と言われて久しい豊島君にはがんばって欲しいです。

朝ドラ「ひよっこ」に菅野美穂が本格的に出演する気配です。当時の大女優役ですが、菅野さんとの関りの深い脚本家の岡田さんは、前作「べっぴんさん」の出演が決まっているにもかかわらず、「菅野さんに演じてもらいたい」と駄目もとで、その意向を伝えたそうです。そこまで脚本家に愛される菅野さんは幸せな女優ですね。

主演の有村架純についても少し。彼女も、このドラマの主演を脚本家の岡田さんに熱望されたそうです。特別な美人という訳ではないけれど、表情が愛らしいですね。その辺、波瑠さんと対照的です。

広陵・中村本塁打記録。決勝は広陵か花咲か？

昨日の甲子園は広陵の中村フィーバー一色でした。それもそのはず、一大会6本塁打の新記録。あの清原さんの5本を超える32年ぶりの記録更新でした。

今年は10代の当たり年かなと思いますね。将棋の藤井聡太。卓球界も男女共に10代の躍進が目覚しく、こないだの世界陸上ではサニブラウンが200メートルで史上最年少の決勝進出、そして甲子園では中村奨成。

少し見た感じでは体の線はまだ細いんだけど、スイングの鋭さは目を見張るものがあります。巨人の坂本選手の打撃を参考にしているようですが、将来的には坂本君のような中距離打者になる可能性もありますね。スイングの完成度が高く、あとは、体をもう少し大きくすればすぐにプロで通用するのではないのでしょうか。

清原さんとの比較ですが、スケールの大きさで清原、守備を含めた俊敏性など総合力で中村といったところでしょうか。

これでドラフトが難しくなりました。清宮君からこの2週間で中村君に方針転換した球団もあるかもしれません。捕手はこの球団も欲しいですからね。

そして今日の決勝戦。広陵対花咲徳栄。広陵有利という予想が多いでしょうが、僕は戦力的に五分と見ます。自分が埼玉育ちという鼻根目は抜きにして、今年の花咲は強いです。あっ、互角という予想はつまらないですね（笑）

昨日の試合の勝ち方そのものは花咲がよかったです。リリーフの速球派・清水君を中心に守りの野球で、延長の末の勝利。この流れの分、鼻先（笑）の差で花咲有利と予想します。中村君に対してはヒットならOKぐらいの大きな気持ちで、その前の打者をしっかり抑えることが大事です。あとはお互いにミスした方が厳しくなるでしょう。

抜け出したい

昨日の朝、すこぶる体がだるく、何とか店は開けたものの、ほとんど椅子に腰掛けているだけ。抗うつ薬を増やしたことで、睡眠時間が増えたのは悪いことではないのだろうけど、体がそれについていけなかったのか、起床後の状態が沈んでしまいました。

慌てて病院に電話をかけ、抗うつ薬を減らし、抗不安薬を増やす許可を医師に貰いました。まだ一日、実行しただけなので何とも言えません。予約も一週間早めました。

自分にとっては、今年、或いはこの1年ぐらいが大事になると考えています。しかし、行動を起こすには、心身を何かをなしえるための最低限の状態にしなければと痛感します。心も体も、状態が悪すぎると、人間何も出来ません。

かつて野坂昭如さんが「出来ることなら、マリファナでもやりながら、冒険小説を読んですごしたい。でもそうはいかない」と雑誌の連載で書いていた記憶があります。自分も本音は体を横たえて、菅野美穂の気に入った作品や演技を見ながら、コーヒーやチョコレートを口にしていきたい。好きなラジオを聴いていたい。傍らに太宰治の「人間失格」を携えて。気が向いた時に2、3ページめくる。

でも、それではいけない。流されて生きるのは簡単なようで、また快樂のようであるけれど、生きている意味がない。自分は太宰の主人公を抜け出したい。人間失格にはなりたくない。生きる価値を見出したい。生きた証を残したい。

ひよっこ終了

朝ドラ「ひよっこ」が終了しました。半年間、ほぼ毎日見続けたので、少し淋しいですね。

「ひよっこ」は前半、視聴率が伸びず「内容は悪くないのになあ」と個人的には思いながら視聴していました。特に主演の有村架純演じる谷田部みね子は「昭和の農村の娘」というイメージにはまっていた。

後半に思わぬことがありました。菅野美穂の登場です。前作「べっぴんさん」に出演していたので、今回の出演は考えもしませんでした。しかし、脚本家の岡田恵和さんが「べっぴんさんへの出演は知っていましたが、戦友である菅野美穂さんに、ぜひとも川本世津子役を演じてもらいたかったので、だめもとでオファーしました」という経緯を辿り、後半からの出演が実現しました。

危惧されていた視聴率も、途中からうなぎ上りとなり、続編の要望も殺到するほどの盛り上がりを見せました。主演の有村架純さんはものすごい美人という訳ではないけれど、表情が豊かで、将来が楽しみです。脚本の岡田さんも大のお気に入りというのも頷けます。

「ひよっこ」は悪人がほとんど出てこないドラマでした。岡田作品らしいですね。しかし、ある意味、現実離れした設定で、物語を破綻させることなく仕上げる芸当は彼にしか出来ないのではないのでしょうか。有村さん演じるみね子を始め、出演者がみんな輝いていました。

2017年、外に目を向ければ北朝鮮問題、国内ではさらに深刻化する少子高齢社会。そして「われ以外はみな騒音」という殺伐とした世の中で、ひよっこというドラマは、そうした重い現実を、ひと時忘れさせてくれたドラマでした。

さようなら「ひよっこ」。またあう日まで。

秋ドラマ・日本シリーズ・将棋竜王戦

秋ドラマが始まって、半月ほどが経ちました。今のところすべて、視聴しているのは「陸王」と「監獄のお姫様」

「陸王」は見ごたえがあります。ある意味では「半沢」「下町ロケット」とこのところTBS日9がお家芸の池井戸原作なので、安定した良作になりそうです。昨日の役所広司と寺尾聰のベテラン俳優のやり取りはよかったです。

「監獄のお姫様」は何より女優陣が豪華。個人的には小泉今日子と菅野美穂の共演に感慨があります。小泉さんは自分が小学生のころにデビューし、ほとんど浮き沈みなくトップアイドル、女優として君臨してきました。何か月前「コイズミクロニクル」という記念碑的なCDアルバムを買ってきました。自分自身を「コイズミ」と名字で名乗り始めたのも、この人が先駆者だったような気がします。

菅野美穂はブログでも何度も書いているように、自分にとって特別な女優です。さすがに昔ほど、ビデオで何度も見返すことはなくなりましたが、今でも最も好きな女優です。クドカン脚本で二人がどんな化学反応を起こすのか楽しみです。

あとは、綾瀬さんのドラマを一度見たくらいですかね。綾瀬さんと広末さんの組み合わせもある意味では豪華。国民的女優と元国民的アイドル。「ヒロスエ」と呼ばれていた頃の人気は凄かった。

気になるのは主演俳優の高齢化。個人的には好きな女優ですが、篠原涼子が40代で月9初主演というのが象徴的です。かつて飯島直子さんが初の30代月9初ヒロインと言われたのが15年以上前なので、ずいぶん年齢が上がりました。今期の民放ドラマには20代主演が一人もいないそうです。若者のドラマ離れがさらに進みそうです。

日本シリーズはソフトバンクが2勝。実力差がそのまま出てしまっています。ベイスターズ日本一の可能性は10%程度でしょう。とにかく例の甲子園での泥んこ試合、15ゲーム差近く離されたチームが、日本シリーズに進出するという日本シリーズの権威を失墜させるだけのくだらないクライマックスのシステムは、すぐにでも見直してほしいところです。

渡辺竜王に羽生棋聖が挑戦する将棋の竜王戦は羽生さんが連勝スタート。羽生さんは永世竜王がかかった大事な戦い。それに対し、渡辺竜王は去年の三浦九段のスマホ問題が濡れ衣という判断となり、渡辺竜王はさらにヒールとなってしまったようです。よって多くの将棋ファンは羽生さんの勝利を願っていると思われます。しかし、渡辺さんは変な忖度はせずに、全力で勝負に挑ん

でもりたいところです。

また一步、ベーシックインカム導入に近づいた

今から1年半ほど前、「人工知能（AI）の発達で大規模なリストラが起こる。そのセーフティーネットとしてベーシックインカム（BI）が必要である。非正規労働者のみならず、ホワイトカラーの人たちもその対象になる」と記しました。当時はまだ、非正規の人はともかく、正社員、ましてや一流企業に勤めている人は、相手にもされない意見だったように思います。しかし、いま状況は変わりました。

みずほ、UFJ、三井住友。こうしたメガバンクが事実上、大規模なリストラ策を打ち出しました。以前より、大企業はさらに利益を追求しています。そこで人員を大幅に削ることを決断しました。AIの急速な進歩も、銀行側に自信を持たせたのでしょう。おそらく社員数十万人を抱える大企業は、数万人まで絞り込むことを目指し、数万人を抱える企業も数千人まで絞り込みたいのが本音でしょう。それが実現すれば、さらに資金をため込むことができ、株も上がるのです。

大企業が人余り、不足しているのは建築や物流のブルーカラーです。単純に銀行員が物流や建築へと流れていくとは言いませんが、しかし、割合的にはホワイトカラーや正社員は減り、非正規やブルーカラーは増加する傾向は避けられそうにありません。そして、より格差は拡大します。

自民党も随分変わりました。民主党が子供手当を掲げた時には「ばらまき」と批判し、プライマリーバランスを重視していましたが、今は選挙公約通りとはいかずとも、3歳から5歳の子供を抱える家庭には月6万円支給するなど、政策を方向転換しました。これらの社会状況からみても、確実にベーシックインカムへと時代は流れつつあります。

日馬富士現役続行の条件は横綱陥落

このところ角界は、日馬富士の貴ノ岩に対する暴行事件で大揺れです。いかなる理由があれ、日馬富士が貴ノ岩に凶器まで使用して、暴行を加えたことは決して許されません。貴乃花親方の対応にも問題がないとは言いませんが、それで日馬富士の罪が軽くなるというものでもありません。もし、軽い処分で見逃しを許せば、悪しき前例を作ってしまう、同じような事件が起きた時の対応が難しくなります。引退、廃業させるのが社会的には常識で、相撲界にとっても、それが賢明な判断でしょう。

しかし、私は個人的に日馬富士の取り口が好きです。あの小さな体で大きな力士に対して真っ向からぶつかっていく取り口には、心を揺さぶるものがあります。そうした日馬富士ファンは多いと思いますし、モンゴルでは白鵬以上に人気が高いと聞いています。しかし、好かれているから許される、朝青龍のように嫌われていればクビというのも筋が通りません。

そこで苦肉の策ですが、横綱から大関に降格させるというのが、彼を救う唯一の手段だと考えます。現実性の低い話なのは百も承知ですが。もちろん、これまでも横綱から陥落した力士はいません。しかし、歴史的にみると成績不振に悩む第41代横綱の千代の山が、自ら「大関に落としてほしい」と協会に申し出たことがあります。この時、協会はそれを認めなかった訳ですが、成績不振と暴行とではまるで質が違います。今回の場合は横綱としての品格が問われているのです。日馬富士が「大関から出直したい」と申し出れば、協会も受け入れを考えてもいいのではないかと思います。

ただし最初に記したように、事は重大で協会が日馬富士を解雇すると決めれば、相撲ファンとして納得します。むしろ謹慎などの軽い処分はとるべきではないでしょう。

親が自分に求めたもの

初めて自分が小説を書いたのは「肉体を盗んだ魂」だと思っていました。しかし、その遙か昔、小学生の頃に、短編ともいえぬほど短い、ノンフィクション風のフィクションを書いたことを思い出しました。本もろくに読まないくせにね（笑）

なぜ、この記憶が心の奥底に沈んでいたのか？おそらく親に褒められなかったからだと思います。たぶん、母親にでしょうね。書いたものを見せたんです。そうしたら「こんなもの、お前に書けるはずがない」と機嫌を悪くしたんです。そして「丸写ししたに違いない」と今で言うコピペ扱い（笑）する訳です。この年頃の文章にしては、まとまりがあるぐらいのレベルだったと思うんですけどね。

将棋で大人たちを負かしたりしても褒めてはくれなかった。その代わりに、通知表やテストの点が良いかったり、部活で賞状を貰ってきたりすると喜んでくれるのです。

大人になってわかるのですが、親が自分に求めていたのははみ出した才能ではなく、もっと常識内のできの良い子、理想は秀才だったんだと思います。その証拠に私の名前には「秀」という字が入っています（笑）自分もそれに合わせようとするんですが、これが非情に難しい。

親は言いませんが、自分は本来、左利きだったと思います。最初に変だなと思ったのは、僕は走り幅跳びを右足で踏み切るのですが、他のクラスメイトは左足で踏み切るんです。今は字も右で下手なりに書き、箸も右ですが、歯ブラシは左手に持って磨きますね。

学校にしても家庭にしても、昭和の画一化の教育は、自分のような変わり者には合っていなかったと思います。今はそうした教育が残ってはいても、随分、型にはめないで育てる文化が育ちつつあるように見えます。自分のような変わり者の子も、生きやすくなってきているんでしょうね。

清原に届けたい

何度も使いまわしの詩ですが、清原に届けたい。届くはずもないけれど

「水と空」

あなたは水のような人だ

泥と交われれば泥水となり

砂漠と交われれば希望にもなる

ただし、あなたそのものは無色透明で

声高に自らの居場所を叫ぶことはない

だから人はあなたを忘れがちになる

かけがえのないあなたのことを

あなたは空のような人だ

くるくると色を変えながらも

浮かべているものは変わらない

下界のねたみや祈りは

空の耳に届くのだろうか

うつむいてばかりいては

いつになってもあなたには会えないね

雨が降ってきた

子守唄を口ずさむような調子で

人々はそれぞれに色鮮やかな傘を咲かせ

街は輝きにまぎれて泣いていた

清原と経済、社会の奇妙な連動

今日辺りは、少し落ち着いた感がありますが、NHKニュース9、報ステなどが連日のトップニュースで清原逮捕に大きな時間を割きました。皮肉なことに、好き嫌いは別にして彼の存在の大きさを示してしまった形です。

タイトルにある通り、プロ入り後の清原の成績は、奇妙なまでに経済と結びついてきました。そして社会とも。

1986年、高卒1年目、数々の記録を塗り替え新人王。ちょうどバブルが始まった時期です。

1990年、23歳での1億円到達は当時の史上最年少記録。しかし、翌91年、プロ入り6年目の清原は突然、打撃のバランスを崩し、入団以来最低の成績に終わりました。日本経済はバブルが崩壊し、失われた20年の始まりでした。

1997年、巨人入団。4番を託されたものの、期待にこたえられず激しいバッシングを受け、苦悩する清原の姿がありました。この頃から自ら命を絶つ人が急増し、ついには自殺者3万人時代を迎えました。

転機は2000年でした。肉体改造で復活を遂げ、その後、3、4年は怪我は多かったものの、安定した成績を残しました。この頃、行き詰っていた政治、経済は小泉首相の登場により、日本が一時的な復活をしたようにも見えました。

肉体改造と新自由主義。効果もあったでしょうが、副作用が大きかった。しだいに清原の故障は深刻になり、日本経済は非正規社員が増え、国民の年収は下がり、デフレスパイラルに陥ったのです。

清原は2008年に現役引退。その翌年、ついに55年体制が崩壊し、民主党政権が誕生しました。

引退後の清原はご存知の通り、転落の人生を歩むわけですが、この国もまたリーマンショックの余波をかぶり、そして2011年の大震災、深刻な少子高齢化。いま清原は40代にして余生という言葉が似合います。そして日本も余生を迎えつつある気配です。

盟友・桑田が「キヨには逆転満塁ホームランを打って欲しい」との言葉を口にしました。しかし、現実には厳しい状況です。そして日本に逆転満塁ホームランはあるのか？こちらもなかなか難しいが、清原に比べれば可能性はあると思います。清原にはできる限り、穏やかなゲームセットを

望んでいます。

生きにくいと感じているあなたへ

森山直太郎の曲のようなタイトルですが。まず自分がパニック障害で通院して、毎日、薬を飲んでいる状態ですから、アドバイスはできません。ただ、現代社会で生きにくいと感じている人は相当数存在すると考えています。

人を3つのタイプに分けます。

1. 政治家、企業の社長タイプ
2. 学者、芸術家タイプ
3. 平均タイプ

おおよその人間はこのどこかに属するのだと思います。おそらくこのタイトルが気になって、ここを見た人は、2のタイプが多いのかなと想像します。自分も2ですね。

1の人は、短い睡眠時間でもエネルギーに動けるタイプ。料亭で夜な夜な宴会を楽しみつつも、朝になると「よし、今日もやるぞ」という。まさに政治家タイプですね。

小泉元総理は政治家としては珍しい2だと思われます。料亭などを好まず、クラシック好きで、普段はあの演説する姿からは想像もつかないほど、声が小さいそうです。だからこそ政治家としては変人という事になるのでしょうか。

2の人は睡眠時間が長めで、また多数派に属さない傾向があります。うまく芸術家にでもなればいいのですが、間違ってサラリーマンにでもなると、脳疲労がたまりやすいタイプかと思われます。

元TBSの小林悠アナが退社理由が適応障害だったそうですが、数年前、彼女が担当していたラジオを聴いて「仏像が好き」「ダムを見るのが好き」など変わった感性の持ち主だなと思っていました。女子アナは1のタイプの人が向いている職業だと思います。彼女は2だったのかも知れません。そうだとするとかなり辛くなる可能性が高いですね。

3の人は、一見、何も特徴がないようですが、実は3こそ幸福になる才能が最も高いと考えています。世の中、教育から普通の人に合わせてできているから、生きやすいと思われます。

2の人が「1になりたい、3になりたい」と思っても、なかなか難しいですね。ある程度、遺伝、幼少時の環境で決まってしまうのではないのでしょうか。だから2として生きるしかないのですが、それを自覚して、自分に見合った仕事や生き方を見つける事が、生きにくさを少しで

も改善する鍵だと思います。2の人だからこそできる事があると思いたいですね。

久しぶりにドラマについて。

月9の「ラブソング」は数字は良くないみたいだけど、個人的には気に入ってます。

吃音の若い女性を大人たち、主に福山さんと水野美紀さんが見守る物語。苦さや悩みも含めて、眩しい季節を懸命に生きる女性と、つらい過去を抱えつつも、どこかで青春の燃え屑がくすぶっているような中年男性が音楽を通して交錯しています。ヒロインの女の子、歌うまいですね。

水10は波瑠目当てに見てみました（笑）朝ドラはほとんど見なかったけれど、それでも久しぶりに正統派美人女優という言葉がしっくりくる素材だと思います。

ドラマ自体も意外と面白いですね。主演の嵐の大野君のバカ殿的な青年社長がユニークで、彼を支えている杉本哲太と小池栄子がさすがの安定した演技。そしてやはり波瑠さんの美しさかな。

日テレ土9「お迎えデス」のゲストに菅野美穂がゲスト出演していました。彼女の変わらぬ姿が見れて嬉しかった。イグアナの娘からちょうど20年。時の流れは速いですね。

最終手段。AIとBIが日本を救う

AIとBI。人工知能とベーシックインカム。これが現在、少子高齢化をはじめ、さまざまな危機にある日本を救う最終手段のような気がしています。

同一労働同一賃金。この考え方は理想としては正しいのだと思います。しかし、現実にはこれを取り入れれば、かえって非正規労働者の首を絞めることになりかねません。どこの企業も人件費をできるだけ抑えたい。その企業の切り札となりえるのが人工知能です。うまく導入すれば、人を雇うより、よほど会社に利益をもたらしてくれる可能性があります。

そして待っているのはリストラ。何も非正規社員に限ったことではなく、正社員。それもこれまではインテリ系に括られていた職種の社員ですら、人工知能で代用できるものならリストラの対象となります。

リストラをすれば株が上がる昨今。ましてや人工知能を積極的に取り入れる姿勢は、経済の世界ではむしろ高い評価を受けるでしょう。

ではリストラされた人たちをどうするのか？そこでベーシックインカムなのです。生活するための基礎的な額を現金で配るのです。できれば1人100万程度。月にして8万3、4千円。国民全員、赤ちゃんでも100万円。だから子供が多い家庭にプラスに働きます。

財源ですが、所得税、消費税、そして法人税。これらの税率を上げて捻出します。今の状態で消費税を上げても、将来への不安から消費は冷え込みますが、早い時期により大きな額が入ってくると考えれば、安心して消費できる心理状態になります。

基本的には年金、生活保護などと一元化できれば、そうした方がいいでしょう。あくまでも自由主義経済の中でBIを導入することが原則です。しかし、これ以上の格差の広がりはい止めなければなりません。

深刻な労働力不足解消のためには、人工知能は積極的に活用すべきです。しかし、それを成功させるためには、そこからこぼれ落ちた人のセーフティーネットが必要で、それがベーシックインカムです。だからAIとBIはコインの表裏。同時に導入することが大切です。

ベーシックインカムに賛成の国会議員はイデオロギーの右左に関係なく、一定数いるようです。これらの大胆な改革を勇気を持って実現していただきたい。それによって国民は、本当にやりたい職業に就くことが可能になります。そして、長い目で見れば、少子高齢化の解消にもつながっていくでしょう。

更生を願う

昨日、清原さんの裁判が開かれました。検察は懲役2年6ヶ月を求刑。その理由として「再犯の可能性が高い」ことを挙げています。高いと思いますよ、確かに。よほど本人の強い意志と周囲のサポートなどがうまくかみ合って、初めて更生できる可能性が出てくるのだと思います。

アル中などもそうらしいですが、覚醒剤の場合「ゼロになることはない。いかにマイナスの状態からゼロに近づけていくか」という事のように。ゼロというのは完治ですから、状況は厳しいですね。絶対に手を出してはいけないものに手を出してしまった。

舛添都知事が公のカネ、税金を私的に使用した疑いをもたれている渦中ですが、不思議なほどに、仲間の政治家から庇う人が出てこないと耳にしています。それに対し、清原さんには佐々木さんが救いの手を差し伸べました。それは清原にあって、舛添にないもの。清原和博という人間を愛してやまないからこそ、佐々木さんは周囲の反対を押し切り、何の得もない役を買って出たのでしょう。

優しさや思いやり。確かに価値の高いものだと思う。しかし、現実はその持たない舛添さんが都知事で、それを持っているはずの清原さんは無職の犯罪者。これが現実です。この差はどこからくるのか？簡単に言ってしまうと、法を犯したか、犯さないかの違いです。

昨日はさすがに清原さんも息子たちを想い、また佐々木さん、父親、そして岸和田の人々の温かさに触れ、「もう覚醒剤はやめよう」と決意したはず。問題はその気持ちが長続きするかどうか？難しいですね。彼は被告であると同時に薬物中毒の病人でもある訳ですから。

正直、自分は佐々木さんのように清原さんの更生を信じることはできない。いや佐々木さんとても大変な事はよく理解していると思います。状況は厳しいですが、彼が確率の低い側、つまり二度と薬物に手を出さず、まっとうに生きてくれる事を切に願います。

清原がんばれ。がんばって生き抜いて欲しい。

千代の富士死す

元千代の富士が亡くなりました。非常に残念です。まさに僕らの少年時代のヒーローでした。

彼が横綱に駆け上がる1年前、いったい誰がそれを予想できたでしょう？左前禪を取っての一気の速攻と、番付を駆け上がるスピードが見事にリンクしたのです。

僕の少年時代のヒーローは初代貴ノ花と千代の富士です。昭和50年代、まだ子供たちは休み時間など、砂場で相撲を取っていました。僕は細かったので、貴ノ花や千代の富士になりきって、泥まみれになっていましたね。決して手を突かず、顔から落ちるといふ。そんな時代でした。

しかし、千代の富士にも天敵が現れます。元横綱・隆の里。稀勢の里の先代の師匠ですね。一時期、彼には勝てなかった。1年以上、負け続けた記憶があります。隆の里も千代の富士とは違った意味で凄い筋肉の付き方をしていました。肩の盛り上がりももの凄かった。いまの鳴門部屋の力士の体つきにも亡き親方の面影があります。ほんと力士、横綱って短命だなあ。

隆の里に対する苦手意識を克服した後、台頭してきたのが花のサンパチです。昭和38年生まれ。北尾、小錦、保志、寺尾など。綺羅星の如くでした。特に、小錦と北尾（双羽黒）の圧倒的な体の大きさは、小柄な千代の富士には脅威だったでしょう。しかし、八歳年下の彼らですら、千代の富士を超えることはできませんでした。ちなみにサンパチで最も優勝回数が多いのは保志（北勝海）でした。同部屋の千代の富士に、徹底的に稽古をつけてもらった賜物です。決して体には恵まれてなかったけれど、最大の武器は立合いの鋭い踏み込みにありました。彼がいまや理事長ですから、時は流れました。

優勝回数31回の大横綱・千代の富士にも引退の時は訪れました。引導を渡したのが、千代の富士の憧れでもあった初代貴ノ花の息子、貴花田でした。年齢差17歳。この初日の歴史的一番は、記憶に残っている人も多いと思いますが、僕の印象深いのは二日目の板井戦です。勝ったのですが、捕まえるまで時間がかかり、明らかに集中力がありませんでした。気持ちが切れたことを感じました。

翌日、貴闘力に敗れた千代の富士は「体力の限界。気力もなくなり引退することになりました」の名言を残し引退。年寄陣幕（のち九重）を襲名しました。

今場所の日馬富士の相撲を見て、若き日の千代の富士の相撲を思い出していたところです。立合いから勝負を決めにいく取り口は、近代相撲の祖とっていい。これから千代の富士のような日本力士は二度と現れることはないでしょう。残念です。ご冥福を祈ります。

三軒家万智

真田太平記、全12巻読み終わりました。読書人でもない自分にとっては長かった。しかし、さすが池波先生。三流読者の自分にさえ、あの長編を読破させてしまう筆力、素晴らしいです。歴史好きでまだ読んでいない方がおられたら、おすすめです。それにしても真田信之（幸村の兄）は長生きですね。93歳ですよ、あの時代に。

さて、北川景子主演の「家売るオンナ」。面白い。北川さん演じる三軒家万智という強烈なキャラクターは彼女のはまり役といえるでしょう。

美人で、仕事もできすぎるぐらいにできる。しかし、あまりにも凛としすぎて近寄り難い。これは北川さんのイメージと被るところがあります。だから彼女も演じやすいし、楽しいのではないのでしょうか。それが見ている側にも伝染してくる感じですね。

北川さんに注目したのは「筆談ホステス」というドラマからでした。確か母親は田中好子さんだった。当時は「美人だけど演技が下手」的な風評が耳に入り、自分も詳しくないから「そうなのか」と思っていました。筆談ホステスの演技を見て、上手下手はともかく、懸命に、ひたむきに演じている事は伝わってきました。こういう人は大体、伸びてきますね。

ドラマ放映中の8月の誕生日で年齢的な節目を迎える北川さん。そのタイミングで記念碑的な作品に出会えたのではないのでしょうか。

彼女と同じ8月22日生まれの女優といえば菅野美穂。いよいよ秋から完全復帰となりそうです。朝ドラでは主人公の母親役。そしてTBS系金曜10時の「砂の塔」で4年ぶりの主演。また彼女の演技が見られるのは嬉しいです。

イチロー、そして彼の真のファンへ「おめでとう」

いよいよ、リオオリンピックが開幕しました。日本勢では、水泳の萩野公介選手が金メダル獲得。400m個人メドレーというところに意味がある。金5個分、いや10個分の価値があるといっても過言ではないでしょう。この種目を制した者こそ「水の王者」と言えるからです。

イチロー選手が米通算3000本安打を達成しました。長い歴史を誇る大リーグでも30人目の大記録。三塁打で決めたのも彼らしい。イチロー選手、おめでとう。

さて今日のタイトルで、何故あえて「真のファン」としたかといえば、イチローには常にファッションで「イチローファン」と名乗る人が多いからなんです。「彼のプレーはぜんぜん分からないし、顔と名前が一致する程度だけど、イチローと言っとけば間違いないでしょ」的な。

その結果が「好きなスポーツ選手なんちゃらかんちゃら1位」。果ては「理想の上司」。かつてイチローは「もし野球選手でなければ、いま何をしていますか？」の問いに「わからないなあ。ただサラリーマンにはなっていないだろうね」。彼は組織になじむタイプの人間ではない。それすらも理解していない人が多いのが現実です。

ドラフト4位でプロ入り。当時の触れ込みは「篠塚の打撃技術に福本の足を持つ男」。1、2年目は当時の土井監督とそりが合わず、ブレイクしたのは仰木監督が就任した3年目。なんと210安打を放った。当時はまだ130試合の時代だから、その凄さがより鮮明になる。

その数字の原動力となったのは、卓越したバットコントロールと内野安打。特に内野安打に関しては、憧れていた前田智徳から「そんなに必死に走るな」との言葉を浴びせられた。勿論、内野安打への評価はさまざまだが、イチローの心が前田から離れたのは確かだろう。

マスコミには強い不満を持っていた。「振り子打法」と名づけられた事に対しても「違うんですよね」。振り子というと常に一定のリズムという印象がある。しかし、彼のバッターボックスでの世界観では、ストレート待ちで変化球が来て、タイミングを合わせようとすれば、「振り子」では打てないし、インパクトの瞬間も一瞬、止まる感覚があるのだろう。そうした意味ではマスコミもファッション的なのだ。

メジャーへ渡り、首位打者を獲得し、シーズン最多安打記録を打ちたてもした。イチローは「40本塁打、打てる自信があります。ただし打率2割2分、3分でいいなら」と語ったことがあった。つまり、常に打球を右方向に集め、ボールの下半分にバットを入れればという話だろう。

実際、彼のパワーなら打てたと思う。しかし、それではレギュラーとして使ってもらえる保証はないが。

ああ、久しぶりに野球を語りました。イチロー選手、大偉業、本当におめでとう。ならびに真のイチローファンの方々、おめでとうございます。

繊維筋痛症とパニック障害

オリンピックも高校野球も、台風がどこかへ連れて行ってしまったようです。印象に残った競技はいくつもありますが、客観的に見て、最も偉業だなと思うのは、男子体操の内村選手の個人総合連覇です。団体でも大黒柱としてチームを金メダルへ導き、体操ニッポンを強く印象付けました。満身創痍の中で、よくやりましたね。

さて、北川景子のドラマを見るためか、珍しく前番組の世界仰天ニュース（でいいのかな）を見ました。そこで高校時代から原因不明の激しい全身の痛みで悩まされる20代前半の若い女性を取り上げていました。ようやくたどり着いた病名は繊維筋痛症。周囲で音がするだけでも激痛が走るそうです。その辛さは到底、想像の及ぶものではありません。

しかし、自分もパニック障害となって27年が過ぎました。彼女が周りに病気を隠そうとしたり、夢や結婚を諦めなければならない胸中は、よく分かります。自分もそうでしたから。幸いに彼女の場合、自らの症状に合った薬が見つかり、少し状況は良くなり、病気を知ってもらうための講演などにも前向きに取り組んでいます。しかし、病状は5段階ある中で3番目に重いそうです。彼女より重いレベルの段階になると、ほとんど寝たきりになるということです。

繊維筋痛症の患者は約200万人だそうです。命を奪う病気ではないようですが、痛みで耐え切れず、自殺する人も少なからずいるそうです。パニック障害の場合も直接的に命を奪われなくても、うつを併発するケースが多いので、やはり結果的に自殺に至るケースもあります。自分も抗不安薬とともに抗鬱薬も併用しています。

繊維筋痛症とパニック障害。共通するキーワードは脳の誤作動。この誤作動を修正するような薬が出現すれば、この2つの病気のある程度の部分はかなり改善されるのではないかという気はします。それが10年後か100年後かは分かりませんが。人間の体はマラソンを2時間続けたぐらいでは疲れないそうです。脳が疲れたという信号を出すから、体が疲れたと錯覚を起こすそうです。ヒトの脳は、大変優れてはいるけれど、同時に厄介なものでもありますね。

正直な話、自分もレキソタンという薬の力で、何とか日常生活は送っていますが、この先、何を目的に生きていけばいいのか分かりません。しかし、彼女はまだ若い。新たな治療法も見つかるかもしれない。希望を持って生きて欲しいです。

日ハム、天王山制す・べっぴんさん

お久しぶりです。このまま、すんなり、秋が深まるのでしょうか。

パリーグ天王山は日本ハムがソフトバンクに連勝し、ついにマジック6を点灯させました。一時はソフトバンクに、あれだけ大きく水を開けられていたにもかかわらず、この大詰めに来ての形勢逆転はお見事というほかありません。2ゲーム差。これから日ハムに重圧のかかる可能性もある。まだ勝負は決した訳ではないですが、それでも8割以上の確率で、日ハムがペナントを制すると見ていいでしょう。栗山監督の手腕は素晴らしい。特に若手を育成する能力に秀でています。

個人的には日本シリーズは広島VS日本ハムを見たいですね。別にカープが優勝したからではなく、かねてからの私の主張ですが、やはりリーグ優勝したチームが、日本シリーズに出場すべきです。どうしてもプレーオフをやりたいのなら、前期、後期の2シーズン制をとり、優勝チーム同士が戦うべきです。昭和50年代にパリーグがうまくいかなかったのは、当時、ファンの眼がほとんどパリーグに向いていなかった事が大きいですね。当時と現在のパリーグは別品です。

ということで「べっぴんさん」。今朝の特集、見ました。

ヒロインの芳根京子さんですか、ほんとになかなかべっぴんさんで、表情やインタビューで見たところ、なかなかのものです。もしかしたら女優としては波瑠以上の大器かもしれません。べっぴん度では波瑠さんも素晴らしいですが。1年近い、長丁場の撮影、乗り切って欲しいものです。

母親役が菅野美穂。役の上ではヒロインの幼少期だけになりそうですが、語りも担当するようで楽しみです。こないだ日ハムの大谷君が164キロを投げたそうですが、女優の投げ込んだボールで、あんなに手がしびれたのは自分にとっては菅野さんだけです。あれから20年。TBSドラマも含めて、また、あの剛速球を投げ込んで欲しい。

NHKドラマ・Nスペ「縮小ニッポン」

最近、次の朝ドラの「べっぴんさん」にそなえて、「とと姉ちゃん」を見ています。1週、2週と続けて視聴するのは朝ドラでは「あまちゃん」以来で、ベッドから体を起こすのはきついですが、あまちゃんが放映されていた4年前と比較すると、だるさは少し軽いような気がします。唐沢さんが命を賭して、仕事にのめり込む姿に「白い巨塔」を思い出しました。

大河ドラマ「真田丸」はついに真田信繁の父、昌幸が亡くなりました。正直、ここまでは、昌幸演じる草刈大河だった側面があります。勿論、草刈さんの熱演もありますが、史実でも、この時期はまだ信繁（幸村）は無名の存在だったのだから、それは仕方ないですね。ここからが堺雅人の大河が始まるのは間違いありません。

真田丸を見てそのまま、テレビをつけておいたら、NHKスペシャルが始まりました。タイトルは「縮小ニッポンの衝撃」。

主に、北海道・夕張、島根県、東京豊島区を中心に取材していました。まだ30代半ばの若き夕張市長の奮闘、島根の行政サービスが行き届かなくなった地域での新たな取り組み、2020年に人口減少に転ずると予測される豊島区の対策などが描かれていたのですが、番組終了後は暗澹たる気持ちになりました。「撤退戦」といえば、多少響きはいいかもしいないが、根本的な解決策は何も示されないまま、番組は終わりました。仕方ありません。これが日本の現状ですからね。

アベノミクスに全く効果がない訳ではないとは思いますが。サッカーに例えるなら、全員でディフェンスに回っている状態から、ボールを前に出す。金融緩和ですね。しかし、ボールの受け取り手がない。懸命にボールに追いつこうと走っても追いつけない。よって結局、総ディフェンス状態（デフレ）となる訳です。

根本的には人口構成を変える努力をするしかありません。政府は外国人労働者を倍に増やすことを決めたそうですが、なかなか難しいと思われます。やはり日本は島国で、アメリカとは国の成り立ちも違う。よって受け入れ人数のバーの設定も低くせざるを得ないでしょう。

女性の社会進出も、日本人の意識が変わらなければ、思うようには進まないし、高齢者に出来るだけ働いてもらうといっても限界がある。

そこでベーシックインカム、所得保障ですね。これしかないと思われます。やらないで済むならその方がいいのですが、世界でも類のない超高齢化社会の日本だからこそ、導入が必要です。人工知能の発達によって、職場を追われる人が増える事も導入理由の1つですが。

1人あたり5万なら5万でいい。財源が足りないというなら増税で賄うしかない。時間はかかります。しかし、一人ひとりが生活に余裕を持つことこそ、少子高齢化の有力な解決策です。

長谷川アナ「人工透析」ブログについて

フリーアナウンサーの長谷川豊氏の「自業自得の人工透析患者は治療費を自己負担すべき」という意見には反対です。タイトルにあった「そういった人間は殺せ！」というのは、これはタイトルで多くの人に見てもらおうという、彼のやり方であるのは分かるのですが、アウトですね。ペンの暴力。

こうしたことを書けば、人工透析患者を深く傷つけることは勿論、社会に悪影響を与えかねない事ぐらい分からないようでは話にならない。透析の患者さんの中には、彼に対する怒りとともに、「長谷川氏の意見に同調している連中の誰かに襲われるのでは」という身の危険を感じている方もいるでしょう。彼にはそうした想像力が著しく欠如しています。

確かに、彼の言うように、暴飲暴食や運動不足から糖尿病、さらには人工透析まで進行してしまう患者さんも、割合はともかく、かなり多いことは確かでしょう。しかし、社会保障費削減のために全額負担を求めるのはやはり無理があります。それに節制、不摂生の2択で綺麗に割り切れるものではありません。

糖尿病に限らず、がんなどの生活習慣病。もっと広げれば人生においてもそう。AだからBになる。CだからDになると簡単に割り切れるものではありません。必ずしも計画通りにはいかないのです。それが長谷川氏には全く理解できないようです。おそらくこの先も理解できない。

酒、タバコ、不摂生の限りを尽くしても、90代まで元気な人もいれば、健康管理に余念がなく、人間ドックも毎年受けている人でも早死にする人もいます。こんな例はいくらでもあるんですね。まあ、生きるということは不条理なものです。

長谷川氏に話を戻すと、彼の頭の構造はこの先も変わりようがない。あとは起用する側の問題。倫理観が問われます。

NHK朝8時台が菅野であふれた

今日は10月スタートの朝ドラで主人公の母親役、ならびに語りを担当している菅野美穂が、後番組の「あさいチ」にも出演した。

まずは有働アナのお馴染みの涙からスタート。菅野さんの姿は出産前後と変わらないように見えた。かつて自らも朝ドラのヒロイン、まあ、菅野さんの「走らんか」は男性主演で中江有里とダブルヒロインという形だった。だから菅野さんは今回のヒロインを気遣っていた。「芳根さんは、私よりもはるかに大変だろう」と。

最近でこそ実績のある知名度の高い若手女優が、主演することも多くなったものの、やはり朝ドラは女優の甲子園。菅野さんもまさに淑徳与野高校3年の時に、その土を踏んだ。

「走らんか」で演出を担当していた方がコメントを寄せた。「この感情は5段階でいうとどれぐらいで表現したらいいですか？」など熱心に質問してきたという。そして「憑依型の天才肌の女優」と評していた。菅野さんは少し恐縮した様子だった。思えば中江さんもクレバーな人だから、女優・菅野美穂を間近で見て、どうにもならないものを感じたのではないのでしょうか？そして彼女も女優以外の方向に、活動の場を求めていったのかなあと想像します。

8ヶ月にわたる撮影。大阪に向かう新幹線では泣いていたという。「友人は10年後を考え、受験勉強しているのに、自分で望んだこととはいえ、私は必死で目の前の台詞を覚えて」と懐かしそうに語る。そして21年を経たいま、菅野さんは小さな息子さんを連れて、朝ドラの撮影のため大阪へ向かう。

10代の終わりから、20代のはじめ位は精神的につらかったと話した。「19歳ぐらいの時はやさぐれていましたね」と話した。これはかつて「定本・菅野美穂」という本の中でも語っています。「そうした思いがあの写真集、私、写真集出してるんですけど」。ここまでリップサービスしてくれました。まあ、これも人それぞれですが、菅野さんのような繊細な人が、18、9歳で急速に世間に知られていくのは、きついものがあるのかなあと推測します。

子育ての話、憧れの女優、和久井映見からのコメント「頭の回転がものすごく速い。どこでスイッチが入れ変わっているのか分からない」と流れ、最後は有働さんらに促され、ヨガのポーズをとることに。終了間際に発した言葉が「明日もあさいチ、見てね」。それは違うんじゃないかな。べっぴんさん見てねじゃないのかな（笑）

菅野美穂は昔と変わっていない。クレバーで、感謝があり、周りの人々への気遣いを忘れない姿勢。そして役に向き合う真摯な姿勢も何ら変わらない。

どうした三浦九段

将棋界に衝撃が走りました。渡辺明竜王に三浦弘行九段が挑戦するはずだった竜王戦7番勝負に三浦九段が出場しない事が決まりました。

最初はということかなと思いました。例えば、体調不良ならそれが理由として書かれているはずなのに、何も語られていなかった。非常に不可解だったのですが、どうやら三浦九段のスマホの不正使用のようです。彼はそういうような事をやらかす人には見えなかったけどなあ。

今は将棋ソフトの実力がプロを超えてしまって、まあそれを悪用してしまったのではないかということらしいです。将棋を知らない人にわかりやすく説明するなら「カンニング」ということになるでしょう。三浦さん本人は否定していますね。

自分も「将王」という、それほど出来の良くなかったらう短編を、ブログに掲載したのですが、人工知能に対して、人間である棋士がどう向き合うのかが、ひとつのテーマでした。自分の書いたものとは違う方向で、棋士が人工知能に頼るという形で、このテーマが現実になってしまいました。残念です。三浦九段は今年いっぱい出場停止の処分。疑惑がはっきりすれば、この程度ではすまないと思われます。

将棋界の大きな危機といえます。こうしたことが繰り返されれば、存亡すら危ぶまれます。これから棋士は強さより、美しさや個性、そうしたものを前面に押し出すべきでしょう。「勝つことは偉いこと」の時代は、人工知能の登場により、将棋界では過去のものになるようです。

「砂の塔」初回

菅野美穂が4年ぶりに主演する「砂の塔」が始まりました。松嶋菜々子との豪華競演にも注目が集まります。

率直、どろどろした陰鬱な展開とも言えますが、少し前に、同じ時間帯の（TBS金曜10時）綾瀬はるかが主演したドラマよりも、見やすかった感じはありますね。綾瀬さんのドラマも、力作ではあったかもしれませんが、見る側に体力を要するドラマで、早々と脱落しました。それに比べて「砂の塔」は視聴者を引き込んでいく力はあったように思います。勿論、拒否反応を示す視聴者も多くいたでしょうが。

厳しいですね。タワーマンションでの人間関係というのはいうのは。うん、女は怖い。このドラマはそれに尽きるのではないのでしょうか。多少、誇張している部分はあるでしょうが、これに近いものが現実でもありそうな気はします。ちなみに私はパニック障害になって以来、高いところも駄目になってしまったので、階級が低くても2階でいいです（笑）

菅野さんの演技は、今回は非常に難度の高いものが要求されます。菅野さんも松嶋さんのポジションの方（悪役）が何度も演じている分、楽でしょう。今回の役どころは、体操に例えるなら、あん馬のG難度といったところですかね。地味だけど難しい。明らかに場違いな所に住み始めてしまった平凡な主婦。小市民。その戸惑いや苦悩をどうきめ細かに表現していくか？

松嶋さんが悪役を演じるのは珍しいですが、彼女の持ち味のスター性、花に例えるなら薔薇や百合。ここはうまく引き出されていたと思います。

菅野さんも薔薇百合系の演技は、里見八犬伝の玉梓など何度もありますし、現在の朝ドラの「べっぴんさん」でも可憐な美しさを披露していましたが、「砂の塔」に関しては、美しさは封印しなければなりません。野に咲く地味な花に徹することが要求されます。主役とはいえ賞賛は得にくいと思われれます。しかし、彼女の持ち味である、その役に共感し、そしてなりきるという女優としての軸をぶらさずに演じれば、道は開けるのではないのでしょうか。

しかし、今回のいじめられ役は菅野ファンとしては、ちょっときついですね（笑）

「砂の塔」にみる男女論

「砂の塔」の初回視聴率は9.8%。一桁発進となりました。菅野主演で初回一桁というのは、もしかしたら「イグアナの娘」以来かもしれません。

少し前までは「初回はキャストの数字」と言われ、菅野さんもこれまでずっと結果を出してきました。それに視聴率女王・松嶋菜々子が共演ということもあり、もう少しいけるかと思いましたが。視聴者の我慢がかつては初回の30分だとしたら、今は10分程度にまで短くなっているような気がします。

ドラマを見終えてしばらくして、このドラマは女性は悪、男性は善という描き方を徹底していることに気づきました。主人公の旦那、幼馴染みの体操のお兄さん、高校生の息子。男性の主要人物はみな優しい。それに対し女性は、主演の菅野さんは別として、すべて悪として描かれています。主人公の母親すら悪だった。見なくても脚本家は女性だろうと分かります（笑）男だとあそこまで女性を悪一辺倒に描けない。

松嶋さんの場合は悪といっても、美しく、品がある描き方をしていますが、問題はその他のタワーマンションの主婦連中。同じ悪でも松嶋さんとは描かれ方が違うのです。人としての価値が彼女らのどこにあるのか、見出せなかった。

脚本家の誇張があるとはいえ、確かに一理はあると思います。彼女たちはどうして変貌してしまったのか？女性の場合、10代、20代でちやほやされます。男はただ若いというだけでは、駄目ですね。イケメンとか、仕事が出来るとか、稼ぎがいいとか、何か持っていて初めて認められるのです。

女性はただ若いというだけで、ちやほやされるが故に、最大の武器である若さがなくなっていくと、若さに変わる特別なものを持っていない限り、次の世代に取って代わられる。そこに嫉妬が生まれ、ターゲットは若い女性にとどまらず、「砂の塔」のような世界が展開されるという事でしょう。

まあ、個人的には今後、内容的にも数字的にも、しり上がりの展開を期待しています。「イグアナの娘」のように。

日本シリーズ、流れは変わるか？

広島連勝で迎えた日本シリーズ第3戦。日本ハムが大谷のサヨナラヒットというこれ以上ない勝ち方でひとつ返しました。

昨日の試合、もし広島がとって3連勝としていけば、九分九厘、勝負は決したといえましたが、よく日ハムは踏ん張りました。1.5勝分の価値はあると思います。

試合を見て解せなかったのは最後の場面。9回裏、3対3の同点。二死二塁で打者は大谷。ここで広島の外野陣が、前に出てこなかったのは何故だろう？ここは是が非でもワンヒットで二塁走者をホームに返さない守備体系をとらなければいけないところでした。

広島ベンチの心理を推測すれば、「大谷には長打力がある。実際にこの試合でも黒田から右中間を破る二塁打を放っている。もし外野手を前に出して、頭上を抜かれたらどうする」ということでしょうが、確率の問題です。例え王貞治が打席に立っていようが、あそこは外野は前進守備でなければなりません。

昔に比べて個々の能力は上がりました。昔は直球が140キロを超えれば速球派でしたが、いまは150キロを越えないと速球派とはいえません。しかし、一点に対するこだわりという意味では劣化しているのかなという危惧を抱きます。広島は王シフトを考案するなど、細かい野球の先駆者的な存在であったのに、昨日の守備体系の甘さ。

理由として考えられるのは、日本シリーズが昔に比べて「日本最高峰の試合」という意識が薄れてきているのではないかという事です。ひとつにはクライマックスシリーズなるものの存在。リーグ優勝しても日本シリーズに出られない事もある訳ですから、当然、日本シリーズの価値は薄れるわけです。もうひとつはWBCなど国際試合が増えてきたことも大きいでしょう。

まあ、どちらにしても大谷、中田が打って競り合いをものにした日本ハム。短期決戦では最も重要になる流れが、日本ハムに変わりつつあります。そこを広島がどう食い止めるのか、第4戦に注目です。第7戦までもつれる展開を期待しています。

それにしても大谷君は凄い！

高齢者暴走続発。運転免許は75歳までを法制化すべき

最近、高齢者の自動車運転事故が多発しています。被害者が亡くなるケースも毎日のように報道されています。

しかし、現実には10年以上前から75歳以上の高齢ドライバーによる死亡事故は1日1件以上のペースで起きています。ここに来て、メディアで熱心に報道されるようになったのは、世間の関心の高まりの表われでしょう。

運転免許は18歳以上と法律で定められています。下限があるのだから、上限があっても不自然ではないはずです。18歳から75歳まで。これでいいのではないのでしょうか。

他に方法があるならいい。しかし、事故を減らす打開策は見出せていません。やはり、人間はある程度の年齢からは日々衰えていくという自然の摂理には太刀打ちできないのです。

ここ数日間の被害者の世代も、6歳の児童から、事故を起こしている高齢ドライバーと同世代の方までさまざまです。長い、短いは別にして、彼らの生命、未来を暴走老人たちは奪っていきましました。

加害者の弁護士たちは「車がないと、加害者は生活が不自由になり、張りもなくなる」という理屈を持ち出すことは容易に想像できます。しかし、高齢ドライバーは自らの衰えを自覚しつつ「まあ、大丈夫だろう」という身勝手な楽観論で、運転していたのでしょ。他人の命より、自らの利便性を重視した結果が、日々、このような取り返しのつかない事態を起こしている訳です。

高齢者の免許の自主返納はわずかです。やんわりと自主返納を促しても、さしたる効果は上がりません。自動運転が広まるには、もう少し時間がかかります。今日、明日という訳にはいきません。よって、法律で「自動車免許は18歳から75歳まで」と定めることが最善と思われます。

女優ドラフト

昨日は地震、今夜からはどうやら関東平野部でも雪が降るようで、最近の天地の乱れを凝縮したような感じですね。

昨日の「逃げ恥」は後半の20分だけ見ました。ストーリーどころより、新垣結衣の美しさ目当てで見ているものからすれば、1時間は少々長いので、後半20分、ただただガッキーを鑑賞している訳です。

ガッキーは1988年、野球で言えば「ハンカチ世代」が有名ですが、女優も88年生まれは豊作でした。この時の女優ドラフトは堀北真希と新垣結衣の二人に指名が集中しました。私はといえば、堀北さんを1位指名しました。

堀北さんはいわば10勝以上計算できる投手で、ガッキーは大型スラッガー。未知の魅力はあるけれど、10年後、活躍しているのは堀北さんで、ガッキーはどうなっているか分からないと見ていたのですが、結果はガッキーはスラッガーとして順調に成長していることをいま証明しています。

この時の個人的な2位指名は吉高由里子だった気がします。阿部寛主演の「白い春」でフワっとした何ともいえない雰囲気醸し出していました。吉高さんも順調にきてますね。

私の指名遍歴は、古くは斎藤由貴、その後、麻生祐未。90年代に入って、桜井幸子。桜井さんは「高校教師」を見て、あの人にしか出せない切なさ、哀しさが漂っていたので、大成を期待しましたが、残念ながら引退してしまいました。

会心のドラフトは1996年。この年は広末ドラフトでした。ドコモのポケベルの鮮烈な印象。指名が広末に集中する中、私は菅野美穂を一本釣りしました（笑）。あれから20年。人気、実力を兼ね備えた大女優に成長してくれました。それにしても今回の「砂の塔」の主人公は要領が悪いですねえ。

あとは「世界の中心で愛をさけぶ」の綾瀬はるか。当時はまだ知名度も上戸彩の方が上でした。まあ国民的な女優にはなったけれど、卵焼き的な女優になってしまったともいえます。綾瀬さんには、いい意味で期待を裏切るような演技を見せて欲しい。

女優ドラフトの名スカウトといえば、爆笑問題の田中さんです。「俺が伊東美咲を見つけた」「俺が仲間由紀恵を見つけた」とうるさい（笑）ここ数年は「ちふれ」のCMで木村文乃を押しつけて、ついには主演に抜擢されるなど大活躍。「さすが田中さん」と思っていたのですが、結婚

してしまいましたね（笑）

「タニプロモーション 菅野美穂 18歳 女優 淑徳与野高校」

「砂の塔」最終回

「砂の塔」最後に数字は上げてきました。菅野さんは主演ドラマではほとんど1桁は取らない不思議な女優です。

しかし、ドラマの脚本自体は褒められたものではなかったです。当初は主婦のいじめがかなりメインに描かれていましたが、これが評判が悪かったため、路線変更でいじめシーンはほとんどなくなり、菅野さんと血のつながりのない息子の関係、また松嶋さんのフラワーアレンジメントもいつの間にか消え、菅野さんの息子を愛する実の母親の立場を押し出してきました。それでも足りないと思ったのか、最後は強引に菅野さんの幼馴染みの体操教室のお兄さんを犯人にするという、行き当たりばったりの内容でした。

こうした脚本の迷走に惑わされず、菅野さんはじめキャストは、それぞれ、自らの役を全うすることに徹していたのは賞賛に値するのではないのでしょうか。

逃げ恥、最終回20%超え

逃げ恥、20%超え！凄い。もしかしたらとは思っていたけれど。ドラマが始まった頃に、この数字を予測した日とはおそらくいなかったのではないのでしょうか。この手のドラマは、例え良作でも低視聴率に終わることが多く、逃げ恥も初回は最終回の半分の10%。2話目からは一桁に落ちるのが常でした。登場人物が、皆マイノリティーですからね。

しかし、その流れを変えたのがガッキーこと新垣結衣のドラマのエンディングで流れる恋ダンスでした。「可愛い」と話題を呼び、動画再生回数もとてつもない事になり、社会現象にまでなりました。ガッキーの可愛らしさなくして、この高視聴率はなかったですね。

菅野美穂とは別の意味で、新垣さんも役の人格に忠実になりきろうとする女優だと思います。ただ、どうしても可愛らしさばかりが目立ってしまう。何年か前に見た「情熱大陸」。ガッキーという可愛くて明るい女の子というイメージとはかけ離れた、むしろ人見知りで、マイナス思考で悩んでいる姿が印象的でした。今回のドラマは、世間のステレオタイプなガッキー像を受け入れながらも、女優として役を全うしようとし続けた彼女へのご褒美だったのだと思います。新垣結衣の代表作が出来ましたね。

世間的に2016年を代表する曲は、朝ドラ主題歌の宇多田ヒカルの「花束を君に」と、「逃げ恥」でガッキーとダブル主演だったとも言える星野源の「恋」ではないのでしょうか。紅白でもまた二人の再会を期待したいところです。

今年目標

明けましておめでとうございます。

パニック障害になってからは人生を線で捉えるのは捉えるのは苦手で、今日という一点を見つめて生きてきました。でも、今日はあえてその苦手な線で捉える行為をしたいと思います。

パニック障害に関しては急に治るなんて事はないですから、薬を飲みながらうまく付き合っていくしかありません。店の経営も消費増税や高齢化、お客さんの購買意欲の衰退と、工夫しなければ駄目になるのは目に見えています。うつの症状もあるので、考えるのも疲れるのですが、諦めずに努力していくしかありません。

そして今年小説を書きたいです。主人公はパニック障害という設定で。自分のことは数年前に「僕とパニック障害の20年戦争」である程度は書いたので、今度はフィクションという形で、エンタテインメント性を持たせた作品にしたいです。億劫ではありますが少しずつでも前に進めていきたいです。

このブログを更新すること自体、なかなか難しいくらいですから、小説となるとかなりハードルは高いと思いますが、出来れば今年中に完成させて、ネットなどで発表できればいいと考えています。

戦う長嶋茂雄を見た

TBSで長嶋さんの壮絶なりハビリを見た。相手投手ではなく、病気を闘う戦う相手とみなす根っからの勝負師長嶋さん。どこまでも前向きで、どこまでも成し遂げようとする力が強い人だ。

最近、自分自身、弱気になることが多くなったような気がします。パニック障害になりもうすぐ26年。病気を抱えたまま、あとは老化していただけか、もう駄目なんじゃないかと落ち込みがちな自分。薬以外にも運動や食事面など僕なりに努力をしてきたと思っていました。それでも思うように結果が出ない。しかし、80近い長嶋さんの頑張りを見ると、まだまだ自分もやらないといけないかなと思っています。

脳内不安物質が多い自分は、飛びぬけてポジティブな長嶋さんのように前向きになるのは難しいけれど、つらいときは長嶋さんのがんばりを思い起こして今年1年がんばっていこうかなという気に、少しですがなりました。長嶋さん、ありがとうございます。

自分はすぐ忘れてしまうので、今年も心がへし折られる日が何度あるか分かりません。そんな時、このブログを見て、長嶋さんのリハビリに励む姿を思い出せたらなあと、日記のような文章を書いた次第です。

生きてて何かあるのだろうか？

「まだ生きてて何かあるのだろうか？」

「何を期待して生きているというのか？」

症状が強く出た日によく思うのだ

今日は季節はずれの暑い一日だった

店は定休日だ

体はだるい

朝はパン、昼は冷凍パスタで済ませたが夕食がない

僕はスーパーへ向かうため、家を出た

顔が前に向かない

強い不安の中、必然的に僕はアスファルトを見つめながら、歩いて10分程の

スーパーへ向かう

行き帰りの道すがら、スーパーでの買い物中、不安の霧の中でぼんやりと浮かぶのだ

「まだ生きるのか、おまえ？」と

この病気になって26年

病院へ通いだして12年

僕は何を望んで生き続けているのだろうか？

気が優しくて力持ちだった貴ノ浪の死

元貴ノ浪の音羽山親方が亡くなりました。同世代ということもあって、よりショックです。最近ではスージョという相撲好き女子も増えて、再び相撲界が盛り上がってきたところでの元大関の早過ぎる死。

亡くなった二子山親方（元大関・貴ノ花）が、浪岡という大きな少年をスカウトするために、青森まで足を運んだ時の彼の印象を語っていた。「あれだけ体が大きいのに、つま先に重心がある」と。どんなスポーツでもそれは大切なことなんだよね。

酒豪だし、藤島部屋独特の激しい稽古で、心臓肥大になっていたかもしれない。自分の子供の頃のアイドルでもある、天国の二子山親方に聞きたい。「貴ノ浪に本気で相撲を教えましたか」と。貴ノ浪の断髪式の時、親方が重い病状の中、愛弟子のために必死で土俵に上がる姿が眼に焼きついて離れない。あの時、親方はどんな思いだったのだろうか？

ご存知のように親方の息子は若貴兄弟。才能ではあの貴乃花さえも凌ぐ部分を持っていた事は、親方が最も良く知っているはず。貴ノ浪の脇は甘いですが、勝つ時は豪快な取り口を親方は「彼の個性」と表現した。ただもう一步、立ち合いに強い踏み込みがあったならと思わずにはいられない。

貴ノ浪は押し相撲の力士が苦手だった。曙などに喉を付かれると、露骨に嫌がり、顔を背けてしまっていた。曙貴、武蔵丸の熾烈な時代の中でも上手さえ取れば、彼が一番強かったのではないか。

大横綱の器だった。素質の割には成績は残せなかったかもしれない。しかし、彼にしかできない豪快な相撲、そして優しい人柄を相撲ファンは忘れないだろう。さようなら貴ノ浪関。さようなら浪岡君。

これまで僕が人として凄いと思った2人か3人の若い人

大竹まことさんは「若くて凄いヤツなんて今まで一人も見ただことない」とラジオで言った。裏を返せば、「若いうちは未熟でいいんだ。失敗していいんだ」という大竹流の優しさがこめられている。

しかし、僕はかつて有名人で若くても人間として凄い人を2人だけ知っている。それは松井秀喜と菅野美穂だ。おそらくこのブログも長年、続けているので、内容については細かくは書きませんが。ただ率直に「普通の人で50年、60年生きても気づかないことをなぜ二十歳そこそこの彼や彼女が分かっているのか」と感じたことを懐かしく思う。

もし僕が小学校の教師なら日ごろは「絶対に最後まで諦めるな」「ビリギャルの有村架純を見たか。誰だってやればできるんだよ」とハッパをかけつつ、卒業の日は「どうしても乗り越えられない壁なら、諦めてもいい」と話す。

教師の言葉というのはその時にはなんとも感じなくても、あとから思い出すことがある。自分は18歳の時。今でいうパニック障害となり、昨日まで漠然と描いていた未来。仕事でそれなりの成功を収め、結婚して子供たちと暮らす。それが一瞬にして崩壊したのだ。

その後、どれぐらい経ってからかは忘れた。小学校の卒業の日の若い女性教師の言葉が思い出された。「折れていてもいいから、花を咲かせなさい」と。これまでの自分を支えてきた言葉の一つだと思う。

菅野美穂、松井秀喜。最近、もう一人「この人、もしかしたら凄いんじゃないか」と思う人がいる。文化放送のアナウンサーの室照美。ムロリンだ。

最初は声質が心地いいなと思うくらいだったが、時に「あれ、この人」と思わせる言葉がいくつもあった。今日も「諦観」を思わせる心情を聴き心地のいい声で話していた。諦観は自分が生きていくうえで大事にしている言葉。室アナがどういう苦勞をしてきたか僕は知らない。どういう過程で諦めることの大切さに気づいたのかも知らない。しかし、まだ20代でそこにたどり着くというのは人として素晴らしい。

いろいろ

お久しぶりです。

今年も何とかここまで乗り切ってきました。パニック障害を発症して26年が過ぎ、27年が迫りつつあります。

いまはパキシルという抗鬱薬を減らしているところです。やはり自分には抗不安薬のレキソタンがよく効くようで、パキシルを減らしても、日常生活に特に影響は見られないようです。むしろ眠さやだるさは改善しているような気がします。

今年の流行語大賞が発表されましたが、僕が気になった言葉の一つは「下流老人」です。財産を持っているのも高齢者ですが、生活保護の半数以上も高齢者。だから高齢者が最も格差社会の只中にいるというのが現実です。自分の店にも自動販売機が置いてあるのですが、硬貨の取り出し口に手を入れていくのはいい年のおじさん、おばさんです。現在、非正規で雇われている中年世代もその予備軍でしょう。

そんな中、僕が期待しているのは人工知能です。少子高齢化がさらに進む中、労働人口を外国人労働者で埋めるか、人工知能で埋めるかの二択になったように思います。女性の社会進出は女性も含めた意識改革が必要で、徐々に進むことはあっても、カメの歩みになる気がします。

このブログを始めて11年。綾瀬はるかが成人式の時に期待の若手女優としてこのブログに記したような覚えがあります。あれから10年。綾瀬さんは国民的な女優になりましたね。菅野美穂も念願の子宝に恵まれ、彼女にとっては忘れられない年になったことでしょう。そろそろ菅野さんの女優としての姿を見たいですね。

今日も下町ロケットは面白かった。ではまた。

若手女優の2014年

昨日、ラジオで小林信彦さんが出版した「伸びる女優、消える女優」という本について語っていました。それに触発され、久しぶりに若手女優中心に今後を予測してみようと思います。

まず小林さんも注目していた綾瀬はるかと堀北真希について。もう綾瀬さんに関しては若手というより中堅の域ですが。

僕は以前から堀北さんは王貞治の一本足打法と重ね合わせています。押しても微動だにしない型を持っている。それに対して綾瀬さんは長嶋型でしょう。それが紅白での二人の司会ぶりによく現れていました。堀北さんはそつなくこなしたけれど、面白みには欠け、逆に綾瀬さんはとちってはいたけど、面白いという評価になります。

演技に関しても同様ですね。堀北さんはきっちりこなすけれど、冒険はしない。ミスパイロットを見ましたが、70点から80点のいわば合格点ですが、想定内の演技でした。綾瀬さんはきっちりという点では堀北さんに及ばないかもしれないけれど、表情が豊かで、演じる幅では堀北さんより上ではないかと感じます。とにかく2人とも2014年はさらに大きな女優になっていくと思われます。

北川景子は「筆談ホステス」というドラマを見た時、懸命な演技が伝わってきました。そのとき僕は「この人はうまくなる一方だな」と思いました。そして彼女のブログを読んでさらに確信しました。ブログを読んでいるうちに、いつの間にか彼女の写真集を買っていました。才能あふれる女優も好きだけど、やっぱり一生懸命という姿も美しいですね。今後もこの姿勢は続くでしょうから、今年はさらに飛躍しそうな予感がします。

新垣結衣は「リーガル・ハイ」で好演していました。そろそろアイドル女優から脱皮の年齢になってきたので、大人のガッキーが見たいところです。

長澤まさみはこないだテレ東で映画「モテキ」を見たけど、抜群のプロポーションをいかす方向に転換して、成功しつつあるのではないのでしょうか。

それと「あまちゃん」三人娘がどうなるかも楽しみなところです。

個人的に女優という職業は特別です。女性として最高の職業のひとつではないのでしょうか。大女優という言葉はあっても大男優なんて言葉は聞いた事ありませんからね。

人生は修行、あるいは苦行である

今日は四週間ぶりに病院へ行ってきました。少し早めに家を出て、電車を使い、病院へ到着したのが12時半。予約は1時からだったので、まだだろうと思いながらコーヒーを飲んでいたら、予定より早く名前を呼ばれたので、慌てて診察室に向かい、ドアをノックしました。

「それほど変わりないですが、昨日、店に徒歩で向かう最中、首が上がりませんでした」。その時、僕の視線はコンクリートを見続けるしかなかった。

「そうですか。パニック障害以外にも症状が多様ですからね」

先生はそう言いながらも困惑していたかもしれない。僕みたいなタイプの患者は記憶にないと以前言っていたから。

薬の力で、以前のような「死ぬかもしれない」という強い予期不安は弱まっていると感じます。しかし、「顔が上がらない」、「自転車に乗ると恐怖を感じる」とか専門家が見ても訳の分からない症状があり、なかなか厳しいです。三半規管の弱さとか、自律神経の乱れなど複合的にもつれてしまっているようです。

18の時の最初の発作から25年、四半世紀、平成の時代を丸ごと苦しい状況ですごしてきました。そして人生の一番よかったはずの時期を通り過ぎてしまった。そんな中で浮かんでは消え、そしてまた浮かんできた思いがあります。

人生は修行である。苦行である。これが自分にはしっくりきます。一方には楽になりたい。もうやっつけられないという思いもあるのですが。

「人生は苦行」これが僕の到達点なんだと思います。その成果はこの世では報われないかもしれませんが。仮に来世というものがあるならば、修行のモチベーションになります。

ブログ更新はいつ以来だろうか？それでも多くの人が見てくれているのはありがたいし、一方で申し訳ない思いもあります。まだうつ状態からも脱し切れていないので、なかなか更新する気力がわかず、すいません。次はできるだけ早く更新できればと思っています。

もはや外国人労働者を受け入れざるを得ない

テレ東の大江アナって菅野美穂に少し似てる。錯覚かな？夏目三久の「あさちゃん」もいい。キャスターはこの2人に注目したいです。

建設現場で深刻な人手不足となっているようです。被災地に加えて、2020年のオリンピックが重なり、予定より早く、外国人労働者を受け入れざるを得なくなりました。建設のみならず、介護職などでも人手が足りず、年間50万人ずつ外国人労働者を受け入れないと、今の経済を維持することは難しくなりました。

アベノミクスの3本目の矢である成長戦略は結局、外国人を受け入れるかどうかにかかっているのです。しかし、これには反発は多いでしょう。僕にも複雑な思いもあります。治安の悪化、混血児の増加など難問は山積みです。

しかしながら、彼らを受け入れなければ、経済的に後退していくのは目に見えています。外国人労働者とうまく共存していくにはどうすればいいか？それには使い捨てにするのではなく、長期間働いてもらえるような待遇を与えるべきでしょう。日本社会がこれから大量に受け入れるであろう外国人労働者に対し、どう向き合うのか？本当のおもてなしが試される時が目前に迫っています。

減薬・花咲舞・3割削減

今日は病院へ行ってきました。これまでパキシルという薬を40ミリ飲んでいましたが、35ミリに減らす事になりました。先生からも影響はないと言われてますし、心配はしていません。

ドラマは花咲舞を見ました。杏さんが気の強い女子銀行員を好演しています。あとは「最後から2番目の恋」を見ています。中井貴一さんは小市民的な役が面白いですね。「ふぞろい」の時からそうだった。小泉さんのさばけた感じもいい。

政治ですが、維新の橋下代表が議員報酬の3割削減を唱えています。非常に大切なことです。この少子高齢化は国の存亡の危機といっても過言ではありません。そのわりに、政治家や官僚の覚悟が足りない。消費税を10%にする前に自らも身を削れという事です。それができないのなら、国民から税金を取る資格がありません。

国会議員が身を削れば、県会議員、市会議員、そして公務員と広がっていきます。3割削減。政治家にこの程度の覚悟がなければ、この国の行く末は暗澹たるものになるでしょう。

集団的自衛権行使閣議決定

昨日、集団的自衛権の行使が閣議決定されました。これは非常に問題があります。

ひとつは時の権力者の解釈で国民の権利を守るべき憲法が簡単に変えられてしまった事。まだ正式ではないですけど。本来であれば、国会議員の3分の2以上、国民の過半数の承認を得なければなりません。

もうひとつは日本が戦争やテロに巻き込まれる可能性が、格段に高まってしまうことです。日米同盟はあくまでもアメリカが主、日本が従の関係です。自民公明両党が最後の詰めで、文言について細かく論議していました。しかし、こんなものは意味をなしません。アメリカが「ついてこい」と言えば、日本は否応なく従うしかないので。

国民の多くは、対中国など東アジアの国を意識しての解釈改憲と捉えているかもしれませんが、それならば、行使の範囲を日本の領土領海に限定すればいい。実際には全くしなかった訳です。

21世紀の戦争は宗教戦争です。キリスト教原理主義とイスラム原理主義の対立はどこまでも根深い。いまは民主党のオバマ大統領だからまだいいのですが、共和党政権に変わった時が危険です。時の大統領がアラブ諸国との戦争を決断すれば、日本も参戦しなければなりません。日本に断る選択肢などないからです。

アラブ諸国は日本に憎悪の感情を抱きます。それがテロを招く可能性は否定できません。原発が狙われたらどうなるのか？一極集中する東京都心部を狙ってくるかもしれない。2020年には東京オリンピックもあります。

巻き込まれるのは決して自衛隊や若者たちだけではない。日本人全体が標的となってしまうのが、今回の解釈改憲の恐ろしさなのです。

夏の暑さにも、北川景子の誘惑にも負けず

埼玉は暑い一日でした。

ちょっと思うところがあり、数日前からランニングを始めました。夜、自宅に帰るなり一息ついてしまったら起き上がれないので、ささっと着替えて走りに出ます。大体1週1キロを2週、2キロ程度を15、6分程度で走っています。かなりスローペースですね。

ここ3日間、続いていたのですが、今日は早朝、目が覚めてしまい、サッカーを少し見てもう一眠りとまた横になり、それを繰り返しているうちに寝坊してしまいました（笑）朝食もとらず、ひげも剃らずに店まで走りました。夜のランニングより、かなりスピードを出しました。

どうやら疲れが出てきたようです。しかし今日でやめてしまえばぴったし三日坊主です。それは避けたい。しかし、今日から北川景子が出演するドラマ「HERO」が始まる。いやすでに始まっている。「どうしようか?」。一瞬迷いましたが、今日もジョギングを続け、三日坊主を免れました。

かえってテレビつけたらキムタクと北川さんが直太郎君を取り調べているところ、つまりよく内容は分かりませんでした。20%は超えるかな。

レキソタン2×5・上戸彩の魅力

昨日病院に行きました。前回の先生の提案を受け入れ、これまでレキソタンを朝夕5ミリずつ飲んでいたので、今日は2ミリずつを5回に分けました。眠気、倦怠感対策ですが、今ブログに向かっているという事は、とりあえず1日目としては悪くなかったのでしょうか。

店を出るなり、雨が次第に強くなり、バケツをひっくり返したような状態になりました。雷も凄かった。完全に油断していました。

少し落ち着いたところで、上戸彩主演の「昼顔」を見ました。上戸さんいいですね。相変わらず役設定の31歳には見えませんが。

彼女は決して美人女優ではないのですが、町のその辺で見かけそうな普通っぽい女性の魅力を凝縮したような感じなんですかね。

半沢の妻としては、ただ可愛いだけだったはずの上戸彩が、「昼顔」ではこうも変わるとは。「流れ星」でもそうだったように、擦れた女とか、不倫とか、社会的にマイナスイメージの役のほうがよく似合う。現在、米倉、篠原、天海など女ボスが似合う女優がもてはやされていますが、意外ではあるけれど、上戸さんは菅野美穂型、すなわち天性の女優なのではないかとさえ思うのです。

上戸と菅野の共通点。バラエティーやCMなどで見せる天真爛漫なタレントイメージとは全く別な人間になることができる。そこがすばらしい。

10年ほど前、綾瀬はるかと上戸彩についてこのブログに書いた覚えがあります。二人とも順調に成長しましたね。ただタイプは違う。綾瀬が太陽なら上戸は月のような女優ではないでしょうか。普段は2人とも天真爛漫なイメージがありますが、女優としては逆というのが面白い。

ドラマの苦戦が続いていますが、「昼顔」は上戸の好演もあって、初回からそれほど急降下はしないような気がします。

才能や努力より巨大な力

こないだ4日坊主で途絶えたジョギングを再開しました。以前は1周1キロ程度のコースを2周していたのですが、続かないので1周にしました。自分の場合、体重を落とすことが目的ではないので、この際妥協しました。

では、なぜ走ろうとするのか？漠然と強い自分を造りたいという願望はあるのですが、具体的には全身の血流を改善させたいのです。放っておくと、手足がすぐ冷たくなる体質なので。特に脳の血流量を増やしたいと思ってます。

眠くなったり、やる気が出ない。物事に対して興味が持てない。これらがすべて薬の副作用とは思えません。ささやかな努力など風の前の塵に同じということはわかってはいるのですが。

こないだラジオで70歳になった久米宏さんが言っていたのですが、人間の一番の不条理といったかな、「それは生まれてくることを選べない事だ」と。

才能や努力より確実に大きな流れがある。それは宿命だと思います。それは生まれた時にすでに埋め込まれているものです。

僕はメンタルで2つの病院に通院した事があるのですが、一番最初に何を聞かれたかといえば、どちらの医師にも「あなたの両親、あるいは親族に似たような症状の人はいますか」という事です。その時は少し意外な気がしましたが、いまは納得できます。自分の場合は18歳でパニック障害になってしまったのですから、これは宿命だったのかもしれませんが。

しかし、このどうにもならない宿命という巨大な流れに抗い、生きていくのもまた、ひとつの人生かなと思います。

ジョギング・山下ひろ子さん・高校野球

少し前、走ってきました。今になって汗が出てきました。距離を半分にするとかかなり楽ですね。それと冬が苦手なので、夏のほうが走りやすい気がしています。これで3日続きました。別に誇るほどでもないけど（笑）

ジョギングに出る前、NHKを見ていたら山下弘子さんという若い女性が末期がんにもかかわらず、精力的に活動している姿を見ました。自らのかけがえのない一日を燃やし尽くすような生き方ですね。尊敬します。

今日一日で何が辛かったかといえ、ジョギングではなく、マッサージでした。日ごろの疲れを癒そうとしたのですが、逆に疲れてしまう結果に。どうも僕の場合は普通の人がりラックスできる場所ほど、きついことが多いです。

例えば、歯医者より床屋や美容院のほうが辛いです。昔、大学生の頃、語学の時間にバイトを入れていた事を思い出します。あれから20年以上たったいまも、その傾向は変わりません。

高校野球は甲子園の出場校が次々と決まっています。PLは残念。東海大相模は原貢さんが亡くなったことがチームをより団結させているのでしょうか。それにしても息子の巨人軍監督はずいぶん激しい采配をしていますね。

わが埼玉は春日部共栄。昔、受験した高校。結果は受かったんですけど、あの頃とはずいぶん、学力も上がったようで。まあ、埼玉代表として頑張ってもらいたいです。

明日からはまた仕事です。自営業なので、働かないと話になりません。お盆は少し休みを取りたいと考えているのですが。

笹井氏自殺は運命か？

今日は今年一番の猛暑だったかもしれません。

理研の笹井副センター長が自殺しました。ラジオで知ったのですが「笹井副センター長が」とそこまでアナウンサーが読んだ時、嫌な予感がしました。そして予想通りの言葉が続いたのです。

男はプライドが高い生き物ですし、「挫折知らずのエリートの弱さ」と言えばそれまでですが、もっと根本的な問題があるのだと思います。

S T A P細胞の疑惑騒動のさなか、笹井氏は記者会見を開き、冷静沈着に理路整然と説明しているように見えました。しかし、心の中は混乱していたのでしょうか。

結局、精神のバランスを崩し、心療内科に通っていたそうですが、彼は救われませんでした。しかしなぜ、自殺までしてしまったのでしょうか？

以前にも書きましたが、僕が通った2つの病院の精神科でいわれた事は「家族や親戚に同じような症状の人はいませんか」という、その頃の自分にとって意外なものでした。しかし、徐々に体の病気と同じように、心の病気も遺伝が深く関わっている事を知るのです。

そして最近のことですが、遺伝子レベルで将来、自殺しやすい人がいることが分かりました。がん家系があるように自殺家系も存在するのです。予想以上に、生まれた時に決まってしまう事が多いようです。自己啓発本を読んでも、多くの人が効果を実感できないのは、その辺りの食い違いにあるのでしょうか。

松井秀喜は「努力という名の才能を持つ男」と言われました。当時は「うまいこと言うな」くらいにしか思っていませんでしたが、確かに松井選手は先天的な努力の天才だったのです。それに高校時代の山下監督、巨人入団後は長嶋監督との出会いが才能を後押ししたのです。

今回は皮肉にも、これまで積み重ねてきた数々の輝かしい成功が、笹井氏を苦しめたのでしょうか。そしてマスコミの激しい攻撃が引き金となり、遺伝子レベルで打たれ弱くできていた笹井さんのガラスの心が粉々に割れてしまったように思います。

これから数え切れない人の命を救えるほどの頭脳を持っていた笹井氏の自殺は日本にとって大きな損失です。残念です。

巨大なもって生まれた遺伝子レベルの力。それに比べ、後天的な、ましてや努力は頼りなく、効

果も目には見えにくい。だからこそ、巨大な力に対抗する、ささやかな努力は美しいのかなと思います。

ジョギング、まだ続いています。

黄昏

今日も自宅周辺を走ってきました。半月ぐらいは続いたでしょうか。やはり距離を半分にした事が、いつになく持続できている要因だと思います。

しかし本心は「こんなことして何の意味があるのだろうか」とも感じています。全身、脳の血流をよくするためという目的意識をよほど強く持たないと、またやめてしまうかもしれません。

というのも、最近はおいとか、衰えを感じます。生物的に。人生でいえば40代前半は秋というイメージを持っている人が平均的だと思います。しかし、僕の季節はどんどん進んで、晩秋、あるいは冬に足を踏み入れた感触があるのです。

いまが盛りの夏の甲子園。思えば、あの球児たちより四半世紀も先を生きていることを痛切に感じます。18歳でパニック障害になった。もうおしまいだ。これがメインの悩みだとすれば、その陰に隠れてサブの悩みもありました。

パニック障害で頭がいっぱいだったから、あの頃は放置していたけれど、若い頃、もしかしたら、パニック障害になったその日から、尿の勢いがなくなりました。まるで老人のように。そうした、本には書かなかったサブの悩みがいくつもありました。

そして、すでに10年以上、薬を飲んでいます。ここ7、8年はうつなのか、薬の副作用なのか分からない状態が続いています。症状が似ていますからね。ジョギングの後、あたりかまわず寝転がり、目が覚めたら午前2時3時というのもしばしばです。

性欲も減退しました。感覚的には男女の関係を結ぶことは無理でしょう。睡眠も4、5時間程度しか眠れません。早朝に目が覚めてしまいます。まだ体は疲れているのに。年齢以上に物忘れも激しいです。

外見はまだ若く見られます。しかし、その内側は老人の悩みと大差ありません。うつと認知症というのは症状がよく似ていますね。

しかし、薬をやめることはできないでしょう。パキシルはよく分かりませんが、レキソタンは減らすことも難しい状態です。これを減らすと強い不安感に支配され、日常生活に大きな支障が出てしまいます。

それでもジョギングしたり、筋トレしたり、人生にあきらめがつかない自分がいるのだと思います。

病院へ・悲しい歌姫

広島では大変痛ましい惨事が起きてしまいました。こうした自然災害をテレビなどで見る度に、「人って、何のために生まれてくるのかな」と考えてしまう自分がいます。

埼玉は37度の暑い一日でした。そんな中、病院へ行って薬をもらってきました。前回と同じくパキシル30ミリ、レキソタン2ミリ×5の10ミリで様子を見るようです。おそらく次回以降、減薬を試みていく可能性があります。

「ジョギングをしています。そのまま倒れこんで寝てしまうことも多いです」と話したら、先生は「凄いですね。続けてみてください」と言ってくれました。

自宅に戻り、中森明菜さんのCDアルバムを注文しました。CDなんて久しぶりです。体が細く、心も繊細ですが、それでも歌唱力があり、格好いい明菜さん。こんなお姉さんがいたらなあと憧れていました。

これは清原さんにも言えるけど、一流であり、独特な世界観を持ち、かつ多くのファンに愛されているにもかかわらず、生き方が不器用で悲しい女性だなと思います。姉が明菜さんなら、私の心の妹である菅野美穂も神経症気質ですが、明菜さんと違い、持ち前の性格の明るさで、このまま幸せをつかんでくれればと願ってやみません。

明菜さんの話に戻りますが、今の状態もあまりよくはないようです。うつ病なのか、精神的なバランスを崩しているのは確かなようです。もう一度、歌ってほしいのは山々ですが、こればかりは分かりません。本人が一番つらいでしょう。

中学生の頃、友人と明菜さんのレコードを交換していたことを懐かしく思い出します。

一生、治ることはないだろう

今朝は起きるのがつらかった。7時前に布団から脱出したものの、意識は朦朧としてところかまわず、寝転がる。椅子を倒して横になって、スピッツの歌を聞いても目覚めてくれない。かといって、眠れるわけでもない。

徐々に朝食の時間が近づいたので、雨戸をあけ、とりあえずパンを焼いた。食べ終わり、薬を飲もうとしたが、飲んだ記憶がない。ポケットを見たら飲んでいました。

このような状態が7年前から続いています。最もひどかったのは2009年までの3年ぐらいですが、また悪い時期に入ってきたのかなと不安になります。鬱と抗精神薬の副作用は症状がよく似ています。パニック障害になると鬱になる確率は飛躍的に上がりますから。自分がパニック性の鬱なのか、薬の副作用なのかは、はっきりとした確信はありませんが、どちらにしてもうつ状態であることは確かです。

開店時間の午前10時頃にはかなり回復しています。とにかく横になると駄目です。つらくても立っている。そして歩く。これが脳によい刺激を与えるのだと思います。

今年は消費増税の影響もあり、横ばいだった売り上げも落ち込んでいます。このまま続けても、経営が苦しくなる一方なのは、ほぼ確実です。だから店の形態を大きく変えなければなりません。お金はかけられませんけどね。

リニューアルのアイデアはあっても今日のような状態だと、なかなか前向きな気持ちにはなれません。一人で店を変え、一人でその店を経営する。このような状態でそれが実現できるほど現実には甘くはないです。

こうした状態が続くようなら、来週水曜日、予約なしで病院にいかなければならないかもしれません。パニック障害とは一生、あまり喧嘩せずに付き合っていくつもりでしたが、鬱とも、一生の付き合いになるかもしれません。

清原はなぜ転落したか

引退後はおおよそ、私の予想通りの道を清原は辿っています。予想を裏切ってほしかったけれど、やはり彼には無理でした。

弱かったと言ってしまうえばそれまでなのですが、やはり桑田真澄との出会いが大きかったのは間違いありません。清原さんは天理高校に進学するところだったのですが、PLの充実した設備を見て、大きな体の少年は瞳を輝かせました。「PLに入りたい」。高校時代の数々の栄光は得られたが、現在の清原の転落の道も同時に開かれてしまいました。PL時代の清原は飛びぬけたスケールや打撃センスを見せつける反面、バスで甲子園が近づくと必ず神経性の下痢になるほど、繊細な少年でした。

巨人の裏切り、王監督の裏切り、そして何よりも桑田の裏切り。ドラフトから2年後の秋、清原は巨人を倒し、一塁ベース上で涙をこぼしました。これで物語は終焉したかに見えました。しかし、翌年も巨人は存在し、王監督も、桑田も当たり前のように存在していたのです。その気持ちのもやもやが、西武時代後半の成績にも表れていました。

清原さんが今のような道を避けられる最後のチャンスは1996年のオフだったと思われまます。FA宣言した清原に阪神が熱心にラブコールを送りました。それに対し、巨人は獲得に手を上げたものの、誠意のない対応で清原の心は阪神に傾きました。しかし、最終的には長嶋監督の「僕の胸に飛び込んできなさい」の一言で決着は付きました。当時阪神監督だった吉田義男さんの「清原君には幸せな道を選んでほしい」という言葉が忘れられません。

その後は不振、怪我、復活を繰り返した後、堀内監督とうまくいかず、退団となりました。2006年からは仰木監督の誘いでオリックスへ。2008年引退の日には王監督に「来世では同じチームでホームラン競争をしよう」という言葉をもらい、清原は王さんを心から許せた気分になった。試合をスタンドから見ていた桑田のことも。

しかし、引退後、WBCの解説者を務めていた時、ひざの痛みのため解説を休むなど現役時代の傷跡に苦しめられる。王さんのことも、桑田さんのことも何度も許したはずなのに気持ちの中で、あのドラフトがぶり返してくる。

「今の状態ではもう現場には復帰できない」。清原の気持ちが切れた。作家の平野啓一郎氏によれば、分人といって、1人の中に何人も人間がいるという。PL、西武の頃の清原はチームの勝利を何よりも優先する清原が中心にいて、いまは理性のグリップがきかなくなり、自暴自棄の清原が幅をきかしている。残念ながらこれ以上ひどくなることはあっても、もう昔の清原さんに戻ることはないだろう。有り余る才能やスター性を持ちながら、繊細なままで、刺激の強い世界

で生きてきた男の宿命なのかもしれません。

レキソタン減薬

現在、レキソタンを10ミリから8ミリに減らしています。最初の2週間は10ミリに戻したり、試行錯誤しましたが、今は8ミリに落ち着いて1ヶ月以上たちます。

以前にも8ミリの時期があり、そのときの調子がさほど悪くなかったので、なんとなく大丈夫かなというのはありました。

今後ですが6ミリとなると話は別です。7年前に6ミリに減らされたときの調子は最悪でした。不安感、緊張感が強くなり、それに加えて異常な眠気、まあうつのような状態になり、今はだいぶよくなりましたが、完全には戻りません。

飲まないですむのならそれが一番ですが、無理して日常生活に支障が出たら本末転倒なので、これ以上の減薬はなかなか難しいかもしれません。パキシルの効果は実感がないんですが、レキソタンははっきりと症状に出るから、気をつけないといけないと思っています。

メンタルの病気の最大の原因は？

残念な答えかもしれませんが、ずばり言ってしまえば、遺伝でしょう。僕が通院した2つの病院で最初に聞かれたのは「家族などに似たような症状の人はいますか？」という同じ問いでした。

だから、いろいろと情報を集めて、それを実践してもなかなかうまくいかないのは、むしろ当然です。逆に言えば、それで治ったという人は比較的、病状が軽かったのではないのでしょうか。

メンタルの病院は診察して病名をすぐ伝えるところはあまり信頼できません。症状が似通った病気が多いですし、複数の病気が重なっている場合もあるからです。ですから、患者の言葉に耳を傾け、それに合わせた治療を行っていく病院、また医師が信頼できると思われれます。

本当にメンタルな病気で苦しいなら、まずは薬で症状を和らげることが大切です。それに加えて認知行動療法、また出来る範囲で運動したり、食事を工夫したりするのが間違いのないやり方だと思われれます。

基本的に薬は毒ですから飲まないに越したことはありません。しかし、飲まないことによって日常生活に大きな支障が出てしまうのでは本末転倒です。

それだけ遺伝、こういったプログラムで生まれたかが重要だと思います。しかし、それがすべてではないだろうし、そうした自らが選んだ訳ではない環境で、どう生きていくかという事も、自分のような人間には問われるのだと考えています。

病名の告白

今日、自分の病名を他人に話しました。しかも店のお客さんにです。確かによく来てくれる常連の女性のお客さんですが、まさか自分の病気について話すとは思っていませんでした。

それがなぜ話すことになったかと言えば、そのお客さんが若い頃、精神的に苦しんで病院へ行ったという話をしたからです。それにつられて「実は自分も・・・」と話した訳です。

これまでの25年、家族や病院の先生以外には誰にも話しませんでした。勿論、その間にこのお客さんより親しい人はいましたが、とにかく「ばれてはいけない」と隠そう隠そうとしてきました。必ず奇異な目で見られるに違いないからです。

しかし話し相手がメンタルを患っていたと話されると意外なほどにこちらのガードも下がるものなんですね。あっけなく話した自分に驚いています。

朝、薬を抜いた

早速、朝の薬を抜きました。抗不安薬のレキソタンを飲みませんでした。パキシルは夕方の1回だけなので、朝、薬を飲まなかったなんていつ以来か覚えがありません。しかし、それほど勇気はいりませんでした。ポケットにはレキソタンが入っている訳ですからね。

休日などはレキソタンを朝といっても11時ぐらいに飲むこともあるので、昼ぐらいまでは大丈夫かなとは漠然と思っていました。実際、昼ごろまでは何の変化も感じませんでした。

午後2時ごろになっても状態は変わりませんでした。しかし普段、薬を飲むのは午後6時ごろなので「まだ4時間もあるのか」と思うと時計の針の進みが遅くなりました。

昼食も落ち着いて座って食べ、コーヒーも普段どおりマグカップに4, 5杯飲みました。日が傾く頃になると、少しめまいや震えはありましたが、予想よりいい状態で薬を飲む時間が来ました。気になっていた眠気や疲労感も普段よりよかったような気がします。

むしろ薬を飲んでから、少し神経が過敏になったりはしましたが、ほぼ丸一日、薬を飲まずに過ごすことができたのは意外だったし、ほっとしました。

明日以降のことは全くわかりませんが、自分の場合はレキソタンを同じ5ミリなら2ミリ、3ミリに分けるよりも、1回にまとめてしまったほうが合っているのかもしれませんが。分割した時は散々な結果でしたからね。

まあ、先のことは解りませんが、また明日の朝もレキソタンを抜こうと思います。出来ることなら薬は少ないほうがいいですからね。肝臓にも負担がかかるし。ただ、飲まざるを得ない場合もあるから、その辺は柔軟に判断しようと思います。

現実は甘くない

今日も朝のレキソタンを抜きました。しかし、二日目にして早くも壁にぶつかりました。まあ、想定内の苦しさではあったんですが、やはり頭の中で考えているのと、体感したのでは違いますね。

一日中、軽いめまいがあり、足が地に着かない状態でした。離脱するようなイメージがあり、昼食は苦勞しました。自律神経に不具合があったのでしょうか。特に夕方の6時台が辛い状態になりました。6時手前にレキソタンは飲んだのですが、すぐには効いてくれません。不安感、緊張感が高まり、接客も厳しかったです。

昨日の夜はいったん、体全体を包んでいた重しが取れたように体が軽くなり、気分が良かったです。しかし、目がさえているがゆえに、寝つきが悪く、まともな睡眠が取れませんでした。朝はまた重だるい体に戻っていました。

店にいる間、考えが二転三転しました。「もう一日やってみよう」「明日はもう少し早い時間にレキソタンを飲もう」。そしていまは「今夜、寝る前にレキソタンを飲もう」と考えています。

時間がたつにつれて、レキソタンの効力が落ちてしまい、夕方になると切れた感覚があります。ならば、寝る前に飲めば次の日の夕方ぐらいまで、多少はレキソタンの効力が残るかなと淡い期待をしています。

寝る前に飲んで、朝は飲まない。明日はとりあえずこれでいってみようと思います。

断念

結論から言うと無理でした。薬が切れてくると神経が興奮してしまうのです。もうそうなってしまうと日常生活が送れなくなります。

減薬に挑戦してわかったのは自分には一定量以上のレキソタンが必要不可欠だということです。減らせるに越したことはありません。しかし、減薬で何も出来なくなってしまっただけでは本末転倒です。もう一生、止められないかもしれません。それくらい根深いものがあります。

今はいつも通りの夕方のパキシルと朝5ミリ、夕5ミリのレキソタンを飲む生活に戻りました。眠気、だるさはあるものの、神経の興奮がある程度、抑えることができ、レキソタンの力を改めて思い知らされました。これからはレキソタンを利用して行動範囲を広げていく事を目指していくつもりです。

減薬については次回の通院日に今回の失敗を先生に報告して、今後どうすればいいか先生の意見を踏まえ、考えていきたいです。

電車内で座れた

今日は定休日で保険料や住民税をコンビニで支払った後、北川景子の写真集を買いに書店へ行きました。最初は個人経営の店へ行ったのですが、そこには北川景子はいなかったので、電車で一駅して市街地の本屋を3点はしごしたのですが、ここにも写真集はなく、今度は準急で隣町まで足を伸ばしました。

電車内では最近是比较的、落ち着いていてこの日も悪くありませんでした。しかし、準急で5、6分乗車している間も座席に座る気はしませんでした。車内はガラガラなのですが。

結局、駅構内の店も含めて比較的、大きな書店を2軒、回りましたがそこにも北川さんの写真集はありませんでした。

三度、電車に乗りました。この駅ではいつも準急の待ち合わせをするのですが、その間だけは座っていて、いよいよ発車となると立ち上がるのが僕の行動パターンでした。今日も立ち上がろうと思いましたが、まあチャレンジしてみるかと思い、ドアが島って走り出したあとも一番端の席に座り続けました。

不安が強くなるとたいてい前のめりの姿勢になるので、なるべく座席にもたれかかるように座り続けました。発車直後は不安で左腕の時計の上に視線を向けていましたが、次第に顔が上がり、視線に最寄り駅のホームが流れてきました。

結局、北川景子は見つからず、アマゾンで注文しました。

年明けから減薬

今日は店のほうは定休日朝から歯医者へ行ってきました。通い始めてからもう2、3ヶ月たちますかね。何せ歯医者も避けていましたから20数年ぶりです。もともと歯の質が弱かったこともあり、行くたびに歯を抜かれています（泣）まだあと2本ぐらいは抜かないとならないようです。

午後からは電車で病院のパニック外来へ。ここ数週間の様子を思いつきで話したら、先生からは「ずいぶん良くなっていますね」と言われました。

年内に久しぶりに認知行動療法の心理士さんにカウンセリングをするようです。そして年明けからは「そろそろ薬を減らしていきましょうか？」と。

僕は思わず「レキソタンですか？」と聞かずに入られませんでした。やはりこの薬を削られたらどうしようかという思いが強くあります。先生は「いやパキシルの方です。今までの量が上限ぎりぎりなので」と言いました。

少しほっとした反面、パキシルが自分の症状にどのような効果を与えてきたかわからないので、やはり薬を減らすのは不安です。しかし、薬は出来れば少ないほうがいい訳ですから、減らせるものなら減らしたいですね。

正月休みも今日まで

今日で正月休みも終わりです。1, 2日に続き、今日も昼寝してしまいました。あところ2, 3日は久しぶりに家族と将棋を指しました。寝正月+ちょっと将棋といったところでしょうか。

箱根駅伝も見ました。東洋大の柏原君、凄かったですね。僕も東洋OBというか、一応2年間通いましたからね。どうしても応援してしまいます。あまりの母校の選手たちの強さに復路の視聴率がどうかと思いましたが、例年通り、高視聴率だったようです。

3日だけ昼寝をしませんでした。店の自販機がほったらかしになっているのが気になって、様子を見に行きました。

その後、箱根駅伝に触発されたわけではないんですが、店から自転車で一駅ほど離れた、普段利用してない大型古書店に行きました。正直苦しかったです。やや逆風だったのか、息が上がってしまい、それに伴い不安感も高まりました。

本屋にいる時はこれからどうして帰ろうかと思いましたが、少しずつ落ち着いてきてくれたので助かりました。長渕剛の曲で「一番怖いものは勇気だと知った時」という歌詞があるのですが、確かにその通りなんですよ。

今年の新聞の芸能面に目立っていた女優が少し気になります。満島ひかり。僕も顔と名前ぐらいは知っているんですが、演技力が注目されているようですね。上戸彩や綾瀬はるかと同じ年の26歳。僕はじっくり見たことがないので分かりませんが、多くの人が評価しているとすれば、並みの女優ではないのでしょうか。

上戸さんが結婚すれば、これからは人気の綾瀬、実力の満島という時代に入るのかもしれませんが。それにNHKの秘蔵っ子の宮崎あおい。堀北真希や井上真央も力がありますしね。個人的には吉高由里子もいいと思います。「白い春」というドラマで目をつけたんですけどね。個性的というか、小悪魔的というか。

いよいよこのあたりの世代が女優として最も輝くときがきたようです。この年代にはまだまだ名前が挙げきれないほどのいい素材がいますから、誰が抜け出すのか注目していきたいです。

日本は右傾化したか？

朝日新聞の「誰が首相にふさわしいか」のアンケートで1位が石原都知事、2位が橋本大阪市長という結果が出たそうです。いずれも強い指導力という共通点があります。「日本は右傾化した」と感じた人も多いかもしれませんが、僕は必ずしもそうは思いません。

やはり今の非常事態がこのような結果をもたらしたのでしょうか。震災、原発、老後の不安。こうした厳しい状況に囲まれていますから、穏やかな調整型のリーダーよりも、不可能を可能にするような爆発的な力を求めているのでしょうか。

それともうひとつ。今日は祝日ですが、僕らが子供の頃は旗日という言葉が使われていました。その言葉通り、祝日の日は多くの家に日の丸が掲げられました。

僕の家も日の丸が揚がっていました。両親も特に右寄りという思想もなく、他の旗を揚げていた多くの人々も右でも左でもない偏りのない思想だったのではないのでしょうか。

休日という高揚感を胸に自転車で疾走する僕ら少年の目に、風に揺れる多くの日の丸の旗が移った昭和の光景には確かにノスタルジーを感じるころはあります。勿論、僕自身が抱えきれないほどの希望を抱えていたからこそその輝きではあるのですが。「日本に生まれてよかったね」。こんな言葉があちこちに飛び交っていた気がします。

しかし、現在はどうでしょう。僕の家は勿論、どこの家にも日の丸は見当たりません。平成24年のいま、旗を掲げれば、「あのうちは右翼だね」。そう思われてしまうでしょう。自分の生まれた国を誇りたい。しかし、そうした話をすれば「あいつは変わった奴だ」と言われてしまう。そのフラストレーションをネットでぶつけている人も多いようです。

祝日には普通の家が堂々と日の丸を掲げられた30年前。掲げられず、日本に生まれてよかったとも言えなくなり、ネットでうさを晴らしている人が増えた現在。どちらが良かったとは綺麗には言えません。自殺者は増えてしまったけれど、交通事故死や殺人などの凶悪犯罪は減っているわけですから。個人的には今の状態なりのベストを尽くすしかないとは思っていますが。

今日は成人の日。新成人の皆さん、おめでとうございます。僕は皆さんが生まれた頃にはすでにパニック障害でした。当時は何の病気かも分からず、「とにかく大変なことになってしまった。どうして自分だけが」という思いしかありませんでした。

最近では学生時代の親友というか悪友の何気なく発した言葉をよく思い出します。「男は死ななき

やいいんだよ」と彼は言いました。五木寛之さんの「生きるヒント」にも同じような言葉が書いてありました。生きているだけで凄いことなんだ」と。

とんび

NHKドラマ「とんび」を見ました。

瀬戸内海を舞台に父子の深いを描いた物語。凄くよかったです。出来すぎた息子を持つ親父役の堤真一がはまっていました。不器用で頑固だけれど、息子への愛情は半端ではない、昭和の格好いい親父を見事に演じきりました。こうした役は堤さん良く似合いますね。

息子のアキラは昭和37年生まれだから原作者の重松清さんと同年代だと思います。幼くして不運にも母親を失ったアキラを父親だけでなく、周囲の大人たちが温かいまなざしで育てていく姿が印象に残りました。地域のつながりが今よりも深かった昭和という時代を見事に浮かび上がらせたドラマでした。

文藝春秋「同級生」

新聞広告につられて文藝春秋を購入しました。

まず目に付いたのが、表紙の文字。四組の時代を代表する同い年の組み合わせが書いてあります。中曽根康弘・田中角栄、美智子皇后・石原裕次郎、松本清張・太宰治、そして三浦知良・清原和博。僕らの世代のヒーローが日本を代表する正統派の雑誌に認められたという思いもあります。他の3組は20世紀前半の生まれで、カズさん、清原さんを入れて世代のバランスを取ったということもあるかもしれませんが。

期待して内容を見ると松岡修造さんの作文が書いてありました（笑）。ただ松岡さんはカズさんにシンパシーを感じているのは伝わってきました。当時は日本のスポーツといえば野球。その象徴がKKコンビでした。サッカーやテニスは日本においてはマイナースポーツで、カズさんや松岡さんはパイオニアとして海外での武者修行を経験したことも共通していますし。

それにしてもカズさんは20代前半から半ばまでがピークのサッカーの世界でいまだ現役。まもなく45歳ですからスゴイの一言です。それに比べると清原さんは目的を失っているようで明暗が分かれていますね。

「あなたと同い年の有名人年表」というのがありますが、少々不満があります。まず1962年。谷川浩司がいません。これは谷川ファンとしては納得がいきませんね。1974年の欄には辛酸なめ子まではいっているのに。でも意外と世の中、谷川さんより辛酸なめ子さんの方が知名度が上なのかもしれません。将棋界もいま斜陽ですからね。

それと1965年の欄に中森明菜がいません。これもおかしい。それと1961年生まれのトシちゃんこと田原俊彦の文字も見つからない（笑）。僕個人の私見ですけど、日本の男性スーパーアイドルを4人挙げるなら、沢田研二、郷ひろみ、田原俊彦、そして木村拓哉だと思うんです。

あと客観的に見てもおかしいと思うのは1988年生まれのところにガッキーこと新垣結衣の名前がないことです。榮倉奈々、黒木メイサ、佐々木希、戸田恵梨香、堀北真希は含まれているのに。文藝春秋はガッキーを知らないのかな。

1989年にはIMALUや穂のか。2世に甘いのは政治家だけではないようです。

僕の年は小粒感が否めません。竹野内豊にさらにビッグになってほしいです。

1972, 3年は充実していますね。72年がスマップの木村拓哉、中井正広。貴乃花、高橋尚子、ホリエモン。73年はイチローと宮沢、松嶋、篠原の3女優。

その後の世代になると1977年の安室、菅野美穂、松たか子、氷川きよし。85年の白鵬、山ケンイチ、上戸彩、綾瀬はるか、宮崎あおい。このあたりが豊作といえます。特に85年はいま充実の時を迎えているのではないのでしょうか。

もう駄目かもしれない

もう駄目みたいです。臨床心理士さんと自転車に乗るときはゆっくり運転する事で改善を試みましたが、うまくいきません。最初の2, 3日はまずまずでしたが、今日などはもう全然駄目です。自転車に関しては4, 5年こうした状態が続いています。

昔は病院に通わず、薬を飲まなくても、曲がりなりにも外で働けたのに今は薬を飲み、比較的自分のペースが許される自営業でこの状態です。もう見込みはなさそうです。

上戸彩の転機

爆笑問題がラジオ番組でプロ野球の選手名鑑にお約束の好きな女性タレントの話をしていました。太田さんが「意外だな。何で北川景子が1位なの」と言っていました。太田さんの北川景子が意外と言う意味は分かります。北川さんはクールビューティーと言うイメージで健康的な独身のプロ野球選手が数多く挙げるタイプではなかったんですよね、昔は。

2位が去年1位だった上戸彩。北川さんが1位になったひとつの要因は上戸さんのアイドル人気に陰りが見えてきているのかもしれませんが。10代のアイドルに負けるならともかく、同世代の北川さんにトップを譲ったところがポイントですね。25歳ぐらいを境にして大人の女性が求められるんでしょうね。女性人気は同世代では綾瀬さんが高いですし、北川さんも上戸さんより高いでしょう。頼みの男性人気で陰りが見えるというのは上戸さんが同世代のトップランナーでなくなりつつあるということかもしれません。

倒れこむように帰宅

病院へ行ってきました。雪が降っていましたが、いつものように自転車を利用しました。雨ではなく雪だったので傘は差さず帽子をかぶっただけでした。ただ思ったよりも雪が水を多く含んでいました。

それでも病院に着き、名前を呼ばれ、主治医の先生の診察を受けた後、心理療法士の先生とこの2週間の状態を整理し、今後やるべきことを考えました。

病院を出て薬をもらい、自宅に向かいました。この辺までは一定の不安感はあるものの、それほどいつもと変わらないように感じていました。しかし、途中から自転車に乗っていると過呼吸気味になり、苦しくなっていました。歩いたら少し楽になったのでまた自転車で乗る。その繰り返しでした。

ところが、そのうち歩いていても辛くなりました。苦しいし、めまいも多少ありました。そうになると、精神的にも追い込まれてしまい、心身ともにボロボロになりました。そして倒れこむように帰宅。

今もまだ疲れが取れません。それでも軽い筋力トレーニングをやってしまう自分は本当に不器用だと思います。電子書籍の「パニックの息子」はできれば希望の持てるようなエンディングにしたいと考えているのですが、全く希望が見当たりません。すべてが真実である必要はありませんが、全くないものを希望はあるとは書けません。何とか、少しでもそういったものを見出したのですが。

大震災から1年

あれから1年が過ぎました。当日の読売新聞に大新聞社にしては珍しく、なかなかのことを書いていました。「絆という言葉を使うには相当の覚悟と図太い神経がいる。瓦礫の受け入れもせずに何が絆か」といった内容でした。

翌12日の大竹まことのラジオのリスナーのメールに「昨日、脱原発デモに参加しました。周りの人はみんな優しく、警察の人も敬語でした。でも中には君たちも電気を使っているんだろという心無いおじさんもいて、凄く残念です」というのがありました。こういう「自分は清く正しい事をしているのに」みたいな人がいるんですね。

TBSの「荒川強啓デイキャッチ」では地元の方が「せめて今日だけは静かにしてほしい」と話していたそうです。デモをするのは自由だと思います。しかし3月11日という日は最も心さわしくなかったと個人的には思います。この日はまず1年前に亡くなられた方への哀悼というのが最も大事ではなかったのでしょうか。

パキシルは効いているのか？

病院へ行ってきましたが、帰りの自転車はきつかったです。強風だったのも影響したかもしれませんが。疲れが取れず夕方は寝ていました。ふと疑問に思ったのですが、果たしてパキシルは効いているのかが気になります。飲み始めて1年以上たちますし、一度、主治医にも相談した方がいいかもしれません。

ということで、今日はまだ電子書籍には手をつけていません。「パニックの息子」「詩集」に続いて「清原論」を書き始めたのですが、これはなかなか大変なものに手を出してしまったなと感じています。

「カナタニ・ソラノ」詩集に20ダウンロードありました。有難うございます。もう在庫はあまりないですが、もう少しは増やしたいです。

少しAKBを理解できた

これまで、何故、これほどまでに、AKB48が人気があるのかを理解できないでいました。しかし少し分かった気がします。

夕方のTBSラジオでアイドルに詳しい方が前田敦子の卒業について語っていました。

「モーニング娘は後藤さんと安倍さんのツートップだったけど、AKBは明らかに前田さんのワントップだったんですよ。僕も前田さんの魅力を理解するには時間が掛かったんですけど、彼女は人間的に大きな欠落があるんです。社会性がないんですね。その彼女が苦手な集団行動の中で成長していく。彼女の足りない部分をみんなで支える。それがAKBなんです」

おおよそ、このような発言でした。ああ、なるほどと思いましたね。この発言をさらに付け加えれば、「こうしたAKBを支えなければ」とファンが強烈に後押ししたのではないのでしょうか。この物語に魅力があったんですね。

僕は前田さんのような不器用とか、少しばかり社会性が欠けていたとしても、ひたむきに努力するの方が、何でもやすやすとこなす人よりも好きですね。僕も不器用で社会性が欠けているもので（笑）

消費税は上げるべきではない

民主党が消費増税に向けて、また一歩大きく踏み出したようです。僕は反対ですね。

ひとつには選挙公約で、「少なくとも次の選挙までの4年間は上げない」と言っていたわけです。ただでさえ、子供手当もいつの間になくしてしまうなど、マニフェストをさかさまにひっくり返してしまってますからね。これで消費増税となれば、もう民主党は厳しいでしょう。

もうひとつの理由はやはりデフレ不況ですね。ここを抜け出さない限り、上げるべきではないと思います。

ただ、早くも10パーセント後の更なる消費増税の話もでています。消費税でまかなおうとすれば、天文学的な数字まで上げなければいけません。

かといって、法人税も上げるべきでもないです。企業の海外流出がさらに進んでしまいますからね。そこで、累進課税制度にもう一度、光を当てるべきではないでしょうか。勿論、「金持ちから取ればいい」という思想が強すぎても、そうした方のモチベーションが落ちてしまうでしょうけれども、少しパーセンテージを上げるしかないような気がします。1%の人が、日本全体の資産の20%を保有するところまで、格差社会は広がっています。少し格差を縮めるためにも、累進課税の見直しは必要だと思います。

認知行動療法

久しぶりにパニック障害についてのご報告を。

現在、パニック障害専門治療を受けているのですが、今日で臨床心理士による認知行動療法が一応終了しました。心理士さんにこの治療をはじめて2年経過したことを知らされ、少し驚きました。まだ1年数ヶ月ぐらいの感覚でした。

自分自身、認知行動療法の成果は定かではないのですが、心理士さんが「スキルとして身につけているものだからゼロになることはありません」との事なので、また明日から自分なりに無理せず、前向きに取り組めたらいいと思います。

ではまた。

倦怠感

最近、倦怠感がやや強く、なかなかブログの更新も、電子書籍の方もままなりません。電子書籍は現在、2つの作品に手をつけているのですが、ここ数日間、一行も進みません。

倦怠感の原因は根本的にはパニック障害だと思いますが、薬の影響もあるでしょうし、また物事に対して、意欲、関心が薄くなっているような気がします。少しうつ状態かもしれません。仕事から帰って、風呂に入って夕食を済ませているうちに、いつの間にか今の時間になっています。

トレーニングは何とか続けています。最近は腹筋に力を入れています。体型が中年になってきているのを自覚しているので（笑）物忘れも激しいし、体や脳の衰えはパニック障害を抱えてきたことにより、普通の人より早いような気がします。ならば余計に生活をスピードアップしたいのですが、ブレーキが掛かってしまっています。

沢尻エリカがTBSドラマ「悪女について」で復帰しましたね。やっぱり彼女には女優が似合っていると思います。綾瀬はるかと対極の存在でやっていけばいいんじゃないでしょうか。

ダルビッシュがようやく真価を発揮し始めました。彼の實力なら20勝も可能な数字だと思います。日ハム稲葉が2000本安打達成。ヤクルト宮本があと1本。小久保ももう少し。同世代がどんどん金字塔を打ち立てていきます。でも今の子供の憧れは野球選手ではなく、サッカー選手なんですよ。

もうすぐ新茶シーズン。僕の店も注文しました。まあ、日本全体が放射能恐怖症に陥っていますから、なかなか厳しいかもしれませんが。

お久しぶり

お久しぶりです。

今日は体がだるく、午前中は横になったりしていましたが、心理士さんとの約束、というより自分で言い出した「町の中を歩いてくる」を実践してきました。

それにしても今日に限って日が強かったです。埼玉の夏が始まった感じです。疲れはしましたが、2時間ほど歩いたり、買い物をしたりしながら帰ってきました。抗ストレス作用があるのでビタミンCの飴を買ってきました。

電子書籍は「肉体を盗んだ魂」を無料に設定しました。最近、電子書籍も止まってしまっているので、何とか少しでも進めたいです。

さらば松井秀喜

ついにこの日が来てしまった。松井秀喜が引退した。残念と同時に彼らしい終わり方だなと思う。松井には長嶋や清原のように派手なセレモニーは似合わない。これでいい。

強くなければ生きられない。優しくなければ生きる価値がない。それを体現している男だった。謙虚で努力家。人格者だった。バッターボックスに立った時の研ぎ澄まされた空気。それだけで芸術だった。

日米合算507本塁打。その第1号は1993年5月のゴールデンウィークだったと思う。あのものすごい弾丸ライナー。今でも鮮烈な印象が残る。「末恐ろしい男」。清原ファンの自分にとって、いつか取って代わられる日が来るという予感がした。その清原と松井のホームラン数を足すと1032本塁打。彼らが描いたアーチは常にチームの勝利に直結し、少年ファンから大人まで夢を与え続けた。

右の清原、左の松井。清原の引退から4年、松井が静かにバットを置いた。怪物たちの時代が終わった。

激闘！箱根駅伝

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

箱根駅伝、見終わりました。いいレースでした。「山の神」こと柏原君の活躍もあり、東洋大学が早稲田を抑えて往路優勝を果たしました。しかし早稲田との差は30秒以内ですから明日は全く分かりませんね。

個人的にはやはり東洋大学を応援してしまいます。一時は通っていた大学ですから。卒業は出来なかったですけど。辛い思い出が多いけれどもう遠い昔の話です。少数派でしょうが、総合優勝めざし頑張れ東洋大学！何だかんだで箱根駅伝は見てしまいますね。ともかく若い選手たちのエキスを自分に注入したいです（笑）

いつもは店で流している爆笑問題の日曜サンデーをパソコンで聴きながらブログを書いています。パソコンでラジオ。凄い時代になりましたね。

酷似する清原と貴乃花の軌跡

箱根駅伝、まれに見る激戦でしたね。東洋大学も頑張ったけれど、早稲田がそれ以上だったので仕方ありません。いいレースでした。

昨日の「情熱大陸」で貴乃花親方に密着していました。力士たちに厳しく指導している姿が印象的でした。まるで猛稽古で有名だった彼の伯父や父親が乗り移っているようです。何とか若い貴乃花親方に相撲界を立て直してほしいですね。

貴乃花親方と歩んできた道のりや生き様が重なる人物がいます。元プロ野球選手の清原和博です。互いに10代から天才と騒がれ、今では考えられないような期待をかけられたのです。清原は王貞治を超える男。貴乃花は大鵬を超える男としての期待。清原は王の持つ868本というホームラン記録。貴乃花は大鵬の持つ32回の優勝回数。もう破られないだろうと思われたこれらの記録を破る可能性を持つ男が現れた。野球界、相撲界は興奮に包まれたのです。

事実、清原は200号までは王のペースを上回っていましたし、貴乃花も22、3才までは記録更新が大いに期待されました。しかし、競技人生の後半、彼らは失速したのです。その大きな原因が膝の故障というところまで共通しています。

結局、清原は525本塁打、貴乃花は優勝22回という記録を残し引退しました。共に歴代5位という立派な数字です。しかし、あの若き日の多くのファンが抱いてしまった期待感に応えられたかといえば「期待はずれだった」という人が多いのではないのでしょうか。そのため彼らは「稀代のスラッガー」「平成の大横綱」との動かぬ評価は受けていますが、あれだけの素質を持ちながら残念という声も多くあるのも事実だと思います。それは僕にもあります。

しかし、未だに2人とも膝の後遺症に苦しんでいることから貴乃花の言葉を借りれば不惜身命の想いでそれぞれが野球、相撲にすべてをかけてきたことは間違いありません。こうした壮絶な執念が彼らが多くの人々の記憶に深く刻み込まれた大きな理由だと思います。

もうひとつ大きな共通点があります。彼らには相方がいました。KK、若貴。時代を築いたコンビでした。昨日の放送を見る限り貴乃花親方は兄の花田勝氏と今も絶縁状態にあるようです。かたや清原さんは著書「男道」で「桑田とは互いに傷付け合うことがあったけれど、何があっても桑田は僕にとってかけがえのない終生の友である」と記しています。

世間の期待と裏切り、怪我との闘い、人間関係、栄光と挫折。人生は難しく、そして深い。二人の天才が教えてくれているような気がします。

今日は疲れた、タイガーマスク、「LADY」

今日は堪えました。抗不安薬を少し減らしているためだと思いますが、店番をしている時は神経が過敏になり緊張感が高くてきつかったのですが、何とかこなしました。ひどい時は口も回らなくなってしまうのですが、まだ今のところそれは大丈夫です。

店が終わってもまだ帰りの自転車があります。ただでさえ自転車に乗ると不安感があってやっとの思いで自宅にたどり着くのですが、今日は寒さもあり何度か止まりかけました。明日からはTシャツを1枚、重ね着をして対応しようと思います。

家に帰っても疲れは取れませんでした。 「伊達直人」と名乗る方が児童相談所にランドセルを寄贈したニュースの続報を聞き、嬉しくなりました。1人がやっていることなのか、複数なのか分かりませんが、こういう方たちが存在するというのは事実なんですよ。まだまだ世の中捨てたものじゃないなと思いました。

TBSで始まった新ドラマ「LADY」観ました。北川景子は頑張っていますね。ダイゴが悲しい殺人鬼を熱演していました。

北川さんはこれから演技がどんどん進歩する予感がします。彼女自身が「自分の長所は情熱」とブログに記していましたが、それが一番大切だと思います。これからは楽しみな女優ですね。

やっぱり疲れているみたいです。今日はこの辺にしておきます（笑）

沢尻エリカはどこへ行くのか？

昨日、フジテレビにチャンネルを合わせたら、偶然沢尻エリカが街を歩きながらインタビューを受けていました。突撃取材を装っている雰囲気だったけれど、お約束なんでしょう。番組サイドがインタビューしたいのは分かりきっていますが、沢尻さんも話しておきたいことがあったのだらうと思います。僕にとっても沢尻さんは気になる存在のようで2007年あたりに沢尻さんについて何度かこのブログにも書きました。

個人的には夫とよりを戻した戻さないは興味がないです。彼女の言葉で印象に残ったのは「芝居がしたい」。この気持ちは嘘でないと僕は思いたい。

インタビュアーが番組名を伝えると、沢尻さんは「宮根さんのでしょ。知ってますよ」と答えた。彼女は無関心を装いながらも実は自分がどのように報道されているのか、また日本の芸能界の状況について興味があるのだらう。

松下奈緒が「ゲゲゲの女房」でブレイクし、紅白の司会を務め、新ドラマの初回で高視聴率を記録したことも勿論、知っているのだと思います。沢尻さんと松下さんはかつて「タイヨウのうた」というドラマで競演していたと記憶しています。それほど熱心に見ていた訳ではないですが、女優としての才能は沢尻さんがはるかに上に見えました。ぼんやり見えてもそう思うのだから沢尻さんの眼からは松下さんは大根役者に見えていたと推測します。

しかし数年後、状況は一変したのです。演技力とはかく松下さんは国民的女優の地位をうかがう勢いです。プライドの高い沢尻さんは鼻で笑っているでしょう。しかし自分自身は復帰のメドすら立たない。立場は完全に逆転したのです。それどころかもう決着がついたという見方もあるでしょう。

沢尻さんは若手女優の中では演技力は評価が高いと思われます。映画「パッチギ」の井筒監督は「お前ら沢尻を見習え」と沢尻さんより年上の俳優たちを集め、しかりつけたそうです。井筒さんは沢尻さんの才能にほれ込んでいたのですが、こうした行為が沢尻さんを助長させてしまったのは想像に硬くありません。「自分は女優という特別な存在。その中でも特別なんだ」。沢尻さんがそんな気持ちになっても不思議ではないです。

彼女はハーフでもあり、自己主張が強く、日本の風土や社会には馴染まないかもしれません。しかし、芸能界は性格や素行よりも芸を持っているほうが価値があるというのが僕の考えです。しかし、今のままでいいとも思いません。

彼女は自分がなまじっか演技をこなせるが故に自分より凄い役者を見たことがないのではない

でしょうか。本当はすでに出会っているのですが、彼女自身が気づいていないような気がします。一度、大竹しのぶや菅野美穂と競演してほしい。彼女たちは天才だと思います。沢尻さんも衝撃を受けるかもしれない。そして彼女たちがスタッフに対してどう接しているのか、芝居にどういう情熱を傾けているのかを間近で見れば沢尻エリカは変われると思います。

芥川賞&就職難

昨日、芥川賞・直木賞の発表がありました。注目度が高いのはやはり芥川賞でしょうね。受賞したのは2人で「きことわ」の朝吹真理子さんと「苦役列車」の西村賢太さん。この2人何もかも対照的です。家柄から生い立ち、ここまでたどり着くまでの道のり。表面的に見てしまうと朝吹さんは順風満帆、西村さんは紆余曲折といったところでしょうか。

朝吹さんについて少し。若くて美人、華麗なる一族とも言えるいえる家柄。正直「またか」とも思いましたが、どうやら文章力が図抜けているという評価が多いようです。天は彼女に一体何物与えたのでしょうか。間違いなく文壇のスター候補でしょう。

先ほど、NHKのニュースで彼女がインタビューを受けていたのですが、絵に描いたようなお嬢様的な話し方ですね。趣味は将棋観戦とのこと。いつの日か将棋小説を書いてほしいです。男性棋士の心情を描くのは難しいかもしれないので女流棋士を描くのもいいかもしれません。

最近の芥川賞は若い女性で美人の方が多いですね。綿矢りさ、金原ひとみの20歳のダブル受賞はインパクトがありましたし、川上未映子さんも話題になりました。皆さん、それなりに活動しているんでしょうが、もうひとつ伸び悩んでいる印象があります。僕は綿矢さんの「蹴りたい背中」ぐらいしか読んでませんが。将来的には宮部みゆき、恩田陸、角田光代クラスになってもらいたいです。まあ、芥川賞は純文学ですからなかなか今のミステリー全盛の時代に難しい所もありますけどね。

最近の話題になった女性受賞者の中では朝吹さんほど文章力がダントツという評価を受けた人はいないので、ぜひとも期待したいところです。

大学生の就職難について。まだ就職内定率が70パーセントに満たないようです。何十社も受けて全部落とされると聞くと狭き門のようにも映りますが、実は中小企業には沢山席が空いているようです。やはり大企業志向が強いんですね。

ここまで順風満帆にきた学生が多いでしょうから、ここでレールから外れたくない気持ちがあるんでしょう。しかし、そのこだわりがかえって深みにはまってしまう可能性があるような気がしますけどね。今なら会社を選ばなければ就職は出来ると思います。しかし、時がたってしまうと今度は就職したくても出来ない状況に陥りかねません。「どうしてもこの会社でなければ駄目」という強い気持ちがないのなら中小に目を向けたほうが得策のような気がしますけどね。

パニック発作

発作が起きてしまいました。ショックです。今はとりあえず症状は治まりつつあります。少し気持ちが落ち着いたらまた書こうと思います。

勝ち組・負け組が存在しなかった時代

土曜1時からのTBSラジオ「久米宏ラジオなんですけど」の昨日のテーマは「あなたは勝ち組、それとも負け組?」。リスナーから様々なメールがよせられました。

「私は専業主婦です。10年前までは勝ち組だと思っていたんですが、今は家族4人とも無職」とか「子供が障害を持っていますが、他のお母さんが経験できないことが出来たし自分は勝ち組だと思う」などなど。

僕がなるほどなと思ったのは中学の同窓会に行ける人は勝ち組。行けない人が負け組」という意見です。いまにして思えば自分も中学の同窓会には最初の2度ほど参加していました。当然、パニック障害になる前ですね。

中学が同じクラスで高校も一緒だった好きな女子生徒に誘われていたのがありますけど。それはおいといてこの頃の僕は勝ってはいないにしても負けているという感覚もなかったと思います。まあ、この時代はまだ勝ち組、負け組という言葉すらありませんでしたが。

同窓会から25年近くたって覚えているのは憧れの女子生徒でも仲の良かった友人との会話でもなく、不良だった女子生徒に「大人っぽくなったね」と言われた事でした。僕はたぶん、「そんなことないよ」的な言葉を発していたと思うけれど、本音は嬉しかった。いまにして思えば、僕が細身にひ弱く見える自分にコンプレックスを持っていたことに気づいていたのかもしれない。

昔は確かに心根の優しい不良というものが存在していたように思います。タレントでいえば、三原順子、中森明菜など。飯島愛ぐらいまでだろうか。長いスカート引きずってた昭和の不良少女の系譜は。

近況ですが、状態は相変わらずです。パニック発作が起きたその夜は胃の不快感もあり眠れませんでした。予約を入れていた眼科はキャンセルしようと思いましたが、気が変わり行ってきました。

何とか自転車で病院までは行きましたが、待合室で椅子に座っている間に調子が悪くなりました。何せ昨日の今日でしたから。トイレで薬を飲もうとしたら、ちょうど名前が呼ばれました。何度も呼ぶので薬は飲まず、診察室に入りました。

コンタクトレンズを作るために実際にレンズをはめて検査をしました。入念に検査しているうちに帰って少し不安感は和らいでいました。

少し落ち着いた状態で病院を出て自転車で店に向かいました。距離にして2キロくらいでしょうか。最初の方はまずまずと思っていたのですが、後半になるにつれて神経が過敏になりました。それでも何とか自転車から降りることなく店に到着できました。

今日も根本的に調子が変わりません。明日、コンタクトが届くそうですが行くつもりはありません。店が休みの日に取りに行くつもりです。店より自宅からの方が病院に近いからです。水曜日には専門外来もあるので大変ですけど・・・

いまのこんな自分の姿を見たらかつての不良少女はなんと声をかけるのだろう。言葉もないだろうけど。

菅野美穂は菩薩なのか？

表紙の菅野美穂に釣られてAERAを買ってきました。

「表紙の人」というコーナーの冒頭、「かわいくて笑い上戸。CMやグラビアそのままの澆漓さは、インタビューした記者の間で語り草になっているほどだ」と記されています。

おそらく多くの記者たちはイメージのいいタレントをインタビューしていく中で「テレビの印象と違う」というのが当たり前という認識を持っているのでしょう。それはある意味で当然なんだと思います。やはりテレビカメラがあるときは笑顔を振りまいていても、それがなければ無防備になる。発する言葉だけに気を使えばいいわけですから。

しかし菅野美穂は違うのでしょうか。テレビのバラエティ番組などで見るそのままの笑顔、気さくな人柄、他人に対する気遣い。それがテレビカメラのないところでも全く変わらないところに記者たちは驚くのだと思います。

ひょっとしたら菅野さんはこうした雑誌の取材にまで徹底して菅野美穂を演じているのだろうか。僕はそうは思いません。そんな事をしていたら神経的に持たないでしょう。あくまで自然体なのだと思います。

ならば彼女は心に全く毒を持たない菩薩のような存在なのでしょうか。そうも思いません。今から10年以上前に出版された「定本・菅野美穂」という本を読めば分かります。かなり毒舌です（笑）。ここ数年の菅野さんを見て好きになった人たちは嫌いになってしまうかもしれないかなり過激な内容です。決してお勧めできる内容ではありません。しかし個人的にはそれらの文章を読んで、より人間・菅野美穂への愛着が深まったような気がします。

彼女の人としての芯の部分は「フェアでありたい」ということだと思います。自分の毒の部分を認めつつ、折り合いながら持ち前の謙虚さ、他者への思いやりを決して失わない。そして女優としての情熱。そうしたものが直接インタビューする人たちの心を打つのでしょうか。

確かに菅野さんは女優としての才能に恵まれたと思います。頭もいい。しかしそれだけでは僕もこれだけ長い間、彼女を応援してこなかった。善と悪を心に抱えた上でそれと誠実に向き合い、一生懸命、前向きに生きている。それがひしひしと伝わってくるからこそ応援したくなるのだと思います。

松本隆特集

今日午前十時からの文化放送「久保純子のライオンミュージックサタデー」のテーマは作詞家松本隆ベスト5。僕が尊敬する作詞家です。

第5位はCCBの「ロマンチックが止まらない」

第4位はキンキキッズの「硝子の少年」。堂本剛君は僕と同じパニック障害の疑いがあるようです。いい方向に向かってほしいです。

第3位は寺尾聡で「ルビーの指輪」

ここまで来ると大体、僕の中でベスト2は浮かびました。後はどちらが1位になるか。

2位は太田裕美の「木綿のハンカチーフ」。筒美京平さんとのゴールデンコンビ。名曲です。

となると1位はやはり松田聖子「赤いスイトピー」。作曲はユーミン。この歌詞で一番印象に残るのは2番の「4月の雨に降られて駅のベンチで二人 ほかに人影もなくて不意に気まずくなる 何故あなたが時計をチラッと見るたび泣きそうな気分になるの」。という歌詞です。はっきりと情景が浮かびますね。非常に繊細な言葉です。松本さん、素晴らしい。松田聖子をここまでビッグネームにした立役者ですね。

ちなみ「赤いスイトピー」のB面（今では死語でしょうか？）は「制服」。もちろん、松本さん作詞の名曲です。赤いスイトピーとともにこれからの時期に聴きたくなります。

眠い・スピッツ「若葉」

抗不安薬の量が上限まで増えたせいか眠いです。仕事から帰ってきてからは起きているのが精一杯の日々が続いています。

最近気に入っている曲の1つがスピッツの「若葉」なのですが、これを聴いているとますます眠気が増してきます。それだけ心地よいメロディーで、詩も素晴らしいです。草野さんのセンスは凄いですね。

やはり桑田佳祐は素晴らしい

何気なくミュージックステーションにチャンネルを合わせたら桑田佳祐が出演していました。最近の音楽にはなかなかついていけなくなりましたが、桑田さんの姿を見るだけで嬉しくなり、チャンネルをとめました。

桑田さんは最後に登場。「銀河の星屑」「月光の聖者達」のスペシャルメドレーでした。「銀河の星屑」はラジオで何度も聴いていますが、いろいろな意味で桑田さんらしい曲ですね。

「月光の聖者達」はCMかなんかで耳にしたことはありましたが、初めてフルで聴きました。ひとこと言えば素晴らしいバラードです。サザンでの曲を含めても5本の指に入るのではないのでしょうか。特に「今がどんなにやるせなくても明日は今日より素晴らしい」と今の桑田さんが訴えるように歌うと本当に心に響きます。

もうすぐ55歳。60歳になっても、70歳になっても桑田佳祐はきっと歌っている。そうでなければいけないと思います。彼は日本の宝だから。

久米宏の正体

今日の午後1時からラジオで「久米宏 ラジオなんですけど」を聞きました。先週に引き続き、今日も大震災関連の特別編成で放送していました。

「いまでも2時46分が近づくと心臓がドキドキする」という言葉が印象的でした。とはいえ、普段の明るく、歯切れのいい久米節も健在でした。

2時からのゲストは池上彰さん。久米さんが、「番組（降板）のことで大変な時期に来てもらえるとは思いませんでした」と言うと池上さんは「この世界から消える前に1度、（久米さんに）会って見たかったです」との事。さらに池上さんは「去年の3バブルはマツコ、戦場カメラマン、池上彰（笑）」と話し、暗に自分の人気は長く続かないことを予知しているようでした。

久米さんは池上さんが解説していた「週間子供ニュースだけは見ておけ」と番組スタッフに話していたそうです。そのことは池上さんも知っていて、「自分たちのセットが2週間後にニュースステーションに出てきました。出来はNステのが豪華でしたけど」と話していました。

番組は滞りなく終わりました。驚いたのは帰宅後です。インターネットのニュースに「久米宏が2億円寄付」とありました。もちろん、東日本大地震に対してです。2億円という額にも驚きましたし、久米さんが全くそのことについてラジオで触れもしなかったからなおさらです。おそらく「久米さん凄い」的なメールやファクスは多数届いていたはずですが、そういったものはすべてシャットアウトしたのでしょう。

「ザ・ベストテン」「ニュースステーション」。久米さんが司会者として天才だということは昔から分かっていたのですが、人間的にはどこかつかみにくい面もありました。しかしその正体は今日、はっきりしました。ナルシスト。同じく多額の寄付をしたイチローにも言える事ですが内面的なナルシストですね。人としての誇りが高く、彼一流の美学があるのでしょうか。久米さんは現在の仕事は実質的に、このラジオ1本だけだと思います。いかに久米さんとはいえ、このご時勢、ラジオでのギャラはタカが知れています。年収もそれほどではないはずですが、その上での2億円の意味は大きいですね。

その反面、関東から避難する人々で名古屋や大阪、福岡のホテルはにぎわっているそうです。久米さんとは真逆の人々です。色々な生き方、生き様があるものです。

大震災を利用して消費税アップを目論む大新聞社

本日の読売新聞朝刊に東京大学の教授が消費税アップすべきという意見が掲載されています。

一部引用します。「今回の震災をきっかけに、苦しい選択ではあるが、社会を立て直すための思い切った消費税アップに踏み出すしかない。」

またこんなことも述べています。「悲しみと困難を克服すべく行動することが唯一、亡くなった方々に報いることだと私は思っている。」

これらの文章は「この地震を利用して消費税をアップしろ」と叫んでいるようにしか僕には聞こえません。本来、消費税アップは高齢化により福祉に費やす国家予算が増大しているため、それを補うためのひとつの方法なのだと思います。それをこのタイミングでというのはいくらなんでも暴論です。

僕もいずれ消費税率を上げなければならないとは思っています。しかし現在の状況では上げるべきではないと考えています。

90年代中ごろには1世帯あたり平均700万近い収入がありました。それが今では500万円台前半です。1億総中流の時代は終わり、下流に転落した世帯が数多くあるのです。このタイミングで消費税を上げるのは国民の消費意欲を奪ってしまいます。

政府はまず国会議員の削減など自分たちの身を削ることで国民に理解を訴え、その上で景気がある程度回復した時にはじめて消費増税するか議論すべきだと思います。ましてや大震災により経済活動がしばらくの間、低迷するのは目に見えているにもかかわらず、このタイミングで東大教授を利用し、消費増税論を唱える読売の姿勢は理解に苦しみます。早くナベツネという怪物老人の影響力をなくさなければ、この大新聞社は近い将来、ネット社会の荒波の中で国民に見捨てられることになるでしょう。

金八高視聴率、スピッツの草野さん倒れる

昨日放送された3年B組金八先生ファイナルが平均視聴率19.7%を記録しました。4時間超の長時間の放送での高視聴率は金八人気の根強さを改めて認識させられます。

僕は八時過ぎから見たのですが、加藤優役の直江喜一さんが味のある演技をしていました。弱気になる老いた坂本金八を「俺の知ってる金八先生は何があっても生徒を見捨てないんだ」と柔和な表情で語りつつ、激励するシーンは良かったです。

最後の体育館での金八の卒業式は演技ではなかったようにも見えました。金八も多くの生徒たちも演技ということをおぼえているようで楽しさが伝わってきました。

願わくばここから巣立ち、スーパーアイドルへと駆け上がった代表格の田原俊彦、上戸彩にも出演してほしいですけど、トシちゃんは大人の事情、上戸さんは役柄上難しかったのでしょう。回想シーンでは沖田浩之さんの顔も見れ、懐かしかったです。

スピッツのボーカル、草野マサムネさんが大震災や原発事故などによるストレスで倒れてしまいました。3週間ほどの療養が必要なようです。あれほど繊細な詞を書ける人はなかなかいないと思います。しかしその繊細さが今回の件では悪いほうに作用してしまったようです。

避難所などで生活している方々も年齢も体力も性格もそれぞれ違いますから、一人ひとり苦しみは違うかと思われれます。そろそろ気力だけではカバーしきれない時期に来ているのではないのでしょうか。明日あたりから少し暖かくなるのがわずかな救いではあるかもしれませんが。

カズのゴール、太田光の発言

サッカーのチャリティーマッチ、日本代表対Jリーグ選抜は2対1で日本代表がJリーグ選抜を下しました。しかし、この試合のハイライトは後半37分、闘莉王のパスから途中出場の三浦和良がゴールを決めた場面だと思います。全盛期のスピードやスタミナはなくても、ここ一番での集中力、技術ははまだ健在であることを示しました。そしてカズダンス。大舞台での勝負強さはさすがスーパースターですね。改めてスポーツの力を再認識させられました。

そこで紆余曲折の末、セ・パ同時開幕に決まったプロ野球なのですが、爆笑問題の太田光が日曜のラジオで意外とも取れる発言をしていました。「個人的にはナベツネは好きではないけれど、この件に関してはあの人の気持ちが理解できるような気がする。あの人は戦後の復興からずっと見てきている訳だし、野球の力を信じたかったんじゃないかな」。大体、こんな趣旨でした。

僕は意見は違いますが、なるほどそういう考え方もあるんだなとも思いました。太田さんの意見が正しいかはともかく、彼の想像力はやはり独特なものがありますね。テレビと比べれば影響力の低いラジオとはいえ、この状況下で好きでもないナベツネさんを擁護してみせる太田光の度胸は凄いです。誰もいえないことを言う。賛否両論あるとはいえ、これこそ太田さんの真骨頂でしょう。

ただ、やはりナベツネさん、および巨人上層部の考えには無理がありました。まず東京ドームで使う電力量。6000世帯分あるといわれています。おのおのの会社や家庭が節電に協力している中で、眩しいほどのカクテル光線を放つことは社会に逆行しています。それにかつては全国に2000万、あるいは3000万存在するいわれた巨人ファンも大幅に減少しました。東北の方ももともとは巨人ファンが多い土地柄でしょうが、最近は楽天が仙台を本拠地に行っていることもあり、そちらに関心が移っているのが現実でしょう。

そうした事を踏まえて、娯楽が多様化した今、終戦当時のように野球が被災者の方にどこまで勇気を与えられるかは疑問です。国民の多数の反対を押し切ってまでセリーグが早期開幕することを避けたのは良かったと思います。しかし、今日のチャリティーマッチや高校野球で心を躍らせている人々が多くいることも間違いありません。プロ野球、特にセリーグは深い傷を負いましたが、選手たちの全力のプレーを一つ一つ積み重ねていけば「野球も捨てたもんじゃないな」という声もあちらこちらで聞かれるようになるのではないのでしょうか。

タレントパワーランキング、菅野が女王、綾瀬が2位

日経エンタテインメント5月号を買いました。特集はタレントパワーランキング。タレントパワーとは認知度と関心度を掛け合わせた値だそうです。ジャンルは問わず注目度の高いと思われる1278組を調査しています。回答者は10代から60代まで幅広く、4400人という大人数です。かなり大規模な調査ですね。

そして結果ですが、1位・福山雅治、2位・嵐、3位・サザンオールスターズ、4位・菅野美穂、5位・イチローがベスト5。1位の福山さんは3年連続ということで完全に福山時代ですね。この中で女性はただ一人、菅野さんのみです。菅野さんが女性有名人としてトップになりました。個人的にはファンとして喜ぶべきなのか、ついに頂上まで祭り上げられてしまったのか、複雑ですね。しかし、30代前半は女優に限れば下り坂の人が多く、31人中21人がランクを下げていることを見れば菅野さんの上昇は驚異的かもしれません。

こうした調査ではいつの時代も常に菅野さんの上に誰かがいました。彼女が10代の頃は広末涼子。20代の頃は松嶋菜々子。最近では仲間由紀恵。菅野さんは昔から人気女優ではありましたが、女優としてベストテンには入るかなという程度だったと思います。ちなみに去年は女優部門で5位。これが本来の定位置でしょう。それがここに来ての意外なまでの人気上昇。菅野さんもこの結果を知ったら戸惑うのではないのでしょうか。彼女は決して国民的女優とか女王とかいう称号は似合わないような気がするんです。

いったん、菅野さんの話は中断して、女優ランキングのベストテンを見てみると1位菅野さん、2位綾瀬はるか、3位上戸彩、4位柴咲コウ、5位仲間由紀恵、6位天海祐希、7位、黒木メイサ、8位松嶋菜々子、9位宮崎あおい、10位新垣結衣となります。急上昇しているのが去年23位の黒木メイサ。そして個人的に意外だったのはガッキーこと新垣結衣です。新垣さんは僕のイメージの中ではAKBに押されて人気は下降しているのではないかと感じていたのですが、根強いんですね。同世代で同じアイドル女優の長澤まさみが30位にも入っていないことを考えれば大健闘だと思います。

新垣さんはこれまた意外なんです、年上の男性に人気があります。30代では女性で菅野さんに次ぐ2位。40代では菅野さんを抑えてトップです。男性はやはりガッキーみたいな清純派が好きな人が多いんですかね。

話を戻しますが個人的には菅野さんのこの人気は長くは続かず、瞬間的なものだと思っています。では誰が長期政権を築くのかといえば僕は今回2位の綾瀬はるかだと思います。菅野さんは女優やタレントとして天才的なものを持っていると思いますが、やはり芸能人としてやや線が細いと感じます。本人も昔、「私は芸能界に向いていないのかもしれない」と語っていました。それ

に対し綾瀬さんには安心感、安定感があります。天才肌というより大器ですね。春の陽だまりのような女優だと感じます。

僕が菅野さんの評価でうれしかったのは演技力に対する高い評価です。調査対象70人の女優の中で菅野さんは3位でした。しかも1位は芦田愛菜ちゃん、2位は志田未来ちゃんですから子供なのに、少女なのだという前置きがあるのです。大人の女優としては菅野さんが実質1位の評価を受けました。ついで松雪泰子、松たか子、中谷美紀と続きます。やはりいくら人気者になっても女優としてはここが認められるのが最も嬉しいのではないのでしょうか。

田中好子さん死去

昨夜、ショッキングなニュースが耳に入りました。女優の田中好子さんが亡くなったという信じ難いものでした。しかし今日になり、やはり本当なんだなと思わざるを得ません。55歳。早すぎます。残念です。

僕が初めて田中さんを知ったのはキャンディーズのスーちゃんとしてです。キャンディーズは僕が最初に認識したアイドルだったと思います。僕が物心がついた時にはすでにキャンディーズは人気絶頂でした。

幼い僕には山口百恵は文学的過ぎたので、どうしてもピンクレディーやキャンディーズに目がいったのです。ただ、僕の評価はピンクレディーはアイドルではあったけれど、いまだ言うアーティスト的な側面があったように感じていました。キャンディーズは非実力派のアイドルとして捉えていました。

しかし、それは全くの間違いで、彼女たちは真のプロフェッショナルであったことを後に知りました。「普通の女の子に戻りたい」という言葉も、もっと穏やかに放たれた言葉だと思っていたのですが、実は絶叫、彼女たちの心からの叫びでした。

僕の記憶にはランちゃんが常にセンターで、スーちゃんとミキちゃん両脇を固めるという図式しかありません。でも、もともとはスーちゃんが真ん中だったことも後になって知りました。ランちゃんに主役を奪われた後、キャンディーズがブレイクしたというのはスーちゃんもさぞ複雑だったでしょう。

しかし、その後の女優業では田中好子は伊藤蘭を上回っていたように思いました。しかし、そうした勝ち負けなどはどうでもいいことです。二人にライバル意識があったことは想像に硬くありません。しかし、ミキさんを加えた3人は友達を超えた戦友だったのだと思います。

子供だった僕ですらショックですから、リアルタイムの50代前後の男性で肩を落としている人は多いと思います。そうした方たちのためにもスーちゃんは長生きしなければいけない存在だったのね。ご冥福をお祈りします。

パニック障害は治らない？

「パニック障害を克服しよう」というサイトで「パニック障害は完治するのか？」というテーマを見つけました。なかなか興味深い文章でした。

その冒頭からいきなり結論が記されていました。そのまま引用します。

「パニック障害に完治はありません」。自らパニック障害と苦闘したという筆者がこう断言しています。

続けて、割れた茶碗に例えて、元通りにはならないことを説いています。色々な方がいますから一概には言えませんが、個人的には凄く共感できる考え方です。

パニック障害を発症して22年。1日たりとも完治するなどと思ったことはありません。色々な媒体で「パニック障害は完治する」などといった言葉が踊っていると希望を持つどころか「自分だけがおかしいのか」と逆に落ち込んでいました。僕がパニック障害に関する本を出版した理由のひとつはそうした考え方に対して、自分のような人間もいるという事を伝えたかったからです。

勿論、このブログの管理人の文章には救いも書かれています。「完治」という言葉を使うのがおかしいだけで、症状が出ない状態、普通に生活できる状態に戻すことは可能であると強調されています。

薬のみの治療にはある程度、症状を抑えることは出来ても、なかなかパニック障害そのものを改善することは難しいと考えていたので、このサイトを参考にしながら徐々に生活に取り入れていければと思っています。

自殺大国日本

TBSラジオ「久米宏、ラジオなんですけど」の冒頭12分間は久米さんのフリートークなのですが、今日の主なテーマは「自殺」でした。

久米さんの頭の片隅に若い女性タレントの自殺があったかは分かりません。彼女の話題には全く触れず、自殺する人がいかに多いかをリスナーに伝えていました。98年以降、日本の自殺者は13年連続で3万人を突破しています。久米さんによると自殺者の裏には10倍以上の未遂者がいるそうです。自殺率では世界6位。日本は自殺大国になってしまいました。

要因としては高齢化による病気が最も割合が高いそうです。国の幸福度を測る調査もあったそうですが、日本は生活水準が高い割りに、非常に低い順位にとどまっているのに対し、国も貧しく、寿命も短いブータンが上位に入っています。

個人的にはこれまでの日本の価値観を変える時期が来たような気がします。「生活は便利なほうがいい。平均寿命が長いのはいいことだ」といった現在の価値観。勿論、便利なものを開発することは経済、文明の進歩にとって大切なことだし、ガンなどの難病の撲滅を目指す歩みを止めてはならないでしょう。

しかしその一方で、国民全員が上に記したようなことを目指す事はないと思います。一人ひとりに選択肢があってもいいのではないのでしょうか。決して自殺を肯定するわけではないですが、もっと色々な生き方が合ってもいいと思うのです。日本人は真面目で画一的なところがあり、それが戦後の奇跡的な経済復興のエネルギーにもなりましたが、今はそれが悪い方向に出始めているようです。もっと色々な生き方があってもいい。数多くの選択肢があってもいい。硬く縮こまってしまっているこの国をほぐしていく事が、自殺者を減らす道ではないのでしょうか。

早朝に目が覚めてしまう

このところ、毎日、午前4時から6時の間に目が覚めてしまいます。目が覚めた後はまた寝ようとするのですが、寝ているのか寝ていないのか自分でも分からないぐらいです。寝つきは悪くはないんですけどね。

寝る時間が午前1時ごろなので、3～4時間で目が覚めてしまいます。夏の寝苦しい時期にはよくあることですが、自覚したのはおそらく2ヶ月ぐらい前だから暑さとは関係ないと思います。

病院の先生には、このところ自転車などの不安感の話が多く、また自分自身も早朝に目が覚めてしまうことをそれほど気にしていなかったため、まだ話してはいません。

しかし、この2週間ほどはかなり気になり始めています。もしかしたら早朝覚醒なのだろうか？ だとしたらその原因は何なのだろうか。うつ病なのか、薬など他の原因からなのか、まだ自分では判断がつかない状態です。1週間後、病院の予約が入っているので、話してみようと考えています。

店の方は相変わらず国産たばこの品薄状態が続く中、昨日は新たな仕入先から、脂肪を取り除くハーブティーと緑茶の石鹼が送られてきました。代金と引き換えだったので、その場で3万円以上払いました。そして今日は仕入れ、明日は家賃とお金が飛ぶように逃げていきます(^_^;)。新商品が売れてくれればいいんですが。

こんな時に解散はあり得ない

近々、野党から内閣不信任案が提出される気配です。おそらく否決されるとは思われますが、小沢系議員を中心とした50人は不信任案に賛成するという話もあり、まだまだ予断を許しません。

世論は大きく分けて2つの意見だと思われます。1つは「こんな非常時に総理を変えている場合ではない」。もう1つは「このような非常時だからこそ、まっとうな指導者に変えなければならない」というものです。僕は後者の意見です。

菅さんの権力への執着が凄いことはよく分かりました。それは置いておきましょう。しかし一時、政府は児童生徒の年間被爆許容量を20ミリシーベルトと設定しました。あのチェルノブイリの旧ソ連でさえ、5ミリシーベルトだったことを考えれば、あまりにも子供たちの健康を軽視した基準ではないでしょうか。彼らの10年後、15年後の健康状態など今の政府には全く眼中にないのでしょうか。

もう1つ、菅さんは「お盆ぐらいまでにはすべての人を仮設住宅に移すつもり」と発言しました。全力を尽くして、そのくらいの時間がかかるというなら、それは仕方がないと思います。ただ、それまで体育館などで避難生活を送る人の体力や精神力は持ちこたえることは出来るのでしょうか？

そして僕が懸念しているのは0157などによる感染が広がるのではないかということです。これから夏本番を迎えます。衛生環境は良くないだろうし、高齢者も多いことなどから考えれば、可能性は低くはないでしょう。本来ならば、政府がそれを察知して先回りし、防止策を示さなければならぬはずですが、それを今の菅政権にもとめるのは無理なようです。

もし不信任案が否決されれば野党は切り札を失い、民主党内で賛成に回った議員も離党せざるを得ないでしょうから、しばらく菅政権が続きそうです。それはそれで好ましいとは思えません。しかし、難しいのは可決された場合です。菅さん周辺からは「間違いなく解散に打って出る」という声しか聞こえてきません。いくら首相の権限とはいえ、こんな時に本当に選挙をするつもりなのでしょうか。常識的には考えられない話ですが、菅さんなら本当に解散するかもしれません。そう考えると内閣不信任案の提出というのめかなりの賭けになりますね。

理想の美しい瞳 1位は黒木メイサ、2位綾瀬、3位菅野、北川

「瞳の美白」推進委員会のアンケート調査によると、理想の美しい瞳を持つ女性有名人の1位に黒木メイサ、2位に綾瀬はるか、同率の3位に菅野美穂、北川景子となったようです。

瞳の美白なんてはじめて聞きました。1位の黒木さんは沖縄出身特有の美しい瞳とってしまえばそれまでですが、強い眼差しが独特のオーラをかもし出している気がします。

2位の綾瀬さんはこうしたランキングではすっかり常連ですね。瞳に関して言えば、癒される優しそうなイメージです。

3位の北川さん。この人もビジュアルに関する調査では常に上位ですね。彼女は全体的な顔立ちが整っていますし、瞳に関して言えば、クールなイメージがあります。

そして同率3位の菅野さん。黒目がちな瞳ですね。菅野さんも優しそうな瞳という印象を持つ人が多いようです。しかし菅野ファンの僕としては、それに加えて菅野さんの目の演技に何度も幻惑、また魅了されてきました。嬉しそうな目、哀しい目。怒り狂った目、愛情に飢えたような目。瞳は女優・菅野美穂の最大の武器の1つだと思います。

それにしても菅野さんはこうしたランキングで健闘していますね。菅野さん以外の3人より、ほぼ10歳ほど年齢的に上になるわけですから。こうしたビジュアルに関するアンケートになると、どうしても若い女性が優位ですからね。数年前だったら間違いなく仲間由紀恵もランクインしていたはずです。そう考えていくと、30代半ばにさしかかろうとしている菅野さんが上位に入ることは奇跡的にも思えます。今回の調査対象も20歳から34歳までの男女なので、ほとんど菅野さんより年下ですからね。

この種のランキングに菅野さんの名前が挙がるのはもうそれほど長くはないでしょう。それは仕方ない。女性は男性よりもはるかに若さが武器になり、加齢がハンディになりますから。それでも1日でも長く、同性からも異性からも支持され続けてほしいというのがファンとしての願いです。

自殺者急増

5月の自殺者数が前年同月比で17.9%の大幅増になりました。2010年の自殺者数が3万1000人台ですから、年率換算すると3万5000人を大幅に超え、4万人に迫るペースです。

東北の被災地では福島が大幅増、宮城は去年と同数、岩手は減ったそうです。やはり原発の影響とは無関係ではなさそうです。急増したのは大都市圏で東京、埼玉、神奈川、愛知は20%から30%増加しています。

それにしても、ここにきての自殺者の急増は何を意味しているのでしょうか？1998年以来、日本の自殺者数は13年連続で3万人を超えています。まず今年も確実な状況です。自殺未遂した人は自殺者の10倍はいるといわれ、男女比では圧倒的に男性が多いです。原因は病気が最も多く、年齢的には40代から60代が多いようです。

ここから改善策を挙げれば、まず自殺が男性の方が圧倒的に多いということに目をつけなければなりません。生物学的に女性より弱いのも確かにそうでしょうが、やはり社会的なプレッシャーが大きいのは確かです。「男は稼がなければならない。家族を養わなければならない。弱音を吐いてはならない」など社会的に暗黙の了解があるのです。独身女性が家にいても「家事手伝い」という言葉を使えますが、これが男性なら「ニート、無職」となります。

それに加えて男性の方が地域から孤立しやすいこと挙げられます。男らしさに縛られ相談するにも勇気が要ります。これらの男女の垣根、というよりゆがみを解消していくことも重要だと思います。

そして、ここにきての自殺者の急増については、やはり大震災、そして原発の影響が大きいと思われる。「頑張ろうニッポン」はいいけれど、そういう気分でない人も沢山いるでしょう。会社の経営が苦しくなれば、社員の立場も危うくなるだろうし、自営業者も苦しんでいます。僕の店も例外ではありません。静岡茶を扱っているので、風評被害は当然あると考えています。まあ、去年もそれほど売っていた訳ではないのですが。

国としても、人としてもいまの日本は出口の見えない閉塞感に覆われています。将来はもっと悪くなるに違いない。そう考える人が20年前に比べて圧倒的に増えたのは間違いありません。政府にはそろそろ本腰を入れて自殺者対策に乗り出してほしいものです。キーワードは「転換」ではないでしょうか。

久しぶりにドラマ

最近のブログで体を徹底的にいじめるなんて記してしまいましたが、そんな簡単なことではありませんでした。仕事が終わって、自宅に帰ってから少なくとも1時間は動けないことが多いです。何とかスロートレーニングだけは1日1セットのペースで続けています。

1時間ほど前、ドラマ「グッドライフ」を見ていました。ここ何回かは続けて視聴しています。反町隆史もすっかり父親役が板につきましたね。息子役の「わっくん」はちょっと出来すぎかなとは思いますが、かわいいですね。そして母親役の井川遥は綺麗だけれど、少し疲れた雰囲気も醸し出していて、なかなかの好演だと思います。いい女優になりましたね。

それにしてもこのドラマは重い。数字が悪いのもうなずけます。息子の病気が治ったと思ったら、今度は父親が。それでも悪いドラマではないです。今日の反町さんの無愛想で職人肌の父親とのエピソードを絡めたのも味わい深かったです。

今期のドラマで初回から見ているのはTBSドラマ「生まれる。」です。主演は堀北真希ですが、実質的には母親役の田中美佐子とのダブル主演ですね。高齢出産をテーマにしているなかなか興味深いです。漠然とは知っていましたが、やはり母親が高齢になればなるほど、リスクが高くなることをリアルに描いています。制作側としては家族の支えがあれば高齢出産も乗り越えられると訴えたかったのかもしれませんが、今の段階で感じるのはやはり出産年齢は若いに越したことはないと考えさせられてしまいますね。

もうひとつTBSドラマの「仁」。見たり見なかったりですが、手術シーンはリアルですね。そういえば、こないだ「仁」の原作である漫画本を買い取ったのですが、これがなかなか面白いんです。まだ5巻の途中を読んでいるので、テレビよりかなり遅れていますが、テレビとはまた違ったよさがあります。

最近のブログで体を徹底的にいじめるなんて記してしまいましたが、そんな簡単なことではありませんでした。仕事が終わって、自宅に帰ってから少なくとも1時間は動けないことが多いです。何とかスロートレーニングだけは1日1セットのペースで続けています。

1時間ほど前、ドラマ「グッドライフ」を見ていました。ここ何回かは続けて視聴しています。反町隆史もすっかり父親役が板につきましたね。息子役の「わっくん」はちょっと出来すぎかなとは思いますが、かわいいですね。そして母親役の井川遥は綺麗だけれど、少し疲れた雰囲気も醸し出していて、なかなかの好演だと思います。いい女優になりましたね。

それにしてもこのドラマは重い。数字が悪いのもうなずけます。息子の病気が治ったと思ったら、今度は父親が。それでも悪いドラマではないです。今日の反町さんの無愛想で職人肌の父親とのエピソードを絡めたのも味わい深かったです。

今期のドラマで初回から見ているのはTBSドラマ「生まれる。」です。主演は堀北真希ですが、実質的には母親役の田中美佐子とのダブル主演ですね。高齢出産をテーマにしているなかなか興味深いです。漠然とは知っていましたが、やはり母親が高齢になればなるほど、リスクが高くなることをリアルに描いています。制作側としては家族の支えがあれば高齢出産も乗り越えられると訴えたかったのかもしれませんが、今の段階で感じるのはやはり出産年齢は若いに越したことはないと考えさせられてしまいますね。

もうひとつTBSドラマの「仁」。見たり見なかったりですが、手術シーンはリアルですね。そういえば、こないだ「仁」の原作である漫画本を買い取ったのですが、これがなかなか面白いんです。まだ5巻の途中を読んでいるので、テレビよりかなり遅れていますが、テレビとはまた違ったよさがあります。

砂糖断ち

高視聴率で幕を閉じた「仁」をはじめ、ドラマについてブログに記したいと思っていたのですが、どうもここ数日、普段以上に眠気、だるさが強い日が続き、更新する気力が出ませんでした。

今日も眠気、倦怠感が強かったです。意欲もなく、頭も体も思うように動きません。当然、不安感の強さは相変わらずですから、内面的にはかなり苦しい状況です。もういい加減、何とかしなくてははいけない。

これまでもいろいろなことを試みました。サプリメント、コーヒー断ち、自己流の行動療法、運動療法。そして今も飲み続けている抗鬱薬、抗不安薬。自己流の試みはほとんど効果がなく、病院から処方される薬も病気を治すことはできないと思います。

そこでひとつやってみたい事があります。それが砂糖断ちです。しかしそれは同時にやりたくない事でもあるのです。僕は子供の頃から甘い物好きで、それは今も続いています。最近は少し、減らそうとする弱々しい意思があり、コーヒーはここ数日、無糖のものを飲んでいますが。しかしそれ以外は自分の意志の弱さから流されてしまうのです。

ただ明日からは何とか徹底して実行したいと思います。正直、もう万策尽きてこのくらいしか頭に浮かびません。砂糖は糖尿病など体だけでなく、精神にも害を与えるという説はかなりあるようなのです。やってみる価値はあるかもしれません。あとは実行できるかどうかです。

自殺者急増の要因は上原美優？

にわかに信じがたい分析です。しかし清水内閣府参与が内閣府の自殺対策会議で5月の自殺者急増の原因について「人気女性タレントの自殺とそれに関する報道が考えられる」と指摘しました。

根拠は今年初めからの自殺者数は1日平均82人だったが、上原美優さんの自殺が報じられた5月13日からの1週間は1日平均124人に増えた。そして増加分の半数以上が20代、30代が占め、女性の伸び率が高かったという事だそうです。

アイドルの自殺というと僕の世代で真っ先に思いつくのは岡田有希子さんの自殺です。当時、彼女は18歳で人気の絶頂にいました。しかし突然、ビルの屋上から飛び降り亡くなりました。彼女の後を追って自殺する人が続出して社会問題にもなりました。

しかし、今回のように自殺者が前年比で2割も増加してしまうような事はなかったはずです。アイドル、タレントとしてのポジションもポスト松田聖子を期待された岡田さんと必死に芸能界にしがみついている上原さんでは全く違います。人気面だけで見れば熱狂的なファンの数は岡田さんは上原さんの比ではありませんでした。

勿論、清水氏の分析が正しければという仮定での話ではありますが、ならば何故、上原さんの自殺がこれだけ大きな影響を与えたのか？メディアの報道には問題があります。特に大新聞、民放テレビ。しかし、これはいまに始まったことではありません。その他に社会や人の心の変質があるのではないのでしょうか。家族、地域の絆がますます希薄になっているうえに、うつなど精神を患っている人が圧倒的に増えたため、何かのきっかけで死を選んでしまう事はありえるかもしれません。それだけ生死の境目が薄まってきていて、生きている実感が薄い人が増えているのはどうやら間違いないようです。

お知らせ

突然ではありますが、ブログを休止したいと思っています。こここのところの倦怠感、意欲や好奇心のようなものが低下しているからかもしれません。

退会はしないつもりです。また書きたくなったら書くつもりです。自分の意欲が戻るまで休みたいです。これまで読んでいただいた方々、有難うございました。感謝しています。とりあえずさようなら。

お久しぶり

皆さん、お久しぶりです。もう自分のブログなんて忘れられているだろうなあと思っていたのですが、一ヶ月以上、更新がないにもかかわらず、多くの方に見ていただいていたようで嬉しくもあり、申し訳なくもあります。本当に有難うございます。

ブログを休んでいる間、世の中にもいろいろなことがありました。嬉しいニュースもあれば、残念な知らせもありました。そのひとつが元プロ野球選手の伊良部秀輝さんの自殺です。

先ほど、TBSの「バースデイ」という番組で伊良部投手の野球人生を取り上げていました。豪快で粗暴なイメージがある反面、繊細だった伊良部さん。本当に野球が大好きだったんだなあと改めて感じました。かつてのライバルだった清原さんにもインタビューしていたのですが、憔悴しきったような様子から搾り出したような言葉でした。その中でも印象に残ったのは「自分とどこか似ていると思っていた」と語っていたことです。豪快でマスコミの印象も悪いけれど、実は繊細で生き方が不器用なところを指しているのでしょうか。NHKでは高校球児たちが強い日差しの中で泥まみれになりながら戦っています。澆刺とした球児たちの姿とかつてはその場にいた彼らとのコントラストがあまりにも鮮明で、時の流れの残酷さを感じずにはいられませんでした。それと同時に男って本当に弱く儂い生き物だとも思いました。自分は言うまでもないですけど。

僕の近況ですが、今日の午前中は店を開けました。明日もその予定です。15日からは通常通りの時間に戻す予定です。本来は13, 14日は休む予定だったのですが、朝の状態が数日前から少し良くなったような感触があったので、午前中だけ店を開けることにしたんです。

その反面、昨夜の帰りの自転車は状態が悪かったです。強い不安感、神経過敏がひどく、道を横切るたびに何か飛び出してくるのではないかと体が極端に身構えてしまいます。恐怖感に支配された僕は息が大きく上がり、かといって力を抜く余裕もなく大変でした。

7月からできるだけ砂糖を控えるようにしています。昨日のような状態の悪かった日はこんなことをやっても無駄だと思い、つい菓子パンなどを口にしてしまうこともあります。出来る限り続けていこうと思っています。

全国的に大変な猛暑ですね。皆さん、体をご自愛下さい。

近況

お久しぶりです。すっかり月1ブログになってしまい申し訳ないです。

埼玉は今日も真夏日でしたが、夕方になると半袖では肌寒いくらいの風が吹いていました。帰りの自転車が辛い日が続き、帰宅してから1時間ぐらい横にならないと起き上がれないような状態が続いていましたが、今日は比較的、恐怖感が少なかったためか、帰宅後すぐ軽い筋力トレーニングが出来ました。いつもの無駄な休憩がなかったためかブログを更新する気になったのかもしれませんが。

5日ほど前に病院へ行ったのですが、ここ3回ほどは今の調子というより、自分の状態を紙に書き、それを見ながら先生と会話をしています。大雑把に言えば、閉所に閉じ込められて逃げられない感覚は理解できるようですが、景色が開けた場所や電車が高い所を通過する時に調子が悪くなるのが、珍しい症状のようで先生も困惑しているようです。また発症からの期間が長くなってしまったため、治療が難しいとの事です。しかし、ここ3回ほどのやり取りを通じて、おおよそのまとまりがついたようで、次回あたりに療法士を紹介できるかもしれないと言っていました。

薬以外の努力としては甘いものを極力控えるようにしています。意志が弱くなかなか上手くいきませんが、コーヒーやヨーグルトには砂糖を入れないようにしています。

秋ドラマは菅野美穂が出演するようなので楽しみです。まだまだ先の話ですが・・・

芸能やスポーツ、社会、店の状況についても書きたいのですが、次の機会にします。

今日は比較的・イチロー、松井

今日は比較的、調子は良かったように思います。店での緊張感、不安感も普段ほどではなかったし、眠気やだるさで横になることもありませんでした。ただ、帰りの自転車は普段と変わらず呼吸は恐怖感から大きく乱れていました。

イチローも松井もシーズンを終わりました。松井も不振だったけれど、何とんでもイチローの異変が気になります。マスコミは200本に届かなかったことばかりを伝えていますが、深刻なのは打率です。272だったかな。やや内野安打が少なかったこともあります。やはり動体視力が衰えてきた可能性が高い気がします。他にも中日の和田、巨人の小笠原、阪神の金本などのベテランの低打率は同じ理由かもしれません。まだまだ頑張ってもらいたいですね、イチローには。勿論、松井もですが。何とか時の流れに逆らって欲しいです。

蜜の味

「蜜の味」見ました。菅野さんは1年前の「ギルティー」とは違う怖さを表現していると思います。ギルティーでは復讐に取り付かれた悲しさの混じった怖さ、蜜の味では自分の男を奪われる恐怖感からにじみ出ている怖さといったところでしょうか。菅野美穂の演技には主人公の性格は勿論、現在の立場、育った環境すら染み付いているかのような立体感、そして凄みがありますね。

榮倉さんは彩と叔父である雅人が結婚する直前に「雅兄ちゃんがずっと好きだった」と涙をこぼしながら雅人に訴えかけるシーンがけなげで良かったです。

A R A T Aさんはあまり見たことのない役者さんのためか、新鮮ですね。医者としてはそれほど優秀ではないけれど、包容力や優しさがあるがゆえに2人の女性を狂わせてしまう罪な男にしっかりきます。

最後の教会での結婚式のシーン。ウエディングドレス姿の彩は美しかったです。確か菅野さんをご両親がクリスチャンで、子供の頃、よく教会に通っていたと雑誌か何かで語っていた記憶があります。早く本物のウエディングドレス姿の菅野さんを見てみたいな。それはご両親や弟さんらご家族は勿論、本当に彼女の幸せを願っている人ならきっと願っているのではないのでしょうか。

田原俊彦の真実

今日は着替えもせずにテレビをつけて、TBSにチャンネルを合わせました。映し出される田原俊彦のいわゆる「ビッグ発言」の映像。その真実を知れてよかったです。マスコミや巨大な圧力に17年間も干され続けながらも、言い訳ひとつしなかったトシちゃん。どんな苦境でも明るさを失わなかった彼の精神力に感服します。

こんな映像を流してくれたTBSの英断、そして爆笑問題の太田さん、田中さんに感謝します。

昔は歌が？だった田原さんも彼なりに上達しました。持ち前の運動神経とストイックな鍛錬が融合されたダンスは50歳を迎えたいまでも一流だと思います。そして何よりも田原さんには華があります。この国自体が日に日に沈んでいくような気がします。いまこそスーパースター、いやビッグスター田原俊彦が必要なのではないでしょうか。

日本も、トシちゃんも、そして自分ももうひと踏ん張りしないと。

理解に苦しむ清武会見

巨人の清武英利球団代表が文部科学省で会見し、巨人の渡辺恒雄球団会長が球団人事に不当に介入したとする内部告発の声明を発表しました。

当初、清武氏が文科省で会見予定という一報をラジオで耳にした時は、巨人、もしくは球界に何か大きな動きがあるのかと思いました。結果はなんということはない内輪もめ。球団内部の権力闘争に文科省で会見はないですよ。球団事務所ですべきです。

要は清武氏はヘッドコーチに岡崎氏を起用することを決めていたが、クライマックスシリーズでの惨敗に激怒したナベツネさんはそれを認めず江川氏を押ししてきたということです。清武氏は涙まで見せ、「皆さん僕に味方してくれますよね」と同情を買っているようにしか見えませんでした。

結論から言うと江川さんにはヘッドコーチは務まりません。能力の問題ではなく、プライドが人一倍高いからです。江川さんにとって原監督は弟分。現役時代はよく食事などを一緒にしていたそうです。そしてある席で、年俸の話原さんが冗談めかして、「僕のが江川さんより上になりましたね」といったとたん、江川さんは血相を変え、「お前あたりが生意気なことを言っているんじゃない」と血相を変えて激怒したそうです。その原さんが自分の上司になるなんて江川さんには考えられないでしょう。

2週間ぶりに

病院へ行ってきました。今日は3時からの予約で普段よりすいていました。かなり待たされた後、名前を呼ばれ、診察室へ入りました。先生の隣には臨床心理士さんも同席しています。

いつものように「どうでしたか？」と聞かれたので、僕は店では比較的良い状態だったこと、自転車が1、2日ほどスムーズに乗れたものの、ほとんどの日は相変わらずの状態だということ、そして床屋では発作の恐怖感があったことを話しました。

先生はその話にはあまり触れず、「レキソタンの量は今のままで大丈夫ですか？」と尋ねられたので「大丈夫だと思います」と答えました。おそらく今の自分にとってはレキソタンが命綱と考えています。それと先生は認知行動療法に踏み切った理由を「常に発作のことで頭がいっぱいではないようだから」と話してくれました。

その後は別館に移って心理療法士の先生と話しました。まずアンケート用紙を渡しました。先生は「有難うございます」といって受け取りました。「不安の値、それによってその場を避けてしまう確率が高い」との事でした。

それから前回の続き、大学中退から現在に至るまでを話していきました。先生は「ずいぶん辛い思いをしてきましたね」と言ってくれました。有り難い言葉です。パニック障害発症から23年近く。辛さを理解したうえでこうした言葉をかけてくれたのは、今の主治医の先生と心理療法士の先生の2人だけです。それで病気が良くなるわけではないけれど、誰も分かってくれない孤独感を少し和らげていただけたと感謝しています。

次回はもう一度、これまでの道のりを整理して次に目標設定に移るそうです。臨床心理士さんいわく「先生と患者というスタンスではなく、今後どうして行けばいいのかを考えていく」ということが認知行動療法の基本だそうです。そしてやはりそれには限界があり、そこで出されたアイデアを僕自身が実践していくことが重要なようです。

菅野ドラマベストテン

gooランキングで菅野美穂主演ドラマで好きな作品ベストテンのアンケート結果がありましたが、ちょっとというか、だいぶ僕のランキングとは違いますね。

- 1位 働きマン 1612票
- 2位 ギルティ 悪魔と契約した女 1532票
- 3位 キイナ～不可能犯罪捜査官～1466票
- 4位 イグアナの娘 1314票
- 5位 曲げられない女 1058票
- 6位 大奥 987票
- 7位 愛し君へ 568票
- 8位 愛をください 529票
- 9位 2001年のおとこ運 350票
- 10位 わたしたちの教科書 119票

こういった結果でした。ではこのベストテンの中から僕の好きな順に並び替えてみます。

- 1位 イグアナの娘
- 2位 愛し君へ
- 3位 ギルティ 悪魔と契約した女
- 4位 愛をください
- 5位 曲げられない女

6位 大奥

7位 キイナ～不可能犯罪捜査官～

8位 働きマン

9位 2001年の男運

10位 わたしたちの教科書

まあざっとこんなところですね。細かいところは明日になったら変わってるくらいの差です。

「働きマン」は僕の評価では下位グループです。意外なのは「あいのうた」が入っていないんですね。僕の中では上位です。

それと主演ではないけれど「恋の奇跡」の悪女役は凄かったし、「幸福の王子」は痛々しさが印象に残ります。「アルジャーノンに花束を」の教師役も良かったです。暫定ですが、「蜜の味」もなかなかいいと思いますね。「坂の上の雲」も明治の女性になりきっていて素晴らしいです。

それにしても長い間、菅野さんは僕らファンを楽しませてくれたんだなあと今更ながら思います。今度はプライベートでいい報告を心から待っています。

家政婦のミタ、驚異の40%。蜜の味は？

「蜜の味」、見ました。最終回も取り留めのない話だった気がします。慌しく終わってしまったというか。

一応、ダブル主演となっているのかもしれませんが、実質的には榮倉さんが主演でした。本当にダブル主演なら実績、経験が上の菅野さんがトップクレジットになるはずですから。時間帯、内容から見ると菅野主演で勝負したほうが良かったと思いますね。

A R A T Aさんはいい役者ですね。ああいう優しい感じの人の方がヒール役もこなせて幅広い演技が出来るような気がします。

「家政婦のミタ」がなんと視聴率40%。驚きの数字をたたき出しました。主演の松嶋菜々子の力は勿論、僕は見えていないから詳しいことは分かりませんが、脚本が視聴者をひきつけたことは間違いないでしょう。脚本を書いた遊川さんは職人肌の人ですからね。これから遊川×松嶋はゴールデンコンビとなりそうです。

秋ドラマは全体的に数字が良かったように思いますが、ミタの数字が凄すぎて、完全に他のドラマは数字的には霞んでしまいました。

松嶋さんが主演から遠ざかっている間、篠原涼子、仲間由紀恵がそのポジションに近づきましたが、やはり視聴率の女王は松嶋さんなのだと言えない数字で証明しました。

松嶋さんが長らくの間、視聴率女王に君臨している理由を探せば、ひとつは1973年生まれという人口の多い1970年代前半の世代であること、もうひとつは良くも悪くも安定感があり、安心して見れること、そしてスター性、もうひとつ挙げれば声がいいような気がします。声優のヒロインをやっても似合いそうですね。

「家政婦の見た」がこれだけの数字を取った意義は大きいと思います。1年に1回の紅白、4年に1度のオリンピックやワールドカップでなければ考えられない数字を、毎週放送の連続ドラマで取ったわけですから。ドラマの力を示してくれました。

綾瀬はるかの輝き

いよいよ2011年も押し迫ってきました。

週刊文春を買いました。綾瀬はるかのグラビアが7ページ。文句なしに可愛い。早いもので彼女も年が開けると27歳になるんですね。夏目雅子さんが亡くなった年齢です。夏目さんはものすごく大人に見えて、すでに大女優の雰囲気は漂っていましたね。自分が子供だったこともありますけど。綾瀬さんは可愛い顔したまま、微笑みすら浮かべて大女優の階段を順調に上っていると思います。

文章の一文を引用します。「人気と実績。いずれをとってもいまやナンバーワンの女優だといっても褒めすぎではない」

26歳。デビュー10年。まだ若さもあり、そして経験もある。いま最も輝いている女優だと僕も思います。再来年の大河ドラマの主演も決まっています。今年の上野樹里のようにかえって評価を下げてしまう場合もありますが、綾瀬さんに関しては全く心配ないでしょう。

明日は大晦日。少し早めに店じまいする予定です。紅白は見ると思いますが、松田聖子の選曲が残念です。NHK側もセンスないなあ。あれだけヒット曲の多い人に自分の曲を歌わせないなんて。今年は国内は勿論、世界的にも色々なことがありましたから「瑠璃色の地球」あたりがびったりだと思うんですけどね。

ブログの方は今日で一足先に店じまいするつもりです。多分ですけど（笑）。気分しだいってところがありますから。

皆様、今年一年有難うございました。来年もブログをマイペースで続けていけたらなあと思っています。それでは良いお年を。

紅白歌合戦の危機

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

さて去年の、といっても昨日の紅白ですが内容はともかくとして白組の圧勝に終わりました。まあ、ある程度予想できていたことですが。これで5年連続だそうです。

以前の紅白は紅が勝てば次は白、白が勝てば次は紅と勝ち負けが調整されていました。ですから対戦成績も常に五分五分だった訳です。

しかしここ数年でそのような馴れ合いでは面白みがないということで勝敗を視聴者に委ねるようになりました。その結果として白組が勝ち続けている訳です。

やはり投票に熱心なのは女性のほうで男性は傍観しているだけなんですよね。となると結果はもはや見えています。今年はスマップに加え、嵐が加わったことで白組の勝利はより揺るぎない物になりました。

では何故男性は女性のように紅組に投票しないとかといえば、やはり近年よく言われる草食化の影響があるかもしれません。女性のほうが白組を勝たすために貪欲な訳です。

それともうひとつの理由としてアイドル事情の変化があります。男性アイドルには昔も今もジャニーズという人気アイドルを常に輩出している事務所がありますが、女性アイドルをめぐる事情は80年代から90年代にかけて大きく様変わりしました。

80年代は松田聖子を始め、様々な男性人気のあるアイドルが存在していました。しかし90年代に入ると歌番組の激減とともにほとんど絶滅してしまいました。

安室奈美恵、浜崎あゆみは女性に支持される存在だったし、男性人気の高かった広末涼子や菅野美穂は女優活動が中心で、歌は片手間にやっていた程度でしょう。

その流れは今も続いていて男性人気の高い上戸彩や堀北真希などほとんど知名度のあるアイドルは女優活動中心です。この辺にも紅組が勝てない原因はあると思います。

勝ち負けがどうでもいいのなら歌合戦という言葉は使う必要はありません。「紅白歌の祭典」ぐらいでいいでしょう。かといっていまさら勝ち負けの権限を視聴者から取り上げる訳にもいきません。

ならばどうすればいいのか？。これは非常に難しいです。ここまで述べてきたようにこの形は一日、二日で出来たものではなく、20年以上かけて作られてきたものだからです。今さら百恵さん、聖子さんや明菜さん、キョンキョンのようなスーパーアイドルを生み出すというのは不可能に近いからです。

まずNHKが努力することだと思います。特に紅組の出場者に関しては魅力ある人選をすることが大切でしょう。売り上げは勿論、事前に一般の方からどの歌手に出てほしいかを聞き出し、魅力に乏しく名前だけで出場している歌手は遠慮なく切るべきです。

魅力のある陣容がそろえば、やがて「人気の白、実力の紅」のような形になり、毎回白組が勝つことに疑問を持つ視聴者も増えるのではないのでしょうか。

まあ少なくとも3回に1回ぐらいは紅組も勝たないとやがて視聴者によって事業仕分けされてしまうような気がします。

日本の行く末

大きなテーマを掲げてしまいましたが、あまり景気のいい話が聞こえてこないんですよね。

僕らが子供の頃、少年の頃は勿論、自分の未来が明るいと思っていたこともありますが、日本の未来にも大きな希望があるように思いました。

しかし、今はどうでしょう。少子高齢化、雇用不安、デフレ経済、自殺者3万人。やはりこうした事からも明るい未来を描ける状況ではなくなってしまいました。

少子高齢化は日本が抱える最も大きな問題かもしれません。多数の老人を少数の若者が支えなければならない社会。状況を打破するには子供の数を増やすしかありません。

民主党がその対策として子供手当を出しますが、お金を配れば子供が増えるのか疑問はありますが、何か手を打たなければいけない時期に来ていることは確かです。

もし少子高齢化社会がこれからも加速していくようだと、真剣に外国人労働者を大量に受け入れる事も検討しなければいけない状況になります。

雇用に関しては介護や農業に活路を見出すしかないのでしょうか？何年も前ですが、僕はヘルパー2級の資格を取得するために介護施設に何日か研修に行ったのですが、やはり大変な仕事です。向き不向きもあると思われます。おそらく農業も同じでしょう。これらの仕事に定着するのは簡単なことではありません。

デフレ状況も深刻です。安ければ何でも売れる時代でもありません。安くてよい商品でなければならないのです。

僕の店も他人事ではないですが、割引のような事をすると値段を戻した時にさっぱり売れなくなってしまいう事があります。ユニクロのようにしっかりとした計画性があるなら別ですが、売れないから値段を下げるのではますますデフレに陥ってしまう可能性があります。

最後に自殺者3万人以上が続いている状況をどう改善するかですが、どうもマスコミがその原因が経済の悪化にあると決め付けているように思います。

しかし、僕は病苦とうつ病をはじめとした精神的な問題が一番大きいと思います。そこのケアにもっと力を注がない限り問題は解決しないと思われます。

寝正月で三が日が終わろうとしています、明日からはまた厳しい現実が待っています。自分自身もそうですが、社会的にも明るい兆しが見えるといいんですけどね。

筆談ホステス

龍馬伝に続いてTBSで放送された「筆談ホステス」を見ました。主人公の里恵さんはハンディキャップに屈しない旺盛なバイタリティーに加え、言葉のセンスがありますね。まさにあの筆談は一級品です。

北川景子の体当たりの演技が光っていました。ある意味では若い綺麗な女優さんが避けたくなるような役だったかもしれませんが、北川さんは思い切ってさらけ出していましたね。まだ今の時期は上手い下手よりも役に取り組むこうした姿勢が大切なんだと思います。また注目する若手女優がひとり増えました。

身に着けたい雰囲気を持っている女優、芸能人

「escala cafe」におけるアンケート調査で「身につけたい雰囲気を持っている女優、芸能人ランキング」が掲載されていました。20代女性が回答しているようです。

それによると菅野美穂が1位、綾瀬はるかが2位ということでした。

菅野さんの同性人気は定評のあるところですが、綾瀬さん2位は健闘しているといえるのではないのでしょうか。ホワンとした天然の雰囲気が受けているんでしょうね。

これで3位に堀北真希が入れば僕としては完璧でしたが、堀北さんはベストテン圏外だったようです。まあ、堀北さんはまだ二十歳そこそこだし、男性人気だけで十分いける年齢です。

菅野さん、綾瀬さんが同性に好かれているというのはファンとしても嬉しいです。女性は外見だけでなく中身を見ているからね。今の時代、25歳を過ぎた女優は同性人気は不可欠ではないのでしょうか。

落合氏、落選

オチアイ、オチル。くだらないダジャレではありません。あの落合博満氏が2年続けてわずか一票差で野球殿堂入りを逃しました。プレーヤー部門では東尾修氏が殿堂入りを果たしたにもかかわらず。

三冠王三回。実績は文句なしです。僕はこのブログで以前、ON時代以降のベストナインを選びましたが、落合氏を四番打者にすえました。

その時にも書きましたが、勿論、問題点もあります。狭い球場をホームグラウンドにしていたこと。チームが弱く、徹底的な個人主義が許されたがゆえの三冠王だった事。

しかし、今回の落選はこうしたことが理由ではないようです。やはり落合氏の人格が問題となったのでしょうか。WBCに非協力的でマスコミには口を開かず、ファンに対しての思いやりもない。この辺が落選の原因でしょう。

僕の考えではやはり落合氏が殿堂入りしないのは不自然な気がします。あれだけ実績を残した人ですから。

勿論、落合氏のマスコミやファンに対する態度は誉められたものではありません。しかし、それがもともと何処から来ているかといえば、彼らに無視されてきた過去があるからではないでしょうか。

清原和博が入団する前のパリーグはひどい状況でした。落合氏のホームグラウンドの川崎球場は2000人、3000人なんていうことはざらでした。それどころか500人、300人ということも珍しくありませんでした。今のように実数で発表したらそれこそ50人、60人レベルです。

当然マスコミが相手にするはずがありません。そんな中で若き日の落合氏はプレーしてきました。片や当時の巨人戦は観客5万人、視聴率20パーセントが当たり前。今では考えられない格差があったのです。野球ファン、マスコミに対し、落合氏は敵意すら抱いていたと思います。

そうした原点があるがゆえに、落合氏はファンやマスコミに対し頑なになってしまったのでしょうか。そうなると、マスコミ側の記者も「落合さんは難しい人だ」と感じてしまうのも致し方ないところだと思います。しかし卑しくも一票を投じる記者ならばそこは割り切って落合氏の実績は実績として認めるべきなのではないでしょうか。

まあ、遅かれ早かれ、殿堂入りは間違いないでしょうが。

病院へ

いま病院から帰ってきました。かなり風が強かったです。

いつものように先生から状態を聞かれたので、「不安感や緊張感が強くなる時もありますが、比較的安定しています。」と答えました。まあ、ひどい時には自転車で3, 4分の道でも何回も自転車から降りていましたから。その頃から比べればいいのではないかと考えています。それでもなかなか床屋には行けず、自分で前髪を切ったりしています。

いつものように4週間分の薬をもらいました。薬も少しずつ減らしていく計画ですが、簡単にはいかないんですよね。

魁皇、大記録の要因

昨日、大関魁皇が千代大海を下し幕内通算808勝目を上げ、千代の富士を抜き歴代1位になりました。それにしても負けた千代大海は現役引退とは大きく明暗が分かれましたね。

さて魁皇大記録達成の大きな要因のひとつは強すぎなかった事です。彼がもっと強ければ当然横綱に昇進していたでしょう。そうなる高いレベルの成績が求められ、それに応えられなくなれば引退しかありません。

千代の富士が36歳まで現役で綱を張ったのは例外で、あの貴乃花でも31歳。平均すれば30歳前後が横綱の引退時期ではないでしょうか。8勝すれば許される大関だからこそ達成できたことは否めません。

もうひとつの要因は丈夫で長持ち。無事名馬という言葉がありますからね。

そしてこれも大きな要因だと思いますが、力士のレベルの低下です。特に日本人力士。原因は運動をしたことがない肥満児がただ体が大きいという理由だけで入門していることにあると思います。

貴乃花世代の魁皇は高いレベルの中でしのぎを削ってきたので、多少力が衰えても若い日本人力士相手ならまだ何とかできるのでしょう。貴乃花や魁皇の少年時代は学校でも砂場や廊下でよく相撲を取っていましたからね。

白鵬が入門時、体重が60キロ台しかなくモンゴルへ返されそうになったという逸話が残っている事からも入門時は体の大きさよりも運動神経を重視すべきでしょう。

とはいえ、魁皇の記録は立派の一語に尽きるし、37歳で大関の地位を保っているのは奇跡です。努力は並大抵のものではないと思います。同世代の僕としては魁皇にはいつまでも頑張ってもらいたい。しかし、その一方で若手力士がそれを許していてもいけません。なんとも複雑な心境です。

曲げられない女

これ意外と面白いですよ。最初は30代崖っぷち女的なドラマかと思いましたが、それだけではないようです。コメディータッチですけど生き方を模索している人にとっては参考になる物語かもしれません。

菅野美穂のショートボブの髪型も最初はちょっと不満でしたが、だんだん可愛く見えてきました。菅野さん扮する主人公・早紀のキャラクターもなかなかユニークですね。マイケルファンですか。永作さんとのコラボも息があっていたように思います。

このキャラクターはひょっとしたら菅野さん久しぶりのハマり役かもしれません。

2011年大河ドラマキャスト予想（願望）

来年の大河ドラマ、「江～姫たちの戦国～」の主役が発表されるようなので予想、いや願望（笑）を記しておきます。

主演の江にはずばり堀北真希。冷静に見ればもっと上のアラサー世代あたりから選ばれる可能性もかなりあるとは思いますが、それでもあえて若い堀北さんを推したいです。

堀北さんは大河ドラマの出演経験もありますし、若手では演技力も評価されているのではないかと思います。知名度もありますしね。前にも書いたような気もしますが、一年を通して一人の人物を演じることによって堀北さんがどれくらい成長するかを見てみたいです。

初は綾瀬はるかがいいですね。ただの願望ですけど。でも綾瀬さんもそろそろ大河の大役を任せられそうな気がします。

そして茶々は菅野美穂。菅野さんは主演の江の可能性もあるとは思いますが、個人的には淀君を演じてほしいですね。これは僕の10年以上前からの願望です。

昔、テレ朝で放送された「恋の奇跡」というドラマがあったのですが、その時の壮絶な演技を見てから、気は強いけれど何度も落城したトラウマを抱える淀君役は菅野さんがぴったりだと思うようになりました。今まであまたの有名女優が淀君を演じてきましたが、菅野さんならばその中でもひとときわ記憶に残る淀君を演じてくれる気がします。

最後に三姉妹の母であるお市の方の予想をしてみます。市といえば美人で有名ですからやはりきれいな女優さんが演じたほうがいいでしょう。年齢は30代ぐらいですかね。となると、宮沢りえ、稲森いずみ、中谷美紀といったあたりがいいと思います。

このあたりの世代は菅野さんと年齢も近いので、お市の方が自害するまでは三姉妹は子役が演じたほうがよさそうです。

これはほとんど僕の願望なので、このキャストになる確率は宝くじに当たるくらいのものでしょう（笑）この中の一人でも入っていればいいほうだと思います。

福山雅治という男

福山雅治主演の大河ドラマ「龍馬伝」が好調なスタートを切りました。改めて福山人気の高さを実感しました。

話は変わりますが、まもなく阪神・淡路大震災から15年ですね。あの日のことを良く覚えています。朝、テレビをつけると、神戸で震度6という報道がされていました。しかし、その後、事態は予想をはるかに超えていたとが明らかになっていきました。

死者6000人以上。日本中は悲しみに包まれました。これは大変なことになったと我ながら思いました。コンビニで前の人が募金箱に小銭を入れているのにつられて僕も100円玉を入れました。この年はずっとこんな調子で1995年は僕自身の消費税は10パーセントを超えていたと思います。皆さんそうだったのではないのでしょうか。

ラジオでも阪神・淡路大震災関連のコーナーが数多く作られました。「福山雅治のオールナイトニッポン」でも番組の最後に確か「俺のスタジオライブリクエスト」というコーナーで福山さんが被災者のことを思いながらギター1本で様々な曲を歌いました。

やがて震災から1ヶ月がたち2ヶ月がたつとそれぞれの番組の阪神大震災のコーナーは消えていきました。それでも福山さんは被災者を思いながら歌い続けました。

僕もたまに聴くだけのリスナーだったため、「福山さんまだやってる。変わった人だなあ」と思っていました。

それからしばらく歳月が流れました。僕はその日、眠れなかったので、小さなラジオに手を伸ばしました。そうしたら福山さんの声が聞こえてきました。「俺のスタジオライブリクエスト」と。その時、「この人は本気なんだ」と強く感じました。単なる偽善ではできない、同情でもない、本当の優しさと強い信念を持っている人だと思いました。

ここ数年の福山人気には目を見張るものがあります。勿論、あの甘いマスクですし、歌も上手い。曲作りの才能もある。演技もカッコよくこなす。確かに人気はあって当たり前なのかもしれませんが。でもそれだけでしょうか？彼がこれだけ長く愛されるのにはもっと深い理由があるような気がします。飾らない気さくな人柄、九州男児らしい男らしさ、人に対する思いやり。そうした内面がにじみ出ているからこそ福山雅治は愛されるのだと思います。

小林繁氏が急死

まだ信じる事ができません。小林さんが亡くなるなんて。実感がありません。ないからこそ、こうしてブログに書き込むことができるのだと思います。

帰ってきてインターネットを見たらいきなり小林氏急死の文字。インターネットってあっけない。人生ってあっけない。自分だっていつそうなるか分かりません。だからこそ全力で生きなければならぬのかもしれない。

小林さんは僕がこの世に生まれて最初に出会ったヒーローです。彼は身長は180センチ近くあるのですが、体重が60キロ代しかなく、少年時代から体が細かった自分とダブらせていたのかもしれない。

江川卓との不条理なトレードで阪神に移籍した昭和54年、小林さんは22勝を挙げました。古巣巨人からも8勝。あの王貞治も完璧に押さえ込みました。

その後、江川さんとの因縁対決は小林さんの0勝4敗。一度も勝つことなく、13勝した昭和58年、突然引退を表明しました。

サイドとアンダーの中間から、投球モーションを一度ストップさせて投げ込む独特のフォーム。細腕をしならせ帽子を飛ばす力投に少年時代の僕は胸を熱くしました。

ご冥福をお祈りします。

新ドラマ視聴率

新ドラマが続々と始まっていますね。となると気になるのが視聴率です。

まず現時点でのトップはフジ系月9「コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命 セカンドシーズン」で18.8パーセント。高視聴率には違いありませんが、人気ドラマの続編、月9ということ考えると少々物足りない数字かもしれません。

次いで菅野美穂主演の日テレ系水10「曲げられない女」で15.4パーセント。オリジナル脚本でこの数字は改めて菅野人気の高さを感じさせます。今の15パーセントは一昔前の20パーセント以上の価値があると思います。

この2作品は数字の上では間違いなく合格点でしょう。しかし、初回は主演や主要キャストの力が左右するところが大きく、2話目以降にドラマ自体の真価が問われると思います。

数字的に微妙だったのがTBS系日9「特上カバチ」で12.9パーセント。人気漫画原作ということを加味するとやや厳しいスタートかもしれません。

今期のドラマでの1つの見所は花のハチハチ（1988年）生まれ対決だと思います。「コードブルー」に出演している新垣結衣、戸田恵梨香と「特上カバチ」に出演している堀北真希。初回は数字上はやや明暗が分かれましたが2話目以降どうなるか注目です。

ジュースの仕入れに行ってきました

少し前に帰ってきました。今日は自販機に入れるジュースのみの仕入れです。

僕の店の自販機はメーカーの自販機と自分が管理している自販機の2つがあります。後者の自販機は商品を自分で仕入れないといけません。缶コーヒー、280mmのお茶などの商品は100円で販売しています。だからできるだけ安く仕入れることがポイントになります。

これまでキリンのFIREは60円そこそこで仕入れられることが多かったんですが、今日は10円も値上げされていました。かなりショックです。

アサヒのワンダは普段、70円近いのですが、今日は60円そこそこで仕入れることができました。

UCCブラックは50円台後半で買うことができました。

キリンの生茶は高いです。税込みで76,7円。でもお茶はなくてはならないから仕方ないです。

あとミルクココアを63円、500mmのはちみつレモンを71円、同じく500mmのカルピスソーダを83円で仕入れました。はちみつレモンとカルピスソーダは120円か130円で販売しようと考えています。

メーカー任せの自販機は手数料が1本につき20円ですから、これくらいの値段で仕入れられれば1本30円から40円の利益があり儲かりそうなのですが、ウチは違います。

実は僕が管理している自販機は月に2万円も支払いがあるんです。それを6年も続けなければなりません。まあ、半分騙されたんですけどね。そのため、いまの売り上げではまだまだマイナスです。電気代も5000円は下らないと思います。

アノカ調子かので、サ、サ、仕入れの結果はかばかばか、ない、です。君の思案を口指して(笑)

疲れた夜にクローズアップ現代を見て

今日は疲れました。いつもはどちらかというと緊張感や不安感の存在が大きいんですが、今日は自分の店で扱っている古本を移動させている間に疲れてしまったようです。軽作業のレベルなんですけど、パニック障害の影響もあって自律神経の調子がよくないんでしょうね。立ち上がったりがんだりを繰り返すのがきついです。

帰ってきてテレビをつけるとNHKのクローズアップ現代に目が留まりました。生活に苦しむ30代男性の姿が映し出されていました。今は生活保護で暮らしているそうです。額は7万9000円程度。インターネットカフェで寝泊りしていました。

確かに自己責任の世の中。厳しいですね。僕も30代の終わりですが、やっぱり今日のように疲れると年を重ねることへの不安が大きくなりますね。健康な人ですら体に何らかの衰えを感じる年代。それに加えて僕はパニック障害を抱えている。果たしてこの先どうになってしまうのかと漠然と考えてしまいます。

年を重ねるイコール生きていくことが辛くなっていくというイメージを変えなければいけないと思うんですけどね。結婚して子供でもいればその成長が楽しみになるのかもしれませんが、今の自分の状態ではとても結婚などできるはずはありません。

この番組を見ながら改めて自分にとって希望とは何なのだろうと考えさせられました。

疲れた夜にクローズアップ現代を見て

今日は疲れました。いつもはどちらかというと緊張感や不安感の存在が大きいんですが、今日は自分の店で扱っている古本を移動させている間に疲れてしまったようです。軽作業のレベルなんですけど、パニック障害の影響もあって自律神経の調子がよくないんでしょうね。立ち上がったリしゃがんだりを繰り返すのがきついです。

帰ってきてテレビをつけるとNHKのクローズアップ現代に目が留まりました。生活に苦しむ30代男性の姿が映し出されていました。今は生活保護で暮らしているそうです。額は7万9000円程度。インターネットカフェで寝泊りしていました。

確かに自己責任の世の中。厳しいですね。僕も30代の終わりですが、やっぱり今日のように疲れると年を重ねることへの不安が大きくなりますね。健康な人ですら体に何らかの衰えを感じる年代。それに加えて僕はパニック障害を抱えている。果たしてこの先どうになってしまうのかと漠然と考えてしまいます。

年を重ねるイコール生きていくことが辛くなっていくというイメージを変えなければいけないと思うんですけどね。結婚して子供でもいればその成長が楽しみになるのかもしれませんが、今の自分の状態ではとても結婚などできるはずはありません。

この番組を見ながら改めて自分にとって希望とは何なのだろうと考えさせられました。

カンノがカンノであるために

彼女が天才女優だと思っているからあえて書きますが、菅野美穂の全盛期は18歳から22, 3歳、長く見積もっても25歳ぐらいまでだったような気がします。

18歳の時に「イグアナの娘」、20歳の時は「君の手がささやいている」、悪女役を演じた「恋の奇跡」は21歳、「愛をください」が23歳。同時期、映画でも10代の頃の「エコエコアザラク」に始まり、二十歳そこそこで「富江」「催眠」で怪演しホラークイーンの異名をとりました。この頃は本当に全力で菅野さんは演技していたと思います。

しかし25歳を過ぎたあたりから菅野さんの演技に変化が見られました。26歳で演じた「愛し君へ」。菅野さんの代表作のひとつだとは思いますが、彼女は同年齢の主人公を演じるにあたって、こう語っています。「普通に演じてしまうと26歳より幼く見えてしまう。だから抑えて演じている」と。

最も象徴的だったのが「私たちの教科書」というドラマ。彼女は弁護士役で懸命に自分を殺して役に徹しようとしていました。しかし、そうする事によって彼女の最大の持ち味である繊細で豊かな表情まで消してしまっていました。

要するに菅野さんは30過ぎには見えないんです。街で歩いて菅野さんだと気づかなければ、ほとんどの人は20代前半の女の子にしか見えないでしょう。外見にも声にも少女の面影を色濃く残しています。

しかし、与えられる役はといえば実年齢に近いものがほとんどです。バラエティーやトーク番組の声と演技での声を比較すれば分かりますが、まったく違うんですね。演技では自分の少女的な声を消し去って必死に大人のそれを作ろうとしています。

いま放送されている「曲げられない女」でも司法試験に9回も落ちた32歳の役に自分を近づけようとしています。勿論、無機質でロボットの主人公がふとしたきっかけで感情のスイッチがオンに変わったときなどの演技はやはり彼女は凄い、並みの女優ではないと思います。コメディエンヌとしての才能も素晴らしい。しかし少し痛々しくもあります。

菅野さんには年齢にとらわれない演技をさせてあげたい。「坂の上の雲」の正岡律を演じている時は自分の声で話していて伸び伸びとしていていますね。ああいう役がいい。僕が茶々こと淀君を演じてほしいのもそういう理由もあるんです。

だから決して彼女の演技力が落ちたわけではないと思っています。ただ実年齢と見かけとのギャ

ップを埋めることに苦心しているのではないのでしょうか。こうした試練を乗り越えて彼女には真の大女優になってほしいです。

吉永小百合が語った巨人、そして清原

昨日のTBSラジオ「爆笑問題の日曜サンデー」のゲストは何と吉永小百合さん。まもなく公開される映画「おとうと」の宣伝に来たようです。

映画の話もそこそこに、何故そのような美貌が保てるのかという話になり、吉永さんは「水泳をやっています。スポーツは全般的に好きです」といったところから、話題は吉永さんがファンである西武ライオンズのこと。

どうして西武ファンになったんですかとの問いに吉永さんは「家族はみんな巨人ファンでしたから私も応援していたのですが、空白の一日、ドラフトの問題がありましたよね。それから西武ファンになりました」と答えました。吉永さんはあの時の巨人の傲慢さが許せなかったようです。

そして太田さんが唐突に「清原に手紙書きましたよねえ。FAの時。あんなの受け取ったら俺が清原だったら耐えられないかもしれない」と切り出しました。すると吉永さんは「あそこで巨人に入るのは彼らしくないと思いました。入るなら阪神にしてほしかった」といいました。

吉永さんはここで清原ファンに区切りをつけました。勿論、本心までは計り知れませんが。僕はこの時、もう12、3年前の話だけど、何で吉永さんは清原を応援してくれないんだろうと残念に思っていました。

僕も勿論、阪神に入ってほしかったし、そうでなければ西武に残ってほしかったです。巨人入りと聞いたときは力が抜けました。しかし、清原ファンをやめようなどと思ったことは一切ありませんでした。だから吉永さんの清原さんへの想いはそこまでだったんだと決め付けていました。

しかし、昨日の放送を聴いているとこの人は本当に信念の人なんだと感じました。元祖曲げられない女っていうところですかね。太田さんも「ぶれない」という言葉で吉永さんを表現していました。

役の上でも同じで悪くいえば何をやっても吉永小百合で、そのことを問われると「不器用なんです」と応えていました。そしてイメージチェンジしてみようと思ったことはなかったんですかと聞かれると彼女は「20代の頃はありました。自分の演技も駄目で、興行的にも駄目でしたから。でもその頃いい出会いがあり、今は自然体で演じています」と語りました。

どんな役にもなりきってしまういわゆるカメレオン女優的な人より、もしかしたらこういうタイプの人の方が強いのかかもしれないと僕は思いました。石原裕次郎、高倉健、今で言えば木村拓哉もこのタイプだと思います。ある意味で不器用なんだけど、それが逆に見ている人にサザエさ

ん的な安心感を与え、そしてぶれない姿勢がカリスマ性につながっているのかもしれない。

ともかくにも国民的女優、吉永小百合は見かけは穏やかで柔らかな印象を与えながら、芯はものすごく強い人なんだと感じた夕暮れのひと時でした。

2011年大河主演は上野樹里

来年の大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の主演が上野樹里に決まりました。僕は堀北真希を希望しましたが、安定感という意味では上野さんのほうがやや上かなあという気もするので妥当な人選だったのではないのでしょうか。

冷静に考えれば上野さんの世代で演技派として思いつくのは上野さんの他に宮崎あおい、沢尻エリカといったところです。宮崎さんは2年前に大河主演したばかりだからありえないし、沢尻さんに至ってはどこかに消えてしまった（笑）まあ、沢尻さんが女優活動をしていたとしてもNHKが起用するとはとても思えません。

そう考えていくと20代前半では上野さんということになりますね。まだ演技がしっかりしていないアイドル女優に長丁場の主演を任せるのは不安がありますし、上野さんなら安心できるということなのでしょう。

残るは初、そして淀。まず初ですが堀北さんの可能性は薄くなりましたね。綾瀬はるかの可能性は残っていると思います。初に関しては知名度の低い女優が抜擢される可能性もありますが、この大河ほど初という人物がクローズアップされることはそうそうないと思うので、人気、知名度のある綾瀬さんあたりが適役じゃないですかね。上野さんとの格の問題もあるかもしれませんが、この際そういった事はどうでもいいような気がします。

淀は菅野美穂でいきたいところですが、分かりませんね。選ぶ側が菅野さんをどう評価しているのか分かりませんし、もし菅野さんにオファーが来たとしても彼女が受けるとは限りません。たださえ「坂の上の雲」という3年にわたる壮大なスケールのドラマに出演していますし、また大河でも長期間拘束されるとなると菅野さんの人生設計にも関わってきますしね。

少し菅野さん以外に目を向けてみます。淀というとお市の方の美貌を最も引き継いだ人物ですからやはり美人のほうが望ましいでしょう。そして気の強さを出せる女優でないといけません。その辺から考えると柴崎コウ、中谷美紀、竹内結子あたりですか。意外と30歳前後で条件を満たす女優さんが思いつきませんね。しかし、淀を誰に演じさせるのが主演と同じぐらい大事なのは間違いないのではないのでしょうか。

今年初、床屋へ

1時間ほど前、10分1000円のカット屋から帰ってきました。

髪を切りに行くのは去年の10月末以来、丁度3ヶ月ぶりです。薬を飲んでから30分待って、床屋に向かいました。30分時間を置くのは薬が効いてくる時間を考えてのことです。

席についてシートを首に巻かれてしばらくすると、徐々に緊張感が増していきます。女性の店員さんに「どのようにしますか」と聞かれたので、いつものように「短めにしてください。後ろは刈り上げてください」と言いました。気がつけば掌には汗がびしょりです。

目の前の鏡を直視すると体力を消耗するので、その下の時事通信社のニュースに目をやります。

店員さんに「上のほうの髪が短くなっていますね」と言われ、「自分ですきバサミを使って切ったんです。最初は前髪だけを切ろうとしたんですが」と答えました。

幸い、今日は胃の不快感がいつもほどではありませんでした。それでも神経は過敏になっていますから、そのうち情報の画面を見ているだけでも辛くなり、少しだけ目線を上げ、鏡の下の部分に目線を置きました。

最後に吸い取り機を頭に当て、何とか終了にこぎつけました。約10分の大仕事。それでも1000円払ってるんですけどね（笑）今後少なくとも3ヶ月は床屋に行くつもりはありません。ああ、疲れた。

幻の名曲「嘲笑」

ニッポン放送テリーとたい平のってけラジオのゲストは島谷ひとみ。カバーアルバムの宣伝に来たようです。

トークを織り交ぜながら曲を紹介しました。「君がいるだけで」「少年時代」「思い出がいっぱい」などかつての名曲が流れています。どの曲も島谷さんが歌うとまた違う雰囲気になるんですよね。

そして次にかかった曲が懐かしかった。「嘲笑」。かつてビートたけしのフジテレビの深夜番組のエンディングで流れていた歌です。歌っているのはたけしさん本人。

島谷さんの「嘲笑」を聴いてテリーさんが言いました。「たけしさんには悪いけどたけしさんより何倍もいいねえ」と。僕はたけしさんの決してお世辞にも上手いとは言えないけれど素朴な嘲笑も好きですが、島谷さんのそれを聴いて、ここまで美しいメロディーだったかと改めて思いました。

作詞はたけしさん。そしてこの美しいメロディーを作り上げたのは玉置浩二さん。YouTubeで「嘲笑」を探すと玉置さんがこの曲を歌っているのを発見しました。玉置さんの横にはたけしさんが座っています。

やっぱり玉置浩二は凄い。歌うために生まれてきた人だなあと思います。たけしさんの詞もロマンチックでこの人は少年の心をずっと持ち続けながら生きてきたんだと感じます。

「嘲笑」はもっと知られていい名曲だと思います。いや、あまり知られないところがいいのかもしれない。寝る前に聴くと良いですよ。贅沢な子守唄です。

21年前、僕はパニック障害になった

雨が雪に変わったようです。

2月1日。いまから21年前のこの日、僕は過呼吸発作を起こし、救急車で運ばれました。パニック障害になった日です。人がこんなに簡単に壊れるとは。自分がこんなに簡単に壊れるとは思いませんでした。

パニック障害は初期の頃は発作を起こしやすくその後、長期化すると発作は起こりにくくなるものの、病気自体は治りにくくなるといわれています。僕もこの経過をたどりました。

初めて病院の神経科を訪れたのは14年も後のこと。すでに30歳を過ぎていました。これでは治すには遅すぎました。

いまま壊れたまま僕は生きています。パニック障害との20年戦争は21年戦争になりました。

朝青龍引退

驚きましたね。朝青龍の引退表明。まあ、有り得る事ではあったんですけどね。

引退は致し方ないでしょう。やはり一般人に手を出してしまったというのは致命的でした。解雇では功労金は貰えませんから先手を打って引退したほうが得策だったようです。

しかし、彼が相撲が大好きだったというのは間違いないでしょうし、土俵への未練はあると思います。優勝回数も25回となり30の大台が見えてきたところでしたからね。その先には大鵬の32回という記録もありました。

ただ、会見を見る限りではさばさばしているようでした。すでに気持ちは次の人生に向かっているのかもしれませんが。

朝青龍がいなくなった土俵はさびしくなりますね。ワサビのない刺身といったところですか。野球やサッカーが視聴率を落とす中、大相撲は健闘していたのも彼の存在が大きかったと思います。まさに「憎まれっ子世にはばかる」という言葉の似合う横綱でした。

とにかくにも貴乃花と並ぶ平成の大横綱は自らまいた種であっけなく土俵を割ってしまいました。

清原、イチローも認めた逸材に何が？

プロ野球選手は自殺とは無縁の職業と思っていました。しかし残念ながらキャンプ中にオリックスの若手選手が自殺してしまったようです。

清原和博さんはオリックス時代小瀬浩之選手を「バッティングセンスがある。イチローが出てきた頃に似てるよね」と称えたそうです。またイチロー選手も「天才肌だね。（キャラクターも）好きなタイプかも」と小瀬選手を絶賛しました。

この雲上人たちに認められた男はやはり頭角を現しました。昨シーズン規定打席不足ながら打率3割をマーク。今季はいよいよレギュラーとしての活躍が期待されていました。

子供たちの憧れであるプロ野球選手。24歳。若手のホープ。そして新婚。これらのことから輝かしい未来は想像できても自殺のじの字も想像できません。

だから最初にこのニュースを聞いたとき、自殺ではなく事故ではないかと思いました。しかしその後、同僚に自殺をほのめかすメールを送っているということを知りし、やはり自殺なのかと半信半疑ながら思いました。

一体、小瀬選手に何があったのか？今のところさっぱり分かりません。少々の困難ならば、すべて現在の自分の立場が打ち消してくれるはずです。よほどの深い闇に包まれていたのでしょうか。

あらためて人間というのは本当に分かりませんね。

女子高生女流名人誕生

将棋女流名人戦第3局が行われ挑戦者の里見香奈倉敷藤花が清水市代女流名人を下し、3連勝で奪取しました。17歳での女流名人は林葉直子さん、中井広恵女流6段に次ぐ史上3番目の若さです。

第一人者の清水さんに何とストレート勝ち。里見時代の到来といってもいいでしょう。中堅どころの矢内理絵子さんなどが越えられなかった分厚い壁をいとも簡単に突き破ってしまったんですから才能はもちろんのこと若さっていうのは凄いですね。清水さんがすでに40代になりましたから新旧交代となる可能性が強いですね。

これからはすんなり里見時代となるのか同世代にライバルが現れるかは分かりませんが、里見さんを中心に女流将棋界が回っていくのは間違いないようです。

ただ里見さんにはさらに上を見て将棋を指してもらいたいです。いまの彼女の力をもってしても男子プロに勝つのは5回に1回がやっとでしょう。この差を縮めていくこともこれからの里見さんの大きなテーマになっていくでしょう。

何がともあれ、里見さん、女流名人おめでとう。

平野洋子さんの自殺

船越英一郎さんの妹、平野洋子さんが自殺しました。

胸が痛いです。まったく他人事ではありません。平野さんはうつ病とパニック障害を併発していたようです。どちらが先だったかは知りませんが、一般的にはパニック障害になるとうつ病のリスクが高まる傾向にあるようです。

僕もパニック障害に20年以上取り付かれています。今はうつ病を併発している可能性があります。なのでこのようなニュースを耳にすると自分の将来を悲観してしまいます。

平野さんのブログを見ました。本当に辛かったと思います。自殺は絶対にいけないことと分かっているながらその道を選ばざるを得なかった彼女の無念さは計り知れません。

天国でゆっくりお休み下さい。

バンクーバーオリンピック開幕

いよいよバンクーバーオリンピックが始まりましたね。

報道を見る限り、注目選手は浅田真央、高木美帆、上村愛子選手といったところでしょうか。個人的にはこの3人に加え、自分と同世代のスキージャンプの岡部、葛西の両選手、女子スピードスケートの岡崎選手に注目しています。

さて金メダルの予想をしておきます。0から1じゃないですか。2個以上は奇跡に近いと思います。まあ、あまりにも現実的な予想でつまらないですけど（笑）

注目している競技はやはり女子フィギュアです。真央ちゃんには難しいかもしれませんが、ぜひ金メダルを取ってもらいたいですし、安藤選手にも前回大会の屈辱を晴らしてほしいです。また遅咲きの鈴木選手にも注目します。欲を言えば2人ぐらいメダルを取ってくれればと思います。

とにかくそれぞれが持てる力を発揮してくれればと思います。しかし、そうはいかないのもオリンピックなんですよ。

長嶋が銀、加藤が銅

やってくれましたね。スピードスケート男子500メートルで長嶋圭一郎選手が銀メダル、加藤条治選手が銅メダル。モーグルの上村選手がメダルを逃してしまっただけに、日本のお家芸とも言えるスピードスケートで一気に2つもメダルが取れて日本チームも活気づくでしょう。

長嶋選手はどちらかというとな努力型のタイプといわれています。あの営業マンのような腰の低いフォームも努力の賜物でしょう。

コーナリングの魔術師、加藤選手は天才肌で早くから頭角を現しました。前回のトリノ五輪でも金メダルが有力視されましたが期待に応えられず、今回こそはの思いが強かったのでしょう。銅メダルを取りながらも悔しさがにじみ出ていました。メダルをとっても悔しい。それぐらいでないと頂点に立つ権利はないんでしょうね。加藤選手の今後が楽しみです。

この調子でがんばれニッポン！

いよいよ女子フィギュア

オリンピックもいよいよ佳境に差し掛かりました。カーリングは人気ありますね。いたる所で深夜のカーリング中継で寝不足だという声を聞きます。僕はイマイチ面白さが分かりませんが、とにかくストーンを中に入れればいいんですよね？

そしていよいよ明日からは注目の女子フィギュア。ショートプログラムの滑走順は日本人トップが浅田選手。キムヨナ選手を挟んで鈴木選手。そして全選手中最後に登場するのが安藤選手。

個人的には安藤さんに最も注目しています。4年前のトリノでの挫折から立ち直っていく姿にドラマがありました。かつてのように4回転にこだわらず、表現力を磨いてきた安藤さん。明日はこの4年間の集大成を見せてください。

勿論、真央ちゃんにも注目します。ショートプログラムでつまづいてしまうのが最近の課題ですが、明日はノーミスで終えてほしいです。決めろトリプルアクセル。

鈴木選手は今までのことをあまり知らないので一番気楽に見られそうです。多くの国民も真央ちゃんや安藤さんに向いていますから鈴木さん自身も楽しんで演技してもらいたいです。

キムヨナ選手絶対有利といわれていますが、勝負は何が起こるか分かりません。金メダルを目指してガンバレ真央そして美姫。

ヨナ・真央対決の陰の新旧交代

真央ちゃん、悔しい銀メダルですね。

キムヨナ選手がノーミスの演技でとてつもない高得点をたたき出した時、すでに勝負は決していました。彼女のすぐ後に浅田選手が登場しました。

かつてジャンプの天才・伊藤みどりさんの代名詞でもあった大技トリプルアクセルを見事に2度も成功させました。これは物凄い快挙です。その後疲れからか少しミスもありましたが、たとえ完璧な演技で終えてもキムヨナの得点には届かなかったでしょう。とにかく真央ちゃんは勇敢に戦い抜きました。

このヨナ・真央対決の陰に隠れてはいましたが、時の流れを感じさせる出来事がありました。かつての世界女王の安藤選手は5位でした。その上の4位には何と弱冠16歳のアメリカ代表・長洲未来選手が入りました。

確かに今大会の安藤選手は不運でした。地元カナダのロシェット選手の最大のライバルと目されてしまったためショートプログラムから大きく得点を抑えられてしまいました。

今日のフリーでも安藤選手は素晴らしい演技内容だったにもかかわらず、まだ後ろにロシェット選手が控えていたため思うように得点は伸びません。案の定、ロシェット選手は安藤選手を抜き最後の一人を残して3位にはいってきました。その最後の一人が長洲選手でした。

長洲さんは伸び伸びとした素晴らしい演技で安藤選手をかわし4位となりました。もちろん、安藤選手の得点が大人の事情で抑えられたことによる番狂わせですが、これも運命、採点競技の宿命です。時代が若い力の後押しをしたのです。

これまでの流れからも日本の代表は20代前半までという25歳の壁があります。次のソチ五輪では浅田さんは23歳。一方の安藤さんは26歳と壁を越えてしまいます。安藤さんが現役を続けてもオリンピックにいける可能性は低いと思われます。

だから彼女はどこかのタイミングでプロスケーターに転向するのではないのでしょうか。彼女の演技を見ていると観客の心をつかむ力は素晴らしいものがあると思います。そう遠くない将来、プロスケーター・安藤美姫が誕生するかもしれません。

とにかくにも真央ちゃん、銀メダルおめでとう。そして安藤さん、鈴木さん、入賞、そして何よりも自らが納得する演技ができて本当によかった。

羽生の時代が終わろうとしている

挑戦者の久保利明棋王が3勝2敗で迎えた王将戦第六局は久保棋王が羽生王将を下し、王将位を奪取しました。

激闘でした。しかし、勝ったのは将棋界のトップに君臨する羽生さんではなく久保さんでした。

従来感覚で見れば、羽生さんが4勝1敗か4勝2敗で防衛するだろうという事なのでしょうが時代は確実に動いていました。久保さんは30代半ばの指し盛りの棋士ですが、もう伸び盛りという年齢ではありません。この王将奪取劇には羽生さんの衰えがあるように思います。

1990年代前半から続いてきた羽生時代。もう長くは続かないでしょう。それでも羽生さんがいまだに名人位をはじめ、王座、棋聖の3冠を保持しているのも事実です。まだいまは羽生時代といえるでしょう。

今後は羽生さんを含めた戦国時代に突入するのか、それとも渡辺明竜王を中心とした若い世代が一気に抜き去るのか目が離せなくなりそうです。

これからの羽生さんですがいよいよ今年40歳を迎えます。ここから棋士は二通りに分かれるのだと思います。坂道を転げ落ちるように衰えていく棋士と衰えを研究と経験で最小限にとどめる棋士。羽生さんは間違いなく後者だと思います。これまでのようには勝てなくはなるでしょうが、50歳になってもこれまでと変わらぬ情熱を保ち、第一線で戦い続けている彼の姿が僕目のには浮かびます。

菅野はどこへ向かうのか？

「曲げられない女」の最終回の視聴率は18.6%でした。オリジナル脚本でこの数字は立派だと思います。

菅野さんは昨年の「キイナ」に続き、また安定した数字を残しました。最近、主演ドラマで2作続けて高視聴率を残した女優はちょっと思いつきません。篠原さんもしばらく連ドラから遠ざかっていますしね。

こうなるとひょっとしたら民放各局で菅野争奪戦が始まる可能性もあるかもしれません。しかし、菅野さん自身はどう思っているのでしょうか？

ドラマデビューから17年。初主演の「イグアナの娘」から14年が経過しました。そろそろ連ドラから卒業する道を選んでも不思議ではありません。今年は久しぶりに映画の主演も控えていますしファンとしては女優・菅野美穂から目が離せません。

菅野美穂や松村邦洋が天才と呼ばれない理由

今日のTBSラジオ「久米宏ラジオなんですけど」のゲストは黒柳徹子。それはどうでもいい事なんですが、2時20分ぐらいに登場したもう一人のゲストが凄かった。何とあの知的っぽい番組に松村邦洋が登場したのです。

松村さんは久米さんに振られたモノマネを次々と披露しました。西田敏行、津川雅彦、福山雅治などなど。特に最近、オリックスの岡田監督のモノマネが絶品です。モノマネが上手い人はいっぱいいるんだけどやっぱり松村さんは別格です。天才だと思います。

しかし、世間一般では松村さんを天才と呼ぶ人は決して多くありません。むしろ彼ほど実力と評価が一致しないタレントは珍しいかもしれません。

菅野美穂も似た傾向があります。僕は彼女が18歳の頃からその類まれなる演技力に注目してきましたが、彼女が20歳そこそこの頃、かなり分かりやすく才能が爆発したんです。「彼女を天才女優と呼ばずして一体誰を天才と呼ぶのか」と当時の僕は思いました。世間の評価も確かに高かったです。若手実力派、演技派女優。様々な賞賛がありました。しかし意外にも天才女優という呼び方をした人は少なかったと記憶しています。

菅野さんや松村さんが何故天才と呼ばれないのか。その理由は謙虚さにあります。もしそうしたことを言われると「いえいえ」と否定してしまうのです。うわべではなく心から否定しているので、みんなそれを信じてしまうんですね。

天才というとわがまま、変人というイメージがあり、菅野さんや松村さんは対極にある。だから天才と呼ばれることが少ないわけですが、そういう彼や彼女が僕は大好きなんです。

病院へ

今日は3週間ぶりに病院へ行ってきました。通常なら4週間なのですが、来週はゴールデンウィークで病院も休みに入るため1週間早くなりました。

パニック障害が原因の不安感、緊張感は横ばいを維持している気がします。また朝や日中の眠気については担当の先生はとにかく薬を減らすという方針です。

異常な眠気については僕なりに3つほど可能性があると思います。まずひとつは薬、それと鬱などの精神的な病気、もう一つは体の不調。体の不調については最近考えるようになりました。

眠気が強くなったのは3年ほど前。ちょうど薬を減らしている時でした。なので僕自身は薬の可能性は薄いと見ています。鬱に関しては担当外の先生に見てもらった時に可能性があるといわれました。でも、まあ一応食べれているし、鬱と決め付けるわけにもいかない気がします。

そこで自分の中に浮上してきたのが、体の不調なり病気です。何日か前まではこのことを病院で話そうと思っていたのですが、いざ診療室に入るなり、普段と同じ会話になってしまいました。

結局、多いとされる抗不安薬を5ミリから4ミリに減らすことに挑戦することになりました。無理なようならまた5ミリに戻すという条件つきで。しかし、これで眠気がとれるとは到底思えません。病院や薬だけに頼らず、自分で努力することも忘れないようにしたいです。

喫煙率が下がっているのにガン患者が増える矛盾

いまから30年ほど前でしょうか。僕らの子供の頃はガンは不治の病、でもめったにならない病気というイメージがありました。確かに当時は死因のトップはガンではありませんでした。それが今では日本人の2人に1人がガンになり3人に1人がガンで亡くなるそうです。

どうしてこんな事になってしまったのか？大きな要因と思われていたタバコはいまから45年ほど前のピーク時に比べ喫煙率は大きく下がりました。よって喫煙者とガン患者の数は反比例しているわけです。

勿論、タバコが体に良い訳はありません。肺がんなど一部のガンのリスクを高めるのは間違いのないと思われまます。しかし、喫煙率を減らせばガンになる人も減るとするのは大きな錯覚だった訳です。

では何がガン患者を増やしているのか？ひとつには寿命が延びたことが考えられます。長く生きれば生きるほどガンになるリスクは高まりますからね。しかし、これだけでは説得力が弱いです。

もうひとつ考えられるのはこれもよく言われることですが、食生活の欧米化です。和食より洋食のほうがガンになりやすい食生活なのでしょう。

そしてストレス。貧困を抜け出し、経済発展を遂げ社会が成熟すればするほどストレスは増していくようです。これがいまの段階で考えられるガンを増やした一番の要因かもしれませんね。

最後に意外なところでサプリメントもガンになる確率を高めている要因の可能性があるのであります。ビタミンB群のサプリメントを長期にわたって摂取すると肺がんになるリスクが大幅に高まるという研究データもあるようです。このように体のために良かれと思って実行していることも時としてマイナスに作用することもあるのかもしれません。難しいですね。

いずれにしてもガンを撲滅させることなど夢の夢かも知れませんが、できるだけその方向に持っていくには医療技術を向上させるだけでなく、ガンにかかりにくい生活習慣を見つけ出すことが大切なのだと思います。

草食化は若者の知恵

草食系の若者をテーマにしたNHKの討論番組を見ました。

これまで僕は草食系に対してどちらかというと否定的でした。出世にはこだわらない。お金は暮らせるだけあればいい。物欲がない。酒も飲まない。行動範囲が狭い。1マイル族とかいう呼ばれ方がありますよね。

結構、僕の生き方に似ています。でも僕の場合は好きでそうしている訳ではなく、パニック障害という病気を抱えているため仕方なく草食で我慢せざるを得ない面があります。若者ならもっと思い切った生き方をすればいいのにと感じていました。

しかし今日の討論番組を見る限り、彼らの生き方は悪くない。むしろ理にかなっているのではないかとさえ思いました。これまで僕は「ナンバーワンでなくオンリーワンになりたい」という言葉は逃げだと思っていました。でも本当にそうでしょうか。1番を目指すことがそんなに大事でしょうか。勿論、トップアスリートなど勝負の世界で生きる人は別です。しかし、一般の人がそこまでストイックになる必要などないように思えてきました。

当然のことですけど草食系とひとくくりにされている若者の中にも10人に1人や2人は上昇志向の強い肉食系もいるはずです。彼らは彼らで上を目指せばいいし、それ以外の若者は仕事よりも趣味やプライベートの時間を大切にする。このほうが僕らの世代やさらに上の世代の「とにかく上を目指せ」よりもいまの日本の状況を考えれば理にかなっているような気がします。

一人当たりのGDPは日本は19位まで下落したそうです。これは20代の若者にはまったく責任はなく、ナンバーワンを目指し、努力根性でやってきた30代以上が残した結果です。もはやそのような旧来の考え方では限界が来ているような気がします。個人レベルの話ではなく国として。

人口の少ない20代以下の世代が上の世代の生き方をなぞっても当然、国力は落ちていきますし、幸福にはなれません。若者たちの草食化はこれからの時代を生き抜くための優れた知恵なのかもしれません。

日本代表に川口が選出される

昨日、サッカー日本代表が発表されました。私が最も嬉しかったのは川口能活選手が3人目のGKとして選ばれたことです。

私の中では日本の守護神は今でも川口です。あのアトランタオリンピックでのブラジル戦。ブラジルの猛攻を何度もファインセーブでゴールを守り奇跡的な勝利を呼び込んだ試合は鮮烈な記憶です。あれから14年が過ぎたんですね。

今回のW杯では精神的支柱としての役割が期待されていますが、ピッチに立ち、声をからしながらゴールを死守する川口本来の姿もみたいものです。

沢木耕太郎の「パーマネット野ばら」菅野美穂の評価

朝日新聞5月11日の朝刊で沢木耕太郎さんがまもなく公開される映画「パーマネット野ばら」について語っています。

沢木さんによれば映画の最後の最後に「消える魔球のような驚き」があるそうです。

「わたし・・・」

それに続く主人公であるなおこの一言から世界が一瞬にして変わると語っています。

沢木さんは主演の菅野美穂に関しては「彼女が本来持っている透明さだけではない、微妙な曖昧さを感じ取れる。その曖昧さこそこの映画の重要な要素であり、彼女の演技の確かさが理解できる」と菅野さんの演技をたたえています。

菅野さんもあからさまに絶賛されるより、こうした評価のほうが嬉しいんじゃないですかね。まして沢木さんに評価されたわけですから。彼女の映画での代表作になる予感がします。

ウィキペディアからみるパニック障害

パニック障害についてざっとウィキペディアに目を通しました。

1つのポイントは心の病と考えるより脳機能障害として扱われているのが最近の傾向だそうです。将来的にひょっとしたら精神科や心療内科などから独立するかもしれません。早くパニック障害の真実を発見してほしい。発見できれば画期的な治療法も見つかるのではないのでしょうか。そしてその治療法がどこの病院でも常識になるような時代になればいいです

ちなみにパニック障害の著名人は秋山準、中川剛、小谷野栄一、藤田伸二、田中美里、長島一茂、安西ひろこ、大場久美子、I K K O、堂本剛、円広志など。性格的にも体格的にもバラバラな感じですが、うつ病は真面目で几帳面な人に多いというのは良く聞きますが、もしパニック障害が心の病というより脳機能障害であるとすれば、性格などがバラバラなのもうなずけます。

日経エンタが菅野人気を分析

日経エンタテイメント6月号で菅野美穂が女性から支持される理由を検証しています。

日経エンタによると菅野さんが20代、30代の働く女性に人気が高い理由は2つあると記しています。

1つは女優でありながら親しみを感じさせること。メールや電話で愚痴が言える親友タイプと分析されています。菅野さんのデビューは93年、15歳の時。「つまりいまの20代、30代は彼女のことをセーラー服時代から知っていて、ここまで紆余曲折を乗り越え頑張ってきた菅野さんを自分の中高生時代からの伴走者にとらえているのではないか」との事です。

もう1つは一生懸命の人柄。菅野さんは気取りがなく、ややもすれば自分をオチに持ってきて笑いを取るなど現場を盛り上げる。以前、某テレビ局関係者が（菅野が）本当に一生懸命なので菅ちゃんのためにいいドラマを作ってヒットさせようとスタッフが一丸となれる、と語っていた。

この2つを挙げ、最後にこう結論付けています。「不安を抱える女性たちに、アネゴ的にハッパをかけるのではなく、そのまま大丈夫だよと言ってくれる伴走者、寄り添い型であることが菅野が同世代の指示を集める理由」と結論付けている。

ちなみにタレントパワー得点というデータでは、全世代の女性から支持が高く、男性も30代では綾瀬はるか、仲間由紀恵を上回り1位だったそうです。最近、女性人気ばかりクローズアップされますが、やはり男性人気も高いんですね。女優である以上、菅野さんにはこれからも男性を魅了する存在でもあってほしいです。

私の著書がAmazon闘病記部門で13位に

政治の方は大変なことになりましたね。次期総理は誰になるんでしょうか？

さて話はまったく個人的なことに変わりますが、私の著書「僕とパニック障害の20年戦争」がアマゾンの闘病記ランキングで13位まで上昇しました。もう多少、順位は下がっていると思いますが。

これまでも20位ぐらいまではあったとは記憶しているんですが、ここまで上昇したのはおそらく初めてです。その要因はやはり「なか見検索」の機能がついたことが大きいと思います。ほんの数ページですが、まったく内容が分からないために購入するのをためらっていた方が何となく続きを読みたいと思ってくれた可能性はありますね。

この調子が続けばいいのですが。どうかな？

松坂150勝。そして松井は・・・

レッドソックスの松坂投手が日米通算150勝を達成しました。最近は良かったり悪かったりというイメージの松坂投手ですが、この若さでの達成はやはり凄いです。

ただ、これは松井選手も語っていましたが、日米通算というのはあくまで参考記録に過ぎません。松坂君には次は大リーグ100勝を目指して頑張ってもらいたいものです。

そして松井。6月に入り、2試合連続3安打、10打席連続出塁とようやく調子を上げてきました。現在9本塁打ですが、6月中に14、5本まで持ってこれればまだまだ40本の可能性は十分あると思います。夏場に強い男ですから今年こそやってくれるのではないかと期待しています。

菅野美穂作品の個人的評価

菅野美穂の過去の作品を自分の好みで評価してみます。

エコエコアザラク	作品B	魅力A
イグアナの娘	作品A	魅力A
君の手がささやいている第1章	作品A	魅力A
催眠	作品B	魅力B
恋の奇跡	作品B	魅力A
愛をください	作品B	魅力A
ちゅらさん	作品A	魅力A
ドールズ	作品C	魅力B
幸福の王子	作品B	魅力A
愛し君へ	作品A	魅力A
あいのうた	作品B	魅力A
わたしたちの教科書	作品B	魅力C
働きマン	作品B	魅力C
キイナ	作品B	魅力B
曲げられない女	作品B	魅力B
坂の上の雲	作品B	魅力B

個人的にはおおよそこんな感じですが。魅力というのは菅野さんの演技やビジュアルを含めて持ち味が出ていたかを基準に評価しました。

こうして見ていくと前期の菅野さんには満足していてわたしたちの教科書、働きマンあたりがど
ん底でキイナあたりからまた少し良くなってきたように自分は感じているんだなあと思います。
これが働きマン的な菅野さんに魅力を感じる人は僕とまったく逆の評価になるかもしれません。
まあ、それは人それぞれということで。

勿論、坂の上の雲はまだ途中ですし、映画も公開中です。これから菅野美穂にしかない魅力に出
会えることを期待しています。

岡田ジャパン好発進

岡田ジャパンがやってくれました。見事に不屈のライオン・カメルーンを手なづけましたね。僕は岡田監督をあまり評価していませんが、選手は勿論、岡田さんも含めて戦っている、勝負している時の日本人の顔って格好いいですね。

やっぱりひとつのポイントは本田をワントップで使ったことでしょうか。この布陣を見た時はフォワードでもない選手に点を取ることを求めて大丈夫なのか？せめて森本あたりを使ってツートップにしたらどうかなどと思ったものですが、結果的には正解でしたね。

それにしても本田は雰囲気を持っています。自己主張も強く、守り重視の岡田さんの下でも「守りはやらない」ときっぱり言い放ったそうです。僕がかねてから岡田監督はディフェンシブすぎると考えていたので本田君が正しいとは思っていましたが、岡田監督にしてみれば心中穏やかではなかったでしょう。それでも彼を使わざるを得なかったわけです。

まあ、ともかく視聴率も関東では45%と久しぶりにサッカーが脚光を浴びましたね。やっぱりワールドカップは別格です。僕みたいな子供の頃から野球ばかり見ていたにわかファンでも瞬きするのを忘れるぐらいの気持ちで見えていましたから。次のオランダ戦も期待しています。時間帯もいいらしいですし50パーセント超えるかな。

ある看護師の死

今朝、出かける前、いつものようになにげなくテレビを見ていました。がん患者の女性を取り上げていました。ぼんやり見続けていると「がけっぷちナースーがんとともに生きる」という本を自費出版したという話になりました。「がけっぷちナース」という言葉に見覚えがありました。僕が闘病記を出版したためアマゾンなどでその分野を見ることが多くなりました。そこで何度か目にしていたんです。

この女性は看護師をしながら乳がんと闘っていました。やがて乳がんは様々な場所に転移していきます。余命半年と宣告されながらも彼女は前向きに生きていきます。愛する人と結婚式も挙げました。仕事も意欲的に続けていました。

彼女の「いろいろな人と出会いたい」「幸せです」という言葉が印象に残りました。

しかし、彼女に病魔は容赦なく襲いかかりました。そして36歳の若さで彼女は帰らぬ人となりました。

僕は彼女の言葉を思い返しました。「いろんな人と出会いたい」「幸せです」。パニック障害の僕にとっては行動範囲を広げる、多くの人と出会うというのは至難です。「幸せ」という言葉も僕には無縁でした。しかし彼女は厳しい状況にありながらもこれらの言葉を口にしたのです。

昔、目的を失っている若者の生き方がある学者は「終わりなき日常」という言葉で表現しました。しかし人間、いつかは死にます。遅かれ早かれ終わります。もし、僕がいま死んだら後悔しか残らないでしょう。決して簡単なことではないけれど、人生を少しでも充実したものにしなければと思いました。

安全地帯復活

フジテレビの「とくダネ！」に安全地帯が出演していました。

玉置さんが何かと世間を騒がせているようですが、僕らの世代にとって安全地帯は強いインパクトを与えたバンドです。

中学生の頃、路地裏にあった小さな店によく安全地帯のカセットを借りに行き、それをダビングして友達と聞いていました。まだCDが世に出る前ですからね（笑）

今日のライブで歌ったのは「ワインレッドの心」「恋の予感」「悲しみにさよなら」。どれも懐かしい匂いがします。新曲の「オレンジ」もなかなか切なくていい曲ですね。

松井メジャー通算150号

松井がようやくやってくれました。松井といってもサッカーの松井ではなく野球のゴジラです。最近、めっきり影が薄いですからね。

今季10本目のホームランはメジャー通算150号。8年目での到達はやや時間がかかりましたが、ケガもありましたし仕方ない面もあります。

それにしてもようやく10号とはペースが上がりませんね。今シーズンは40本を期待していましたが30本に下方修正せざるを得ません。

通算記録に話は戻りますが、まずはメジャー200号は来シーズンにはクリアしてほしいです。そして究極的には300本塁打を目指してほしい。現在36歳ですからあと5年頑張って30本平均で打てば届く数字です。このあたりの数字をクリアした時はじめて「松井はメジャーに行って正解だったね」というファンの声が聞こえてくるのではないのでしょうか。

ギルティ・結婚したい有名人ランキング

10月12日に菅野美穂主演の「ギルティ」がスタートしました。内容的には初回からここまで踏み込んでしまってあとが続くのかなと心配になりますが、なかなか良かったと思います。

菅野さんの演技について少し触れます。昔もそうだったけれど菅野さんの悪女役は人間の本性のようなものに迫っていると思います。優しい顔をしながら本当は悪い奴を演じるのは役者としてそれほど難しくはなく、良くあるパターンです。ただ菅野さんの場合は偽善者ではなく、動物を愛する優しさも本物だし、冷酷な部分も本物なんですよ。そこに説得力を持たせるだけの演技ができる菅野美穂はやはり稀有な女優だと思います。

最近、気になるランキングを見ました。オリコンだったような気がするんですが、結婚したい有名人ランキングが掲載されていました。男性芸能人は向井君や福山さんなど20代から40代まで幅広くランクインしていました。

ところが、というかやはりというべきか女性芸能人のランキングは5位の菅野美穂を除いてはすべて20代、いやもしかしたら10代もいたかもしれません。しかも上はせいぜい25歳までといった具合です。

ちなみに1位は綾瀬はるか。僕も「世界の中心で愛を叫ぶ」で彼女に注目し始めて、このブログでも何度か書いていると思うんですが、最近の綾瀬人気は凄いですね。適齢期でもあり、癒し系でもある彼女が1位なのは納得です。女性にも好かれるタイプですからそういう意味ではポスト菅野美穂かもしれません。

綾瀬さんの最も好きなドラマは「イグアナの娘」。菅野さんが主演でした。当時菅野美穂18歳、綾瀬はるか11歳。小学6年生という多感な時期に心を揺さぶられたドラマに出会った影響は計り知れないと思います。いまや20代30代を代表する好感度女優の2人の意外なつながりですね。

僕が注目しているもう1人の若手女優の堀北真希は7位。もう少し頑張れホリキタ（笑）でも彼女は不思議と昭和が似合います。こないだの「世にも奇妙な物語」でも好演していました。決して表情豊かなタイプではないと思いますが、若手正統派女優と言っているのではないのでしょうか。

意外だったのは仲間由紀恵が入っていなかったことです。3年前なら考えられなかったと思います。国民的女優といわれる仲間さんでさえ30才の壁は大きかったようです。男はいつの時代も若い女性を求めるといえるのでしょうか。最近16, 17歳差カップルが目立ちますが、ある

意味、正直な生き方をしているのかもしれないね。

北川恵子のブログはなかなかいい

今日からNHKのスペシャルドラマ「坂の上の雲」の再放送が始まりました。今年もいよいよ押し迫って来たようです。

最近、気に入っているブログがあります。女優の北川景子のブログなのですが、若い女性らしからぬところが意外でした。もっと絵文字とかを多用したありがちなものを想像していたのですが、非常にしっかりとした文章で埋められています。またたまに見かける誤字も好感が持てます。それこそ彼女自身が書いている証拠ですから。

北川さんの文章から受けた印象は誠実な人柄です。彼女は真面目ですね。仕事に取り組む姿勢も立派なものです。それにとにかく読書が好きみたいですね。生きている間に「1冊でも多く本を読みたい」と書いていました。僕は本を読むのが遅いですし、苦手なので羨ましいです。

今のところ北川さんはどちらかといえば人気先行で演技の評価はあまり高くない印象ですし、これといった代表作も思い浮かびません。しかし、現場のスタッフを大切にしたり常に感謝の心を忘れない彼女の姿勢が変わらない限り、いずれ大きな花が開くのではないのでしょうか。

「坂の上の雲」 第二部スタート

NHKのスペシャルドラマ「坂の上の雲」の第二部が今夜から始まりました。

やはり重厚で良質な作品ですね。内容もキャストも素晴らしいです。見ごたえがある反面、視聴者の体力も試されているようです。

今日、印象に残ったのは子規の創作に対する凄まじい意欲です。死を目前にしながらも子規の命の炎は燃え滾っています。何か教えられているような気がしました。

明治の人々は凄かったと偉大な作家が昭和の時代の人々に伝え、そして21世紀の今、ドラマという形でキャスト、スタッフが一体になって現代の日本人に伝えています。僕らが生きている平成という時代は22世紀に本や映像によってどう描かれるのでしょうか？

来週はいよいよ「子規の死」です。子規の妹を熱演している菅野さんの演技にも期待しています。

「坂の上の雲」 第7回

「坂の上の雲」 第7回、観ました。

「じゅんさんの世界は広い、わしの世界は深い」

「あにさんが死んでせいせいしとる」

今日は特に子規と律ですね。香川さんのストイックな演技、菅野さんのどこまでも澄み渡った演技。素晴らしかったです。母親役の原田さんも含めて明治時代の美しい家族を再現していたように思います。

本木さん演じる真之も子規の死は大きな失望感があったはずですが。しかし彼が何よりも律の心情を思いやっていたのも印象的です。

ここまで物語の大きな核だった真之、子規、律の友情や愛情も今日で一区切りです。次回からは阿部さん演じる好古と真之、広瀬をはじめとした軍人、政治家が中心になっていくと思われます。今後も期待したいですね。欲を言えば、せっかくの力作だけにもっと多くの方が観てくれればいいのですが・・・

「痴人の愛」と「潮騒」

僕の店はお茶やコーヒー豆のほかに古本も扱っています。規模は小さいですがそれでも数千冊はあります。本好きの人にはたまらない環境でしょうが、僕はそれほど本が好きではないし、しかもここ4年近く原因不明の強い眠気やだるさがあり、かといってどっしり腰を下ろすほどの余裕はありません。

しかしこの1ヶ月ほどで2冊の本を読みました。谷崎潤一郎の「痴人の愛」と三島由紀夫の「潮騒」です。

「痴人の愛」は主人公の男がナオミという少女を自分の理想の女性に育てようとするのですが、思うようにはいかず結局ナオミの奔放さに振り回される話です。「潮騒」は男らしく無口な主人公の新治と初江の純愛です。

対照的なのは女性像で「痴人の愛」は大正時代、「潮騒」は昭和20年代だと思いますが、「痴人の愛」のナオミの方が現代的で「潮騒」の初江は古風です。この逆転現象は「痴人の愛」の舞台は都会で潮騒は人口千数百人の小さな島である事と小説を書いた当時の谷崎と三島の心情によるものでしょう。

どちらの作品もこれまでに何度も映画化され、「潮騒」は僕も観ていると思うのですが、今もし映画化するなら「痴人の愛」のナオミは少し前なら沢尻エリカ、今なら黒木メイサあたりが似合いそうです。「潮騒」の初江は堀北真希のような清純派女優がいいですね。

まあ、たまにはこうした文豪の作品を読んでも悪くなかったです。

「ギルティー」最終回

ギルティー最終回、見終わりました。主人公の芽衣子は悪女ではなく悪魔と契約した女なんですよ。そこを菅野さんは忠実に演じていました。やっぱりあのペットショップのオーナー、事件に絡んでましたね。それにしてもちょっと唐突だった気はします。

玉木さん、唐沢さんもドラマをよく引き立てていたと思います。玉木さんのこれまでと違った野性味のある演技、なかなかよかったです。唐沢さんが演じた表向きはいい加減でとにかくスクープ至上主義だけれど、本質は正義感の強い真のジャーナリスト魂をもった堂島も好きでした。

今日の最終回は芽衣子の悔しさ、喜び、哀しみが沢山詰まっていました。女優・菅野美穂は卓越した演技力でそれらを増幅させました。悲しい女ではあったけれど、最後は母親に心から娘として受け入れられ、真島の胸の中で死ねたことにおいては幸福だったと思います。

2010年の視聴率女王は？

昨日で坂の上の雲などを除き、連続ドラマも終わりましたね。2010年の女優主演ドラマの視聴率ベスト3を挙げてみます。

1. 綾瀬はるか 「ホタルノヒカリ2」 15.4%
2. 菅野美穂 「曲げられない女」 14.6%
3. 黒木瞳 「同窓会」 14.5%

菅野さんを抑え綾瀬さんがトップでした。唯一の15%越えです。いまの15%は一昔前の20%の価値がありますからね。たいしたものですよ。ドラマの視聴率はキャストより脚本が大事だとは思いますが。良質な脚本というより見やすい物語が今は主流のようです。ホタルノヒカリも良質というよりそういったドラマでした。

しかしかにか脚本が大事とはいってもキャストが視聴率と全く無関係とはいえないと思われます。全盛期の木村拓哉は10%位視聴率を上げる力を持っていたのではないのでしょうか。現在の女優でも人気のある人とない人では同じドラマであっても2~3%は違うでしょうね。少なくとも綾瀬さんもそのくらいの力はあると思います。

ではこのまま数字の上では綾瀬はるかの時代に入るのかといえば、それはまだ微妙です。昔は綾瀬さん位の年齢がドラマ女優のピークでした。しかし、時代は変わりました。

数年前、視聴率女優の松嶋菜々子がドラマの仕事をセーブするようになり、仲間由紀恵、伊東美咲らが台頭しました。しかし時代は、彼女たちを視聴率の女王に選びませんでした。そのポジションに就いたのは松嶋さんと同い年の篠原涼子でした。

何故この世代が強いのかといえば1970年代前半生まれの人口が多いためと思われます。同世代の女性たちは松嶋さんや篠原さんに自分の人生や生活を重ねやすいでしょう。そういう意味では1970年代後半生まれの仲間さんや伊東さん、それに菅野さんや松たか子さんも少しづれがあります。ましてや綾瀬さんは1985年生まれと10歳以上の開きがあります。

その上、このランキングでも3位にはいますが、「同窓会」は40代の恋愛を描いたドラマだったと聞いています。話題になったNHKドラマ「セカンドバージン」も40代女性が熱心に見ていたのではないかと想像します。

つまりドラマの世界にも高齢化の波が押し寄せているんです。これからもますますこの傾向は強まっていくでしょう。そこをどう綾瀬さんをはじめ、上戸彩、北川景子らが乗り越えていくの

か注目です。やっぱり男性としては若い女優が出てくれないと楽しみが減ってしまいますからね。頑張してほしいものです。勿論、ドラマ女優としてはベテランの域に入りつつある菅野さんや仲間さんにももうひと踏ん張りを期待してます。

今年の紅白は見るに値する

明日まで仕事です。いつもより少し早く店を閉める予定です。帰ったら紅白でも見ようと思います。

今年はなかなか話題が多いですね。「トイレの神様」は久しぶりに若者からお年寄りまで幅広く支持される曲ではないでしょうか。流行語大賞の「ゲゲゲの女房」の出演者もフル稼働しそうです。

また今年の顔ともいえる福山雅治も中継とはいえ出場しますし、今年CD売り上げの上位を独占したAKB48と嵐が揃って出場するのも意義がありますね。90年代以降、売り上げ上位の歌手はなかなか出場しないことが多かったですから。

そして何といっても特別出演の桑田佳祐。桑田さんの元気な姿を早く見たいですね。

明日は仕事のち風呂のち紅白の予定ですからこれが今年最後の更新になるかもしれません。ブログを読んでいただいた方々、本当に有難うございました。皆様、よいお年を！

菅野、キイナで好発進

お久しぶりです。どれだけブログを更新できるかは分かりませんが、今年もよろしくお願ひします。

さて、1月スタートの連続ドラマですが、日テレ、水曜10時の「キイナ 不可能犯罪捜査官」が好スタートを切りました。

僕の視聴率予想は「特命リサーチ」や「世界仰天ニュース」という人気番組の力や、菅野さんの同性人気が上手くかみ合えば15, 6%。しかし、裏番組の強さ、最近の水10ドラマの数字の伸び悩みを考えれば、10%前後もありうると思っていました。

そして、いざふたを開けてみたら16%台の高視聴率。数字的には最高のスタートだと思います。二話目も15%を維持しましたね。

しかし、菅野ファンの僕とすれば、それだけでは喜べません。菅野さんがどれだけ役にはまっているかをつぶさに見ていました。なかなか良いんじゃないでしょうか。キイナのあのホワンとした雰囲気や上手く出していると思います。少なくとも「私たちの教科書」「働きマン」のように無理してるようには見えません。

まだ何ともいえませんが、もしキイナが高視聴率を維持した場合、菅野さんは日テレのエース的な存在になるでしょう。篠原涼子も近々復帰するだろうし、そうなると日テレ水10は篠原さんと菅野さんを使い回していく可能性はありますね。

それにしても菅野さんは、人気、実力を兼ね備えた女優でしたが、これまであまり視聴率には縁がなかった。しかし、今回のキイナで高視聴率を維持すれば、人気、実力、視聴率の三拍子がそろいます。こんな女優はめったにいないと思います。まあ、ちょっと欲張りすぎですけどね。

デパス

今日、病院へ行ってきました。床屋で辛かったことや、緊張感が取れない、神経が過敏になっていることなどを話したら、デパスという薬を頓服として出されました。筋肉を弛緩する作用があるので、あまり老人などには使用しないそうです。10日分しかもらっていませんが、試してみたい気持ちはあります。

それにしても行き帰りの自転車はこたえます。15分ぐらいの距離なのですが。

カンノとナンノ

日本テレビの連続ドラマ「キイナ」で二人の女優が対峙しているのを僕は感慨深く見ていました。二人の女優とは主演の菅野美穂とゲスト出演の南野陽子。ミナミノというより僕の中ではナンノです。ナンノもカンノも10代のころからアイドル女優として一時代を築きました。

特にナンノは当時、ものすごく人気がありましたね。僕は特別、好きな訳ではなかったけど、ニッポン放送の深夜ラジオを聴いていたのをよく覚えています。

歌もよかった。「さよならのめまい」「話しかけたかった」「吐息でネット」などなど。昭和末期の光景が鮮やかによみがえります。

ナンノが18歳で「スケバン刑事II」で一世を風靡してから10年後、18歳の菅野美穂が「イグアナの娘」で見事な演技を見せました。二人はちょうど10歳違うんですね。

ナンノとカンノの顔を見ていると、二人ともそれなりに年を重ねてきたのだなあと思いました。ナンノは40歳を過ぎ、カンノは30歳を過ぎた事を実感しました。ナンノカンノいっても、時の流れには勝てません。

新たな薬

今日、病院へ行ってきました。

朝、目覚めてもなかなか起きられない事を伝えたら、これまでのルボックスという薬を減らしてジェイゾロフトという薬をもらいました。

ジェイゾロフトはルボックスと比べて眠気が出にくく、またパニック障害にも応用されるそうです。早速、今夜から飲んでみようと思います。

松村さん . . .

WBCの日本の優勝、やってくれましたね。僕はテレビでは見れず、ラジオで聴いていました。仕事などで見れなかった人も多いはず。あの人もどれだけ見たかっただろうか。

東京マラソンの最中、松村邦洋さんは倒れました。心肺停止。その後意識は取り戻したようですが、まだ不安定な状態が続いているそうです。

天才的なものまね芸、大の阪神ファン、歴史オタク、金八マニア。どんな松村さんも大好きです。ラジオのオールナイトニッポンも好きでした。僕がよく聴いていたのは14, 5年前だと思います。確か水曜日だったかなあ。普段と違う松村さんのちょっとブラックなところが良かったです。

善人ほど早く死ぬというけれど、まだ早すぎるよ、松ちゃん。出来る事なら後遺症も残らず、元気な姿をまた見たいです。それまではゆっくり充電してください。待ってるからね。

腹が痛くなり . . .

今日は久しぶりに床屋へ行ってきました。何とかうまく乗り切れたかなあと思います。

2週間ほど前、夕食中に腹が痛くなり、しばらく痛みに耐えていたんですが、ついに耐え切れず、夜中、病院に連絡しました。しかし取り合ってもらえず、結局、救急車を呼ぶことに。程なく救急車は到着しましたが、なかなか受け入れてくれる病院は見つかりません。その間、僕は痛みに耐えるしかありませんでした。

検査の結果は腎臓結石。4年ほど前にもこの病気で入院しているので、石がしやすい体質なのかもしれません。とりあえず今は普通に生活しています。

しかし、病院の受け入れ拒否は何とかしてほしいですね。患者は一刻も早く、痛みや苦しみから解放されたいわけですから。妊婦のたらいまわしの話も良く聞きます。国はこうした現実に早急に対応すべきです。

少し不安

今日は4週間ぶりに病院へ行ってきました。

朝起きられず、日中もだるくて眠いと言ったら、抗不安薬を少し減らされました。

2, 3ヶ月前にソラナックスという薬を飲み始めてから、不安感や緊張感が少し改善されていたので、また悪化しないか少し心配です。

今日は46年ぶりに皆既日食だったんですね。丁度、病院に着いた頃かな。空を見る余裕もなかったです。

やったね、ゴジラ

Yankeesの松井がやってくれました。休養のA・ロッドに変わり4番・DHで出場。5打数4安打5打点2ホームー。これぞ松井ですね。

ホームランの数も19本まで伸びました。一気に20本台に乗せて30本を目指してほしいです。打率は2割6,7分にかまいません。やはり松井にはホームランが良く似合います。

新政権は自殺対策を

先の衆議院選挙は民主党が300を越える議席を獲得するという圧勝に終わりました。4年前の選挙とはまったく逆のオセロゲームのような展開になったわけですが、これも小選挙区制度の怖さですね。

さて新政権は景気対策、少子高齢化対策、また社民党との連立になりますから、外交政策をどうまとめていけるかが当面の課題だと思います。

個人的にもうひとつ新政権に力を入れてほしいのは自殺対策です。一昔前は交通事故死が年間1万人、自殺者はその2倍、つまり2万人というのが、おおよその数でした。

しかし、ここ10年、自殺者の数は激増し、3万人を下らなくなりました。自殺か病死かはっきりしない人を加えればさらにその数は増えるだろうし、自殺予備軍は実際の数の数倍、あるいは数十倍ということになると考えられます。

自殺大国となってしまったわが国、日本。生活水準が低くても心が豊かな国と、経済大国ではあるけれど、心が貧しい国。一体どちらがいいのか考えさせられます。

民主党を中心とした新政権には早急にこの問題に本腰を入れてほしいです。勿論、政治ですべての自殺が食い止められるわけではないけれど、もし半減させることができれば、今、この国を覆う閉塞感もかなり改善されると思います。

世界仰天ニュースで

日テレ系の「世界仰天ニュース」を見ていたら、中川家の兄、剛さんのパニック障害との闘いを取り上げていました。

彼がパニック障害であったことは知っていたんですが、思ったより症状が深刻でしたね。電車や美容室は勿論のこと、会議中やエレベーターなどでも頻繁に発作に襲われていたようです。

パニック障害を背負いながら芸能界という荒波で生きていくのは大変なことだったと思います。剛さんの回復で忘れてはならないのは、弟の礼二さんや周囲の人々の理解ですね。特に相方の礼二さんとは兄弟だったからこそ、コンビを継続できたのでしょう。剛さんも大変だったけど、礼二さんも一緒に電車やエレベーターに乗ってあげたり、粘り強く兄に付き合い続けた姿勢は素晴らしいと思います。

これからも無理せず、自分のペースで芸能活動を続けて行って欲しいですね。

イチロー、武豊、羽生 若き天才たちの15年後

イチローがオリックス入団3年目に大ブレイクしたのが1994年。武豊、羽生善治を加えた3人は当時、スランプ知らずの天才と賞賛された。あれから15年の歳月が流れた。

イチローはWBC決勝の韓国戦での決勝打に始まり、体調不良で出遅れながら大リーグ通算2000本安打、そして9年連続となる200本安打を悠々と達成し、イチロー健在を強く印象づけた1年となった。

武豊は今年は苦戦が続いている。ようやく100勝には届いたものの現在リーディング争いではトップと12勝差の2位というポジションである。

40歳となった天才ジョッキーに陰りが見えてきたのだろうか。

羽生善治は昨期の竜王戦で渡辺明に3連勝して永世七冠に王手をかけながら、そこからまさかの4連敗で奪取に失敗した。その影響からか今季は17勝12敗と勝率6割に満たない。7割がノルマの羽生にしてはやや苦戦の数字といえる。

しかし今期名人戦で挑戦者の郷田真隆を退け、先の王座戦でも山崎隆之を3連勝のストレートで防衛するなど要所では貫禄を示している。

天才たちにもやがて老いが忍び寄るだろう。それもそう遠い日ではなかろう。その宿命とこの3人がどのように向き合っていくのか。戦っていくのか。むしろこれから勝負師としての生き様が試されているのかもしれない。

床屋へ

いま、10分1000円のカット屋へ行ってきました。

多少、胃の不快感や気分の悪さはありませんでしたが、何とか乗り切ることができました。仕上がり具合が自分の思ったより髪が長めだったのですが、とにかく帰りたかったので余計なことは言いませんでした。本当ならもっと短髪にして、できるだけ次に床屋へ行くまでの間隔をあけたかったのですが。

それでもまあ、今年はまだ行く気はないですけど(笑)

よく聴くラジオ

店番をしている時はよくラジオを聴いています。

月曜から金曜までは大体同じパターンです。午後1時から「テリーとたい平のってけラジオ」。3時半からは「荒川強啓デイキャッチ」。

「テリーとたい平のってけラジオ」は1時台はテリーさんが世の中の話題になっていることについて独自の視点で話します。2時台はゲストとのトークがメインコーナー。3時台は商店街と中継で結んだりその日によって色々で、最後は「今日の日が記念日」というコーナーで閉めます。テリーさんのカツゼツの悪さをたい平さんが上手くフォローしているようです。

この番組が休みだったり、イマイチの時は「大竹まことゴールデンラジオ」に流れます。この番組は曜日によって女性アシスタントが変わります。大竹さんは美声ですからそういった意味では聞きやすいのですが政治の話が多いので、政治、スポーツ、芸能と色々な話が聞けるのってけラジオの方を聴くことが多いです。テリー時々大竹という感じでしょうか。

テレビでのテリーさんは過激な発言、大竹さんはこわもてという印象がありますが、ラジオでは少し違います。お二人ともリスナーや世間に対する優しさが端々で感じられます。ラジオの方が本音が出やすいのかもしれませんが。

3時半からはTBSに移動して「荒川強啓デイキャッチ」。メインは4時からの日替わりコメンテーターを交えてのニュースランキング。政権交代前はどちらかというと民主党よりの番組だったのですが、最近は少し趣が変わってきたようですね。与党になったからには民主党にも厳しい目を向けざるを得なくなったのではないのでしょうか。ちなみに僕の好きなコメンテーターは宮台真司氏ですかね。少々、理屈っぽいですけど。(笑)

それと金曜日だけ、ニッポン放送で午前11時半から始まる「ラジオビバリー昼ズ」を聴いています。金曜は松村邦洋さんがレギュラー出演しているからです。最近は巨人でブレイク中のオビスポの物真似をよくします。ゾマホンにしか聞こえないんですけどね。(笑)

土曜日は午前10時から「久保純子のライオンミュージックサタデー」から始まります。毎週テーマを絞ってベスト5を発表していきます。聞いている年代は30代から40代が多いようです。大体ランキングを見れば分かります。

それとこの番組、どうも生放送ではないようなんです。クボジュンの都合はあるかもしれないけれど、やはりラジオは生がいいですね。

11時から春までは「吉井歌奈子ミュージックトリップ」という音楽番組を聴いていたのですが、残念ながら終わってしまったので、今は「アッコのいいかげんに1000回」を聞いています。あと5回ほどで本当に1000回を迎えるそうです。

午後1時から「久米宏ラジオなんですけど」。久米さんはテレビで見ると歳月の流れを感じさせるけど、声と歯切れのよさは昔と変わりませんね。

日曜は11時ごろから「三宅裕司のサンデーハッピーパラダイス」を聴いています。確かこの番組、最新の音楽チャートを発表していたのですが、時代の流れからかいつの間にか消滅したようです。昔、「三宅裕司のヤングパラダイス」という番組のリスナーだった僕としては三宅さんの素朴な語り口が懐かしいです。

午後1時から「爆笑問題の日曜サンデー」。アシスタントは友近。相変わらず、暴走する太田さんを田中さんが止めるという展開ですが、27人の証言というコーナーでは太田さんの博識ぶりに凄いなあと感心させられることもあります。

大体、一週間の流れはこんな感じですね。10代のころは夜のリスナーだったのですが、今ではすっかり昼のリスナーになりました。時に眠気に耐えながら、時に不安や緊張感に耐えながらラジオを聴いています。欠かせない友といっても過言ではないかもしれません。

日本の野球はもっと出塁率を重視すべき

少し前の話になりますが、今年のプロ野球のMVPはセリーグがラミレス、パリーグがダルビッシュが受賞しました。

もはや日本のエースともいえるダルビッシュは文句なしだと思います。ラミレスにしても1年を通して4番の重責を担い、首位打者を獲得するなど安定した成績を残したのでこれも異論はなかったんです。

しかし、先ほどOPS、つまり出塁率+長打率の数値がセリーグで最も高かったのが、巨人の同僚である阿部選手で、ラミレス選手はリーグ5位だということを知りました。僕はOPS至上主義者という訳ではありませんが、OPSがホームランや打率などよりもチームへの貢献が高いという事は理解しているつもりです。だからMVPは阿部選手でも良かったのではないかとも思います。

勿論、4番という重責の中でのヒットやホームランは下位打者のそれよりもはるかに価値があります。その点ではラミレス選手の受賞もおかしくはないし、OPSが高く、守備においても、打者有利の東京ドームで防御率2点台という素晴らしい数字に大きく貢献した阿部選手でも文句なしだったのではないのでしょうか。

問題なのは日本の野球が未だにOPS， というよりも出塁率を軽視している事です。最高出塁率というタイトルがありますが、打率、打点、本塁打の下に置かれていて最多安打などと同じ位置です。先ずこれを見直さないといけません。出来るだけ早い時期に現在の打撃三冠と同列に出塁率を扱うべきだと思います。

しかし、残念ながら現状はそういった雰囲気はないですね。出塁率の高い選手こそが最良の選手という認識が根付けば、日本の野球も大きく進歩すると思うのですが。

大晦日

今日は大晦日なので少し店を早く閉めて帰ってきました。

この2009年を何とか乗り越えてこれたことに多少ほっとしている面もありますが、それと同時に時が流れてしまう恐怖感もあります。

僕にとって来年は30代最後の年。最近、30代がいとおしくなりました。30歳になった頃は、ずいぶん年をとってしまったような気がしていたんですが、今にしてみれば30歳なんてまだまだ若いですね。羨ましい。

40歳を目前に控えて、健康も気になります。これまでパニック障害によって特殊なストレスを自らの体にかけてしまったと思います。頭ではそうしたすべての苦しみを記憶している訳ではありませんが、体にはしっかりと刻み込まれていると思います。そうした悪い習慣が一気に噴出してくるのが40代というイメージがあります。

時の流れは過去を美しくしたりもしますが、同時に残酷なものでもありますね。

では、良いお年を

2008年を占う

今年もよろしくお祈りします。私は今日から仕事でしたけど、来週からの人が多いんですかね。学生は8日ごろからですか？

2008年はどんな年になるんでしょう。果たして政権交代はあるのか？私はあるような気がしますね。自民党が、民主党がどうこうというより、国民が今の社会に閉塞感を感じているような気がするんですよ。

強烈な補強をした巨人はやはり優勝するのでしょうか？確率はかなり高いでしょうね。しかし、中日、阪神を中心に何処かがストップをかけてほしいです。まあどちらにしても最後の3試合ですからね。アホらしい。

日本人大リーガーはどうでしょうか。イチローは例年通りやってくれそうです。問題は松井秀、松坂かな。特に松井は奮起して2割8分、30本ぐらい打たないと厳しい状況ですね。

今年はオリンピックイヤーでもあります。注目しているのは女子マラソンですかね。事実上、二人が確定していて、残る切符はあとひとつ。Qチャンに頑張ってもらいたいけど、衰えは隠せませぬね。何とか2時間22分、3分で優勝してもらいたいですけど。

ブレイクする俳優は出てくるでしょうか？俳優はポストキムタクが焦点になりますね。結論から言うとなかなか壁は厚いとは思いますが・・・

女優は昨年、活躍した新垣結衣、堀北真希といった若手女優の勢いが本物なのかが試されますね。しかし、終わってみれば仲間由紀恵の年だったという可能性が高そうです。「ごくせん」がまた放送されるらしいですからね。

宮崎あおい主演の大河「篤姫」はどうか？正直幕末ものは視聴率的には厳しそうですが。平均18%取れたら大したものですね。

薔薇のない花屋

久しぶりに月9なるものを見ました。いい雰囲気 드라마ですね。全体的には静かな立ち上がりでしたけど。

陰のある男性、障害者の女性、かぶりものをした子供、さりげない理屈。いかにも野島さんらしいですね。そのらしさがいい方向へ進んでくれることを期待しています。

それにしても香取君も小学生の父親役が似合う年頃になりましたね。時の流れは速いものです。

今回の芥川賞は川上未映子さんの「乳と卵」に決定しました。

ところでこの人「誰かに似てる」と思ったのですが、即座に気づきました。菅野美穂ですね。「文壇の菅野美穂」と言ったらいいすぎでしょうか。

天才顔ってあるんですかね。川上さんが天才かどうかは知りませんが、芥川賞を受賞するぐらいですから、ただ者ではないんでしょう。

将棋界でも、谷川さん、羽生さん、そしてまだ高校生のホープの豊島君となんとなく顔の系統や雰囲気似ているんですね。

ところで芥川賞に関してですが、綿矢りささんと金原ひとみさんがダブル受賞したあたりから判断基準が変わったんでしょうか？若くて美しい女性が有利なような気がしてなりません。そのうち、しょこたんが「ぎがんと、萌ゆる」で受賞なんてこともありえなくはないかも。

勿論、純文学の世界にスターを作りたい意図はわかります。しかし、やはり権威ある芥川賞ですから実力本位で選んでほしいですね。

中田と清原、新旧怪物の行方

プロ野球のキャンプが始まりました。いよいよ球春到来ですね。

それにしても中田翔は凄い。ヘッドスピードだけなら22年前の清原より上ではないでしょうか。

こうなると注目されるのは中田が清原の高卒ルーキー本塁打記録31本にどこまで迫れるかということです。可能性はゼロではないと思います。あの桁違いのパワーを持ってすれば。

しかし問題は梨田監督がどこまで我慢できるかです。中田に不安があるとすれば打率でしょう。もし低打率にあえいだ場合、それでも使い切るのであれば、かなりのホームラン数は期待できると思います。

一方の清原は背水の陣。もう、ひざの痛みは消えないそうです。おそらく今年が最後のシーズンになるでしょう。

思い出すのは今から22年前の日本シリーズ。清原は19歳の4番打者として西武の日本一に大きく貢献。一方、敗れた広島の大打者、山本浩二は引退を表明しました。

引退前の清原と黄金ルーキーの中田。二人がどんなドラマを見せてくれるのか、楽しみでもあり、また清原ファンとしては覚悟をしなければいけないのかもしれないかもしれませんね。時が古いものを切り捨て、新しいものを選ぶのは、古今東西、世界の決まり事です。

中田選手にはこれから無数の失敗が許されます。どんどん失敗して大きくなってください。ガンバレ中田！ そして・・・がんばれ清原。

卓球界のニューヒロイン

世界卓球女子の団体戦でついに15歳の石川佳純選手が登場しました。試合は惜しくもフルセットの末、敗れてしまいましたが、そんなことよりも彼女のセンスのよさには驚かされました。

左右へ自由自在に打ち分ける技術、あれはリストが柔らかくないと難しいと思います。そしてボールへの反応力。どれをとっても一級品ですね。まだパワーが不足していますが、それも時が解決するでしょう。新しい才能に出くわすということは感動的ですからあります。

まあ、愛ちゃんさえしっかりすればですけど、日本の女子卓球は平野、福原、そして石川で黄金期を迎えそうな気配です。その中でも中心になるのが石川でしょう。彼女なら世界一も夢ではありません。とにかく順調に育ててもらいたいですね。

Qちゃんの今後

Qちゃんが惨敗しました。彼女にとってはジョギングに毛が生えた程度のスローペースのなか、序盤で早々に脱落したということは相当に体調が悪かったのでしょう。

でもQちゃんは立派ですね。レース後も笑顔を消して絶やすことはありませんでした。彼女が多くの人から愛される理由でしょう。

そして現役続行宣言も嬉しかった。確かにQちゃんはかけっこ大好き少女がそのまま大人になったイメージが強いですが、それとは別に人一倍、勝負師としてのプライドは高いはずです。どんな理由があるにせよ、このレースは屈辱的だったにちがいません。

このままでは終われない。もう一度、しっかりとした練習をして、万全な体調でレースに臨み、そして勝つことをQちゃんはすでに考えていると思います。私も彼女の復活を信じています。

エレカシの新曲

エレファントカシマシの新曲「桜の花、舞い上がる道を」は素晴らしい出来だと思います。歌詞はいたってシンプルなのですが、激しくも切ないメロディーにのせて宮本さんが渾身の力で歌うと、その言葉たちが生きてきます。

この曲が大ヒットすることはおそらくないでしょう。しかし聴く者の心に深く刻まれ、未永く生き続けるような予感のする名曲です。それでいてふっと消えてしまうような儚さも併せ持っていますね。まるで桜のようです。

ありがとう、桑田

桑田真澄が引退を表明しました。本当にさびしいですね。僕らの世代にとってKKコンビは特別な存在でした。彼らがPL学園で大活躍していた頃、私は思春期の入り口でした。そして自らの人生に秋を感じるようになったいま、桑田の引退。正直、脱力感がありますね。

ドラフトのいきさつで桑田を憎んだ時期もありました。しかしここ数年は1年でも長く現役を続けてほしいと願っていました。野球の申し子のような男がストイックな鍛錬をしてもなお、時の流れる力に抗うことはできないんですね。

甲子園デビューから四半世紀、お疲れ様でした。あなたを包んだ甲子園のマウンドが眩しいほどに輝いた日々を思い出します。桑田真澄は最高のピッチャーでした。

床屋に行きました

今日、通常の薬プラス頓服薬を飲んで床屋へ行ってきました。比較的、不安も少なくホッとしています。途中、鼻水が垂れてきましたが、これくらいのアクシデントならいいですけどね。

二日後、病院へ行く予定です。前回、薬を増やしたんですが、状態はあまり変わりませんでした。相変わらず、朝が眠さとだるさ、それに精神的な落ち込みが激しいです。自転車に乗ると神経が過敏になってしまう状態も変わりません。パニック障害、あるいはパニック性の鬱にしても規則正しい生活が大切と耳にしたので、早寝早起きを心がけてはいるのですが、なかなか上手くいきません。今日も仕事が休みという事もあり、起床が昼になってしまいました。

とにかく、薬だけでは限界が見えてきたので、生活習慣の改善に取り組もうと思っています。

落ち込んでます

今日は病院へ行きました。危うく睡眠薬をもらいそうになりました。だから慌てて、「むしろ寝すぎてしまうんです」と伝えました。短時間の間に言葉で正確に自分の状態を伝えることは本当に難しいです。

それと今飲んでいる抗鬱薬の量はもうこれ以上は増やせないそうです。そんなに飲んでいるとは知らなかった。うつ病と言われているようなものなんですかね。

昼ごろ店に戻ってきたのですが、なんとなく胃の不快感を感じていたんです。そして夜になり、店を閉めて、自転車で帰ったのですが、調子が悪かったですね。パニック発作の前兆のような症状になりました。明日からは歩いて帰ろうか？。とにかく落ち込んでいます。

人生40歳まで

最近、アラフォーという言葉をよく耳にしますね。40歳前後という意味なんだろうけど、僕は最近思うんですよ。人生、40歳までだと。正確に言えば40までが勝負ということですかね。この年齢までに確固たる物を手に入れていないと残りの人生が苦しくなるように思います。ただでさえ、体の衰えが目立ち始める年齢。ここから新たに何かを手に入れるというのは並大抵なことではないでしょう。

ゴルフの4日間トーナメントに例えると、人生80年として40歳は2日目の終わり。つまり、予選を通過できるかできないかの境目です。人生の予選落ちは避けたいもの。しかし、はっきり言って、今の自分は確固たる物を何一つ手に入れていない状況です。40歳まで残り何年もないけれど、出来る限りのことはしなければいけないかなと思います。

とりあえず薬を減らしてみよう

昨日の夜、薬を飲むのを忘れてしまいました。そのため、なかなか寝付けず、少し寝ただけで朝になってしまいました。でも、かえっていつもよりもすっきりしています。ブログも書いているぐらいですから。

これまで朝昼晩と3度に分けて薬を飲んでいたんですが、今日、実験的に昼を抜いてみようと思います。抗鬱薬も抗不安薬もこれ以上増やせないぐらいに飲んでいるにもかかわらず、相変わらず、自転車にもまともに乗れない状態です。たぶん、薬は効く部分には効いているのかもしれないけど、効かない部分にはまったく効かないんでしょう。

必要以上に薬に頼るのは止めようと考えています。勿論、薬を減らしたことにより、今より症状が悪化したら元に戻しますが。本来、薬は毒ですから、飲まないに越したことはないんですけどね。

若手実力派女優は誰？

もう何もかもが上手くいかず、苦しいのでちょっと現実逃避をしてみます。

最近の若手女優の勢力図はどうなっているのでしょうか？。数年前までは菅野美穂が若手実力派と言われていましたが、菅野が20代後半に入ってから、次第に若手という言葉が似合わなくなり、このポジションは空席となっていたようです。

その間に上戸彩、沢尻エリカ、長澤まさみらが台頭し、頭数は揃ってきました。まず実力派女優候補に名乗りを上げたのは沢尻でした。しかし沢尻は自滅。そして現在は大河ドラマに主演している宮崎あおい、初の連ドラ主演を果たした蒼井優、ラストフレンズの演技が評判だった上野樹里。この3人が抜け出した感があります。

私としては、まずは綾瀬はるかに頑張ってもらいたいですね。それから上戸彩。演技そのものよりも主演しても低視聴率の印象があります。個人的には彼女は一度脇に回ったほうが良いような気がします。そしてもう一度主演に這い上がってくれば良い。あとはホマキこと堀北真希ですね。「三丁目の夕日」の田舎娘を好演した印象が強いです。確か彼女は昭和63年生まれ。若いですね。昭和生まれ最後の女優になってほしいです。

ところで7月6日からTBSで「Tomorrow」というドラマが始まります。元若手実力派（笑）の菅野美穂が出演するので楽しみにしています。でもまだ4日も先か。長いなあ。

「Tomorrow」好スタート

いよいよTBSの日曜劇場「Tomorrow」がスタートしました。全体の出来としては良かったと思います。

初回の象徴的なシーンは菅野美穂が演じる看護師が患者の妊婦に対し、医療行為を行ってしまい、緒川たまき扮する女医に一括される場面ではないでしょうか。

正義感の強い看護師。しかし、それが感情先行であっては時に大きな過ちを犯す可能性があります。それに対し冷徹な女医は一理はあるのだけれど、人としての温かさが足りない。どちらの肩を持つかは視聴者それぞれの主観に任せられます。

竹野内豊はただただ格好良いですね。30代の男優では個人的にはナンバーワンです。この竹野内演じる元天才外科医がいつ医療現場に復帰するのかがドラマのひとつのポイントになりそうです。

視聴率もまずまず好スタートを切ったようです。舞台の医療現場同様、荒れ果ててしまった伝統枠である「日9」を立て直すことができるでしょうか。陽はまた昇る事を期待しています。

ありがとう、清原

10月1日に清原和博は引退します。思春期の入り口に彼の存在を知ってから約四半世紀。長かったようで、あっという間だった気がします。

ルーキーイヤーに打率304、ホームラン31本。しかし生涯成績は打率272、ホームランは525本。勿論、超一流の数字であるのは間違いないけれど、20数年前、僕らが描いた大きな期待には届かなかったかもしれません。王貞治を超えるのは清原しかいないというのが、当時の大方の見方でした。

しかし、彼はよくやったと思います。数々の誹謗中傷、挫折を味わいながら、そのたびに這い上がってきた。その苦境の中で、2000本以上、500本塁打以上打ったのだから、決して恥じる事はないし、胸を張るべきです。

最後は本当にボロボロになるまで現役にこだわった姿を僕は忘れません。誰にも分かってもらえない病気を背負ってきた者としては清原だけが支えの時期もあった。感謝の気持ち以外にありません。

清原、ありがとう。もう、これ程までに思い入れる事の出来る選手はこの先、二度と出ないでしょう。

病院&コーヒー

今日、病院へ行ってきました。いつもの通り、医師との会話はかみ合わないまま、あっという間に診察は終わりました。

帰り道の自転車は本当に疲れました。神経がものすごく過敏になります。降りて自転車を転がせばいいんですが、変なところで意地を張っているのか、降りませんでした。

最近朝、コーヒーを飲むようになりました。不安感が少し高まるような気がするけれど、これが意外にだるさを軽減してくれているようです。さて、明日はどうか。

松坂、巨人、若手女優の2007年

明けましておめでとうございます。今日は2007年の野球界と芸能界について私なりのポイントを書いてみたいと思います。

まずは野球。メジャーで松坂投手がどのぐらいやるのかは注目ですね。私は20勝する可能性が60%ぐらいはあると思います。しかし彼がメジャーで20勝つよりも、桑田投手が10勝するほうがインパクトがあるのではないのでしょうか。

国内では巨人がどうなるのか。どうなるかという意味は10年前なら優勝するかしないかでした。しかし最近のどうなるかは視聴率です。おそらく10%のラインを言ったり来たりの攻防が続くのではないのでしょうか。今のところこれといった目玉が見当たりませんね。

続いて芸能。ここでは若手女優に絞ります。ざっくり分ければ演技で勝負の沢尻エリカ、蒼井優、上野樹里。アイドル性の高い長澤まさみ、上戸彩、綾瀬はるか、堀北真希。最近は勢いでは上戸を凌ぐ沢尻と長澤がライバル視されていますが、演技という意味では沢尻と蒼井、上野。アイドル性では長澤と上戸の関係性がどうなっていくのかが私の見所です。

俳優と視聴率の方程式

新ドラマが次々とスタートしていますね。そこで俳優と視聴率の関係性にスポットを当てたいと思います。

視聴率を取るための方程式があるような気がするんですよ。俳優に何を当てはめれば高視聴率が取れるのか？

たとえば篠原涼子さん。ハケンを当てはめた訳です。そして見事に高視聴率を獲得。シノリヨウとハケン。いかにも相性がよさそうです。

失敗例が天海さん主演の「演歌の女王」。天海さんというとバリバリ働くクールで強い女の役が似合います。見ていませんが、タイトルからしてコメディタッチの人情ものといったところでしょう。これは数字的には厳しいですね。

仲間さんはコメディを当てはめれば、まずハズレはないでしょう。予想通り、好スタートを切ったようです。

米倉さんはやはり悪女ものですね。これをやらしていれば、そこそこの数字はついてくると思われます。

何を当てはめても高視聴率にしてしまうのがキムタクです。こと視聴率に限れば、彼の右に出る役者はいません。

キムタクは別格として高視聴率につながるXを見つけられるかどうか、視聴率の取れる役者になる近道のような気がします。

苦境のスラッガー

中村紀洋選手の移籍先が決まりません。この流れは私が思うに、ある選手への嫉妬に近い感情から始まってしまったように思います。ある選手とは清原さんです。

ノリにしてみれば「なぜ同じような成績のキヨさんが現状維持で自分だけが大幅ダウンにならないといけないのか」という思いだったのでしょう。

しかし清原とノリではあらゆる面で大きな差があります。まず記録的に清原は70年以上のプロ野球の歴史の中でも指折りの名選手です。通算本塁打数525本は歴代5位。また2000本、500本塁打、1500打点をクリアしている選手は清原を含め、わずか6人です。そしてサヨナラ本塁打数、サヨナラ安打数でも清原は野村克也を抜き、歴代1位です。清原は長嶋と並ぶ勝負強いバッターとして、後世に語り継がれるでしょう。

これに対してノリ。2年に1人程度は出現するレベルの選手でしょう。ノリと同世代で彼より格上とってまず思いつくのがイチローと松井です。加えて松中、小笠原、小久保。2年に1人でも過大評価かもしれません。

清原とノリ。さらに決定的なのが球団内での存在価値です。簡単に言えば、清原にはカリスマ性があり、客が呼べる。しかし、ノリにはそれがありません。プロである以上、この差は致命的です。

もともとはノリも小学生の頃からPLの清原に憧れ、そしてずっと追いつけてきた男です。とりあえずは初心に帰って、オリックスに頭を下げるべきではないでしょうか。まだ33歳。鍛錬しただいでは5,6年やれる可能性もあります。「お金じゃない」と言ったんだから2000万でもいいじゃない。大好きな野球が出来れば。

もう一度、あのフルスイングを。

新視聴率の女王、誕生か？

松嶋菜々子以来、視聴率の女神はかなり迷っていたようですね。誰を視聴率の女王にすべきなのかを。

2年ほど前は「電車男」でブレイクした伊東美咲が最右翼に見えましたが、その後はやや失速気味。もう一人の有力候補である仲間由紀恵は「ごくせん」以外はいまひとつ。そしてここにきて台頭してきたのが篠原涼子です。「アネゴ」、「アンフェア」と立て続けにヒットを飛ばし、そして今クール「ハケンの品格」も好調です。

篠原さんの強みはひとつの型を持っていることです。仕事の出来る女性を演じさせれば、まず高い数字が出ます。それに美人過ぎないところもいいのかもしれません。伊東さんや仲間さんはなかなか身近にはいませんからね。そういう意味でも篠原さんは多くの女性が感情移入しやすいのかもしれません。

ちなみに私は篠原さん、好きですね。何か今までの視聴率女王のイメージはガードが固いというか、隙を見せないタイプが多かったように思います。作品も数字が確実に取れそうなもの以外はないというイメージがありました。対して篠原さんは気さくな感じで親しみやすいところが好感が持てます。そして演技も素晴らしい。

今日の「ハケン」も楽しみです。

週刊現代が大相撲の八百長疑惑について書いているようです。私はこの記事を読んでもいないし何とも言えませんが、このような記事を掲載した理由にのひつつとして、最近の雑誌全体の部数低下が関連していると思われます。週刊現代もまさにこの流れの真っ只中にいます。ここである意味、禁じ手を使ってでも世間の注目を集めたかったのではないのでしょうか？

また角界にも問題がないわけではありません。最近相撲をまともに見ているわけでもありませんが、どう見ても朝青龍の強さは凶抜けています。他の力士とは動きが違います。そこで生まれてきてしまったのが力士間の緊張感の欠如です。

政治でも一党独裁がよくないのと同じように、朝青龍のライバルがないのは問題です。支度部屋ではいくつもの外国語が飛び交うフレンドリーな雰囲気の流れてしまっているという話を耳にしました。これではいけません。

一日も早く「俺が横綱を止めてやる」という威勢のいい力士の登場が待たれます。土俵に活気が出てくれば、八百長疑惑も自然と下火になるでしょう。

清原へ、菅野へ

清原さん、膝が痛みますか？でも、敢えて「頑張れ」と言いたい。ファンの一人として私は現役続行に反対でした。それでもキヨさんは現役を続けることを決断しました。もう足が治らないことは本人が一番良くわかっているはず。

それでも彼は野球をすることを選びました。ならば最後まで投げ出さないでください。野球人としての最後の生き様を見せてください。少しでも膝がよくなることを祈っています。

菅野さん、4月からの連ドラ主演、おめでとう！思えばイグアナの娘の女子高校生役から11年。弁護士役ということですが、それが似合う年になりました。

20代最後の連続ドラマ、菅ちゃんにとってもひとつの節目になりますね。ぜひ記念碑的な作品にしてください。菅野さんらしい見ている人を強く引き込む演技を期待しています。

揺らぐ日本の品格

「最近の〇〇は・・・」というのはおじいちゃんの口癖だと思っていましたが、さすがに最近の日本という国の凋落振りには目を覆いたくなります。

経済は問題を抱えながらも一応は好景気といえるんでしょう。しかし何なんだろう？このむなしさは・・・

柳沢大臣の「女性は産む機械」発言。これはいけません。辞任すべきだったと思います。しかしその後の「健全」とか民主党の菅さんのどうたらこうたらに関してはまったく取るに足りないことで言葉狩りに過ぎません。結局、本音の言いにくい状態を作り上げているだけです。

「あるある」捏造問題。ここにも問題があったと思います。番組の打ち切りは妥当でしょう。しかし納豆ひとつでこんな騒ぎになぜになってしまうのかとは思いますが、どうかしていますね。

象徴的な二つの出来事を取り上げましたが、これらから見えてくるのは「縮こまり社会」です。たとえば教師が生徒を怒れない。「もし注意して生徒に自殺でもされたらたまらない。事なかれ主義でいくのが一番」と考えても仕方のない状態に日本全体が陥ってしまっているような気がするんです。

本音どころか半音も言えない社会。先日、交番に勤務していた巡査部長が踏切内に侵入した女性を救おうとして命を落とされました。まだ日本にもこんなにも誠実に、そして勇敢に職務を全うする方もいらっしゃるわけです。しかし今後は確実に減っていくでしょう。現在の「ひとこと話せば大騒ぎ」の風潮を正さない限りは。

松井が松井であるために

今年は野球人・松井秀喜の評価を決しかねないシーズンになりそうです。結論から言ってしまうと彼がホームランバッターのままユニホームを脱ぐことが出来るかどうかの岐路に立たされていると思います。

清原和博の現役生活は99パーセント終わりました。しかし彼がどんなに無様な最期を遂げようとも、どんなに悲劇的な結末を迎えようとも、ホームランバッターのままグラウンドを去るのは間違いないでしょう。

対して松井の最近の印象は3割、25本が合格点の選手になってしまっています。確かに一流選手の成績です。しかし、長距離打者としてではなく、中距離打者として。

普通に考えれば彼のプロ生活は約三分の二が終わりました。今年あたりが彼本来のポジションであるホームランバッターに戻れる最後のチャンスではないでしょうか。とにかく40本、ホームランを40本打ってほしい。

ヤンキース内の立場も微妙です。昨シーズン、松井がケガで戦列を離れている間に若手が台頭し、これまで当たり前だったスタメンでの出場すら保障はありません。そんな不安など吹き飛ばすような彼本来の強烈な弾道をライトスタンドの最上段に突き刺してもらいたいです。がんばれ、松井。

鈍感力か繊細力か？

最近話題の鈍感力。確かに大切ですよね。この力を持っている人が羨ましい。私には鈍感力がまったく欠如しています。だから、清原和博や菅野美穂に惹かれるのかもしれない。

清原や菅野は間違いなく繊細力の人です。清原は高校時代、甲子園球場が近づくと急性の下痢になってしまったり、巨人時代、名古屋での応援拒否にも過剰な反応を示しました。ふてぶてしくは見せているけれど、野茂や松井の凶太さには到底及びません。

菅野は菅野で神経が細い。それは決して悪いことではなく、だからこそ並の役者には表現できない部分も見事に演じることが出来るのでしょう。

ファンではないけれど（私は谷川ファン）将棋の羽生善治も繊細力タイプですね。勝利が見えてきたとき、彼の手はよく震えます。何らかのセンサーが反応するんでしょうね。

このような特別な世界では繊細力が役に立つこともあるでしょう。しかし、一般社会では鈍感力人間のほうが強いと思います。周りの目を気にせずわが道を行くからストレスがたまりにくい。繊細力人間はその逆です。

しかし、繊細力人間が鈍感力人間になりたがって、今話題の本でも読んで上っ面の部分だけを変えようとしても、何もならないような気がします。結局中身の構造は変わりませんからね。遺伝と幼少期の環境で鈍感力人間と繊細力人間に分かれるんでしょう。

ただ、無理して変えようとする必要はないと思います。鈍感力社会も繊細力社会も成り立たないはずです。鈍感力人間、繊細力人間。この両者が交じり合っこそ社会は正常に動き、文化は成熟するのだと思います。

「ハケン」出演者の光と影

今日も「ハケンの品格」を見ました。途中でかつての主人公の同僚役が登場したんですが、何処かで見覚えのある顔。エンディングで流れた名前はやはり石田ひかりでした。

主役の篠原涼子と石田ひかりで思い浮かぶのが「輝く季節の中で」という今から10年以上前のドラマです。医者を目指す青春群像劇なのですが、このときは石田が主役で篠原は脇役でした。

石田は朝のテレビ小説や「あすなる白書」で一躍、時の人となりました。対して篠原は歌手としてブレイクしたものの、役者としては未知数。石田が主演で篠原が脇というのは当然でした。

そして時は流れ、篠原はいまや押しも押されぬトップ女優。石田は「まだ女優を続けていたんだ」と私は今日の放送で気がつきました。

だから今をときめく若手女優も10年後はわかりませんね。いま主演を張っているような子が10年後にはちょい役で、ちょい役の子が主演を張っているかもしれません。それどころかまだ芸能界にすら足を踏み入れていない子が時代を築いている可能性もあります。

今日のドラマを見て改めて時の流れを感じました。そして同時に、戦いは果てしなく長いということも痛感しました。

ミキティー満開

やりました！！ミキティーがやってくれました。世界フィギュア女子シングルで安藤美姫選手が見事に逆転優勝しました。

得点が出るまで本当にわかりませんでした。結果は浅田真央選手をきわどくかわしての金メダル。

真央ちゃんが銀メダル。真央ちゃんも銀でよかったです。あまりにも簡単に頂点に立たないほうが本人のためです。

とにかくミキティーの努力が最高の形で報われて良かったです。本当におめでとう。

菅野の試練

菅野美穂主演の「私たちの教科書」が始まりました。菅野は敏腕の女弁護士を演じています。

「若手実力派」「演技派」。これまで菅野はこのように形容されてきました。ファンとしては嬉しかったし、私もそのように思っていました。しかし、ふと思うんです。彼女はホームランバッターではないのだろうか。彼女の本塁打を目撃した人が、「素晴らしい」「演技が上手い」と感じるのではないのでしょうか。

私も今から10年以上も前になりますが、「イグアナの娘」で美しい弧を描いた菅野のアーチを見てからすっかりファンになりました。「恋の奇跡」では爆音とともに弾丸ライナーがスタンドに突き刺さりました。それを目撃した人々が「彼女は凄い」と絶賛しました。

そして今回の「教科書」。彼女は果たしてホームランを打てるのか？私は決して簡単ではないと思います。今回の役柄は彼女のツボではありません。まず眼鏡をかけていることにより彼女得意の目の演技が封じられてしまいます。それに言葉の抑揚も冷徹な弁護士役ですから使いにくいでしょう。絵に描いた弁護士像というのは、眼鏡をかけている格好いい大人。彼女の顔や声質はまだ幼さを残しており、この役に向いているとは思えないのです。

しかし、それでも何とかするのが菅野美穂だと思います。回を重ねるごとに役柄が板につき、はまり役にしてくれることを期待しています。

続・菅野の試練

「わたしたちの教科書」の2話目の視聴率が明らかになりました。結果は11%台と低迷。今後、もよほどのことがない限り大幅に上向くことはないでしょう。正直、残念です。菅野美穂に視聴率を取らせてあげたかった。

タレントとしての菅野の人気は健在だと思います。しかし、ドラマ女優としてのそれはピークを過ぎたのではないのでしょうか。

実質ダブル主演だった「恋の奇跡」の視聴率が15%を超えたのが1999年。当時、テレ朝の木9で15%を取ることはまさに奇跡でした。「2001年の男運」の初回は17%台。この辺がドラマ女優としての彼女の旬だった気がします。

月9の「愛し君へ」でまずまずの数字を残した後、2005年の「あいのうた」では平均一桁に甘んじ、そして久々の連ドラ主演となった「私たちの教科書」が苦戦。

確かに演技が上手いからといって視聴率が取れるわけではありません。視聴率は脚本次第という片付け方もあるでしょう。しかしキムタクドラマは常に高視聴率だし、篠原涼子や仲間由紀恵のドラマも比較的高めです。やはりキャストも視聴率の主要な要素のひとつであることは間違いありません。

菅野は自分を周囲より低く評価することはあっても高く評価することはない人だと思います。今回のドラマが数字的に低調に終わった場合、強い責任を感じるでしょう。いくら大手の事務所に移ったといっても、主役の座に執着するとは思えません。

今後、菅野はどこへ行くのだろう。ドラマで脇に回るか、映画、舞台に居場所を求めるか、それとも・・・

アイドルの変遷

喫煙。出来ちゃった婚。最近話題の元モー娘、いや女性アイドルについて少し。

70年代の代表格はキャンディーズ、ピンクレディー、山口百恵といったところでしょうか。この頃の記憶はおぼろげですが、少し前に放送されたキャンディーズの特番を見ると、意外にも彼女たちが実力派だったことに驚きました。

80年代になると山口百恵と入れ替わるように松田聖子が登場しました。続いて中森明菜、小泉今日子。少し間を置いておニャン子クラブという素人同然の女子高生集団アイドルが出現しました。普通の子による電波ジャックは衝撃的でした。彼女たちは明菜のような歌唱力もなく、キョんキョんのような高いアイドル性もありませんでした。かといって努力の跡も感じられなかった。時代はバブルの入り口。ある意味でおニャン子は「ええじゃないか」と突き進む時代の前兆だったのかもしれませんが。

90年代はアイドル女優という言葉がひとつのキーワードでした。その象徴的な存在がヒロスエでしょう。あの早稲田入学時の騒動はすごかったですね。また菅野美穂やともさかりえら実力派女優の出現もこの時代の特徴です。

そしていよいよモーニング娘。の登場です。「モーニングコーヒー」でスターダムにのし上がり、なっち、ゴマキ、そして辻ちゃん、加護ちゃんを輩出。彼女たちもある意味ではおニャン子と同じ普通の女の子かもしれませんが、努力、プロフェッショナルを感じさせる点ではむしろキャンディーズやピンクレディーに近い気がします。

00年代に入るとモー娘や松浦亜弥などの歌中心のアイドルが存在する一方で90年代のヒロスエ、菅野の流れを汲むアイドル女優たちに勢いを感じます。たとえば上戸彩、沢尻エリカ、長澤まさみ。彼女たちは女優業中心ですね。これが今の時代の流れかもしれません。

ざっと70年代から約30年のアイドルを振り返ってきました。高橋由美子さんが「最後のアイドル」といわれた時もありましたが、結局はその後アイドルは形を変えながらも次々に生まれてきました。「アイドルは世につれ、世はアイドルにつれ」。こんなことを書いている瞬間にもまた新たなアイドルが生まれているかもしれません。

大臣は大臣のまま、歌姫は歌姫のまま

松岡農水大臣の自殺は唐突でした。しかし本人にしてみれば、遺書を八通用意していたことから覚悟の自殺だったのだと思います。

「末は博士か大臣か」。当選六回にして彼はその頂に立ちました。しかしナントカ還元水で国民の顰蹙を買い、すっかり胡散臭い大臣というレッテルを貼られてしまいました。事務所費などの不透明な処理に関し、国会で話すことを許されず、彼は板ばさみになっていたのかもしれませんが。

しかし本人が思うほど多くの国民は怒っていなかったのではないのでしょうか。それが彼に歪んで伝わってしまったのは、やはりマスコミの存在が大きいと思います。ご冥福をお祈りします。

ザードの坂井さんの急死は自分たちの世代には衝撃でした。ザードの人气がピークだったのは90年代。彼女の歌声とともに20世紀の幕が閉じられたといっても過言ではありません。とにかく声のルックスが良かった。

まだ40歳。あまりにも若すぎる死。自身に何度「負けないで」と問いかけたことだろう。ご冥福をお祈りします。

世代最強は羽生か森内か？

将棋名人戦第5局は森内俊之名人が郷田真隆九段を下し、対戦成績を3勝2敗としました。これで防衛に王手、それと同時に永世名人まであと1勝までこぎつけました。この状況に羽生善治は何を思うのか。

今からもう10年以上前になるんですね。羽生が前人未到の七冠制覇を達成してから。あの頃の勢いからしてすぐにでも永世名人の座は手に入るものと誰の目にも映りました。しかし現在、名人在位数4期、森内に並ばれています。そして森内は永世名人資格となる5期に王手をかけているのです。

羽生や森内、そして佐藤康光などの年齢の近い気鋭の集団を人は羽生世代と呼びます。その理由は羽生がこの世代の中で圧倒的なタイトル数を獲得してきたことにあります。

しかし7つのタイトルにも序列があります。竜王、名人の大きなタイトルとその他5つのタイトルに分けられるんです。中でも名人は圧倒的な伝統と権威を誇る、棋士ならば誰もが強い憧れを抱くタイトルといえます。

その名人の中でも、在位が5期以上となった永世名人は名人位が実力制となっただけからは70年間でわずか4人。木村14世、大山15世、中原16世（資格者）、谷川17世（資格者）。ここにいま森内が18世として加わろうとしているのです。

仮に森内が永世名人になれば、これまで羽生世代といわれ続けた黄金集団のバランスが大きく揺らぎます。圧倒的なタイトル数の羽生。永世名人の資格者となった森内。どちらを上置くかは棋士、ファンそれぞれの考え方によって異なるでしょう。

とにかく王手をかけたとはいえ、まだ戦いは終わっていません。仮に第6戦に郷田が勝ち3勝3敗のタイとなれば、流れは大きく変わります。次局がこの名人戦の、そして羽生と森内の今後の命運を握っているといっても過言ではありません。

V9 戦士結集、時は流れた

このあいだまで巨人のV9時代を懐かしむようなイベントをやっていましたね。その最初の日の試合前ですか。かつてのV9戦士がそれぞれのポジションにつきました。その映像を見た私の感想は「人は老いるものだな」ということです。

わたしはV9時代を直接は知りません。しかし、彼らの何人かの現役時代の晩年は、子供の頃見ました。土井正三さんもその一人です。土井さんは何と車椅子姿。先ごろ、がんの手術を受けたということで病院を抜け出して、このイベントに参加されたそうです。それにしても頼りない体。川上御大よりも老けてしまったような外見。病み上がりだから仕方ないとは判っていてもやはり淋しい気持ちになりました。堅実かつ華麗なプレースタイル。あの土井さんのあまりにも変わり果てた姿。時は流れました。

他の戦士たちにも確実に老いは忍び寄っていました。しかし足を引きずりながらも三塁ベースに向かうミスターが堀内さんの暴投で見せた満面の笑みや、もうひとりのV9の主役であるはずの王さんが、試合のため来れないことが少し嬉しかった。思えば、いまだにユニフォームを着ているのは王さんだけですね。

桑田讃歌

小さな体、ストイックな鍛錬。桑田真澄は変わらない。全盛期の球威はとうに失っている。それでも桑田の野球に対する姿勢は変わらないのだろう。マンモススタジアムで清原をバックに投げたあの遠い夏の日と。

それにしても桑田の体は小さい。メジャーの大男たちを目の前にすればなおさらだ。桑田独特のカーブにメジャーリーガーたちのバットが空を切る。彼は勢いよく少年のように走ってベンチへ帰っていく。桑田の夕日は美しい。本当に美しい。

森内永世名人誕生

将棋名人戦はフルセットの末、森内名人が郷田九段を4勝3敗で下し、見事防衛に成功しました。これで森内の名人在位は通算5期となり、18世永世名人（資格者）となりました。

これまで羽生の下で辛酸をなめてきた森内にようやく日が当たることとなります。羽生に先んじての永世名人。この言葉も死語になるかもしれませんが、「羽生世代」もいよいよ曲がり角を迎えました。

松井に吹く秋風

松井秀喜の状態が一向に上がってきません。打率2割6分台、8本塁打。シーズン半ばを迎えたというのにこの有様です。

今季を迎えるにあたって、松井も個人的に目指すべき姿があったはずですが。そのイメージしたものと現状とのあまりのギャップが、「よく眠れない。疲れが取れない」と口にするほどの悩みの正体のような気がします。33歳。「ここまでなのか?」「いや、まだまだやれる」こんな心の葛藤があるのではないのでしょうか。

今後、松井が進むコースは大きく分けて3つだと思われます。ひとつは現状維持。もしかしたらそれが精一杯なのかもしれません。もうひとつはさらにこのまま下り坂を進んでしまうこと。これらの路線ではいずれ遠くない将来、ヤンキースからは契約解除されてしまいそうです。

3つ目のコースは再び成績を上昇させ、もう一花もふた花も咲かせることです。3つ目のコースを進んでくれると願っているし、またその可能性が一番高いとは思いますが……。しかし、今の松井を見ているとなんとも心もとないですし、どこへ行ってしまうのかは予断を許しません。

もう一度だけ

清原の左ひざの再手術は無事、終わったと聞きました。しかし、問題なのは術後の経過です。順調に回復してほしい。それだけです。そして来年、清原の打席をもう一度見たい。清原のホームランをもう一度だけでいいから見たい。

私のマニフェスト

いよいよ参議院選挙が近づいてきましたね。そこで今日は私のマニフェストを。

- ・消費税は5%のまま据え置きます。
- ・年金は25年払わなくても払った期間に見合った額は受給できるようにします。20年払ったのに一銭ももらえないのはおかしいですね。野球の規定打席じゃないんだから。
- ・護憲にはこだわりません。ただ集団的自衛権には反対です。アメリカやイギリスの後をおろおろ付いていくなんて格好悪すぎ。
- ・安楽死に関する議論を深めます。今の段階ではほとんどの人が反対でしょうが、高齢化社会がますます加速していく状況の中で近い将来、必ず避けては通れない問題になるはずです。
- ・芸術やスポーツの専門学校を作ります。小学校から高校まで小・中・高の一貫教育で早い時期からその分野で優れた人材を育てていきます。
- ・時効を撤廃します。時が流れようとも犯した罪は消えません。

これぐらいにしておきましょうか。ちなみに私は10年ぐらい前の選挙の時でしょうか、選挙には参加せず、テレビの開票速報を見ていたら総理大臣になる前の小泉さんと現在、民主党党首の小沢さんが、「選挙権というものは昔の人が血と汗を流して勝ち取ったもの。その権利を無駄にしてはならない」と熱く語っていました。選挙前ならともかく、選挙後に出てきた言葉だったので、これは彼らの本音だと思いました。以後、国政レベルの選挙には参加するようになりました。今回も一票を投じる予定です。

さて、投票日まであと10日あまり。どんな結果が出るのでしょうか。

沢尻エリカという名の才能

沢尻エリカがデビュー曲に続いて2作目もオリコン1位を獲得したそうです。これは薬師丸ひろ子以来、24年ぶりの快挙とのこと。そのカリスマ性はやはり同世代のタレントと比べて図抜けたものがあるのでしょう。

歌手と女優の両立というと柴咲コウを思い起こしますが、スケールは沢尻のほうが大きいかもしれませんね。

ドラマ「1リットルの涙」での可憐な少女役で、彼女は一気に人気女優の仲間入りを果たしました。このときの演技は素晴らしかったと思います。

演技をさせれば人々を感動させ、歌を歌えば多くの同世代の共感を得る。彼女は天才かもしれません。しかし、天才ゆえのむらっ気が彼女自身を追い込んでいく可能性もあります。その危うさこそが沢尻エリカの最大の魅力のような気がします。

松井秀喜の逆襲

どうやらゴジラが帰ってきたようです。今日は3試合連続の17号ホームラン。6打数5安打。それでこそ松井。それでこそゴジラ。この調子で7月中に20本まで持っていけば35本前後は打てそうです。

野茂という日本人エースがメジャーでもエースになれることを証明し、イチローという日本人ヒットメーカーがメジャーでもトップクラスのヒットメーカーであることを証明し、あとは松井というホームランバッターがメジャーでもホームランバッターということを確認するだけです。とにかくアベレージよりもホームラン。松井よ、常に豪快であれ。

阿久悠さんが歌手に与えた幸福

先日、作詞家の阿久悠さんが亡くなりました。勿論、数々のヒット曲を生み出してきたことは知っていましたが、改めて振り返ると想像以上ですね。「えっ、この曲も」という感じです。沢田研二、ピンクレディーなど私が子供時代によく耳にしていた曲がやはり印象深いですね。

最近では、安易に歌手が作詞も兼ねるというケースが目立ちますが、どうかと思います。なかにはサザンの桑田さんのように詞に関しても才能を発揮する人もいますが、ほんの一握りでしょう。たいていは自分の狭い世界観を歌詞にしているだけで、広がりがありません。その辺にも今の曲の限界を感じます。

おそらく阿久さんに書いてもらった曲を歌った歌手たちは阿久さんの描くさまざまなヒーロー、ヒロインを演じられて楽しかったのではないのでしょうか。凡庸な詞にそれなりのメロディーをぶらさげて、満足げに歌っている歌手はある意味では不幸なのかもしれません。

干物の綾瀬が面白い

今期のドラマでは「ホタルノヒカリ」が良いですね。綾瀬はるかが干物女を好演しています。

綾瀬さんというと「世界の中心で愛をさけぶ」での演技が強く印象に残りますが、今回はそれとは違って変わったコメディエンヌぶりが光っています。セカチュウ以降はもうひとつ殻を破れないイメージが強かった綾瀬さんですが、干物女役が女優開眼のきっかけになるかもしれません。ようやく大器・綾瀬はるかがその片鱗を見せてくれました。

今日の「ホタルノヒカリ」も楽しみです。

清原40歳、菅野30歳

本当に早いものですね。清原さんも菅野さんも10代のころから見ているので、信じられない気持ちが強いです。

10代は青春という言葉に代表されるように春、20代は夏ですね。30代はどうなのだろう。残暑といったところでしょうか。秋へと流れていく世代だと思います。40代は秋。清原も人生の秋ですか。

30代の菅野には大女優への道を着々と歩んでもらいたいですね。40代の清原には何らかの形で野球には携わっていてほしいです。

なにがともあれ私だけのKK、誕生日おめでとう。

エースの涙

朝原の 涙の先は 引退か

昨日の世界陸上で短距離界のエースである朝原選手は準決勝で敗退しました。そしてインタビューで見せた涙。

和製ルイスと呼ばれ、長年、短距離界を引っ張り続けた男も第一線を引くことを決意したのでしょうか。それとも来年の北京オリンピックを目指すのか。その進退に注目です。

生意気女優の心地よさ

昨日の「ナイナイサイズ」見ました。沢尻エリカにナイナイの二人が振り回されている印象でしたね。

タメ口、映画の宣伝も適当、完全なるマイペース、生意気。たいていの人から見ればこんな印象でしょう。まあ、これが事実でもあるんですが。

しかし私は不思議と悪い気はしませんでした。放送はあっという間に終わってしまった感じですが。むしろ、まだ沢尻を見足りなかった気がします。沢尻には人の心を動かす演技が出来ます。その自負があるからこそ沢尻は、タメ口も聞けるし、生意気でいられるのだと思います。

石橋と古館、道は分かれた

とんねるずの「みなさんのおかげでした」の過去の映像を懐かしく見てました。おそらく裏のテレ朝ではいつものように古館伊知郎司会の「報道ステーション」が放送されていたのでしょう。

石橋と古館。この二人はかつてフジの深夜番組、確か「第4学区」という番組で共演していました。二人のトークがすごく面白かった記憶があります。その中で古館が石橋に「貴明、一緒に報道番組に乗り込もう」と威勢よく言い放ちました。石橋は「えっ、報道番組ですか？」と古館の唐突な言葉に戸惑っている様子でした。

古館の言葉に偽りはなく彼は数年後、「ニュースステーション」の後釜として「報道ステーション」の司会の座につきました。「久米宏の後はきつい」との下馬評を覆し、「報ステ」はテレ朝の看板番組に成長しました。

「俺、貴明の面白さだけは信じるよ」とかつて古館は言いました。繊細な古館が裏でとんねるずのスペシャル番組が流れていることを知らないわけはありません。

江川と小林、28年の時を経て

最近、黄桜のCMで元プロ野球選手の江川卓氏と小林繁氏が競演しています。

昭和53年のドラフト前日、巨人はいわゆる空白の一日を利用して元法大の江川と電撃契約。ドラフト会議では阪神が江川を指名するも本人に阪神入団の意思はありませんでした。そして混乱の末、トレードでの決着。阪神側は小林投手を要望し、巨人側もそれに同意。かくして前代未聞の江川騒動は一応の決着を見ました。

当時、幼かった私はこの事件に関する詳細はわかりませんでした。江川=悪、小林=犠牲者という目で見えていました。以後、熱狂的な小林ファン、アンチ江川となりました。

昭和54年の小林は鬼気迫るものがありました。この年22勝で最多勝。特に巨人戦には無類の強さを発揮し、8勝を挙げました。一方の江川は謹慎期間はありましたが、9勝どまりと怪物としては物足りない数字に終わりました。

しかし翌年以降、江川は徐々に実力を発揮。昭和56年には20勝をマークし、投手5冠王に輝きました。

一方の小林は22勝のシーズンをピークに、少しずつ精彩を欠き始め、昭和58年、13勝しながらも30歳の若さで引退しました。小林対江川の直接対決は小林の0勝4敗。小林は一度も江川に勝てないままユニフォームを脱ぎました。

その江川も小林の引退からわずか4年後の昭和62年、32歳の若さで引退しました。きしくも江川もこのシーズンの勝ち星は13勝でした。

あのトレードから28年。以後私は掛布、そして清原のファンとなり今に至るわけですが、やはりあのツーショットのCMを見ると感慨深いものがあるし、江川氏も小林投手に対する申し訳ないという気持ちはずっと持ち続けていたんだなと思うと、遅すぎたかもしれないけれど、小林氏と対面することが出来て本当に良かったと素直に思えます。

クライマックスシリーズなんて

セリーグのクライマックスシリーズは中日が阪神、巨人を相次いで下し、日本シリーズ進出を決めました。それにしても何でこんなくだらないものを作ったんだろう。

私は巨人が好きではないです。むしろ中日を応援していました。それでもやはり巨人の選手は気の毒だと思います。激戦のペナントレースを制したのに、わずか三試合ですべてが水の泡となってしまいましたからね。

こんな不条理な制度を作った人間は責任があると思いますよ。頭が悪いという以前に野球を知らない過ぎる。このルールでは例えば5割にも届かない3位のチームでも日本シリーズへの出場が可能になります。どうしてそういうケースを想像する能力がないのでしょうか。

どうしてもポストシーズンのものをやりたいのなら、2シーズン制にするべきです。前期の優勝チームと後期の優勝チームが戦うのなら、お互いに納得がいくはずですが。こんな場当たりのなことばかりしては、NPBはさらに衰退してしまいます。とにかく今年の失敗を潔く認め、来季以降はCSを中止し、もう一度ポストシーズンのあり方を考えるべきです。考える頭がないのなら、ペナントレースを制したチームが日本シリーズに出場するという形に戻したほうが得策です。

菅野美穂の資質

先週の金曜日に放送されたNHKの「プレミアム10」という番組で、菅野美穂が登場しました。内容はヨガの聖地を求めてインドを旅するというものです。なかなか良かったです。菅野のヨガのポーズも決まっていた。それよりも何よりもやわらかなナレーション、インドの人々と触れ合う中での豊かな表情の一つ一つが彼女本来の魅力に溢れていました。

最近、「私たちの教科書」「働きマン」ともうひとつ持ち味を出し切れていない印象がありますが、「プレミアム10」を見て、菅野の女優としての資質の埋蔵量はやはり計りしれないものがあると感じました。

大連立の何が悪いのか

昨日の小沢氏の突然の辞意表明には驚かされました。鳩山氏ら民主党幹部も必死に慰留していますから、まだ予断は許しませんけど。

会見の中で小沢氏は「まだ民主党では心もとないとの声を聞く」とか「このままでは衆議院選挙は厳しい」と語っていましたが、私もそう思います。参議院で大勝したからといって衆議院でも勝てるという考え方は甘すぎます。日本国民は非常に保守的ですからね。なにせ自民党政権が50年以上続いているわけですから。

だからこそ小沢氏の中に大連立という考え方が生まれてきたのではないのでしょうか。政権担当能力があることを証明する絶好の機会ととらえたのだと思います。私も大連立に賛成です。これまでのようにただ闇雲に反対、反対を連呼する野党はもう見飽きましたから。

小沢氏にはぜひ党首にとどまってもらい、大連立にしろ、他の方法にしろ、究極の目標である二大政党制の実現を目指して豪腕を振りかざしてほしいですね。

名球会の基準

ドラフト会議も終わりましたね。平成生まれの選手もずいぶん入団するようになりました。

200勝、2000本安打、それに最近加わった250セーブを達成した昭和生まれの選手が入れるのが名球会です。

名球会も金田氏らの私的財産から平成生まれも受け入れる球界の公的な財産にしていくべきだと思います。またその方向に進むでしょう。

そこで必要となるのが入会基準の見直しです。現行のままでは野手ばかりが増えてしまいます。そこで提案なんですが、まず打者の基準を2000本安打から3500塁打に変えてみてはどうでしょう。現在3500塁打以上は22人。ちなみに22位は打撃の神様、川上哲治氏。安打より塁打のほうが打者の総合的能力を問われます。

次いで投手の基準ですが、10勝、または30セーブ以上を通算10度、達成すれば入会ということで良いのではないのでしょうか。たとえば、今年の上原投手はリリーフに転向しましたが、30セーブ以上しているので回数に入れます。そうすれば、最低100勝、または50勝・150セーブで名球会入りの資格を得られます。

これぐらいの基準にすれば、現代野球における投手と野手のバランスはうまく取れるのではないのでしょうか。

大女優レース

ここでは主に30代の女優を中心に書きたいと思います。

その前に私が思いつく各年代別の女優を挙げてみます。まず60代は岩下志麻と吉永小百合ですかね。50代は大竹しのぶ。本来ならば夏目雅子もここに入るはずだったんでしょうが。そして40代は強いてあげれば薬師丸ひろ子かな。ここで共通しているのは皆さん若い頃から第一線で活躍しているということです。若い頃を知っているのは薬師丸さんぐらいですけど。

20代は態度だけなら沢尻達人（笑）。ぱっと思い浮かぶ候補は柴咲コウ、仲間由紀恵あたりですかね。この年代はまだまだこれからです。

そして30代。この年代もまだ候補の段階かもしれません。宮沢りえ、松嶋菜々子、篠原涼子、菅野美穂、松たか子。このあたりでしょうか。

篠原さんの場合は今が旬というイメージですね。しかしあまりにも旬がはっきりしすぎると大女優にはなりにくい気がします。たとえば、浅野温子や山口智子のように、ある一定の時代を思い出してしまうんですね。篠原さんは浅野温子に似ているんじゃないでしょうか。

松嶋さんも視聴率女優のイメージがありますが、旬の時期が長いですよ。大河の主演もしているし、大女優の可能性はあると思います。

私が本命視するのは残りの3人です。つまり宮沢りえ、菅野美穂、松たか子。

宮沢さんは和服美人ですよ。着物が良く似合います。一時期、激やせなどで低迷した時期もありましたが、10代の頃から人気者ですし、このまま映画、舞台を中心に活躍すれば、自然と大女優の座が手に入りそうです。

菅野さんも10代から第一線で活躍していますね。菅野さんの場合、映画も舞台も経験はありますが、テレビに重点を置いているようです。演技力も高く評価されており、可能性はありそうです。

松さんは、なんとなくなんですよ。ルールが敷かれているというか。勿論、家柄もあります。何よりも、菅野さんと比べると神経が太そうに見えます。これも芸能界の荒波を乗り越えていく上では大きな武器ですね。

スター型の宮沢、天才型の菅野、安定型の松。こんな感じでしょうか。この3人を中心に30代

の大女優レースは展開されると見えています。

TBS社長の失言

「歌姫」見ました。万人受けはしないかもしれませんが、いいドラマですね。前にも長瀬のことはブログで書いたけど、素晴らしい役者ですよ。他のキャストも役にはまっています。高田純次もまじめにやってるし。

TBSの社長は何を言っているのかと思いますよ。「早く今期のドラマは終わってほしい」とか。そんな視聴率至上主義だから亀田問題が起こるんですよ。「歌姫」のような良質なドラマを放送していることに誇りを持つぐらいでないとTBSは滅びますね。

よいお年を

こんばんは。早いもので今年もあと2日ですね。

2007年を振り返ると、印象に残るのは沢尻エリカかなあ。今年もいくつかの記事を書きましたが、沢尻さんの記事を掲載した時の反応は大きかったです。あの時期、沢尻〇〇というタイトルをつければ、誰でも読んでもらえたんじゃないでしょうか。それぐらいあの一週間ほどの沢尻騒動はすごかったです。

お笑いでは小島よしおが大ブレイクしました。ルーさん流に言えば、レッドホワイト歌合戦にゲスト出演してほしいですね。あの格好ではまず無理でしょうが。

とにかくにも今年一年、このブログを読んでいただき有難うございました。今日が初めての人もいるでしょうが（笑）。皆さんよいお年をお迎えください。それではオッパッピー

綾瀬はるかは大根役者？

さて、少し前の話ですが、正月に里見八犬伝が放送されましたよね。どうも綾瀬はるかさんの演技が浮いて見えました。まあ、演技力抜群の菅野美穂さん、相変わらずのアツロウ演技ですが、個性派の渡部さん、訳のわからない佐野史郎さんの怪演（笑）、ベテランの武田鉄矢さん、タッキーら八犬士のアクション等に囲まれては綾瀬さんも気の毒です。

かつて、このブログで「世界の中心で愛をさけぶ」での綾瀬さんの演技をほめた記憶があります。また僕は菅野ファンなので、綾瀬さんが「一番好きなドラマはイグアナの娘」と語ってくれたのも嬉しかったです。だから何とか大成してほしい。

いま「白夜行」が放送されています。僕はこのクールは篠原さんの「アンフェア」ぐらいしかまともに見てないんですが、また、アツロウさん、金八先生と共演しているようですね（笑）彼らの個性に埋もれず山田君とのセカチュウコンビで素晴らしい演技をしてください。次回あたりはチェックしたいです。

さんまとしのぶ

今日の「キンスマ」見ました？トリノオリンピックが始まる前に早くも感動してしまいました。大竹しのぶさんの息子さんは幸せですね。あんな素晴らしい父親が二人もいるんですから。

ドラマも映画も懐かしかったです。あの頃、さんま・しのぶはゴールデンコンビでした。

さんまさんのことはお笑い芸人というより人として尊敬していました。当時のさんまさんは若い女性に凄い人気でしたから、結婚相手はほとんど自由に選べたと思います。それでも未亡人で、すでに息子のいたしのぶさんを選んだ時から尊敬していました。今日のキンスマをさんまさんが見たら、しのぶさんに「あんな感動巨編にするなよ」と言うような気がします。

記録に残る記憶の打者

逆転満塁サヨナラホームランが記憶に新しい清原だが、1500打点、4000塁打と次々に大記録を達成している。

2000本安打、500本塁打、1500打点をすべてクリアしている打者はプロ野球72年の歴史でわずかに6人。王貞治、野村克也、張本勲、門田博光、落合博満、そしてこのそうそうたるメンバーに清原和博が加わった。

「記録の王、記憶の長嶋」。この言葉を偉大な6人に当てはめてみると、記録型の5人に対し、清原のみが記憶型といえる。清原は長嶋と並び、「記録に残る記憶の打者」の象徴となった。

49%のため息

ジーコジャパンが敗れました。49%のため息が聞こえてくるようです。ジーコ監督の個性重視のサッカーが体格、運動能力で劣る日本には合っていないのかもしれませんが。しかもう愚痴は言うまい。（笑）オフトやトルシエのように選手に首輪をはめてまで勝っても意味はないという彼の美学、哲学があるんでしょう。

オーストラリア戦を見る限り日本チームにはスタミナがありません。4年前と中心メンバーが代わらず彼らの年齢が20代後半に上がってきたことと無関係ではないと思われます。願わくば22, 3才の若手が台頭していれば。いや、もうそんなことを言ってもあとの祭り。

次の相手はクロアチア。いわずと知れた強豪国で苦戦が予想されます。しかもう負けることは許されません。理屈を超えたジーコジャパンの底力に期待します。

分かり切っていた結末

午前4時半ごろ、目が覚めたのですが、テレビはつけてませんでした。結果はわかりきっていましたが。ジーコジャパンはすでに終わっていました。初戦のオーストラリア戦で99パーセント決まりました。そしてクロアチア戦で引き分けたことがとどめになりました。

ただ一人、ゴールキーパーの川口選手は孤軍奮闘でした。お疲れ様。監督は勿論のこと選手もほぼ総入れ替えで新たな日本丸が船出すると思われます。またそうでなければ日本サッカーの未来はないでしょう。

太陽は沈むのか？

オリックスの清原選手が登録抹消になりました。彼の野球人生はいよいよ岐路に立たされました。個人的にはもう十分です。ボロボロになるまで彼はやりました。先日の清原さんが放ったサヨナラアーチは彼が僕らに与えてくれたラストプレゼントだったのかもしれない。

去年、巨人を解雇になったまま引退しないで本当に良かった。望まれてオリックスに入り、1500打点も達成して、まだ最終発表ではありませんが、オールスターに出られるような成績ではないのに最多得票のようですね。

20年以上にわたり、清原さんを時に神のように敬い、時に兄のように慕い応援してきました。ご存知の方もいるかもしれませんが、私はパニック障害です。彼のホームランが何度自分を救ってくれたかわかりません。彼が病気を治してくれるわけではないけれど、清原さんがいなければ自分は生きていくかすら定かではありません。

グラウンドを勢いよく駆けめぐり、ホームへ突進する若き日の彼の姿が目に浮かびます。

終わりの始まり

サッカーの中田英寿選手が引退を表明しました。ひとつの時代の終わりを感じさせます。

ヒデはサッカー界のみならず、イチローと並ぶ70年代生まれのスポーツ選手の象徴的な存在でした。競技性の違いからイチロー選手はまだまだやれそうですが、77年生まれの中田選手の引退により、70年代生まれから80年代生まれへの橋渡しは急速に進みそうです。いわば70年代生まれの終わりの始まり。時は確実に流れていますね。淋しいことではありますが受け入れるしかありません。

名勝負最終章

今日のオールスター第2戦、よかったです。クライマックスはやはり藤川VS清原。結果は藤川投手の勝ちでした。清原ファンの自分としては悔しかったけど、こんなに嬉しい三振もまた初めてです。藤川が思い切り投げ、清原が思い切りバットを振った。そこに言葉は要りません。

清原さんのPL時代を知らない青年が、入団当時は女優の広末さんと同級生ということぐらいが話題だった藤川君が本当に凄いピッチャーになりました。これからは彼らの時代です。本当にがんばってほしい。清原さんの「あとは頼んだぞ」という声が聞こえてくるようです。やっぱり野球って素晴らしい。

フラミンゴが不死鳥になった

プレートけて～ 投げ込むポ～ル♪

ソフトバンクの王監督が奇跡の回復です。衝撃の休養会見からほぼ1カ月でしょうか。胃がんを克服し、退院しました。まさに超人的な回復です。

僕が初めて球場に足を運んだのは王選手が799号を打った日でした。その後楽園の歓声。幼い僕たちは王さんの一本足打法の真似をよくしたものです。長嶋さんも当時の僕にとっては王選手のいる巨人というチームの監督に過ぎませんでした。

あれから30年近くのときが流れました。まさか王さんが病気になるとは思わなかった。王さんも思わなかったそうです。でもその過酷な戦いに王さんは堂々と立ち向かい、そして勝ちました。さすがは僕らが尊敬する「世界の王」です。

桑田道

恐るべき15歳 KKコンビ 甲子園20勝 巨人との密約疑惑 江川を引退に追い込んだ男
登板日漏えい疑惑 投げる不動産屋 伝説の10・8 右ひじ手術 復活 リリーフ転向 巨人
との決別

これだけ栄光と挫折が交互に来る男も珍しいですね。

高校時代、夜になってもPLの室内練習場の明かりは消えない。清原和博がいつになっても打撃練習をやめない。だから桑田真澄もまたゴルフ場で黙々と走り込みをやめない。「彼がバットを振り続けるなら、俺もいつまでだって走り続ける。」彼がやるなら俺もやる。二人の意地の張り合いはまだ続く。桑田ロードはまだ続く。

久々に連ドラ

このクールは珍しく何本もドラマを見ています。まだ始まったばかりですけど。何を見たかといえば「たったひとつの恋」「鉄板少女アカネ」「のだめ」「Drコトー診療所」。あと「セーラー服と機関銃」を少々。「僕の歩く道」も二話目は見ました。

「たったひとつの恋」は綾瀬はるかさん目当てで見ました。北川脚本にしては数字が伸びませんでした。そんなこと気にせず亀梨君とともに頑張ってもらいたいです。まだまだ失敗の許される年齢でしょう。思い切って演じてほしいです。

「鉄板少女アカネ」は次、見るかは微妙かなあ。まあ、堀北さんも頑張ってる。なんか若い女優に甘い自分。

「のだめ」はまた次も見たいですね。上野さんはコメディエンヌとしての才能があるかもしれないね。また若手女優に甘い（笑）

コトーはやっぱいいですね。変わらぬ風景、変わらぬ中島みゆき。

とにかく秋クールのドラマで目立つのは若手女優の抜擢です。志田未来、長澤まさみ、堀北真希、綾瀬はるか、上野樹里。こんなことは近年なかったんじゃないでしょうか。彼女たちが一気に上の世代を抜き去り、新旧交代を実現するのか注目です。

深刻な四番不在

日米野球第1戦、日本はアメリカに敗れました。勝利に対する執念の差との見方もできますが、やはり日本チームは四番不在です。

振り返るとこの20年の間、日本の四番は二人のスラッガーが担ってきました。1986年にデビューした清原和博はその年の日本シリーズで山本浩二との四番対決を制し、翌87年は原辰徳、88年は落合博満といった並みいる強打者に勝利し、名実ともに日本の四番となりました。ちなみに日米野球で唯一、日本が勝ち越したのは1990年ですが、このときの四番も清原でした。

その清原から日本の四番の座を奪ったのが松井秀喜。2000年にはON対決と騒がれたダイエーとの日本シリーズで巨人の日本一に大きく貢献。2002年にも主砲としてチームを日本一に導きました。しかしこの年のシーズンオフ、松井はフリーエージェントでヤンキースへ移籍。ここから日本の四番不在が始まったわけです。

今日、四番を勤めた小笠原選手は日本ハムでは三番打者です。今年ホームラン王にはなりませんが、元来はアベレージヒッターで四番タイプではありません。日本残留組で強いて名を上げれば松中選手でしょうが、やはり短期決戦での勝負弱さ、そして今シーズン、ホームラン10本台に終わったことを考えると、迫力不足は否めません。

結局、日本の四番を任せられる男は10年に一人しか出てこないのでしょうか。個人的には今日の試合で大飛球を打った横浜の吉村、あるいは広島の栗原あたりに期待しています。特に吉村選手にはこの日米野球でその片鱗を見せてほしいものです。

いじめ自殺を防止するには

難しい問題ですね。人間には元来、差別意識が備わっていますから。その歪んだ形がいじめなんだと思います。

学校などで何か問題があるとテレビの悪影響が指摘されます。特にバラエティー番組。私は少し考え方が違います。ニュース番組の影響が大きいと考えます。あの矢ガモ騒動。報道すればするほど類似事件が発生する悪循環。特に自殺しようとしているような人は視野が狭くなっていますから、そのような情報を耳にすることはとても危険なことです。だから報道する側も深刻な顔して伝えていけばいいというものではないと思います。自分たちのしている事を省みる必要があるでしょう。

次に家庭。いじめられている子というのは学校と家庭の板ばさみになっているケースが多いように思います。つまり学校でいじめられる。だから学校を休みたい。でも休めない。なぜなら親に学校を休みたいと訴える勇気がないから。訴える環境にないと言い換えてもいいかもしれません。そして逃げ場がどこにもなくなる。だから自殺を考えるようになる。大体こんな感じではないでしょうか。まず家庭が「つらければ学校を休んでいいんだよ」という環境を作ることが大切だと思うんですよ。ただ家庭環境は千差万別ですからなかなか難しいですね。

そこで学校、というよりは文部科学省の出番です。仕事に有給休暇があるように年間30日なら30日、生徒に休む自由を与えてみたらどうでしょう。学ぶ時間が減るというなら、土曜日を利用すればいい。実現すればいじめられている生徒の心の負担はずいぶん軽くなると思いますよ。

ここからは学校でいじめられている、あるいはつらい思いをしている生徒さんへ。

君たちは知らないかもしれないけどパニック障害という病気があって、僕は17年以上、それと闘っている、というよりはいじめられています。だから君たちが生まれる前から。高校は何とか卒業したんだけど、大学は中退しました。電車通学が辛い、じっと教室で座っていることが辛い。何もかもが辛い。ついこないだも床屋に行って辛かった。どう辛いかはここではなかなか伝えようがないけれど。昨日もつらかった。今日もつらい。きっと明日もつらいのだろう。それでもこの病気と共に17年以上生きてきました。明日からもとりあえず生きていくつもりです。君たちがいじめられていてもそれは今だけのこと。そう何年も続きません。心の傷は残るかもしれないけれど。死ぬぐらいなら学校を休む勇気を持ってください。とにかくとりあえず生きてみましょう。

才能に勝る努力なし

少数派でしょうが、私はこう思っています。才能>努力と。最近では傲慢な努力が天賦の才能を脅かしている気がします。

本来、才能のある人にはかなわないけれど、努力すればその人に近づける。自分が少しでも上手くなれる。そこに努力の美しさがあったように思います。しかし最近の努力ときたら謙虚さに欠けている。

たとえばスポーツ。薬物を使った努力で本来勝てないはずの相手に勝ってしまう。陸上競技に限らず、あらゆる種目に蔓延してしまっているようです。

たとえば将棋。将棋の勉強法といえば今も昔も棋譜を並べることが最も大切だとは思いますが、そこにパソコンが入り込んできました。羽生善治が七冠を達成したとき、無冠の九段に転落した谷川浩司は不器用な手つきでパソコンを覚えようとしていました。そしてなんとこれからはネットで公式対局を行うというのです。原則、対局者は自宅でパソコンに向かいながら指すそうです。大丈夫なんでしょうか？

本来努力は美しく価値の高いものだと思います。科学も決して悪者ではない。ただそれが人の情念と結びつくと、時に努力と才能の関係をややこしくし、そして汚していく。確かに勝者は偉いかもしれない。しかしその勝利優先主義こそがこの問題の根本です。勝つ事より重要な何かを見出せない人間は、勝利の誘惑に簡単に負けてしまうのではないのでしょうか。

菅野ウィーク

先週は「虹をかける王妃」やその宣伝で久しぶりに菅野さんが多く登場しました。私が見た番組は「グータン」「みなさんのおかげでした」「VVV6」そして「虹を架ける王妃」です。

「グータン」やはりスタートはクラウチングのほうが加速しますかね。

「みなさんのおかげでした」 番宣では一番楽しみにしていました。貴さんが「このコーナー10年ぐらいやってるけど、収録後に挨拶に来てくれたのは美穂ちゃんだけだよ」といったのですが、菅野さんはあっさり「忘れました」。みんなに挨拶してるから忘れちゃったんだろうなあ。

ヨガもすごかったですね。新体操の選手だったら「妖精」と呼ばれるに違いない。たとえばボールの演技でキャッチ出来なくても高得点が出そうです。

「VVV6」これが予想外に良かったです。軽口がポンポン飛び出していましたね。共演の岡田君と一緒にだったのでリラックスしていたのでしょうか。まさにタレント菅野の真骨頂。

そして肝心の「虹を架ける王妃」 菅野さんの表情豊かな中にもあふれる気品はさすがです。

岡田君も良かったです。菅野さんとは対照的に無表情の中にも苦悩が表現されていたと思います。TOKIOの長瀬君が情熱を前面に出す演技が得意なのに対して、岡田君は「青白い炎は実は赤よりも熱い」といった感じでしょうか。

菅野さん、岡田君の絶妙なハーモニー。しかし、見所のほとんどはそこに集約されていました。あまりにも脚本がお粗末でしたね。「虹を架ける王妃」というタイトルなのに虹を架ける前にドラマが終わっちゃいました。

この出来で視聴率はどうだったのかと心配になりましたが、いい数字が取れたようですね。「あの内容でよくこれだけの視聴者が見てくれたなあ」と少しほっとしました。

フジテレビは菅野さんを高く評価してくれていると思います。「フジコ・ヘミングの軌跡」「海峡を渡るバイオリン」そして今回の「王妃」とまさに秋は菅野シリーズ。それほど一般的な知名度は高くない方々を題材にしていることもあり、それにリアリティーを持たせることができるのは菅野さんだけと考えているようです。視聴率が良かったのでまた作られるかもしれませんね。

やはり菅野は素晴らしい。ドラマ、バラエティーを通して菅野ファンならずともそう見直した方が多かったのではないのでしょうか？いよいよ菅野美穂の逆襲が始まりましたね。勝手に始めちゃ

った。(笑)

気になるひとりの若手女優

沢尻エリカ、長澤まさみ、上野樹里など若手女優の台頭が目覚ましいですね。その中でも最近、気になる女優がいます。蒼井優。「D r.コトー診療所」では実質的なヒロイン役をみずみずしく演じています。

私から見た蒼井さんの最大の魅力はまだ固まっていない点です。あどけない顔立ちと相まって、これからいかようにも変われる真っ白なキャンバスのようなようです。

この先、あと何年かしたら彼女にも色がつくでしょう。真っ白なキャンバスにどんな色を描いていくのか楽しみです。もしかしたら彼女は大化けするかもしれません。そんな未知の可能性を秘めた女優ではないでしょうか。

ストーブリーグ

先ほど、報道ステーションで清原と松坂の真っ向勝負を振り返っていました。世界に清原和博以上の打者がいるのか？それを知っているのは野茂英雄だけだと思います。松坂君もそこをしっかりと見てきてほしい。

清原と同じ年の田中幸雄。来季、40歳になる彼は大幅ダウン提示を飲み、来季に賭ける。2000本安打まであと18本。今季の安打数は15本。ぎりぎりの戦いになるかもしれません。がんばれ、ミスターファイターズ。

仁志敏久は自ら望んで横浜へ移籍しました。巨人においては確実に飼い殺しにされてしまうので、いい選択だったと思います。仁志の魅力は玄人受けする頭脳的なプレーと、野球少年がそのまま大きくなったような純真が同居しているところだと思います。ぜひ一番・セカンドに定着してほしい。

ストーブリーグもそろそろ大詰め。まもなくストーブは消え、そして球春は到来します。日本の冬はこれからが本番だけど、野球の春はもう近いですね。

大人になったミキティー

全日本フィギュア、良かったです。とにかく安藤選手が良かった。

伊藤みどりの代名詞だったトリプルアクセルを見事に決めてしまう浅田選手は確かに凄い。しかし安藤選手の演技には深い感動があります。ドラマがあります。転倒しながらも、肩を痛めながらも、最後までよくあきらめず演技きりました。

彼女に漂い始めた悲劇性。これこそ大人の演技手、スーパーヒロインへの道を歩み始めた証ではないでしょうか。アイドルを卒業した大人のミキティーから目が離せません。

紅白歌合戦

紅白歌合戦の視聴率がついに40%をきった。理由は色々あるのだろう。NHKの相次ぐ不祥事、目玉不足、裏番組の強化などなど。当然、時代の流れもある。しかし紅白の内容そのものにも問題があったのではなからうか。今年聞いた事もないような演歌が何曲も続くとさすがにうんざりしてしまう。間にポップス系の曲をはさむなどもっと視聴者を踏みとどまらせる工夫が必要だ。司会も地味だった。紅白ともに局アナなのだから致し方ない。せめて片方だけでも今旬の俳優やタレントを使って欲しい。あと個人的にト리는浜崎あゆみと平井堅が妥当ではないだろうか。演歌ファンには物足りないかもしれないが、彼らのここ数年の実績、歌唱力、そして今年の活躍度からすれば、むしろ自然ではなからうか。

紅白が再び輝きを取り戻すにはまずは選考方法の見直しが必要だ。上位15組だけ公開した調査結果を出場枠全体に広げる。そして長時間のリハーサルなどを規制緩和したうえで交渉に当たる。そうすれば大部分のアーティストが出場してくれるのではないだろうか。それでも埋まらなかった場合は特別枠として各世代のスターを起用すればいい。どの世代にも10年に2、3人はその時代を象徴する人がいるはずだ。その中から選考すればいいと思う。

しかしどちらにしても時代の流れを止めることは至難だ。抜本的な改革をしない限り、紅白の衰退は止まらないだろう。

災害と有名人の寄付

国内では新潟中越地震、また海外ではスマトラ沖大地震と災害が相次いでいる。それにもない有名人の支援活動が活発である。中越地震では巨人の清原和博が1000万円、（各学校に配られる野球用具を含めると総額約4000万円）、俳優のペ・ヨンジュンが約3000万円、棋士の谷川浩司が100万円などたくさんの有名人が寄付という形で復興の手助けをした。

またスマトラ沖地震ではF1ドライバーのミハエル・シューマッハーが約10億円、ヤンkeesの松井秀喜が5000万円。勿論その他にも支援の輪は広がっている。

ひと昔前の日本人の感覚は寄付やチャリティーに対して「照れくさい」「胡散臭い」「売名行為」などネガティブなイメージが根強かった。しかし今回の災害に対する日本の有名人の対応を見ているとそういった考え方は過去のものになりつつあるようだ。日本は欧米に比べて社会に還元するという考え方が薄かったが、ここにきて変化の兆しがあるようだ。それに清原や松井は球界の看板であり、谷川は将棋界の看板である。こういったトップの人たちが社会貢献するというのは後々その業界にもプラスに働くだらう。

大金持ちなのに一銭も寄付しないということが恥ずかしくなる時代がすぐそこまで来ている。

ふたりの若手女優

今日は成人の日だった。芸能界でも期待の新進女優が大人の仲間入りを果たした。綾瀬はるか。昨年のドラマ「世界の中心で愛をさけぶ」での熱演は記憶に新しい。非常に将来性を感じさせる演技だった。

綾瀬と同世代でもう一人、期待の女優がいる。上戸彩。彼女も今年20歳になる。上戸の活躍は言うに及ばない。ドラマ、CM、映画。現代を代表するスーパーアイドルだ。

個人的にここ10年で10代の女優の演技が印象的な作品が3本ある。1つは菅野美穂主演の「イグアナの娘」、2つ目は上戸彩が難役に挑んだ「3年B組金八先生」、そして綾瀬の「世界の中心で愛をさけぶ」だ。菅野は天性の女優だと思った。上戸と綾瀬にはまだそこまでの確信がもてない。しかし高い才能を感じる。菅野は与えられた役すべてがはまり役と言われるほどの実力派女優になった。綾瀬や上戸にもそれに続いて欲しい。今のところ、人気面で上戸がリードしているが、本当の勝負はまだ始まったばかりだ。

阪神淡路大震災から10年

6433人の命を奪った阪神大震災から今日で10年が経った。復興著しいという声もあれば、まだ道半ばという声もある。復興著しいのは華やかな神戸の街並みで簡単に回復しないのは実際に地震の被害をこうむったり、家族を失った人々の心だろうか。

ただ確かなことはあれから10年の時が流れたということである。関心が薄れたことは否めない。この10年の間に日本にも様々な事件、事故、災害があった。地下鉄サリン事件、神戸児童殺傷事件、北朝鮮拉致問題、新潟中越地震など数限りない。そんな中で阪神大震災は古い地層のように埋もれていった。だからこそ今日ぐらいあの震災のことを考えてみたい。

6433人といわれてもあまりにデジタル的で正直ピンとこないところもある。しかしそこには確実に6433通りの物語があったはずだ。長さは違えど、楽しい物語、悲しい物語、色々あったはずだ。それが一遍に終わってしまった。無条件に奪っていった。自然を罰するわけにはいかない。自然の前では人間はあまりにも無力だ。せめて大地震が起きた時、1人でも多くの人間が助かるよう、みんなが知恵を出し合い、対策を練る以外に方法はないような気がする。

1 月期ドラマと視聴率

1月期ドラマがすべて出揃い、視聴率も明らかになった。20%を超えたのが「ごくせん」「救命病棟24時」。中でも「ごくせん」は26.5%という高視聴率だった。仲間由紀恵は松嶋菜々子に変わる視聴率女王の座につくことは出来るのだろうか。

「ごくせん」にしても「救命病棟24時」にしてもシリーズ物である。新たな作品で挑んだ月9は「不機嫌なジーン」が18%台、日9「Mの悲劇」は14%とやや苦しいスタートとなった。個人的に「Mの悲劇」は稲垣吾郎も長谷川京子も役に溶け込んでいてストーリー的にも悪くないと思ったのだが、数字にはつながらなかった。やはり視聴者は当たり外れのないシリーズ物へ流れていく傾向があるようだ。

清原よ、もうひと花

プロ野球もいよいよキャンプがスタートした。本格的な球春到来である。今シーズンの見所として新球団楽天イーグルスの戦いぶりや交流試合の導入などがあげられるが、個人的には巨人の清原が気になる。

堀内監督との確執も雪解けのようだし、自主トレ期間は陸上の高野コーチから走法の指導を受けるなど20年目となる今季にかける並々ならぬ決意がひしひしと伝わってくる。節目の500号も目前だ。記録にも記憶にも残るようなシーズンを過ごして欲しい。そのためには大きな故障をしないことが不可欠だ。

今シーズンからいわゆる飛ばないボールが使用されるという。それにも負けず、様々な逆境にも負けず、彼独特の大きな美しいホームランを数多く見たい。

女性タレントと好感度

今週号の週刊文春で「女性芸能人好感度格付け」という特集が掲載されている。一体、好感度とは何なのか。わかりそうでつかみどころがない。そこで好感度の高いタレントを通してその得体の知れぬものを少し分析してみたい。

好感度の女王といえばやはり松嶋菜々子だろう。彼女の人気の理由は何だろう。個人的に美人度では矢田亜希子や伊東美咲の方が上だと思う。一言でいえば清潔感だろうか。それに加え、人気ドラマに多数主演している実績、知名度などが挙げられる。

竹内結子もこのでの調査では必ず上位に入ってくる。ルックス、演技、特に際立ったものは見当たらない。普通っぽい。しかしそこにこそ彼女の好感度の高さの秘密があるのではないか。普通の所が親近感につながり、また同性からは等身大の自分を重ねやすいのかもしれない。

このように見てくると好感度にはずば抜けたものは必要ないということになる。むしろそれは邪魔になるかもしれない。大切なのは清潔感や親近感。しかしこれらを基準にドラマのキャストを決めていくとクオリティーの面で問題が出てくる可能性がある。このような調査は一目は置くとしても、それに流されないことが賢明ではなかろうか。

17歳の殺人者

大阪府寝屋川市の小学校で17歳の少年が教職員三人を殺傷する事件が起こった。少年は「先生なら誰でも良かった」と供述しているという。何が彼をここまでの凶行に走らせたのだろうか？

少年は五、六年当時の担任だった教諭を名指しし、「いじめにあったのに何もしてくれず、恨みを持っていた」と供述しているが、いじめの事実は確認できていないという。

推測すると高校にも行かず、職にもつかない日々のなかでただ妄想だけが膨らんでいったのではないか？しかも彼は小学校時代から暴力性の強いテレビゲームに熱中していたという。いわゆるゲーム脳になっていた可能性もある。

しかし彼の犯した罪は重大で決して許されるものではない。ほんの数年で彼は自由の身になるのだろうが、自分が殺人者であることを一生忘れず、罪を償って欲しい。

最後にある保護者が「子供が無事だったのでよかった」という趣旨の発言をしていた。少なくとも人ひとりが命を落としているのだ。あまりに配慮が欠けている。こういった「自分の子さえよければ」的な親が増えれば、それを見て自分勝手に育つ子供もまた増えるだろう。そしてこういう少年が現れるのではないだろうか。

「ごくせん」高視聴率現象

ドラマ「ごくせん」の勢いが止まらない。番組スタートから視聴率25%以上を常に維持している。この数字は驚異的だ。

確かにおもしろい。これで数字が15,6%だったらなんとも思わないだろう。しかし現実はそのより10%も高いところで推移している。一体、何がそこまで「ごくせん」が視聴者をひきつけるのだろうか。

仲間由紀恵の力が大きいのは間違いない。彼女のコミカルな演技には定評がある。しかし、彼女は出演すれば数字が取れるという存在だろうか。例えば出れば高視聴率は当たり前が定説になった木村拓哉と比べるとどうだろう。昨夏の月9で彼女が主演した「東京湾景」は10%台前半にとどまっている。だからすべてが彼女の力というにはもうひとつ説得力に欠ける。

ストーリーはどうだろう。深みはないが安心感や爽快感、そしてものすごくシンプルだ。その辺がしばしば「水戸黄門」を引き合いに出される理由だろう。ただ、同じ学園ものの「3年B組金八先生」が色々と詰め込んでいる割には数字が伸びていないのに対し、「ごくせん」のシンプルな作りが多くの視聴者を得たことは今後のドラマ作りの道標になるのではないか。

好きなスポーツ選手は誰？

読売新聞社の世論調査によると好きなスポーツ選手の第1位はイチローだそうです。2位が松井秀喜、3位が清原和博とかつてのMK砲が続き、4位が宮里藍、5位が福原愛となっています。イチロー、松井、清原は「球界ビッグスリー」といえる存在で順当といえば順当ですが野球人気低迷している中、3位までをプロ野球選手が占めたことは球界にとって少し明るい兆しかもしれません。

4位、5位の宮里藍、福原愛の躍進は去年から今年の活躍を見れば、ある程度、予想通りでしょう。

しかしこの順位をよく見ると、ある法則に気づきます。それは男のスポーツ選手は「年輪」、女のスポーツ選手は「若さ」がキーワードになっていることです。イチローも松井も清原も30代、それに対して宮里、福原は10代です。ちなみに6位の高橋由伸も4月で30才になり、7位の新庄も30代です。これは一体どういうことなのか？。

結局のところ男子選手はかめばかむほど味が出るのに対して、女子選手はアイドル性が問われるということでしょうか。もちろん、逸材がその世代に固まったということもあるのですが。個人的には「ダブルあいちゃん」もいいけれど、マラソンの高橋尚子やスピードスケートの岡崎朋美にももう少し光が当たってもいいような気がします。（敬称略）

卒業ソングは死語になったか？

今年もまた卒業シーズンがやってきた。これまでも数々の歌が卒業を彩ってきた。しかし最近はどうな卒業ソングが歌われているのか全くピンとこない。自分が卒業から遠くなってしまったことも原因ではあるだろうが。

今から20年程前、卒業ソングは全盛を迎えていた。尾崎豊、斎藤由貴、菊地桃子が偶然にも同時期に「卒業」という題名の曲をリリースして、それぞれがヒットした。当時、卒業という儀式は今よりも大きな意味を持っていたのだろうか？。勿論、当時の卒業人口と現在のそれを比較してしまうと圧倒的な差がある。だから今の卒業世代をターゲットに卒業ソングを作っても、商業上成り立たないということもあるのかもしれない。

しかし形を変えながらも卒業ソングは生きていると思う。例えば、2年前に大ヒットした森山直太郎の「さくら」。あれは卒業の歌と言っていいだろう。そして今年の卒業式ではゆずの「栄光の架け橋」が歌われているという。やはり今でも卒業ソングは生きていた。そしてこれからも消えることはないだろう。

最後に今年、卒業を迎える皆様、おめでとうございます。

谷川浩司の復活はあるか？

将棋界では羽生四冠の勢いが止まらない。対照的なのが谷川九段の不振である。既に今期の負け越しが決定している。こんなに負けが込む谷川は見た事がない。谷川も今年で43歳になる。第一線で戦っている棋士のほとんどは20代、30代である。谷川も年をとったということだろうか。

僕ら70年代生まれの人間にとって60年代生まれは常に憧れだった。ヒーローだった。野球で言えば清原和博、サッカーで言えば三浦和良。1962年生まれの谷川もその一人だった。21歳で史上最年少の名人になり将棋の申し子と言われた谷川。しかしあれから20年以上の歳月が流れた。古くなるのは仕方ない。

それでもまだ頑張っていて欲しい。立ち上がって欲しい。勿論、谷川もこのまま終わるつもりはさらさらないだろう。彼が再び名人、竜王の座に君臨する事を願ってやまない。

清原500号達成

第4打席、センター方向へ上がったライナー性の打球は、そのまま広島市民球場のバックスクリーンへ吸い込まれた。清原和博は史上8人目の500本塁打を達成した。

「広池投手は気迫あふれるピッチャーなのでストレートでくると信じていました」。いかにも清原らしいコメントだ。つい最近も阪神の若手投手に対し「なぜストレートで勝負しない」と苛立ちを隠しきれず、物議をかもした。ストレート待ちの打者に対し、力勝負を避け変化球で勝負するのは、むしろプロとして大人として当然だろう。直球勝負を強要する方が幼いのかもしれない。

今は亡き芸術家の岡本太郎氏は「小さい頃はみんないい絵を描くのに、ある程度の年齢になると似たり寄ったりのつまらないものになる」と語っていた。

清原は自らの中に幼さを抱え続けてきたがゆえに、バッターとしてだけでなく、人間としてもアーティストたりえた。

遠い昔、若き清原が放った打球が高々と舞い上がり、どこまでも伸びていくのを見ながら清原の未来も自分の未来も無限の可能性を感じた。何でもできそうな気がした。今、清原のもみあげには白いものが目立つようになった。時の流れを感じずにはいられない。僕はただ祈るしかない。一日でも長く、清原のヒット、清原のホームラン、清原の笑顔が見られるようにと。

夏ドラ出揃う

どの局も次クールに放送されるドラマが決定したようです。ざっと見渡したところ、見たいドラマがあまりないです。電車男ぐらいかなあ。伊東美咲目当てで（笑）。まあ、「どうだろう」と半信半疑で見えていたら案外、面白かったという事もあるわけで、全く期待していない訳ではありません。

それにしても、菅野美穂はまたお休みみたい（泣）。もう連ドラではだいたいの事はやり尽くしたということなのかな？。そういえば同世代の松たか子もしばらく出演していないような。ちょうどこれから進むべき道を模索する時期なのかもしれませんね。

名人戦決着

3勝3敗で最終局までもつれた名人戦は森内名人が羽生四冠を下し、防衛に成功しました。それにしても歴史に残るような7局だったと思います。羽生四冠は永世名人の資格を獲得することが出来ませんでした。しかし、羽生はあれだけ強いのに、まだ永世名人の資格がないというのは将棋界の七不思議でしょう。対する森内はこれで通算3期目の名人位となり、通算4期の羽生に迫ってきました。ひょっとしたら18世永世名人は森内になるかもしれません。最強を誇る羽生が永世名人になれない可能性は低いとは思いますが、若い渡辺竜王らがA級に上がってくる前に何とかしたいというのが本音でしょう。

最近の菅野

菅野美穂にひとりの精彩がないように見えるのは僕だけでしょうか？

最近では「ラストプレゼント」。作品の評価はまちまちだとは思いますが、菅野の演技に本来の輝きがなかったような気がします。勿論、病で死んでいく役なのでオーラが薄いというのも致し方ない部分もあります。しかし、それにしても……。決して演技力が落ちたということはないと思います。しかし、いくら演技が上手くても、何かが足りてないような気がしたんです。菅野が変わったのか、見る側の自分に少し飽きがきているのか、よくわかりません。

現在、山口百恵のリメイク作品が放送されていますが、百恵さんはある意味、いいタイミングで引退したのではないのでしょうか。まだ21歳。もっと百恵さんが見たかったファンはたくさんいたでしょうが、少女から大人へ移り変わっていく美しい部分しか見せなかったことが、彼女を伝説にしたと思います。

21歳の頃の菅野も輝いていました。彼女も今年で28歳。菅野の名を全国に広めたイグアナの娘からすでに10年近い歳月が流れました。その間、全力で駆け抜けてきたのだから、多少、疲れがきても仕方ないです。誰も時の流れには勝てません。でも、次の作品を楽しみにしている自分もいます。また菅野美穂にしかできない演技がみたいです。

春ドラ終了

早いもので春ドラもすべて？終わったようです。僕が見たものを中心に少し振り返ってみたいと思います。

まず順番的に月曜放送の「エンジン」から。子供嫌いの落ち目のレーサー次郎と大人を信じない子供たちが次第に心を通わせていく物語。最後のレースで次郎は勝つと思っていたから、ゴール寸前のアクシデントは意外でした。でも、それでよかったと思います。優勝賞金でホーム再開では少し話しが出来すぎだし。結局、ホーム再開までには2年近くかかり、子供全員が戻ってこなかったところもリアリティーがありました。それにしても贅沢なキャストでした。最終回、高島礼子の出番はほとんどなかったような。あと、キムタクにはそろそろ、子持ちの会社員の役とか演じてもらいたいです。

火曜、水曜はドラマは見ませんでした。でも、「曲がり角の彼女」と「a n e g o」は好調だったようです。おそらく30代女性の共感を得たのでしょう。この年齢層は人口が多いので高視聴率につながります。

木曜「恋におちたら」は今クールでは一番楽しめたような気がします。警備員だった島男が社長にまでのぼり詰め、その後、すぐ解任されるというジェットコースター的な展開。最後は高柳が社長に戻り、島男はネジ会社を再建して平和的に終了。あとヒロインに抜擢された松下奈緒。秘書役はよく似合っていたけれど、表情が固いような気がします。特に笑顔が。まあ、今回は初々しさをカバーできてましたが。

「タイガー&ドラゴン」はほとんど見ませんでした。ちょっと落語というのがとっつきにくかったです。視聴率はあまり伸びなかったけれど、見た人の満足度は高いようですね。クドカン作品の特徴でしょう。僕もマンハッタンラブストーリーの時にはハマりました。

土曜は日テレ「瑠璃の島」。映像に対する評価が高かったですね。あと、演技派に囲まれながら、主役の子はよく頑張っていたと思います。

最後は「あいくるしい」。数字が悪かったですね。決して悪い作品だとは思わなかったけれど、色々詰め込みすぎて、かえってあいまいになってしまったような。誰が主役かはっきりしなかったのも視聴者をひきつけられなかった要因かもしれません。

今クールは「エンジン」の原田さん、「あいくるしい」の杉浦さんなどベテランの渋い演技が光りました。次クールは映画のリメイクが多いようですが、とりあえず期待してます。

KKコンビ、見納めか？

開幕から3ヶ月、清原の状態がひどいです。打率はダントツの最下位。野球中継はほとんど見てません。老いた清原は見たくないから。結構、そういう人は多いと思います。視聴率低迷の一因かもしれませんね。頭部死球など不運な面もありました。しかし、プロの選手である以上、成績が全てです。長年のファンの一人として、スタメンから外して欲しい。これ以上、傷が深くなる前に。

それにしても今年の堀内監督は清原の起用にこだわる。しかし、いつかは決断せざるを得ません。そのXデーの確率が高いと噂されるのが、7月3日。長嶋茂雄氏が観戦に訪れる、いわば御前試合。それにあわせるように、僚友の桑田が一軍に上がり、先発するらしい。決断するにふさわしい舞台が整ったとっていいでしょう。

巨人ファンではありませんが、私が考える現時点でのベストオーダーは、阿部をクリーンアップに入れ、ローズを6番あたりに降格させることです。3番にしてはアベレージが低すぎます。そして、7番は元木か江藤。昨日、解説者の掛布氏が「清原を7番に」といっていましたが、500本も打った大打者、そして長年、日本の4番を務めてきた男に7番を打てというのは酷です。ならばいっそのことスタメンから外してあげた方がいい。かといって、二軍落ちには反対です。完全に彼の気持ちが切れてしまうからです。ここ一番での代打でいいと思います。しびれる場面で起用することで最後の残り火を燃焼させてあげたい。ユニフォームを脱ぐまでの一日一日を充実したものにすることで、清原は笑顔で現役を終えることが出来るのではないのでしょうか。

電車男など

夏ドラマも出揃ったようですね。「電車男」、面白いです。最初は伊東美咲が主演するということで楽しみにしていたのですが、フタを開けてみたら、あきらかに電車男の伊藤君がメインですね。でも、不満はないです。彼の演技の大げさなところが面白いし、取り巻く仲間達も個性的でいいです。伊藤君はナイナイの岡村にどこことなく似ている気がします。10年前なら電車男は岡村だったかもしれないですね。それにしても視聴率が20%を超えましたか。もしやとは思っていましたが、少し驚きです。確か、初回の放送では18%台で「女系家族」と互角だったのに、昨日は電車に軍配が上がったようです。とにもかくにも電車男がどう変化していくのか、この先が楽しみです。

電車男以外は今回、あまり見てないですね。「いま、会いにゆきます」は初回は見たんですが、キャストにも馴染めず、脱落気味です。やはり、ちょっと両親が若すぎますね。30才前後の俳優に任すべきだったような気がします。

野球、秋ドラマなど

いつ以来になるんだろう。相当久し振りに書き込みます。

ブログ空白期間の間に色々ありました。まず、衆議院総選挙。自民党大勝の大きな理由を二つ挙げれば、小泉人気と小選挙区制度といったところでしょうか。まあ、想定外の人まで当選してしまい、随分、世間を騒がせているようですが（笑）

野球は阪神が優勝しましたね。MVPは金本か藤川か？。まあ、阪神は野球以外のところで大変な事になってしまいましたね。

対する巨人は堀内監督が退任し、原新監督が誕生しました。その巨人から捨てられた清原はまだ、現役を続けるようです。ファンとしては、どこの球団であれ、打ってくれれば問題ないのですが、復活の道は相当険しいと思います。

話は変わりますが、そろそろ、秋ドラマが始まりますね。私はとりあえず、「危険なアネキ」と「あいのうた」を見ようと思います。「危険なアネキ」は伊東美咲が電車男からの勢いを上手く持ち込めれば、初回20%はいけそうな気がします。「あいのうた」は菅野美穂、玉置浩二というキャストで勝負するのなら、後世まで語り継がれるような作品を目指して欲しい。脚本の岡田さんには頑張ってもらいたいです。

伊東美咲の時代がキタ

伊東美咲主演の「危険なアネキ」の視聴率が好調のようです。2話目が20%を超えたという事はもう大崩れはなさそうです。

今年2月のブログで「個人的に美人度では伊東美咲の方が松嶋菜々子より上」と負け惜しみのように書いたのですが、まさか、ここまでブレイクするとは。やはり「電車男」のエルメスが大きかったと思います。それと、これは個人的な見解ですが、女子高生のような世代から見ると、28才というともうオバサンというイメージがあるんじゃないでしょうか。でも、決して遠い未来ではない。そこに伊東美咲みたいな美しい28才が出現すると「ああ、歳を重ねるのも悪くはない」と思うんじゃないかな。

もう一人の女王候補の仲間由紀恵は「ごくせん」のイメージが強い。それに対して、伊東美咲は電車、アネキと連続ヒット。どうやら仲間をしのぎ、新視聴率女王の最右翼に踊り出た気がします。

1リットルの涙&あいのうた

「1リットルの涙」は半分程しか見ていませんが、それでも良作ということはわかりました。主演の沢尻さんはじめ、役者も好演していました。ただラストシーンはいただけなかった。明らかに過剰演出でした。あんなに墓地にぞろぞろぞろぞろと。あの場面は父親、母親、医師、そしてもう一人付け加えたとしたら、兄弟を代表して年の近い妹ですね。なぜそれが実現しなかったかといえば、成海さんですか、あの子が若すぎるからです。ラストの場面では6年の歳月が流れているから二十歳を超えているはずです。いくら成海さんが大人っぽくても20代にはとても見えない。恋人役にも同じ事がいえます。そしてあの苦肉のラストシーンとなってしまったのだと僕は思います。

そして「あいのうた」。菅野さん、玉置さんと聞いて期待していたのになあ。結局、毎回何度も視聴者にチャンネルを回させるタイミングを与えすぎました。物語があまりにもまったりしているんです。そういう思いをした方も多かったのでは。夏クールの「電車男」と比べると分かりやすいんですが、「電車男」は回させる隙をほとんど与えなかった。だから視聴率がうなぎのぼりになったんですね。「電車男」も「あいのうた」もおそらく初回の前半10分ぐらいまでは数字的な差はそれほどなかったと思います。それが最終的にはあれだけの大差。テレビは怖いんです。光る場面もありました。玉置さんが菅野さんに病気を告白し、その場では受け入れられなかったものの、やがて菅野さんふんする愛ちゃんが笑顔を見せるところ。あそこはよかったです。ラストシーン。何で玉置さんがいるの？あれなら余命いくばくもないなんて設定まるでいみなしおちゃん。(笑) まあ、菅野さんと玉置さんの熱演が救いのドラマでした。

菅野ファンの皆さん、次は里見、里見八犬伝に止まりま〜す。お見逃しのないようご注意ください〜い。次は里見、里見〜

空野彼太エッセイ集

<http://p.booklog.jp/book/120884>

著者：空野彼太

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/barondock57/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/120884>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト